

茨城県教育財団文化財調査報告第216集

大戸下郷遺跡

主要地方道内原塩崎線道路改良
工事地内埋蔵文化財調査報告書 I

平成16年3月

茨城県水戸土木事務所
財団法人 茨城県教育財団

大戸下郷遺跡

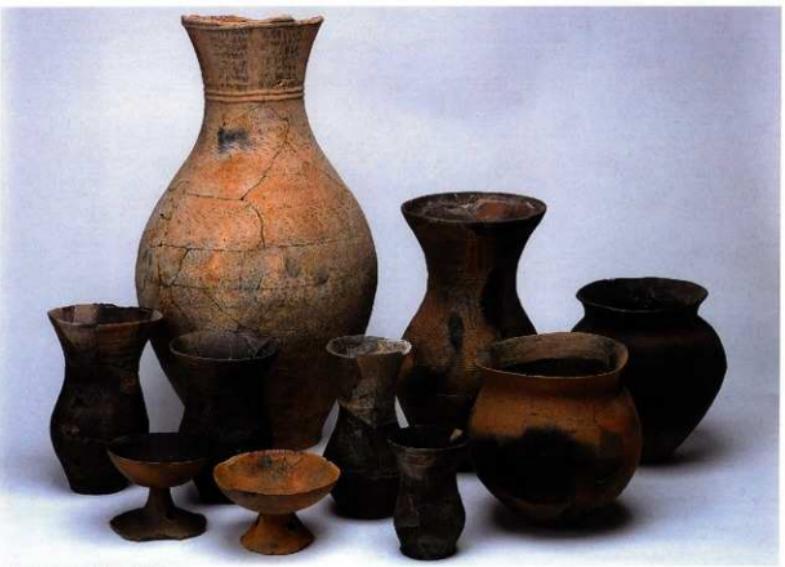
主要地方道内原塩崎線道路改良
工事地内埋蔵文化財調査報告書 I

平成16年3月

茨城県水戸土木事務所
財團法人 茨城県教育財團



第41号住居跡出土遺物



第21号住居跡出土遺物

序

茨城県は、保険・医療・福祉サービスや世代間交流などの機能を備えたまちづくりのモデルとして、茨城町において、やさしさのまち「桜の郷」整備事業を推進しています。一般国道6号から桜の郷へのアクセス道路建設として主要地方道内原塩崎線道路改良事業が計画されました。その予定地内には埋蔵文化財包蔵地である大戸下郷遺跡をはじめ多くの遺跡が存在しております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県から埋蔵文化財の発掘調査事業についての委託を受け、平成14年1月から3月、平成14年5月から10月まで発掘調査を実施いたしました。この調査によって貴重な遺構や遺物が確認され、郷土の歴史を解明する上で多大な成果を上げることができました。

本書は、大戸下郷遺跡の調査成果を収録したものです。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深める手立てとして、また、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県水戸木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、茨城町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、衷心より感謝申し上げます。

平成16年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 斎藤 佳郎

例　　言

- 1 本書は、茨城県水戸土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財團が平成13・14年度に発掘調査を実施した、茨城県東茨城郡茨城町大字大戸に所在する大戸下郷遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査	平成14年1月1日～平成14年3月31日	平成14年5月1日～10月31日
整理	平成15年6月1日～平成16年2月29日	
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査第一課長阿久津久のもと、調査第一課第2班長川津法伸、主任調査員川村満博、副主任調査員浦和敏郎、調査第一課第1班長鰐淵和彦、主任調査員近藤恒重、調査員越田真太郎が担当した。なお、各調査員の担当期間は下記のとおりである。

調査第一課第2班長	川津 法伸	平成14年1月1日～同年3月31日
主任調査員	川村 満博	平成14年1月1日～同年3月31日
副主任調査員	浦和 敏郎	平成14年1月1日～同年3月31日
調査第一課第1班長	鰐淵 和彦	平成14年5月1日～同年10月31日
主任調査員	近藤 恒重	平成14年5月1日～同年10月31日
調査員	越田真太郎	平成14年5月1日～同年10月31日
- 4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第一課長瓦吹堅のもと、主任調査員近藤恒重が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、弥生時代の遺構、遺物については、水戸市立総合第一小学校教頭海老澤稔氏に、撚式土器については、群馬県埋蔵文化財調査事業団平野進一・水田稔・相京建史・大木紳一郎氏らのご指導をいただいた。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = +34,760m, Y = +52,800mの交点を基準点（A 1 a 1）とした。なお、この原点は日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C …, 西から東へ1, 2, 3 …とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c …, j、西から東へ1, 2, 3 …とし、名称は、大調査区の名称を冠して、「A 1 a1 区」、「B 2 b2 区」のように呼称した。

2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を（ ）を付けて併記した。

3 本文・実測図・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡—SI 土坑—SK 横列—SA 溝跡—SD ピット群—PG 井戸跡—SE

ピット—P

遺物 土製品—DP 石器・石製品—Q 金属製品・古銭—M 拓本記録土器—TP

土層 混乱—K

4 土層と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

5 土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。

6 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

焼土・火床面・施釉・赤彩



炉・機維土器断面



甕材・粘土・炭化材・黒色処理



煤・油煙



土器・拓本土器 ●

土製品 ○

石器・石製品 □

金属製品・古銭 ▲

7 遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 遺物番号は通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(2) 計測値の単位はcm及びgである。なお、現存値は（ ）で、推定値は〔 〕を付して示した。

(3) 備考欄は、土器の現存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

8 「主軸」は、炉・甕を持つ堅穴住居跡については炉・甕を通る軸線とし、他の遺構については、長軸（長径）を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は、その主軸が座標北から見て、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例 N-10°-E）

9 遺構一覧表における計測値は、現存値を（ ）で、推定値は〔 〕を付して示した。

抄 錄

ふりがな	おおどしもごういせき								
書名	大戸下郷遺跡								
副書名	主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書								
卷次	I								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告								
シリーズ番号	第216集								
著者名	近藤恒重								
編集機関	財団法人 茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行機関	財団法人 茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	平成16(2004)年3月26日								
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
大戸下郷遺跡	茨城県ひたちなか市大戸下郷	08302 077	36度 18分 39秒	140度 25分 23秒	10 ~ 15m	20020101 ~ 20020331 20020501 ~ 20021031	6.418m ²	主要地方道内原塩崎線道路改良工事に伴う事前調査	
大戸 下郷 遺跡	茨城県ひたちなか市大戸下郷 大戸1668番地の1ほか		(36度) 18分 (50秒)	(140度) 25分 (11秒)					
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
大戸下郷遺跡	集落跡	绳文	堅穴住居跡	5軒	縄文土器(深鉢)		古墳時代後期の集落跡を中心とする、縄文時代から近世の複合遺跡である。弥生時代後半の居住跡からは、十王台式土器と梯式土器が共伴して出土している。また、弥生時代後半の土器と古墳時代前期の土器が共伴する住居内の墓壙からは、31点のガラス小玉と琥珀玉1点が出土している。		
		弥生	堅穴住居跡 土坑	8軒 2基	弥生土器(広口壺・高壺)土製品(紡錘車), 石器(磨石・蔽石)				
		古墳	堅穴住居跡 堅穴造構 墓壙	39軒 3基 1基	土師器(壺・高壺・鉢・碗・壺・瓶), 須恵器(壺・甕・蓋), 土製品(球状土錘・支脚), 石器(磨石・砥石), ガラス製品(小玉)				
		奈良・平安	堅穴住居跡 土坑	10軒 1基	土師器(壺・高台付輪・甕・瓶), 須恵器(壺・高台付壺・蓋・甕・瓶)				
		中・近世	土坑 井戸跡	8基 6基	土師質土器(小皿・内耳鍋), 陶磁器(擂鉢・壺・土瓶・徳利・碗・皿), 古鏡				
		墓域	近世	墓壙	19基	陶磁器(碗・鉢・小瓶), 古鏡			
		その他	時期不明	土坑 溝跡 機列 ピット群	95基 3条 1か所 4か所				

目 次

序
例言
凡例
抄録
目次

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 縄文時代の遺構と遺物	8
2 弥生時代の遺構と遺物	13
(1) 壺穴住居跡	13
(2) 土坑	31
3 古墳時代の遺構と遺物	33
(1) 壺穴住居跡	33
(2) 壺穴遺構	131
4 奈良・平安時代の遺構と遺物	134
(1) 壺穴住居跡	134
(2) 土坑	155
5 中・近世の遺構と遺物	156
(1) 墓塚	156
(2) 土坑	167
(3) 井戸跡	176
6 その他の遺構と遺物	181
(1) 土坑	181
(2) 溝跡	187
(3) 棚列跡	189
(4) ピット群	189
(5) 遺構外出土遺物・遺構一覧表	194
第4節 まとめ	204

写真図版

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県は、東茨城郡茨城町大戸地区において、一般国道6号から「桜の郷」へのアクセス道路として、主要地方道内原塩崎線の道路改良事業を進めている。

平成8年9月17日、茨城県水戸土木事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、主要地方道内原塩崎線道路改良事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けた茨城県教育委員会は、平成12年10月10日に現地踏査、平成12年11月27～29日に大戸地区的試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成13年1月17日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県水戸土木事務所長あてに、事業地内に大戸下郷遺跡が所在する旨を回答した。

平成13年2月9日、茨城県水戸土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成13年2月26日、茨城県水戸土木事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

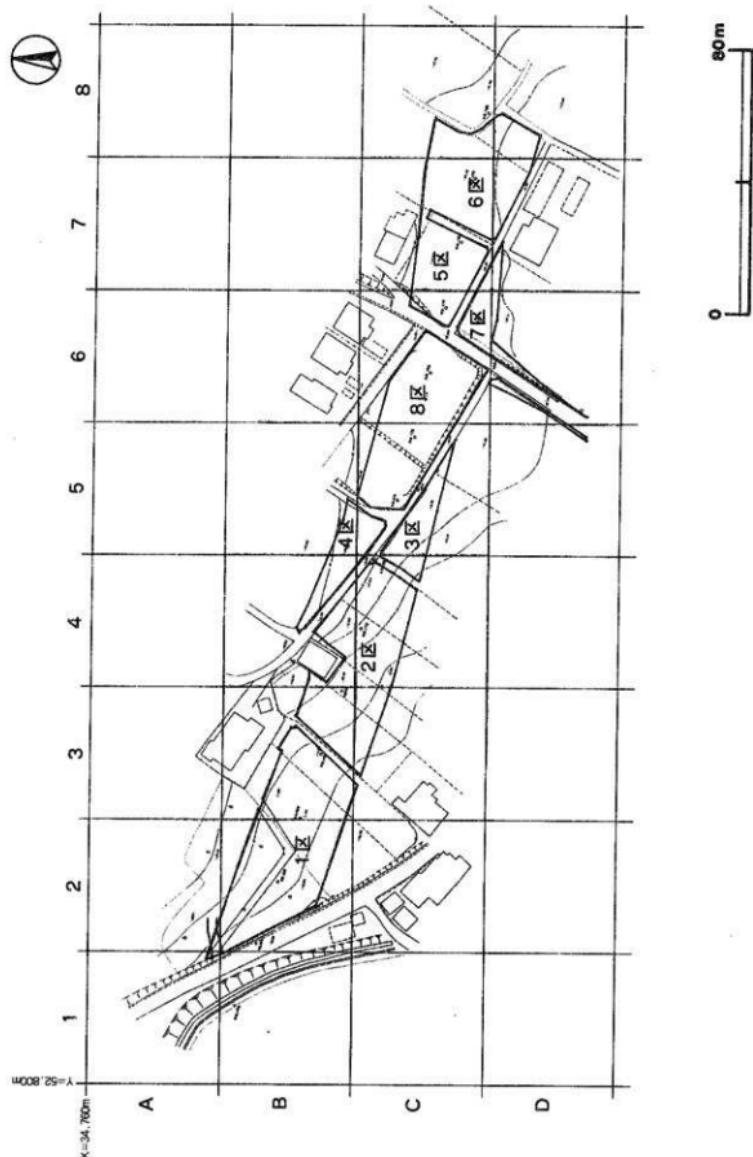
平成13年3月14日、茨城県水戸土木事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、事業地内における埋蔵文化財（大戸下郷遺跡）発掘調査の実施について協議書を提出した。平成13年3月19日、茨城県教育委員会教育長は茨城県水戸土木事務所長あてに、大戸下郷遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財團法人茨城県教育財團を紹介した。

財團法人茨城県教育財團は、茨城県水戸土木事務所から、埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成14年1月1日から、大戸下郷遺跡の発掘調査を実施することになった。

第2節 調査経過

大戸下郷遺跡の発掘調査期間は、平成14年1月1日から同年3月31日及び同年5月1日から同年10月31日である。以下、調査の経過について、その概略を工程表で記載する。

工 程	平 成 1 4 年									
	1月	2月	3月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
調査準備・試掘	■			■						
表 土 除 去 遺 構 確 認	■				■					
遺 構 調 査		■	■		■	■	■	■	■	
洗 淨 ・ 注 記 写 真 整 理	■	■	■	■	■	■	■	■	■	



第1図 大戸下郷遺跡調査区設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

大戸下郷遺跡は、茨城県東茨城郡茨城町大字大戸1668番地の1ほかに所在している。

茨城町の地形は、町の中央部を東流する涸沼川と、その東に展開する涸沼によって台地を南北に二分されている。北部の台地は、標高25~30mの東茨城北部台地の先端部を形成し、北西から流れる涸沼前川を含む大小の支谷が涸沼を中心に南面して開口している。南部に発達する台地は、東から大谷川、宍致川が涸沼に流入し、その間に大小多数の支谷が台地深くまで侵入し、北部台地に比べて起伏も多く一層複雑な地勢をなしている。これら河川流域の沖積低地は水田、台地は畠地・果樹園としてそれぞれ利用されている。

地質をみると、台地を形成している最も古い地層は新生代第三紀の地層で、岩質は泥岩で水戸層と呼ばれている。水戸層の上には第四紀の地層が不整合に堆積している。粘土・砂からなる見和層、砾からなる上市層、灰褐色の常緑粘土層、関東ローム層の順に重なっており、これらの地層はいずれもほぼ水平層である。

当遺跡は、茨城町北西部の大戸地区にあり、涸沼川の支流、涸沼前川左岸の標高約10~15mの低位段丘から中位段丘上に位置している。段丘上は主に畠地・宅地として利用され、遺跡の南側となる涸沼前川流域の沖積低地は水田として利用されている。遺跡の現況は、畠地・宅地であった。

第2節 歴史的環境

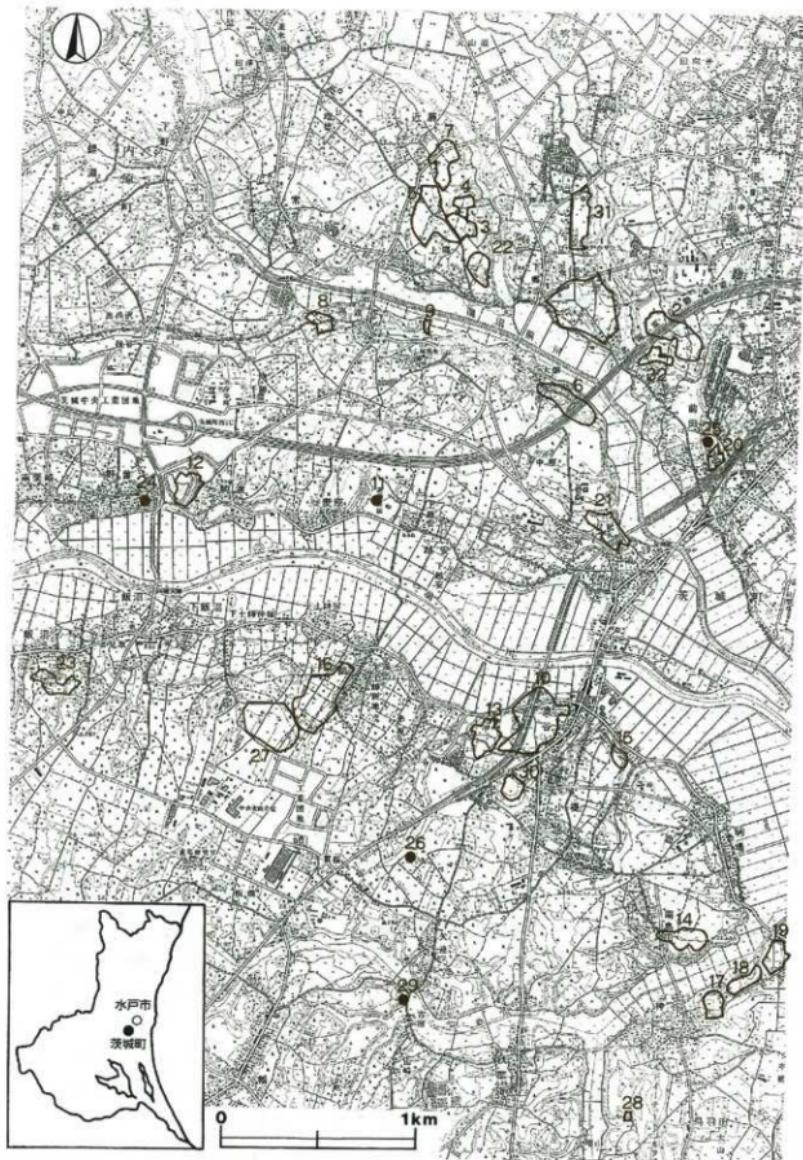
当町周辺は、涸沼を中心として、洞沼川、涸沼前川など水運に恵まれ、古代から人々が生活を営む場としては絶好の舞台であり、縄文時代から中・近世にかけての遺跡が数多く存在している（第2図）。ここでは、大戸下郷遺跡に関連する主な遺跡について時代を追って述べることにする。

(1) 縄文時代

早期の遺跡として、涸沼南岸の台地上に沈埋文土器が出土している中落遺跡がある。大戸下郷遺跡（1）からは、纖維を含む貝殻条文系土器が出土しており、これに続く時期である。前期になると遺跡数が増加し、涸沼川及び涸沼前川流域には、平成10~12年度に調査された宮後遺跡¹¹（7）、シッペイ沢遺跡¹²（8）、東山遺跡¹³（9）、昭和61年度に調査された奥谷遺跡¹⁴（10）などに集落が形成され、縄文海進とともに越安貝塚（11）、推現峯遺跡¹⁵（12）などでは貝塚が形成されている。中期になるとさらに遺跡数は増加し、宮後遺跡のような大集落が形成されるようになり、塙越遺跡、赤坂南坪遺跡（13）、天古崎遺跡（14）など、町内全域にみられるようになる。後期に入ると、遺跡数は減少し、この頃、小堀、小堤貝塚¹⁶（15）が形成される。晩期になるとさらに遺跡数は減少し、下土師遺跡（16）、小堤貝塚、神谷遺跡（17）など、10か所を数えるほどである。

(2) 弓生時代

弥生時代では、中期後半の土器片が神谷東遺跡（18）、西台遺跡（19）などで採集されている。また、後期前半の遺物としては、東中模式並行の土器片が人頭遺跡（6）から採集されている。後期後半には、標式土器となっている長岡式土器が、長岡遺跡（20）や奥谷遺跡、小鶴遺跡¹⁷（21）の3遺跡から出土している。当遺跡では、これらの時期に続く後期後半（十王台式期）の集落跡が確認され、他に同時期の遺跡として、平成7年度に調査された矢合遺跡¹⁸（2）、平成8年度に調査された大畑遺跡¹⁹、平成10年度に調査された石原遺跡²⁰（3）、平成11年



第2図 周辺遺跡分布図

表1 大戸下郷遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世
1	大戸下郷遺跡	○	○	○	○	○	17	神谷遺跡	○	○	○			
2	矢倉遺跡	○	○	○	○		18	神谷東遺跡	○	○	○	○		
3	石原遺跡	○	○	○	○		19	西台遺跡	○	○	○	○		
4	綱山遺跡	○	○	○	○	○	20	長岡遺跡		○	○			
5	大塚遺跡	○	○	○	○	○	21	小鶴遺跡	○	○				
6	大畠遺跡	○	○	○	○	○	22	船荷宮遺跡		○	○	○		
7	宮後遺跡	○	○	○	○	○	23	台畠遺跡		○				
8	シッペイ沢遺跡	○		○			24	宝塚古墳			○			
9	東山遺跡	○	○	○	○		25	上ノ山古墳			○			
10	奥谷遺跡	○	○	○	○		26	小幡北山埴輪製作遺跡			○			
11	越安貝塚	○					27	面山遺跡	○	○	○			
12	南小割遺跡	○	○	○	○	○	28	大峯遺跡			○			
13	赤坂南坪遺跡	○		○	○		29	小幡城跡					○	
14	天古崎遺跡	○		○	○		30	富士山遺跡	○	○	○			
15	小堤貝塚	○	○	○		○	31	大戸神宮寺遺跡	○	○	○			
16	下土師遺跡	○	○	○			32	坪戸遺跡		○	○			

度に調査された綱山遺跡(4)、平成11・12年度に調査された大塚遺跡(5)、平成10年～12年度に調査された宮後遺跡、その他には、福荷宮遺跡(22)、台畠遺跡(23)などがあり、遺跡が増加する。この時期には、潤沼川流域を中心としたひとつの小文化圏の存在が想定される。また、当遺跡と矢倉遺跡からは、群馬県を中心に分布が認められる樽式土器が出土している。その他にも十王台式土器と異なる文様を有し、栃木県を中心に分布する二軒屋式土器や、県南部に分布する上緑吉式土器が出土しており、他地域との交流も想定される。

(3) 古墳時代

石原遺跡、綱山遺跡、大塚遺跡では、弥生土器と土師器が共伴する住居跡が確認され、当遺跡で確認された同様の共伴関係とあわせ、弥生時代から古墳時代への移行期におけるこの地域の様相を知る手がかりになると思われる。また、潤沼前川下流に位置する奥谷遺跡からは、前期の豪族居館跡や住居跡¹¹、潤沼川を挟んで対峙する台地上に位置する南小割遺跡からも前期の小波状口縁をもつ土器や住居跡が確認されている。古墳では、茨城町域で最も古い時期(4世紀～5世紀初頭)に位置づけられる前方後方墳の宝塚古墳¹²(24)をはじめ、中期から後期にかけての古墳が61基ほど確認されている。また、前方後円墳の上ノ山古墳¹³(25)からは、南北へ4kmほどの小幡北山埴輪製作遺跡¹⁴(26)で生産された埴輪(6世紀後半頃)が出土している。

(4) 奈良・平安時代

律令制下の奈良・平安時代の当地方は、那賀郡八部郷、茨城郡嶋田郷・白川郷・安侯郷、鹿島郡宮前郷に属していた。この時期の遺跡¹⁵は、町内全域に確認されている。奥谷遺跡からは、百数十点の墨書き土器のほか、円面鏡や刀子が出土している。特に、墨書きの「賣力司」は、官衙などの廈宇などの意味があり、奥谷遺跡が官衙的な公共施設を含む集落であったことを示している¹⁶。面山遺跡(27)からは「土師神主」と書かれた墨書き土

器が出土し、大塚遺跡⁽²⁸⁾では、墨書き土器や円面鏡、さらに大戸大山原からは「前家□□」と書かれた須恵器坏が出土している⁽²⁹⁾。また、宮後遺跡でも円面鏡や墨書き土器が出土し、隣接する大塚遺跡からは、「コ」の字状に並ぶ掘立柱建物跡群が確認され、墨書き土器や円面鏡、灰釉陶器なども出土している。さらに網山遺跡でも掘立柱建物跡が確認され、円面鏡・灰釉陶器・墨書き土器などが出土しており、三遺跡の関連が注目される。

(5) 中・近世

中世の遺跡は、主に城館跡である。現存する町内の城館の中では小幡城跡⁽²⁹⁾が最大規模であるが、笠城者などについては不明である。他に、宮ヶ崎城跡⁽³⁰⁾、海老沢跡などが存在している。奥谷遺跡からは、堀・地下式壇・方形堅穴状遺構・土坑・井戸などが確認され、土師質土器や陶器も出土している。

近世になると、水戸街道に沿い、長岡、小幡は宿駅として、また、酒沼南岸の海老沢、網掛、宮ヶ崎は水上交通の要所として水戸藩をはじめ、仙台藩など奥州諸藩と江戸を結ぶ輸送経路の中継地として発展した。

* 文中の〈 〉内の番号は、第2図及び表1の該当遺跡番号と同じである。

註

- 1) 川又清明他 「やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 宮後遺跡」「茨城県教育財團文化財調査報告」第188集 茨城県教育財團 2002年3月
- 2) 鯉潤和彦 「一般国道6号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 奥谷遺跡 小鶴遺跡」「茨城県教育財團文化財調査報告」第50集 茨城県教育財團 1989年3月
- 3) 茨城町史編さん委員会 「茨城町椿現墓遺跡」 茨城町 1988年3月
- 4) 中村敬治他 「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 南小割遺跡 椿現堂遺跡 親塚古墳 後原遺跡」「茨城県教育財團文化財調査報告」第129集 茨城県教育財團 1998年3月
- 5) 茨城町教育委員会 「小堤貝塚」 茨城町 1986年3月
- 6) 瓢島一生 「北関東自動車道(友部~水戸)建設地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 矢合遺跡 後口原遺跡」「茨城県教育財團文化財調査報告」第135集 茨城県教育財團 1998年3月
- 7) 長谷川聰 「北関東自動車道(友部~水戸)建設地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡 大畑遺跡」「茨城県教育財團文化財調査報告」第136集 茨城県教育財團 1998年3月
- 8) 村上和彦 「やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 石原遺跡」「茨城県教育財團文化財調査報告」第163集 茨城県教育財團 2000年3月
- 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 茨城町史編さん委員会 「茨城町史 通史編」 茨城町 1995年2月
- 11) 茨城町史編さん委員会 「茨城町上ノ山古墳」 茨城町 1994年3月
- 12) 茨城町教育委員会 「小幡北山埴輪製作遺跡」 茨城町 1989年2月
- 15) 茨城町大塚遺跡発掘調査会 「茨城町大塚遺跡」 茨城町 1990年3月
- 17) 野田良直 「主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 宮ヶ崎城跡」「茨城県教育財團文化財調査報告」第141集 茨城県教育財團 1998年3月

参考文献

- ・茨城県教育厅文化課「茨城町遺跡地図」茨城県教育委員会 平成13年3月
- ・茨城町史編さん委員会 「茨城町史 地誌編」 茨城町 1995年2月
- ・蜂須紀夫 「茨城県 地学ガイド」 1986年11月

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

大戸下郷遺跡は、瀬沼前川左岸の標高10~15mの河岸段丘上に位置している。平成13・14年度の調査面積は6,418m²で、調査前の現況は畠地・宅地であった。調査の結果、縄文時代から近世にかけての集落跡を中心とする複合遺跡であることが確認できた。遺構は、竪穴住居跡62軒（縄文時代5、弥生時代8、古墳時代39、奈良・平安時代10）、墓壙20基（古墳1、近世19）、中・近世の土坑8基、井戸跡6基、時期不明のピット群4か所、土坑95基、溝跡3条が検出された。遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に101箱出土している。出土した主な遺物は、縄文土器片（深鉢）、弥生土器（広口壺・高杯）、土師器（壺・高台付壺・甕・瓶・高杯・鏡）、須恵器（壺・高台付壺・甕・盤）、陶磁器（碗・皿・土瓶）、土師質土器（小皿・内耳鏡）、土製品（球状土錐・支脚）、石器・石製品（砥石・磨石・敲石）、古銭などである。また、弥生時代後期後半の十王台式土器と古墳時代前期の土器が共伴して出土した住居内の墓壙からは、ガラス製の小玉31点が出土した。

第2節 基本層序

調査区内（C 6 c2区）にテストピットを設定し、約3.5m掘り下げて、土層の堆積状況を確認した（第3図）。

第1層は、黒褐色の客上で、層厚は110~140cmである。

第2層は、明褐色のソフトローム層で、層厚は10~34cmである。

第3層は、明褐色のハードローム層で、赤色スコリアを微量含み、層厚は22~40cmである。

第4層は、褐色のハードローム層で、赤色スコリアを微量含む。第1黑色帯を含むと考えられ、層厚は18~26cmである。

第5層は、褐色のハードローム層で、赤色スコリアを微量含み、層厚は4~20cmである。

第6層は、黄褐色のハードローム層から鹿沼層への漸移層で、層厚は11~26cmである。

第7層は、橙色の鹿沼層で、層厚は18~24cmである。

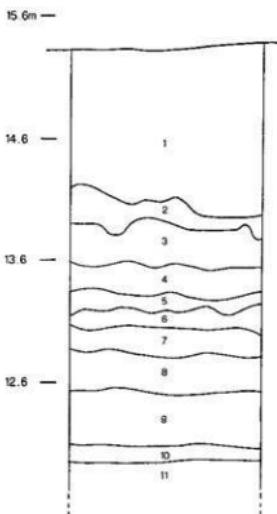
第8層は、褐灰色の粘土層で、層厚は28~33cmである。

第9層は、灰黄褐色の粘土とシルトの層で、層厚は40~48cmである。

第10層は、にぶい黄橙色のシルトと礫の層で、層厚は14~16cmである。

第11層は、明黄褐色の礫層である。

遺構は、第2層上面で確認された。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 繩文時代の遺構と遺物

今回の調査で縄文時代の竪穴住居跡5軒を確認した。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

第20号住居跡（第4図）

位置 調査1区南西部のB25区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第9・23・24号住居、第14号土坑に掘り込まれている。

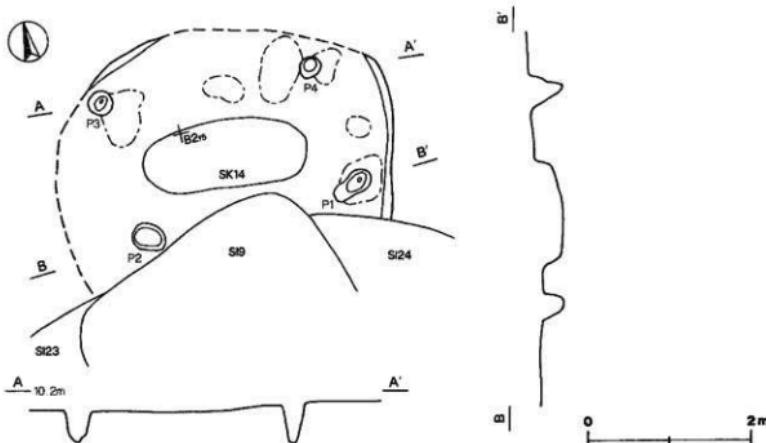
規模と形状 南部を住居跡に掘り込まれて、床面が露出した状態で検出され、長径は4.1m、短径は2.3mが確認され、主軸方向はN-66°-Wで梢円形であると推定される。

床 ほぼ平坦である。P1・P3・P4付近に踏み固められた面が見られる。

ピット 4か所。P1～P4は、深さ25～51cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 床面にわずかに残る硬化面と、ピットから住居跡であると判断した。時期は住居跡の形態から推定すると、縄文時代の可能性が考えられるが、遺物が出土していないため明確な時期は不明である。



第4図 第20号住居跡実測図

第25号住居跡（第5図）

位置 調査区西部のB3d3区に位置し、低位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 西部の一部が第17号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北部の一部が調査区域外に延び、床面が露出した状態で検出されたため、壁は確認できなかったが、主柱穴や、炉と思われる火床部の配置などから、長径3.36m、短径3.06mほどの梢円形と推定される。主軸方向はほぼ真北を向いている。

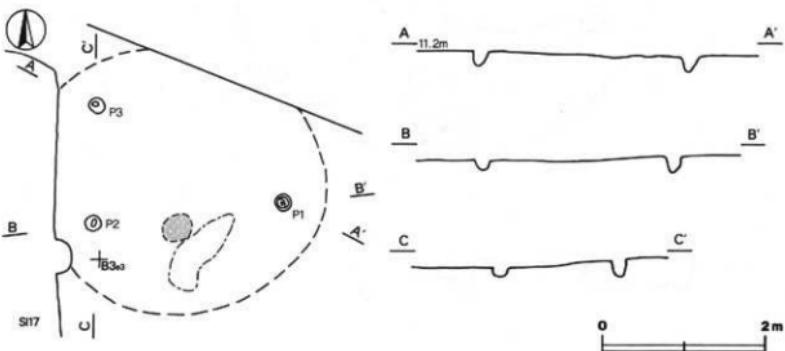
床 ほぼ平坦で、炉と思われる火床面の南東側に硬化面が認められる。

炉 1か所。削平されており、中央部の南寄りに赤変した火床面が認められている。長径40cm、短径32cmの不整橢円形である。

ピット 3か所。P1～P3は、深さ18～20cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。

遺物出土状況 本跡に確実に伴う遺物はない。

所見 時期は、7世紀後半の第17号住居に掘り込まれていることからそれ以前であり、主柱穴の配置や、炉の痕跡が認められることから、縄文時代の可能性が考えられるが、出土遺物がないことから明確な時期は不明である。



第5図 第25号住居跡実測図

第26号住居跡（第6図）

位置 調査1区西部のB2f6区に位置し、低位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 北東部の一部が第7号住居、第17・18号土坑、北部が第24・31号土坑、中央部が第25号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたために、壁は確認できなかったが、主柱穴、炉と思われる火床部の配置などから判断して、長軸5.12m、短軸4.35mほどの橢円形あるいは長方形と推定される。主軸方向はN-44°-Wである。

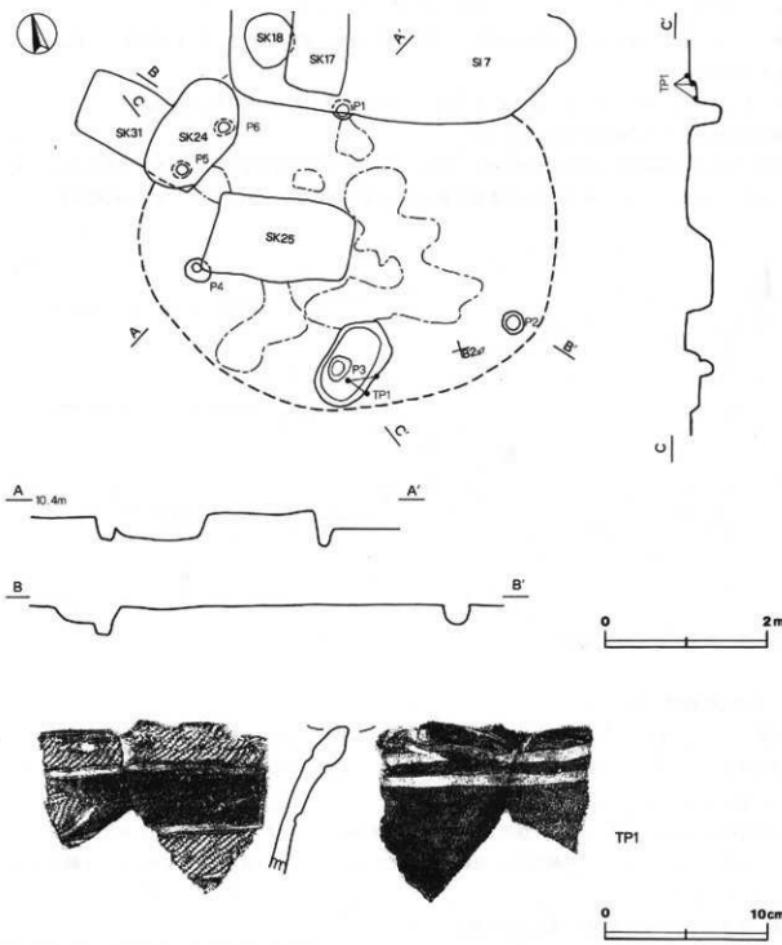
床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。

炉 第25号土坑に掘り込まれており、赤変した部分がわずかに確認できただけである。

ピット 6か所。P1～P6は深さ26～40cmで、配置から主柱穴はP1、P3、P4などがその一部と考えられる。

遺物出土状況 P3周辺にわずかな掘り込みが認められ、床面とその覆土内から縄文土器片5点が出土し、TP1は、口縁部片である。

所見 時期は、TP1から判断して、縄文時代晩期中葉と考えられる。



第6図 第26号住居跡・出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表（第6図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|----|-------|----|------------------|------|----|---|---------|------|
| TP1 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (8.9) | — | 黄母・長石・石英
赤色粒子 | 暗赤褐色 | 普通 | 口唇部に山形突起 沈線区画内にLRの單節
縄文 口縁部内面に2条の沈線をめぐらす | 下層 P3付近 | PL38 |

第42号住居跡（第7図）

位置 調査2区中央部B3j0区に位置し、中位段丘から低位段丘の南西方向への斜面部に立地している。

重複関係 北部の一部が第38号住居、南西部が第39号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 北部と南西部が住居跡に掘り込まれているため、残存するわずかな床などから判断して、長軸4.0m、短軸3.4mほどの長方形で、主軸方向はN-52°-Wと推定される。壁高は10~14cmで、外傾して立ち上がりっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面はほとんど確認できなかった。

ピット 2か所。P1は深さ46cm、P2は深さ40cmほどであるが、主柱穴とは考えられず、また、性格も不明である。

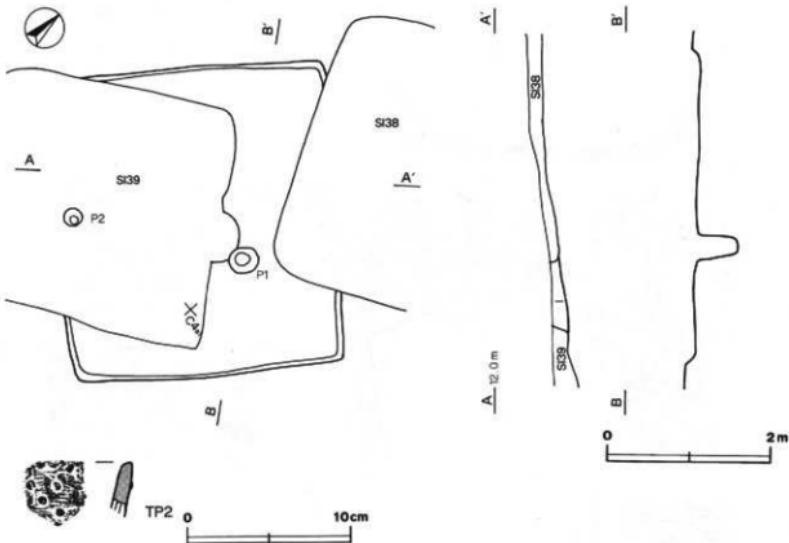
覆土 単一層で、堆積状況は不明である。

土層解説

1 級 地色 ローム粒子少量

遺物出土状況 楩文土器片1点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 残存部分の形状から住居跡と判断される。時期は、TP2から判断して、縄文時代前期と考えられるが、出土した遺物が少なく、明確な時期は不明である。



第7図 第42号住居跡・出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表（第7図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|----|-------|----|-------|----|----|--------|------------|------|----|
| | | | | | | | | | 口唇部に突起 | 口縁部に刺突文・點瘤 | | |
| TP2 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (3.3) | — | 雲母・鐵錐 | 黒褐 | 普通 | 口唇部に突起 | 口縁部に刺突文・點瘤 | 覆土中 | |

第48号住居跡（第8図）

位置 調査2区南西部のC4d3区に位置し、低位段丘上の南西方向への斜面部に立地している。

重複関係 西部を第41号住居に掘り込まれ、南部は調査区域外にのびている。

規模と形状 住居跡北部の長軸2.80m、短軸1.20mほどが確認でき、全体の形状及び主軸方向は不明である。残存部の規模や形状から住居跡と判断できる。壁高は38cmほどで、外傾して立ち上がっている。

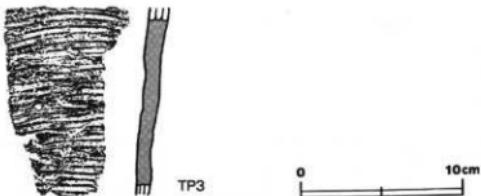
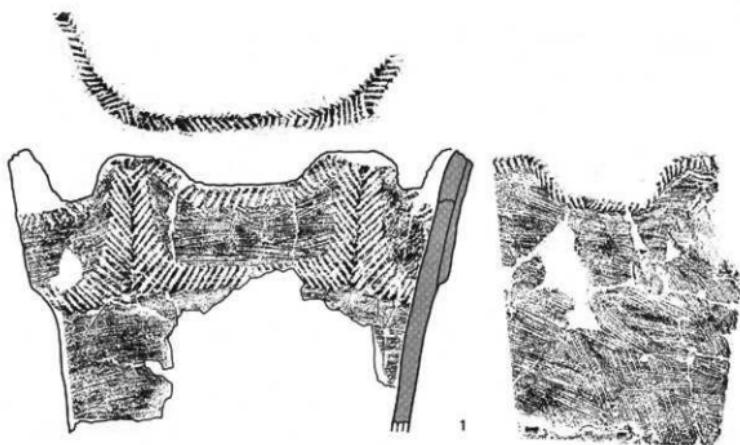
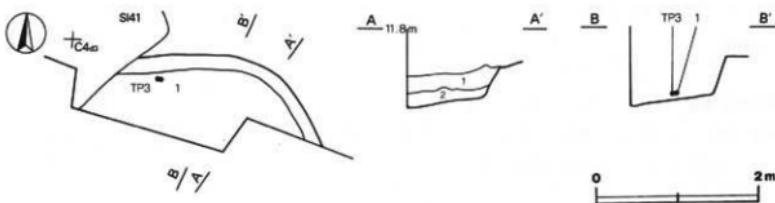
床 南部に向かってやや傾斜している。

覆土 2層に分層され、レンズ状に堆積しているため自然堆積と考えられる。

土層解説

1 埋 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 埋 色 ローム粒子中量



第8図 第48号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 覆土下層から縄文土器片4点(深鉢)がまとまって出土している。また、覆土上層から弥生土器片1点、土師器片1点、須恵器片3点、石1点が出土している。1・TP3は、同一個体と考えられる。
所見 時期は、出土土器から、縄文時代早期後半である。

第48号住居跡出土遺物観察表(第8図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------|--------|----|-------------|------|----|---|------|----------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | [26.4] | (17.7) | — | 雲母・長石・石英・鐵雜 | にぶい橙 | 普通 | 波状口縁 口唇部削み 波状頂部から削みを有する隆帯を垂下させて隆帯区画を形成 墓内・外面とも貝殻条痕文 | 下層 | 20% PL15 |
| TP3 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (11.3) | — | 雲母・長石・石英・鐵雜 | にぶい橙 | 普通 | 内・外表面貝殻条痕文 | 下層 | |

2 弥生時代の遺構と遺物

今回の調査で、弥生時代の竪穴住居跡8軒と土坑2基を確認した。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

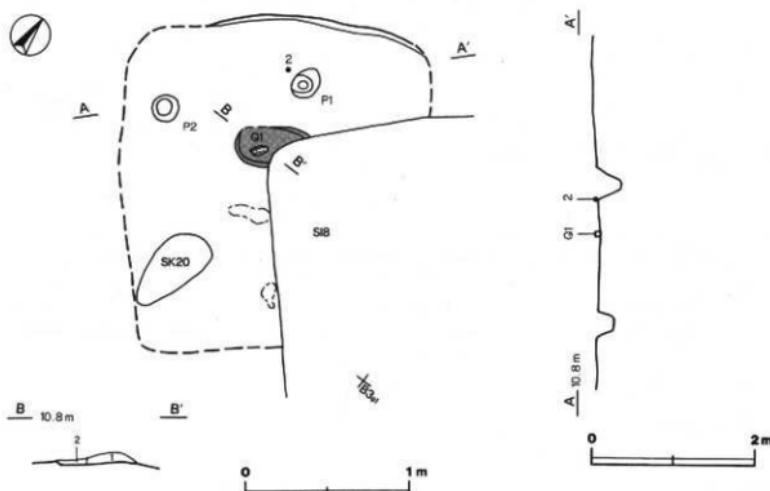
(1) 竪穴住居跡

第14号住居跡(第9・10図)

位置 調査1区中央部のB20区に位置し、低位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 東部を第8号住居、南西部を第20号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため、壁は確認できないが、主柱穴や炉の配置などから、長軸4.08m、短軸3.75mの隅丸方形と考えられ、主軸方向はN-37°-Wである。



第9図 第14号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、炉の南部にわずかながら踏み固められた部分が見られる。

炉 中央部のやや北寄りに位置している。東部が第8号住居に掘り込まれているが、長径100cm、短径50cmほどの楕円形と推定される。長径方向は住居跡の主軸とおおむね直交し、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。

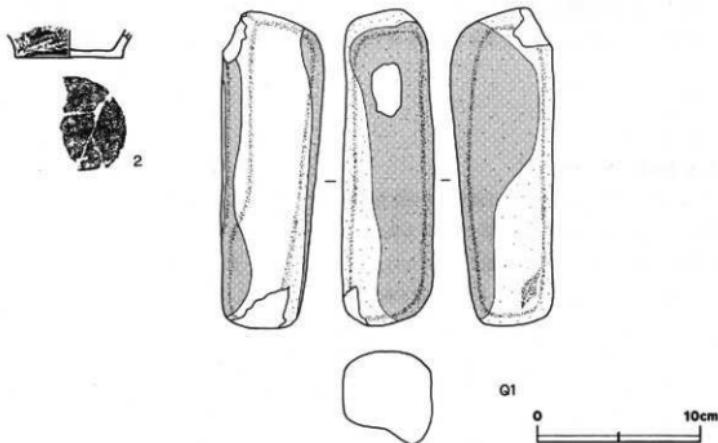
炉土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量

ピット 2か所。P1は深さ30cm、P2は20cmほどで、P2は配置から主柱穴と考えられるが、他は検出されていない。

遺物出土状況 弥生土器片7点(広口壺)、炉石1点が出土している。2はP1付近の床面から出土し、炉石は炉の南西から出土した。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第10図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表(第10図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 始土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|----|-------|-----|----------|-----|----|--------------------------|---------|-----|
| 2 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (1.7) | 6.6 | 素面・長石・石英 | 浅黄褐 | 普通 | 肩部外面附加条二種(附加1条)の繩文 底部布目模 | 床面 P1付近 | 20% |

| 番号 | 器種 | 長さ(径) | 幅(孔径) | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|--------|-------|-----|----------|-----|-------------|------|------|
| Q1 | 炉石 | (19.6) | (6.3) | 5.5 | (1119.1) | 安山岩 | 被熱による赤変部分あり | 炉内 | PL37 |

第28号住居跡(第11・12図)

位置 調査2区南西部のC3a6区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 南部が調査区域外のため、長軸4.03m、短軸は2.80mだけが確認され、主軸方向はN-43°-Wの隅丸方形と推定される。壁高は18~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であるが、踏み固められた部分は確認できなかった。

炉 確認できなかった。中央部北西寄りの床面に住居跡の主軸方向と直交するような形で粘土ブロックが検出された。

ピット 3か所。P1～P3は、深さ36～42cmである。P1・P3は配置から主柱穴、P2は出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積することから、自然堆積と考えられる。

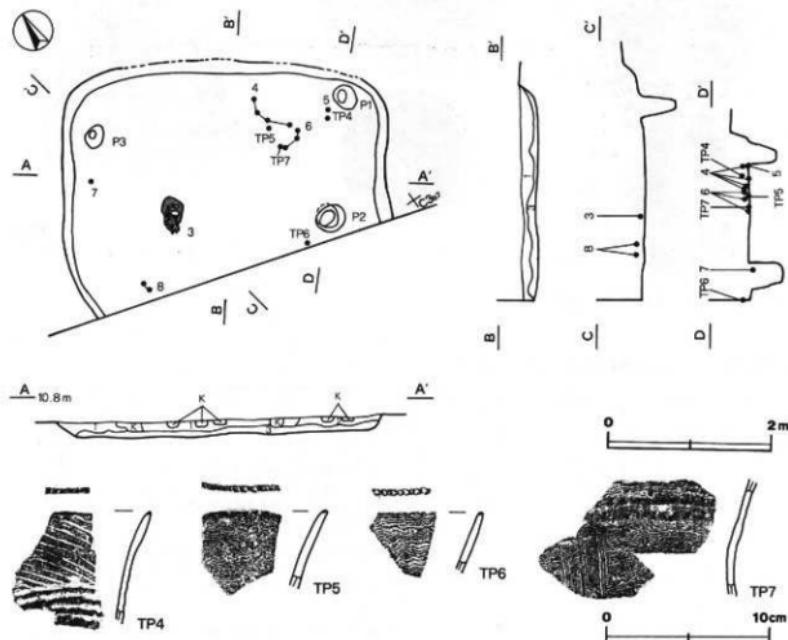
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子微量

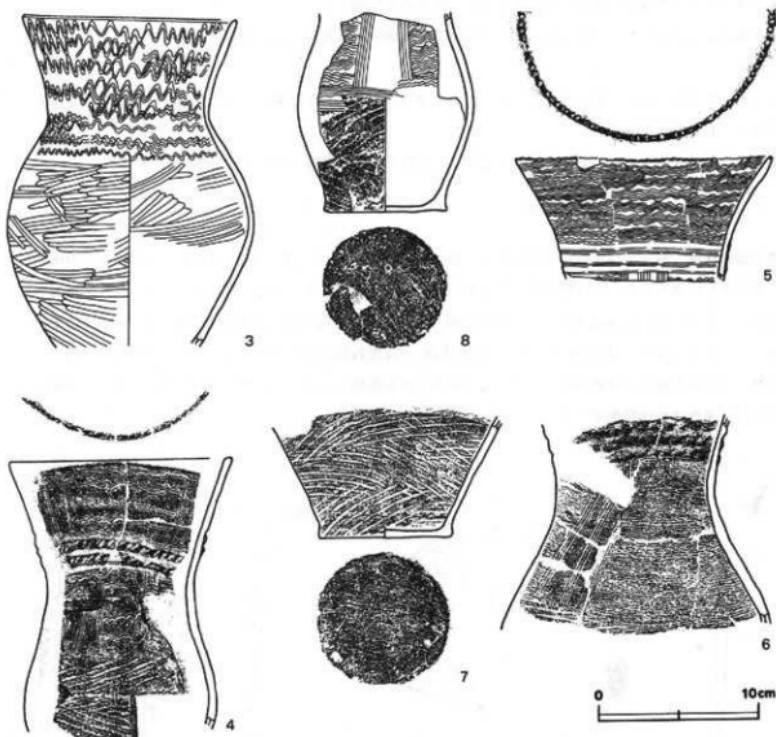
3 黒褐色 シルト粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・焼土
粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片89点（広口壺88、甕1）、土師器片5点（甕）、環5点が東コーナー付近の床や覆土下層を中心に出土した。3は群馬地方を分布の主体とする甕であり、中央部北西寄りの粘土ブロックに覆い被さるように出土した。4、6は東コーナー付近の覆土下層から出土した破片を接合したものであり、5は床面から出土している。また、7は北西コーナー付近の床面、8は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 主に群馬地方に分布の中心が見られる弥生土器が客体的に出土し、群馬地方とのつながりが想定され、時期は、弥生時代後期後半である。



第11図 第28号住居跡・出土遺物実測図



第12図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表（第11・12図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|--------|--------|----|------------|------|----|---|------|----------|
| 3 | 弥生土器 | 壺 | 13.3 | (20.6) | — | 長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部から頸部にかけて櫛摺波状文施文内・外側へラ磨き | 下層 | 90% PL15 |
| 4 | 弥生土器 | 広口壺 | [13.8] | (17.2) | — | 長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部全体押圧 頸部2条の隆筋 口縁部・頸部とも櫛齒状工具(5本)による櫛区画内に波状文 刷下部附加条二種(附加1条)の繩文 羽状構成 | 下層 | 10% |
| 5 | 弥生土器 | 広口壺 | 15.8 | (7.7) | — | 長石・石英・赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口唇部櫛状工具による割み 口辺部櫛齒状工具(5本)による波状文 頸部3条の隆筋 刷上部櫛齒状工具による櫛区画 区画内に波状文 | 床面 | 15% PL15 |
| 6 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (13.3) | — | 長石・石英 | 褐 | 普通 | 頸部押圧のある3条の隆筋 刷上部櫛齒状工具(3本)により櫛区画 区画内に波状文 刷下部附加条二種(附加1条)の繩文 | 下層 | 15% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|----|--------|-----|-------|-----|----|---|------|-------------|
| 7 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (7.5) | 8.4 | 長石・石英 | 黄褐色 | 普通 | 肩下部附加条二種(附加1条)の縦文 成形
を目視 | 床面 | 15%
PL15 |
| 8 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (17.0) | 7.4 | 長石・石英 | 灰褐色 | 普通 | 肩上部縦條状工具(5本)により縱区画 区
内に波状文 肩下部附加条二種(附加1条)
の縦文 底部布目痕 | 下層 | 40%
PL15 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|----|-------|----|--------------|-------|----|--|------|----|
| TP4 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (6.0) | — | 長石・石英 | にぶい褐色 | 普通 | 口沿部箋状工具による削み 口沿部附加条二
種(附加1条)の縦文 経い押圧のある4条
の隆起 | 下層 | |
| TP5 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (4.0) | — | 長石・石英 | 灰褐色 | 普通 | 口沿部箋状工具による削み 口沿部箋状工具
(5本)による波状文 | 床面 | |
| TP6 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.7) | — | 紫母・長石・
石英 | にぶい褐色 | 普通 | 口沿部箋状工具による削み 口沿部箋状工具
(5本)による波状文 | 下層 | |
| TP7 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (7.0) | — | 長石・石英 | 褐色 | 普通 | 口沿部箋状工具(3本)による波状文 波
状押圧のある2条の隆起 胸上部縦区画 区
内に波状文 | 床面 | |

第33号住居跡 (第13~15図)

位置 調査2区中央部のC3a9区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 北部を59号土坑、南西部を第60・61・64号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.67m、短軸5.32mほどの隅丸長方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は5~15cmで、外傾して立ち上がっているが、南西部は削平されているため、立ち上がりが見られない。

床 ほぼ平坦であり、北西コーナー部を除いて踏み固められている。

炉 中央部のやや北西寄りに位置し、長径100cm、短径64cmほどの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉であり、長径方向は住居跡の主軸とはほぼ一致している。炉石は確認できなかったが、住居跡の主軸方向と直交するような形で、粘土ブロックが検出されている。

炉土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 2 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 4か所。P1~P4は、深さ48~62cmほどで、主柱穴である。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しており自然堆積である。

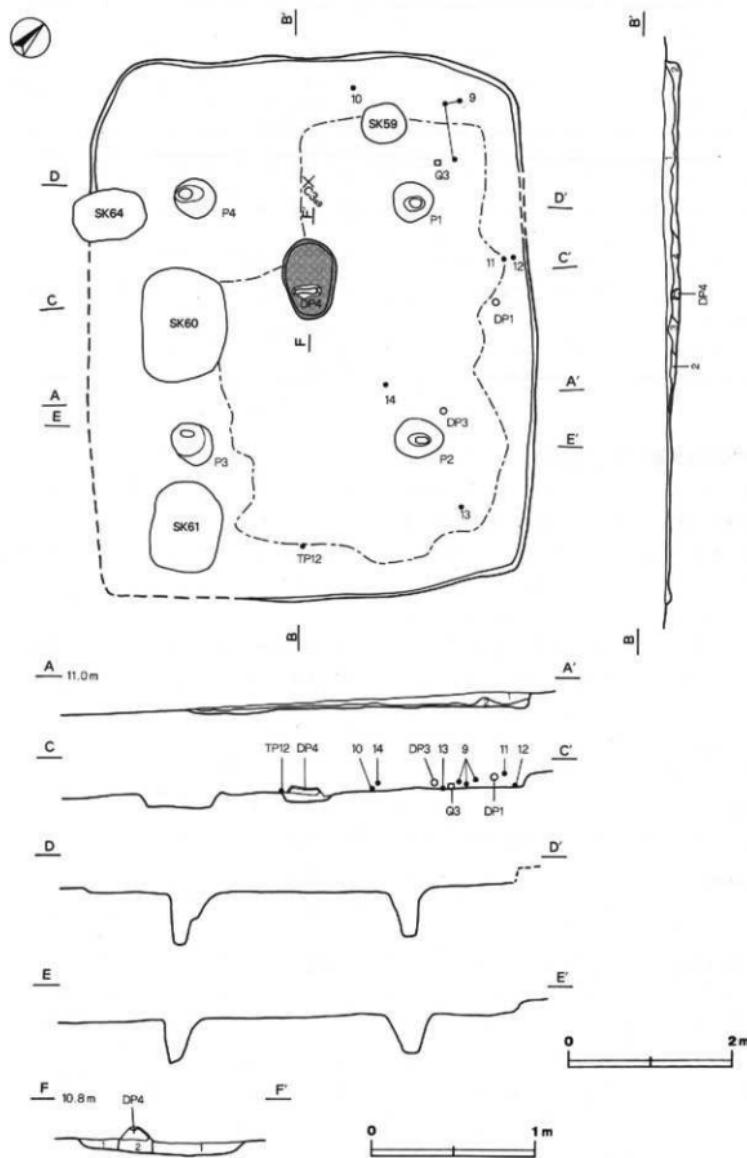
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

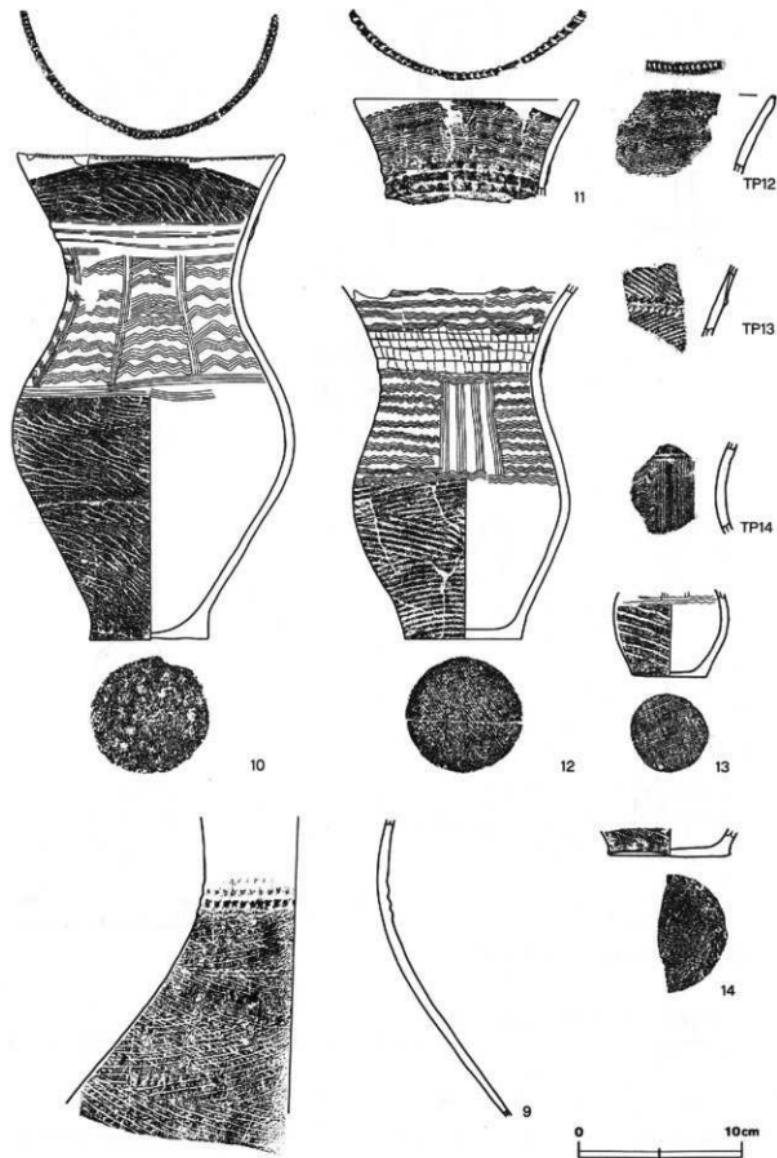
3 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 墓褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片170点(広口壺)、土製品3点(紡錘車)、石器1点(敲石)、流れ込んだと思われる土師器片11点(甕)、須恵器片1点(环)、疎9点が出土している。9は北コーナー付近の覆土中層から出土した破片が接合したものであり、10は北西壁寄りの覆土下層から横位の状態で出土している。11は北東壁際の覆土上層、12は覆土下層から横位の状態でそれぞれ出土している。13は北東コーナー付近の床面、14はP2付近の覆土中層、DP1は北東壁寄りの覆土上層、DP3はP2付近の覆土中層からそれぞれ出土した。DP4の粘土塊は炉内から出土し、炉石代用の可能性が考えられる。

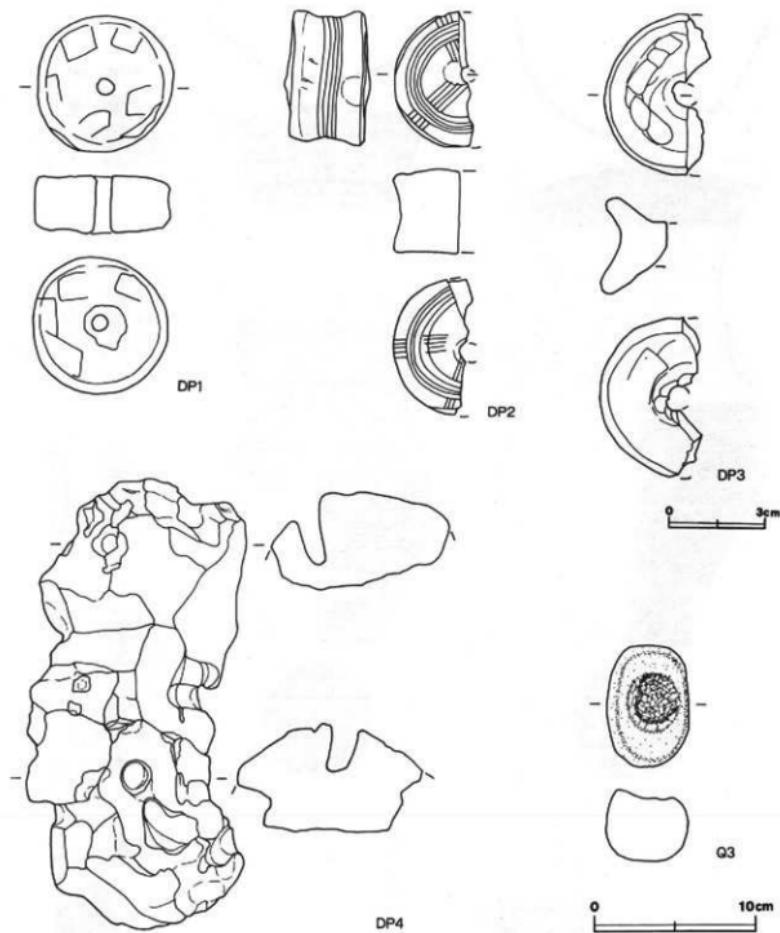
所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第13図 第33号住居跡実測図



第14図 第33号住居跡出土遺物実測図(1)



第15図 第33号住居跡出土遺物実測図(2)

第33号住居跡出土遺物観察表（第14・15図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|----|--------|----|----------|----|----|---|------|----|
| 9 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (18.4) | — | 雲母・長石・石英 | 淡黄 | 普通 | 頭部押庄のある3条の縦帯 口辺部微曲状工具(5本)により縱区画 区画内に波状文 制部附加条二種(附加1条)の縄文 羽状構成 | 中層 | 5% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|--------|--------|-----|------------|------|----|---|------|----------|
| 10 | 弥生土器 | 広口壺 | 16.2 | 30.0 | 7.1 | 長石・石英 | にぶい緑 | 普通 | 口唇部原体による割み 口辺部附加条二種(附加1条)の繩文 額部上位に2条の隆帯 前上部縦溝状工具(4本)による範区画 区画内に波状文 刷毛附加条二種(附加1条)の繩文 底部布目痕 | 下層 | 95% PL15 |
| 11 | 弥生土器 | 広口壺 | [13.6] | (5.9) | — | 長石・石英・赤色粒子 | 灰赤 | 普通 | 口唇部縦溝状工具による割み 口辺部縦溝状工具(5本)による波状文 額部押圧のある3条の隆帯 | 上層 | 5% |
| 12 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (21.9) | 7.1 | 赤母・長石・石英 | にぶい緑 | 普通 | 口辺部縦溝状工具(4本)による波状文 額部上位に軽い押圧のある4条の隆帯 前上部縦溝状工具による範区画により3分割 区画内に波状文 刷毛附加条二種(附加1条)の繩文 底部布目痕 | 下層 | 90% PL16 |
| 13 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (5.5) | 4.5 | 長石・石英 | にぶい緑 | 普通 | 額部縦溝状工具(3本)による波状文 刷毛附加条二種(附加1条)の繩文 底部布目痕 | 床面 | 40% PL16 |
| 14 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (1.7) | 7.2 | 長石・石英 | にぶい緑 | 普通 | 額部下端附加条二種(附加1条)の繩文 底部布目痕 | 中層 | 5% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|----|-------|----|----------|------|----|---------------------------------------|------|----|
| TP12 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (5.0) | — | 長石・石英 | 碧 | 普通 | 口唇部縦状工具による割み 口辺部縦溝状工具(5本)による波状文 | 下層 | |
| TP13 | 弥生土器 | 壺 | | (3.9) | — | 雲母・長石・石英 | にぶい緑 | 普通 | 附加条一種(附加2条)の繩文施文の複合口縁、原形結束痕 | 覆土中 | |
| TP14 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (5.6) | — | 雲母・長石・石英 | にぶい緑 | 普通 | 額部上位に押圧のある隆帯、額部縦溝状工具(5本)による範区画 区画内波状文 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ(寸) | 幅(孔径) | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-------|-------|-----|--------|----|----------------------------|------|------|
| DP1 | 筋縫車 | 4.2 | 0.5 | 1.8 | 41.2 | 土製 | ナデ 片面穿孔 | 上層 | PL37 |
| DP2 | 筋縫車 | 4.2 | (2.7) | 2.6 | (25.8) | 土製 | 上・下侧面縦溝状工具(5本)による施文 断面角巻き形 | 覆土中 | PL37 |
| DP3 | 筋縫車 | 5.0 | (3.3) | 3.0 | (36.0) | 土製 | ナデ 断面角巻き形 | 中層 | PL37 |
| DP4 | 粘土塊 | 27.8 | 13.5 | 6.6 | 985.9 | 粘土 | 被熱による赤変部分あり | 炉内 | |
| Q3 | 裁石 | 7.6 | 5.1 | 4.4 | 266.5 | 砂岩 | 表面中央部に敲打痕あり | 床面 | PL37 |

第35号住居跡 (第16図)

位置 調査2区西部のB317区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 黒色土層中に確認されたため、明確なプランは確認できず。土層状況から壁の立ち上がりを判断した。長軸5.20m、短軸5.00mほどの隅丸方形で、主軸方向はN=47°W、壁高は12~14cmほどで、壁は外傾して立ち上がっているものと推定される。

床 ほぼ平坦である。踏み固められた部分は確認できなかった。

炉 ほぼ中央部に位置する。長径88cm、短径74cmほどの梢円形で、床面を12cmほど掘りくぼめた地床炉であり、長径方向は住居跡の主軸とほぼ一致している。

炉土層解説

1) 焙 烤 色 ローム粒子少數、燒土粒子・炭化粒子微量

ピット 2か所。P1・P2とも深さ40cmほどである。いずれも配置からは主柱穴の可能性が考えられず、性格は不明である。

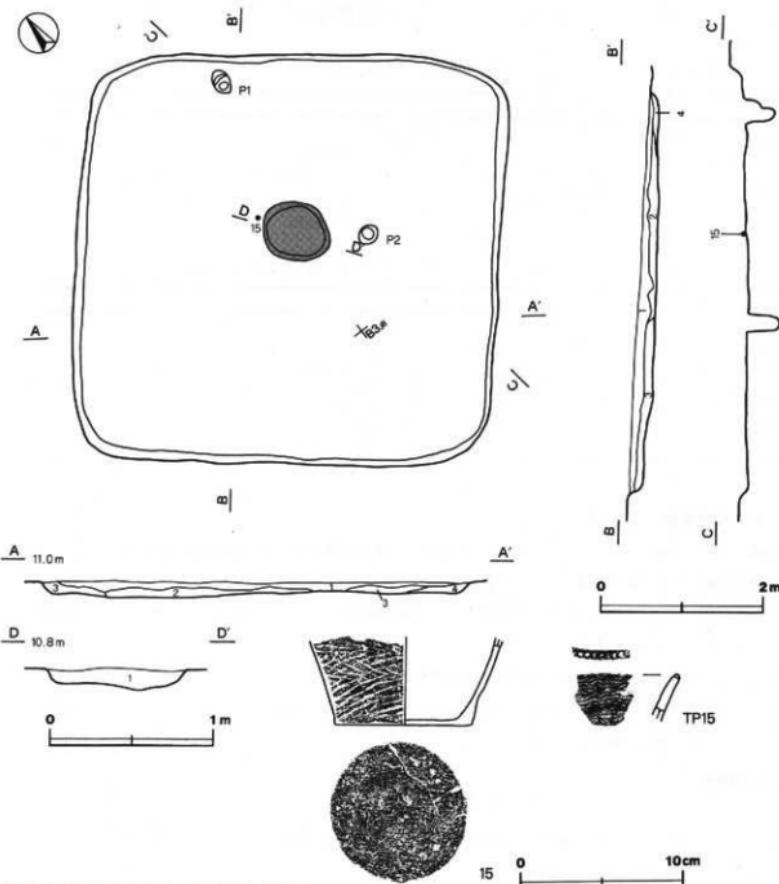
覆土 4層に分層される。床面に炭化材がわずかに残り、覆土中に焼土、炭化粒子が含まれることから、焼失住居と考えられ、人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・粘土ブロック少量、焼土粒子・灰 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| | 化粒子微量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片48点（広口壺）、覆土上層からは縄文土器片3点、土師器片44点（壺11、甌33）、須恵器片7点（壺）、罐1点が出土している。15は炉北側の下層より出土している。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第16図 第35号住居跡・出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表（第16図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|----|-------|-----|-------|-----------|----|------------------------------------|-------------|------|----|
| | | | | | | | | | 下部附加条二種（附加1条）の縦文 羽状 構成 底部布目痕 | 下層 20% PL15 | | |
| 15 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (5.5) | 8.2 | 長石・石英 | にぶい黄
緑 | 普通 | | | | |
| TP15 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (2.9) | — | 長石・石英 | 暗赤褐 | 普通 | 口唇部原体による押圧 口辺部は櫛歯状工具
(3本)による波状文 | 覆土中 | | |

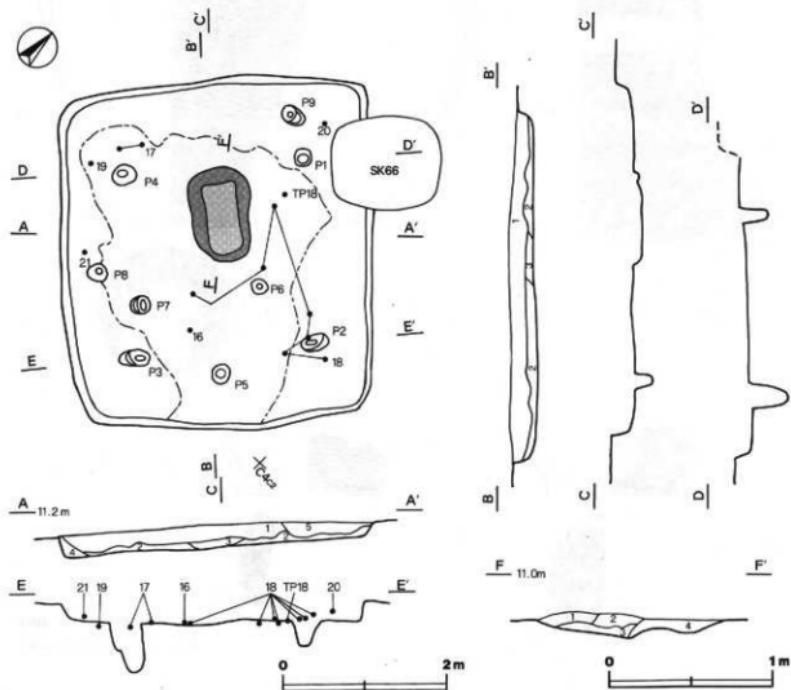
第37号住居跡（第17～20図）

位置 調査2区南東部のC4 b1区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

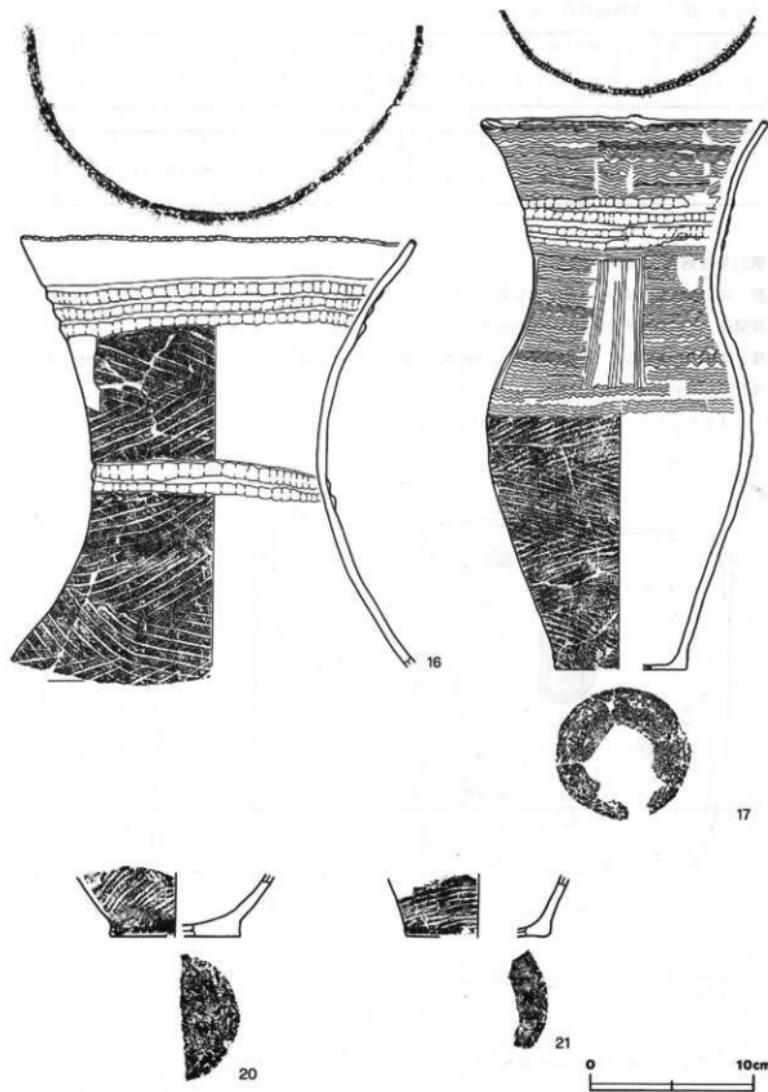
重複関係 北東部を第66号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.35m、短軸3.83mほどの隅丸長方形で、主軸方向はN-43°-Wである。壁高は18～22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められた部分が見られる。



第17図 第37号住居跡実測図



第18図 第37号住居跡出土遺物実測図(1)

炉 中央部の北西寄りに位置している。長径116cm、短径56cmほどの楕円形で、床面を15cmほど掘りくぼめた地床炉であり、長径方向は住居の主軸とほぼ一致している。炉床面は被熟で赤変色化している。

炉土層解説

| | | | |
|-------|------------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 9か所。P 1～P 4は、深さは32～49cmほどで、配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ22cmほどで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 9は深さ22～28cmであり、性格は不明である。

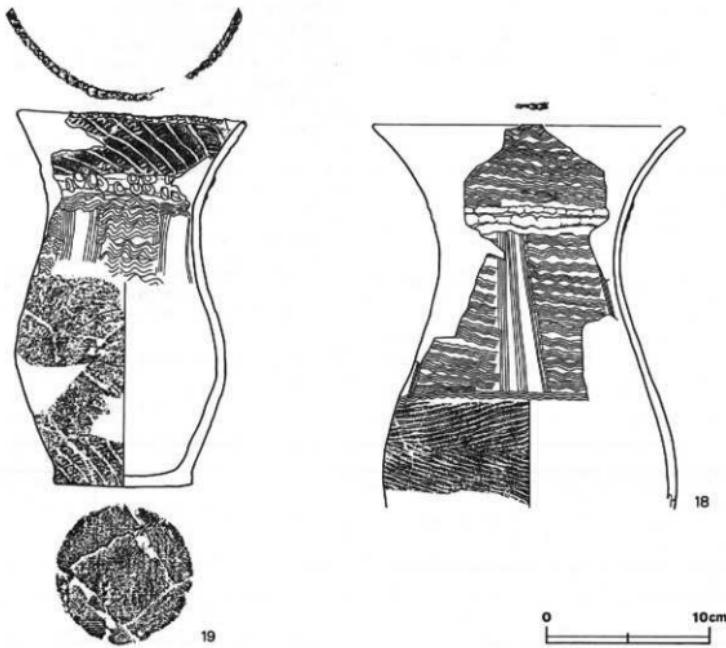
覆土 5層に分層される。覆土に焼土や炭化粒子を含み、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

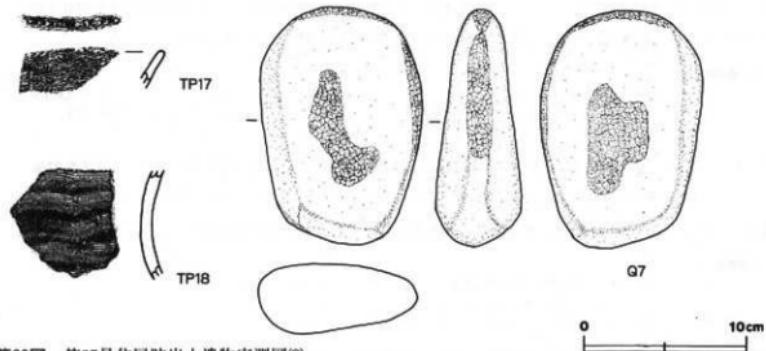
| | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 弛生土器片108点(広口壺)、石器1点(磨石)のほか、混入したと考えられる繩文土器片1点(深鉢)、土師器片13点(甕)、鉄製品1点(不明)、礫3点が出土している。16はP 5西側の覆土下層から出土し、17・19は西コーナー付近の床面から横位の状態で出土している。また、18は東コーナーから中央部付近にかけての覆土下層及び床面から出土した破片が接合したものであり、20は北コーナー付近の覆土中層、21は南西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第19図 第37号住居跡出土遺物実測図(2)



第20図 第37号住居跡出土遺物実測図(3)

第37号住居跡出土遺物観察表（第18～20図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|--------|--------|-------|----------|-------|----|--|-------|----------|
| 16 | 弥生土器 | 広口壺 | 23.8 | (26.4) | — | 雲母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 口唇部横文原体押圧 口辺部無文 額部上位に押圧のある陰帯3条 下位に2条の陰帯 陰帝間と肩部は附加条二種（附加1条）の楕文 羽状構成 | 下層 | 40% PL16 |
| 17 | 弥生土器 | 広口壺 | 17.6 | 33.8 | [8.1] | 長石・石英 | 明褐 | 普通 | 口唇部横文工具による削み 小突起1か所 所有口辺部横羽状工具（4本）による波状文 額部上位軽い押圧のある4条の陰帯 脱上部横羽状工具による縦区画により4分割 区画内に波状文 肩部附加条二種（附加1条）の楕文 羽状構成 底部布目痕 | 床面 | 80% PL17 |
| 18 | 弥生土器 | 広口壺 | [18.8] | (23.4) | — | 長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部横羽状工具による削み 口辺部横羽状工具（4本）による波状文 額部上位軽い押圧のある3条の陰帯 額部横羽状工具による横区画により4分割 区画内に波状文 肩部附加条二種（附加1条）の楕文 羽状構成 | 下層～床面 | 40% PL16 |
| 19 | 弥生土器 | 広口壺 | [13.9] | 23.0 | 8.4 | 雲母・長石・石英 | 淡赤橙 | 普通 | 口唇部横文原体押圧 口辺部・肩部は附加条二種（附加1条）の楕文 額部上位押圧のある2条の陰帯 額部横羽状工具（6本）による横区画により4分割され区画内に波状文 肩部附加条二種（附加1条）の楕文 底部布目痕 | 床面 | 65% PL16 |
| 20 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.9) | [7.8] | 雲母・長石・石英 | にぶい赤褐 | 普通 | 肩部外表面下端に附加条一種（附加2条）の楕文 底部砂目痕 | 中層 | 5% |
| 21 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.9) | [8.6] | 長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 肩部外表面下端に附加条二種（附加1条）の楕文 底部布目痕 | 下層 | 5% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|----|-------|----|----------|----|----|-------------------------------------|------|----|
| TP17 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (2.2) | — | 長石・石英 | 褐 | 普通 | 口唇部横状工具による削み 突起有 口辺部横羽状工具（4本）による波状文 | 覆土中 | |
| TP18 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (6.6) | — | 雲母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 額部横羽状工具（8本）による下向き連弧文 | 床面 | |

| 番号 | 器種 | 大きさ(径) | 幅(孔径) | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|--------|-------|-----|-------|----|----------------------|------|------|
| Q7 | 磨石 | 14.6 | 9.9 | 5.2 | 950.2 | 砂岩 | 上端部・側面に磨痕あり 中央部に鉋痕あり | 覆土中 | PL37 |

第61号住居跡（第21図）

位置 調査5区北部のC7e2区に位置し、中位段丘上の南東方向への緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 北部のほとんどが調査区域外に延びているため、長軸は1.95m、短軸は0.93mほど確認されただけで、主軸方向はN-10°-Wで方形であると推定される。壁高は6cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、断面U字形の壁溝が西壁の一部に確認された。

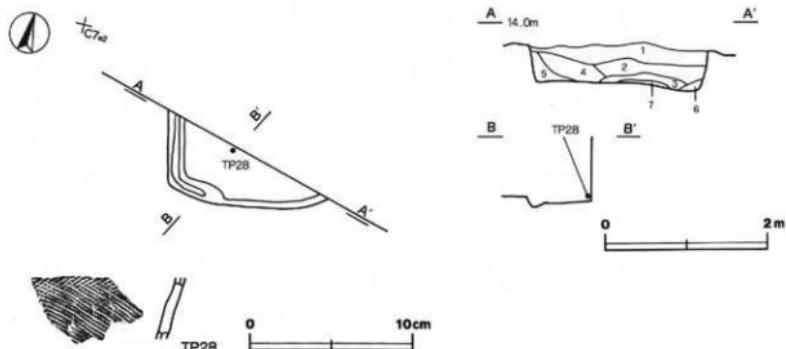
覆土 7層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 墓褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片4点(広口壺)のほか、土師器片4点(甕)、須恵器片2点(壺)が出土している。TP28は調査区域境界部の覆土下層から出土している。

所見 わずかな範囲の確認であるが、硬化面と壁溝が検出されたため住居跡と判断した。弥生土器片が床面近くから出土しているため弥生時代後半と考えられるが、明確な時期は不明である。



第21図 第61号住居跡・出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表（第21図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|----|-------|----|----------|----|----|-----------------------|------|----|
| TP28 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.8) | — | 黄母・長石・石英 | 褐 | 普通 | 側部附加条一種(附加2条)の構文 羽状構成 | 下層 | |

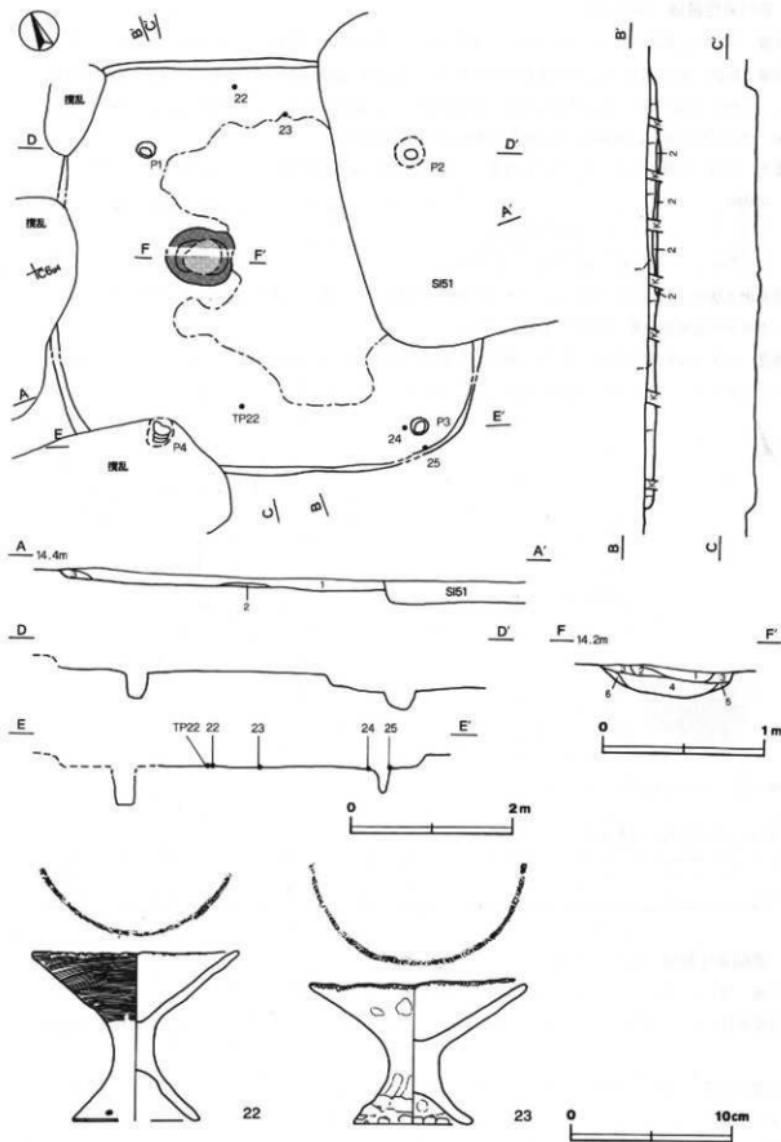
第63号住居跡（第22・23図）

位置 調査8区東部のC6g4区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 東部を第51号住居に掘り込まれ、北部から南西部は搅乱を受けている。また、耕作による搅乱も受けている。

規模と形状 長軸5.33m、短軸5.12mほどの隅丸方形で、主軸方向はN-62°-Wである。壁高は10~15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、炉北側から南東部にかけて踏み固められている。



第22図 第63号住居跡・出土遺物実測図

炉 中央部西寄りに位置する。長径80cm、短径70cmの梢円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉であり、長径方向は住居跡の主軸とほぼ一致している。炉床面は被熱で赤変硬化している。

炉土層解説

| | | | |
|---------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 赤褐色 | ロームの赤変硬化層 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |

ピット 4か所。P1～P4は深さ32～38cmで、配置から主柱穴と考えられる。P2は、第51号住居内で確認された。

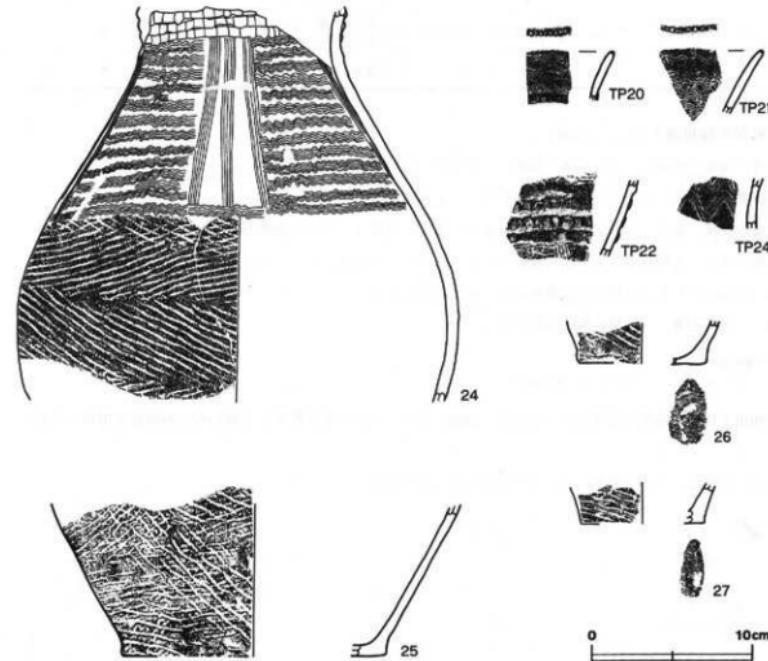
覆土 3層に分層される。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

| | | | |
|-------|-------------------------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黑色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片81点（広口壺79、高杯2）のほか、混入と思われる土師器片23点（壺8、甕類15）須恵器片3点（壺）、陶器片3点（碗）、土師質土器片1点（焰塔）、蝶3点が出土している。22・23は北壁寄りの床面、24・25は南東コーナーの床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第23図 第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第22・23図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様及び手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|------|--------|--------|------------|-----------|----|---|------|-------------|
| 22 | 弥生土器 | 高杯 | 12.6 | 15.5 | [7.9] | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい黄
緑 | 普通 | 口唇部繩文原体押圧 壁部外面に櫛齒状工具（7本）による縦走文 内面ナデ 焼付着 脚部に穿孔 | 床面 | 60%
PL18 |
| 23 | 弥生土器 | 高杯 | 13.2 | 9.1 | 7.2 | 長石・石英 | 浅黃緑 | 普通 | 口唇部齒状工具による削み 壁部外向・脚部内面指頭板 内面焼付着 縞模輪積底 | 床面 | 80%
PL18 |
| 24 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (24.4) | — | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい緑 | 普通 | 頸部押圧のある隆帯3条 櫛齒状工具（5本）による縱区画により5分割 区画内に波状文 脚部附加条二種（附加1条）の縞文 羽状構成 | 床面 | 25%
PL16 |
| 25 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (9.5) | [16.2] | 雲母・長石・石英 | 浅黄 | 普通 | 脚部外面下端附加条二種（附加1条）の縞文 羽状構成 底部砂目痕 | 床面 | 5% |
| 26 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (2.7) | [8.1] | 雲母・長石・石英 | 灰黄緑 | 普通 | 脚部外曲上端附加条二種（附加1条）の縞文 底部布目痕 | 覆土中 | 5% |
| 27 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (2.5) | [7.7] | 雲母・長石・石英 | 浅黄緑 | 普通 | 脚部外面下端附加条二種（附加1条）の縞文 底部布目痕 | 覆土中 | 5% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|----|-------|----|-------|------|----|---|------|------|
| TP26 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.0) | — | 長石・石英 | 灰褐 | 普通 | 口唇部繩文原体押圧 LI辺部齒状工具（4本）による波状文 頸部押圧のある隆帯 | 覆土中 | |
| TP27 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.9) | — | 長石・石英 | にぶい緑 | 普通 | 口唇部繩文原体押圧 LI辺部齒状工具（5本）による波状文 | 覆土中 | |
| TP28 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (4.6) | — | 雲母・長石 | にぶい緑 | 普通 | 頸部上位押圧のある隆帯（4条） 頸部捲曲状工具（4本）による縱区画 区画内に波状文 | 床面 | |
| TP29 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.0) | — | 長石・石英 | 緑 | 普通 | 捲曲状工具（4本）による波状文 | 覆土中 | PL38 |

第70号住居跡（第24・25図）

位置 調査6区東部のD 8 a3区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第67・68号住居にほとんどを掘り込まれている。

規模と形状 第67・68号住居に大部分が掘り込まれ、南西コーナーと南壁がわずかに確認できただけである。

主軸方向は、南壁部からN-33°Wほどと考えられる。壁高は6cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦と考えられるが、踏み固められた部分は確認できなかった。

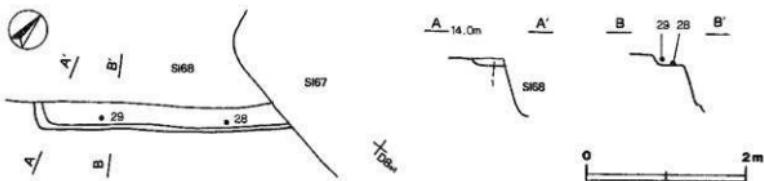
覆土 覆土が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

1 線 條 色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片16点（広口壺）が出土した。28は南東壁際覆土下層から、29は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第24図 第70号住居跡実測図



第25図 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表（第25図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|----|-------|-------|----------|-------|----|--|------|-----|
| 28 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (7.3) | — | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 頭部櫛痕状工具（3本）による縦区割・区画内に波状文・頭部文様帶下段に下向き連弧文・肩部附加条二種（附加1条）の楕文・羽状構成 | 下層 | 20% |
| 29 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (2.2) | [7.9] | 雲母・長石・石英 | にぶい黄橙 | 普通 | 胸部下端は附加条二種（附加1条）の楕文・底部布目模 | 中層 | 5% |

(2) 土坑

第46号土坑（第26図）

位置 調査3区東部のC 5 g8区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているが、長径1.34m、短径1.12mほどの梢円形と推定される。深さは13cmほどであり、遺物が露出した状態で確認された。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

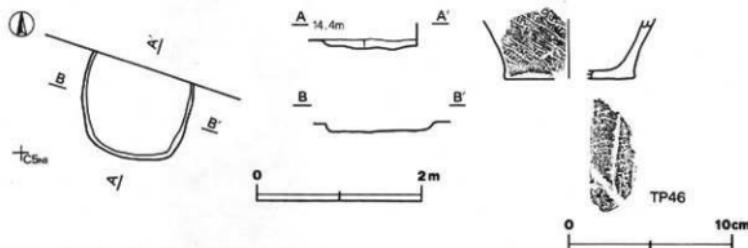
覆土 単一層である。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 埋 地色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片6点（広口壺）が出土している。TP46は覆土中から出土したものである。

所見 覆土が薄いため明確ではないが、出土土器から、時期は弥生時代後期後半と考えられる。



第26図 第46号土坑・出土遺物実測図

第46号土坑出土遺物観察表（第26図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|----|-------|-------|-------|----|----|------------------------|------|----|
| TP46 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.9) | [8.2] | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 頭部附加条二種（附加1条）の楕文・底部木葉状 | 覆土中 | |

第100号土坑（第27図）

位置 調査6区東部のD 8 c1区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.55m、短径1.18mほどの梢円形で、深さ8cmほどであり、遺物が露出した状態で確認された。

底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

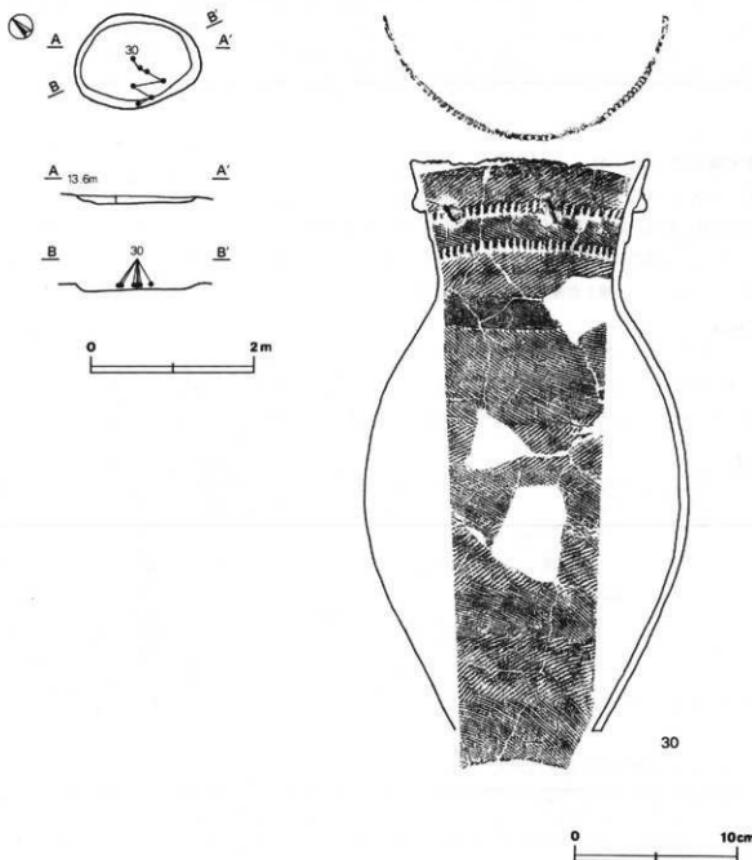
覆土 削平されているため1層だけが確認された。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 層 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 弥生土器片12点（広口壺）が出土し、30は覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第27図 第100号土坑・出土遺物実測図

第100号土坑出土遺物観察表（第27回）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 高さ | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|--------|--------|----|--------------|-----------|----|--|------|-------------|
| 30 | 房生土器 | 広口壺 | [14.8] | (35.4) | - | 紫青・長石・
石英 | にぶい黄
緑 | 普通 | 口唇部繩文原体押圧 2段の複合口縁 上下
段とも附加条彌文 底部下端に繩文原体押圧
上段下端に貼彌 文部下半無文帯 脊部一条
（附加2条）の縦文 羽状構成 | 下層 | 60%
PL17 |

3 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で、古墳時代の竪穴住居跡39軒、墓塚1基、竪穴遺構3基を確認した。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第5号住居跡（第28～32図）

位置 調査1区中央部のB2e8区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面に立地している。

規模と形状 長軸8.08m、短軸7.98mほどの方形で、主軸方向はN=28°Wである。壁高は28～37cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から各主柱穴にかけて踏み固められている。また、各壁下には断面U字形の壁溝が巡っている。

電 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで約180cm、袖部幅は100cm、壁外への掘り込みは70cmほどであり、袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、火床面は赤変硬化している。また、煙道は外傾して立ち上がる。

竪穴解説

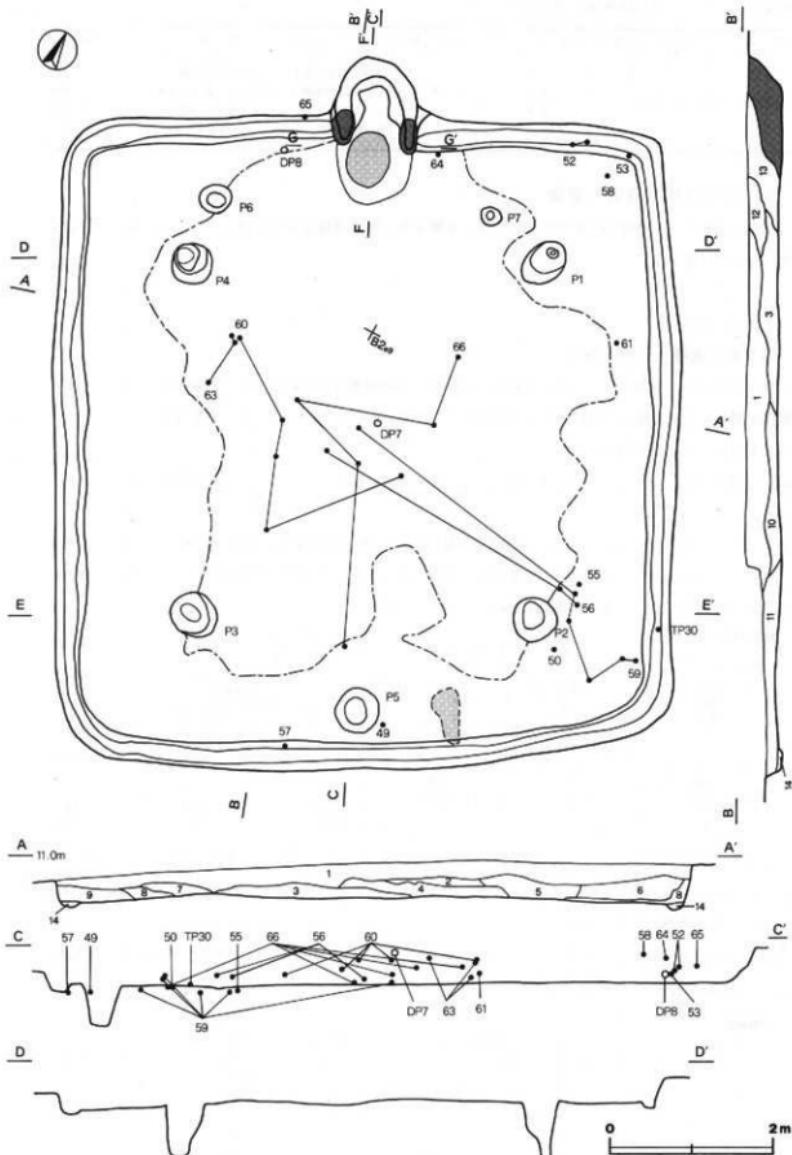
| | | | | | |
|----|-------|--------------------------------|----|-------|----------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 11 | 板暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・砂粒・粘土粒子微
量 |
| 2 | 板暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 | 12 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック微量、ロームブロック・粘土粒子少
量、砂粒微量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、灰少量 | 13 | 灰褐色 | 砂粒・粘土粒子多量 |
| 4 | 板暗赤褐色 | ロームブロック微量、焼土ブロック微量 | 14 | 暗褐色 | ローム粒子多量、粘土ブロック微量、燒土ブロック
微量 |
| 5 | 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 | 15 | 板暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、砂粒・粘土粒
子微量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子多量、砂粒・粘土粒子少量、燒土ブ
ロック微量 | 16 | 暗褐色 | ローム粒子・燒土粒子少量 |
| 7 | 板暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、砂粒・粘土粒子微量 | 17 | 赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、砂粒・粘土粒子微量 |
| 8 | にぶい褐色 | 粘土粒子中量、砂粒少量、ロームブロック微量 | 18 | 暗赤褐色 | ロームブロック・燒土ブロック・粘土ブロック少
量 |
| 9 | 板暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、砂粒・粘土粒
子微量 | 19 | 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 10 | 板暗褐色 | ローム粒子微量 | | | |

ピット 7か所。P1～P4は深さ63～72cmほどであり、配置から主柱穴と考えられ、P5は深さ50cmで配
置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ27cmほどで、配置から補助柱穴の可能性も
考えられるが性格は不明である。

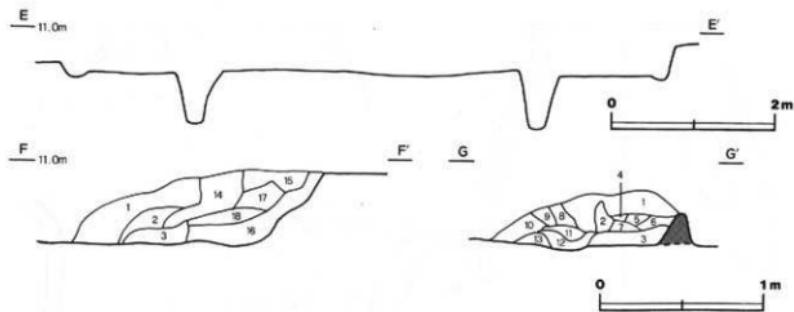
覆土 14層に分層される。各層にロームブロック、焼土ブロックが含まれ、大半の土層が黒褐色を基調とした
同質の色調のため、人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | | | |
|---|-----|---------------------------|----|------|--------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 9 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 10 | 板暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、燒土
粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 11 | 暗褐色 | 砂粒微量 |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 12 | 暗褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック中量 |
| 5 | 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 6 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 14 | 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量、砂粒・粘
土粒子微量 |
| 7 | 暗褐色 | 粘土ブロック・ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | | | |
| 8 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | | | |

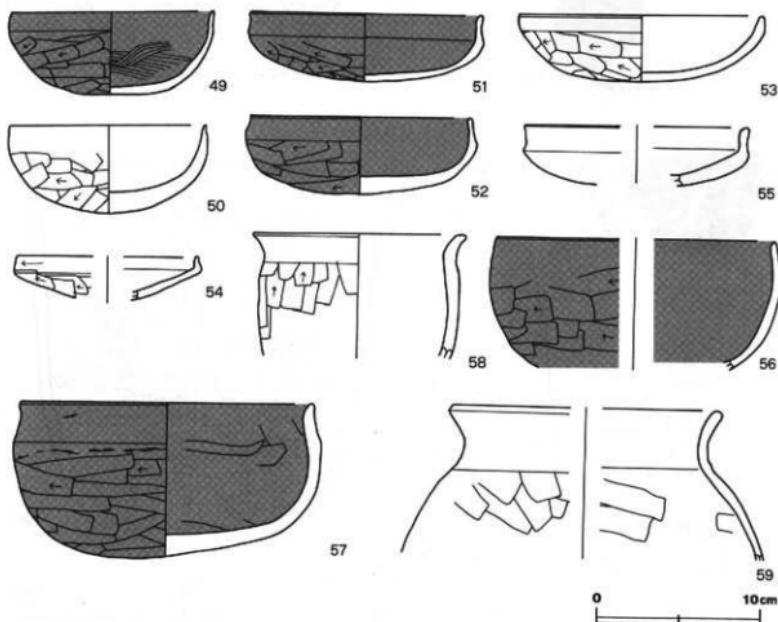


第28図 第5号住居跡実測図(1)

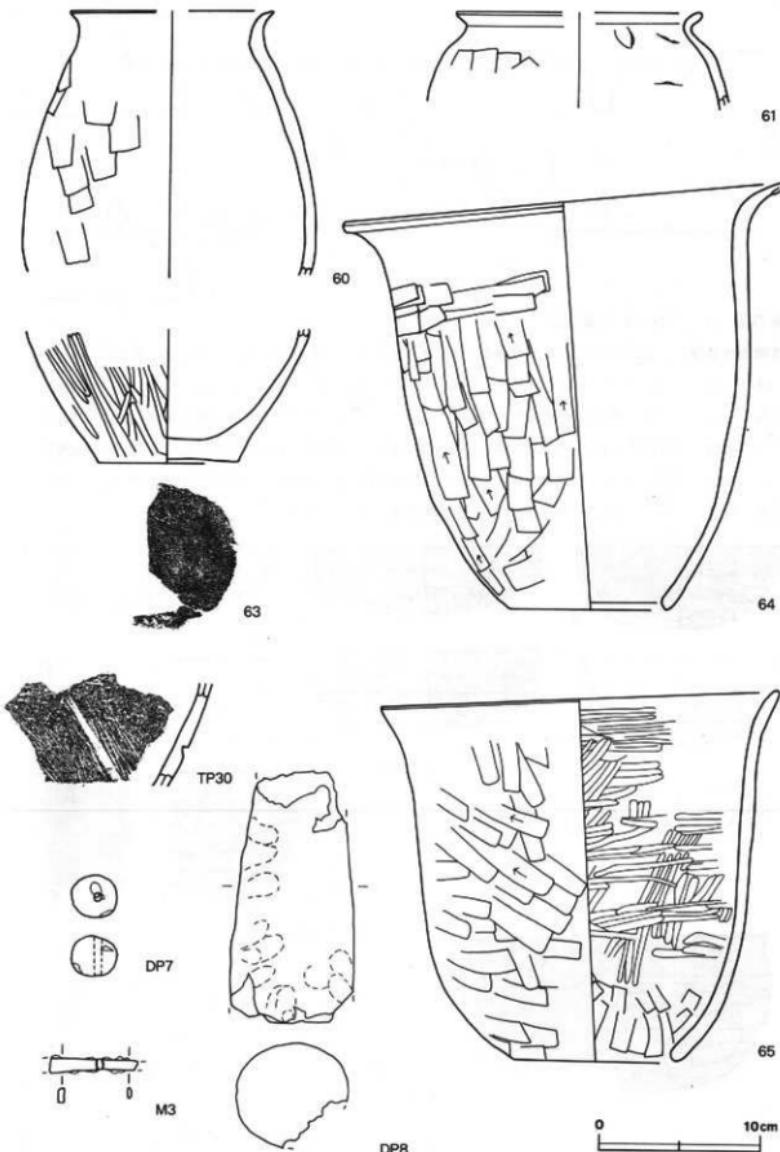


第29図 第5号住居跡実測図(2)

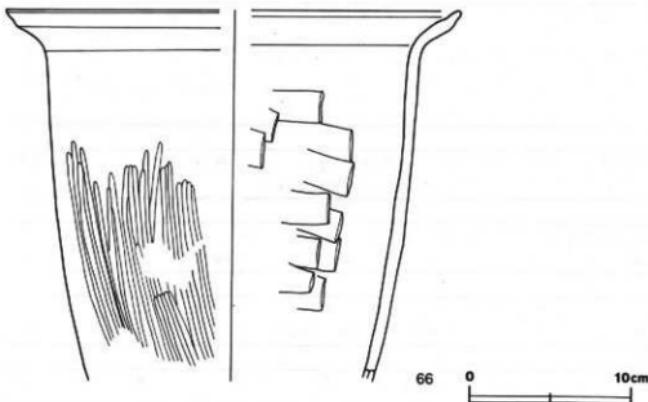
遺物出土状況 土師器片1,093点（坏・椀類102、甕・瓶類991）、須恵器片16点（坏類13、甕類3）、土製品11（球状土錘1、支脚片10）、鐵器2（刀子、不明）のほか、流れ込みと思われる縄文土器片15点（深鉢）、弥生土器片30点（広口壺）、礫38点が全域から散在して出土している。49は正位で南東壁の床面、50は逆位で東コーナーの床面、52は正位で北コーナー付近の中層、57は正位で南東壁の床面から出土している。65は北壁際中層から、DP 8の支脚は竈の左袖外側の覆土下層から、64は竈右袖の外側から横位でそれぞれ出土している。
所見 時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第30図 第5号住居跡出土遺物実測図(1)



第31図 第5号住居跡出土遺物実測図(2)



第32図 第5号住居跡出土遺物実測図(3)

第5号住居跡出土遺物観察表 (第30~32図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 手 法 の 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|----|-----|-----|--------|--------|-----|-------------------|-----------|-------------|-----------------------------|-------|-----------------------|
| 49 | 土 器 | 环 | 12.4 | 5.1 | 3.5 | 長石・石英
赤色粒子 | 灰褐色 | 普通
磨き | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 床 面 | 100% PL20
内・外面黒色化現 |
| 50 | 土 器 | 环 | 11.9 | 5.5 | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 床 面 | 95% PL20 |
| 51 | 土 器 | 环 | 14.1 | 4.2 | — | 長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 覆土中 | 95% PL20
内・外面黒色化現 |
| 52 | 土 器 | 环 | 13.4 | 4.8 | — | 雲母・長石・
石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 中 層 | 90% PL20
内・外面黒色化現 |
| 53 | 土 器 | 环 | 15.0 | 4.0 | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 下 層 | 55% |
| 54 | 土 器 | 环 | [11.1] | (2.7) | — | 長石・石英
赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 覆土中 | 50% |
| 55 | 土 器 | 环 | [13.7] | (3.6) | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい黄
橙 | 普通 | 体部外面削減 内面ヘラナデ | 床 面 | 20% |
| 56 | 土 器 | 碗 | [17.3] | (8.0) | — | 雲母・長石・石英
針状物・橙 | にぶい黄
褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ナデ | 下 层 | 20%
内・外面黒色化現 |
| 57 | 土 器 | 碗 | 18.0 | 9.7 | — | 長石・石英・
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通
外面輪積痕 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ナデ
内面ナデ | 床 面 | 95% PL21
内・外面黒色化現 |
| 58 | 土 器 | 小切妻 | 12.7 | (7.5) | — | 雲母・長石・
石英 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ナデ | 上 层 | 25% |
| 59 | 土 器 | 妻 | [16.4] | (9.2) | — | 雲母・長石・
石英 | 明褐色 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ヘラナデ | 下層・床面 | 20% |
| 60 | 土 器 | 妻 | [12.6] | (16.3) | — | 雲母・長石・
石英 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ナデ | 中 层 | 25% |
| 61 | 土 器 | 妻 | [15.2] | (5.9) | — | 長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ナデ | 下 层 | 5% |
| 63 | 土 器 | 妻 | — | (8.2) | 8.7 | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面下端ヘラ磨き 内面ヘラナデ
底部ヘラ削り | 上層・下層 | 5% |
| 64 | 土 器 | 板 | 27.1 | 26.6 | 9.8 | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ナデ | 中 层 | 80% PL20 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|--------|--------|------|------------------|-----------|----|-----------------------------|-------|----------|
| 65 | 七輪器 | 瓶 | 24.4 | 23.2 | 10.0 | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい黄
橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラ削り後
ヘラ磨き | 中層 | 70% PL20 |
| 66 | 土師器 | 瓶 | [27.8] | (22.7) | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部側ナギ 体部外表面ヘラ磨き 内面
ヘラナガ | 中層～床面 | 15% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|----|-------|----|-------|------|----|-------|------|----|
| TP30 | 土師器 | 甕 | — | (6.7) | — | 雲母・長石 | にぶい橙 | 普通 | 砥石転用 | 床面 | |

| 番号 | 器種 | 最大径 | 厚さ | 孔 径 | 重 量 | 材 質 | 特 徴 | 出 土 位 置 | 備 考 |
|-----|------|-----|-----|-----|------|-----|-----------|---------|------|
| DP7 | 球状土錐 | 2.9 | 2.4 | 0.6 | 18.3 | 土製 | 外面ナギ 片面穿孔 | 上層 | PL37 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出 土 位 置 | 備 考 |
|-----|----|--------|-------|-----|---------|----|----------|---------|-----|
| DP8 | 支脚 | (15.5) | (7.7) | 6.5 | (760.1) | 土製 | 外面ナギ 指頭板 | 下層 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出 土 位 置 | 備 考 |
|----|----|-------|-----|-----|-------|----|------------|---------|-----|
| M3 | 刀子 | (5.5) | 1.2 | 0.4 | (6.4) | 鉄製 | 基部の破片 刃部欠損 | 裏土中 | |

第9号住居跡（第33・34図）

位置 調査1区南西部のB2.15区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第20・23・24号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.88m、短軸3.57mほどの方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁高は8～38cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

壁 北西壁のはばは中央部に付設されているが搅乱されており、左袖部のみが残存していた。右袖部は地山面上に残る砂質粘土の範囲から推定した。推定される規模は、焚口部から煙道部先端まで約90cm、袖部幅は44cmほどで、壁外への掘り込みはほとんど見られない。火床部は北壁ラインの内側に位置し、床面とはほぼ同じ高さの面を使用しており、火床面はわずかに赤変している。煙道は、外傾して立ち上がる。

電土層辨別

| | | | |
|---------|------------------|-------|-----------------------------|
| 1 植物赤褐色 | 燒土粒子少量、ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子、砂粒、燒土粒子少量、燒土粒子・灰化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子微量 |

覆土 9層に分層される。第1～3層は、粘土ブロックを含み、不自然な堆積状況を示していることから人為堆積、第4～6層は自然堆積と考えられる。第7・8・9層は貼り床の土層である。

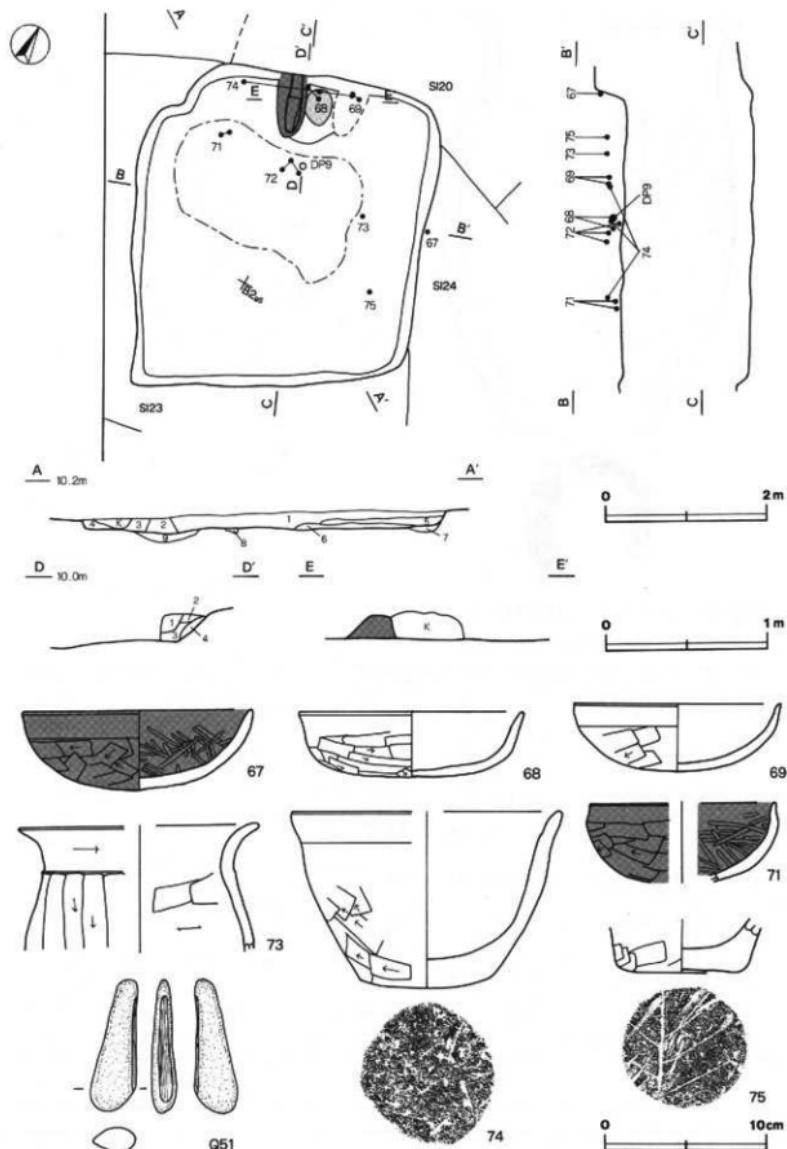
土層解説

| | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化物・
粘土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化物微量 |
| 2 黑褐色 | ロームブロック少量、燒土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黑褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |

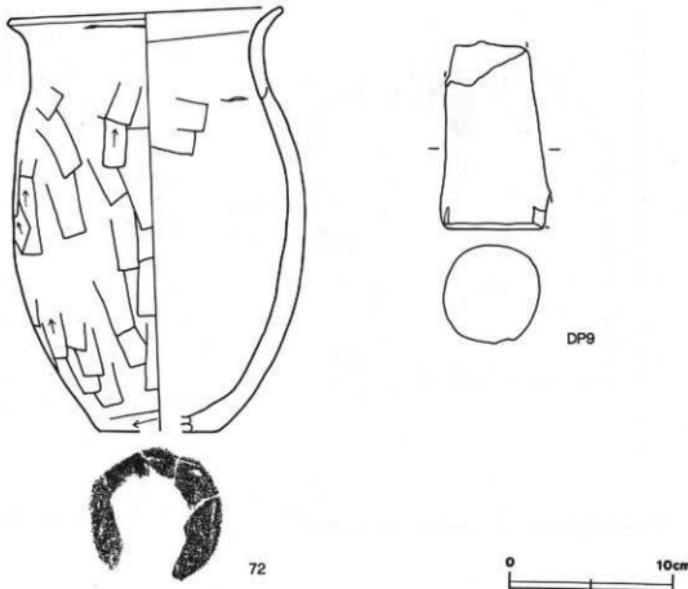
9 灰白色 粘土ブロック中量

遺物出土状況 土器部品556点（坏類59、壺・瓶類497）、須恵器片8点（坏類5、壺1、壺2）、土製品4（支脚）、石器1（磨石）のほか、混入と思われる土師質土器（内耳鉢）、礫3点が、おもに中央部北西寄りの覆土中から出土している。68・74は竈内、DP9、72の壺は焚口前の位置からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第33図 第9号住居跡・出土遺物実測図



第34図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表（第33・34図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|--------|-------|-------|------------|-------------|----|-------------------------------|--------|----------------------|
| 67 | 土師器 | 壺 | 14.3 | 4.9 | — | 長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 上層 | 95% PL21
内・外黒褐色光澤 |
| 68 | 土師器 | 壺 | 13.8 | 4.0 | — | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 竪内 | 50% PL21 |
| 69 | 土師器 | 壺 | 12.8 | 4.2 | — | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 中層 | 70% |
| 71 | 土師器 | 壺 | [11.4] | (4.9) | — | 長石・石英 | 黒褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 下層 | 30%
内・外黒褐色光澤 |
| 72 | 土師器 | 甕 | 16.6 | 26.3 | [7.3] | 長石・石英 | 明褐 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り | 中層～下層 | 70% PL22 |
| 73 | 土師器 | 甕 | [14.9] | (7.9) | — | 雲母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ | 中層 | 10% |
| 74 | 土師器 | 鉢 | [16.5] | 10.9 | 8.2 | 雲母・長石・石英 | にぶい黄褐
灰褐 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 竪内・左袖外 | 50% |
| 75 | 土師器 | 甕 | — | (3.3) | 7.7 | 雲母・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部下端ヘラナデ 底部木葉痕 | 中層 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|-------|-----|---------|----|------|------|----|
| DP9 | 支脚 | (11.4) | (6.7) | 6.1 | (443.2) | 土製 | 外面ナデ | 下層 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-----|-----|-----|------|---------|---------|------|----|
| Q51 | 唐石 | 8.3 | 2.8 | 1.5 | 36.9 | ホルンフェルス | 側面に磨痕あり | 覆土中 | |

第13号住居跡（第35図）

位置 調査1区西部のB 2 al区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第18号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 北西部が調査区域外のため、長軸は2.78m、短軸は2.35mほどが確認され、主軸方向はN-37°-Wの方角と推定される。壁高は、25cmほどで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。P 1付近に踏み固められた面が見られる。

ピット 1か所。深さ39cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

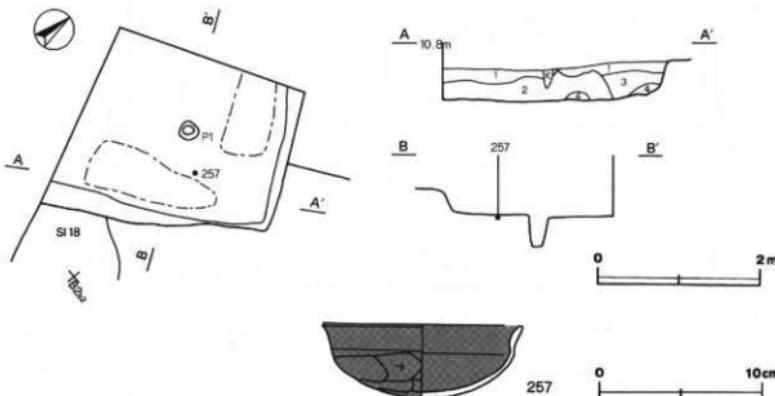
土層解説

| | | |
|---|---------|----------------|
| 1 | 板 砂 土 色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 | 暗 砂 土 色 | ロームブロック少量 |

| | | |
|---|-------|--------------------|
| 3 | 暗 土 色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 | 暗 土 色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片55点（坏9、甕46）、須恵器片1点（坏）のほか、繩文土器片1点、弥生土器片1点、陶器片1点、砾7点が、ほぼ全域から出土している。257は南東壁寄りの床面から逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第35図 第13号住居跡・出土遺物実測図

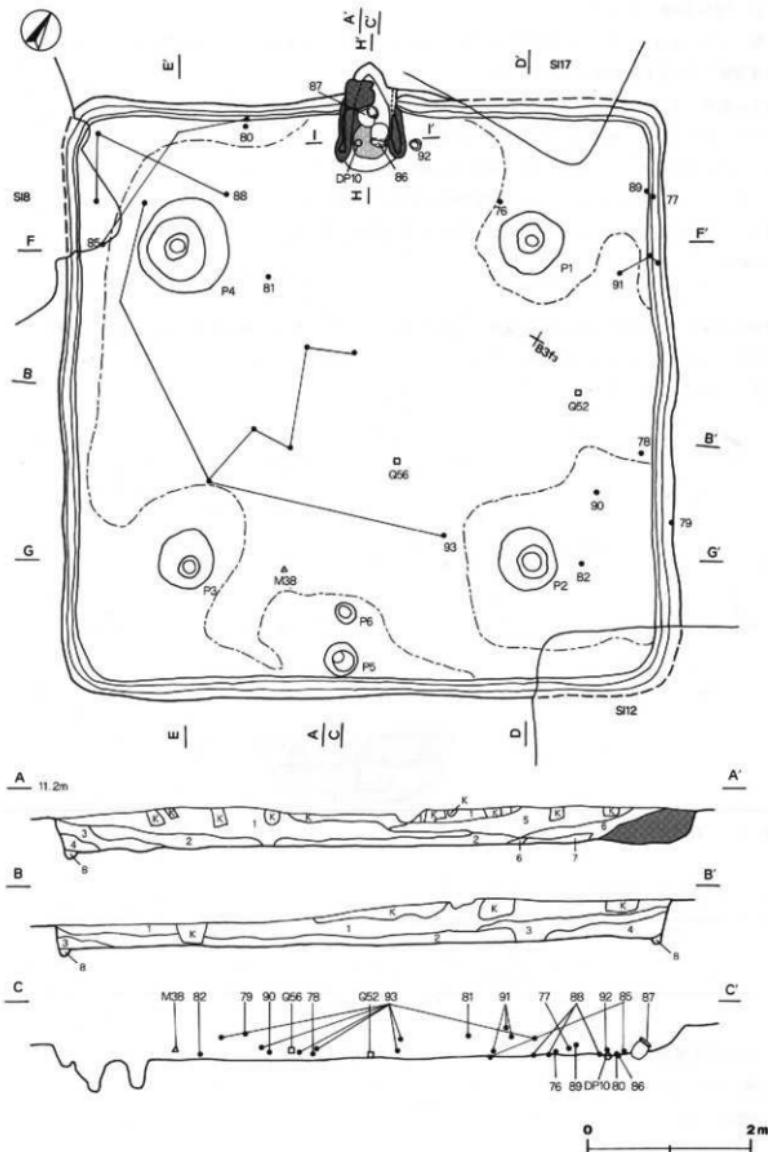
第13号住居跡出土遺物観察表（第35図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎 土 | 色 調 | 洗成 | 手 法 の 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|-----|-------|----|------|-----|----|------------|------|----|---------------|------|----------------------|
| 257 | 土 師 器 | 坏 | 12.1 | 4.6 | — | 雲母・長石・石英・輝 | にぶい程 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 床 面 | 85% PL21
内・外面黒色施色 |

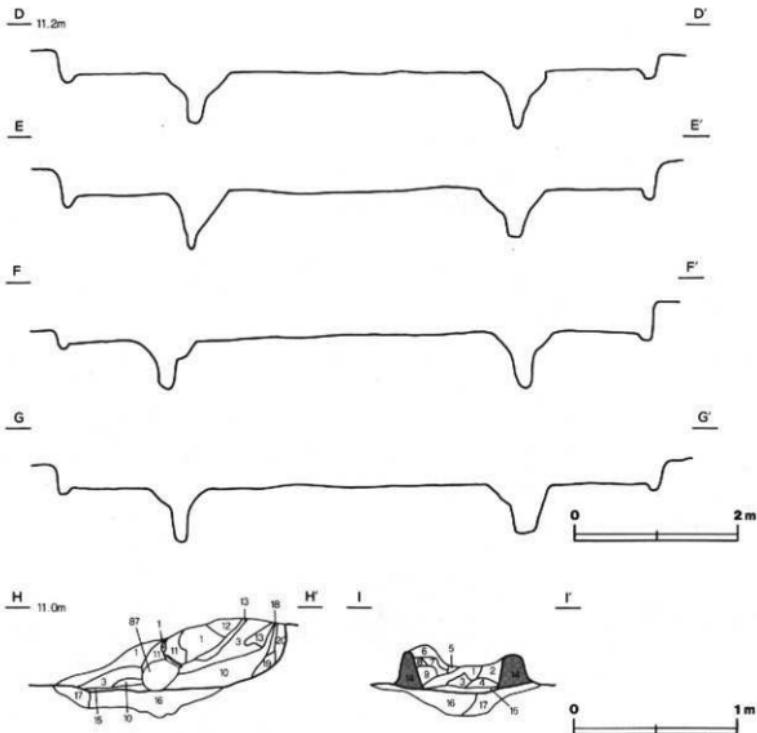
第16号住居跡（第36～40図）

位置 調査1区東部のB 3 f2区に位置し、低位段丘上のほぼ平坦部に立地している。

重複関係 第8・12・17号住居にそれぞれ掘り込まれている。



第36図 第16号住居跡実測図(1)



第37図 第16号住居跡実測図(2)

規模と形状 長軸7.60m、短軸7.43mほどの方形で、主軸方向はN-29°-Wである。壁高は28~30cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部から各主柱穴にかけて踏み固められている。また、各壁下には断面U字形の壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで134cm、袖部幅は82cm、壁外への掘り込みは42cmほどである。天井部は崩落しており、土層断面図の第1・3・13層が崩落した天井の一部である。土層断面図の第11層は、黒色土が多く、この部分から竈の完形品が出土していることから掛け口と考えられる。袖部は、黒褐色土で掘り方を床面とほぼ同じ高さまで埋め戻し、その上部に砂質粘土で構築している。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、袖部と同様に黒褐色土で掘り方を埋め戻した面を使用しており、火床面は赤変硬化している。また、煙道は火床部から外傾して急な角度で立ち上がっている。

竈土層解説

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|---------------------------|
| 1 暗 色 | 砂粒・粘土粒子多量、ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 4 黒 色 | 燒土ブロック多量、炭化粒子・砂粒・粘土ブロック微量 |
| 2 暗 褐 色 | 燒土ブロック少量、ローム粒子微量 | 5 黑 色 | 砂粒・粘土粒子微量 |
| 3 赤 褐 色 | 燒土ブロック多量 | 6 灰 褐 色 | 燒土ブロック・砂粒・粘土ブロック微量 |
| | | 7 灰 色 | 燒土ブロック中量、燒土ブロック微量、砂粒微量 |

| | | | | | |
|----|-------|------------------|----|------|-----------|
| 8 | にぶい褐色 | 砂粒・粘土粒子多量 | 15 | 暗赤褐色 | 焼上ブロック中量 |
| 9 | 赤褐色 | 焼土粒子多量 | 16 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 10 | 細暗赤褐色 | 焼土粒子・灰少量 | 17 | 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 11 | 黒褐色 | 粘土ブロック少量、砂粒微量 | 18 | 暗赤褐色 | 焼上ブロック少量 |
| 12 | 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・砂粒少量 | 19 | 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 13 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 | 20 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 14 | にぶい褐色 | 粘土ブロック多量、砂粒中量 | | | |

ピット 6か所。P 1～P 4は、深さ59～67cmほどで、配置から主柱穴、P 5は深さ40cm、P 6は深さ35cmほどで、いずれも配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

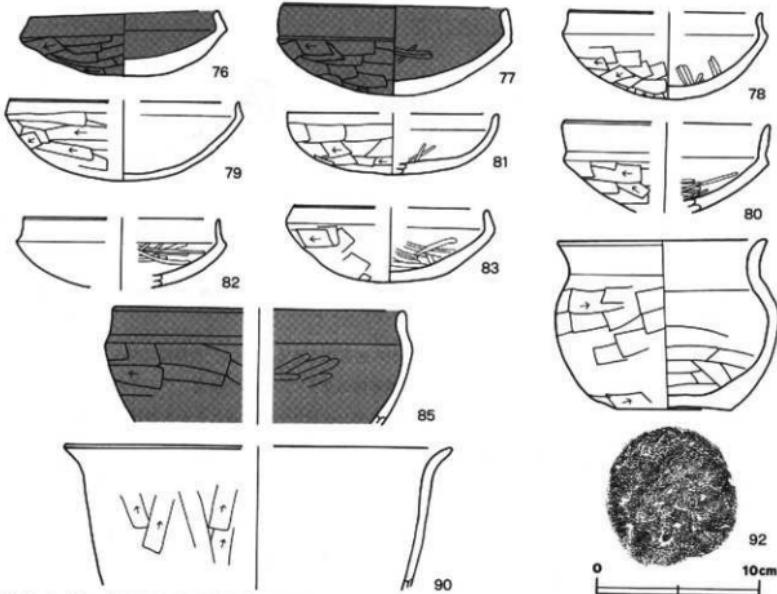
覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土解説

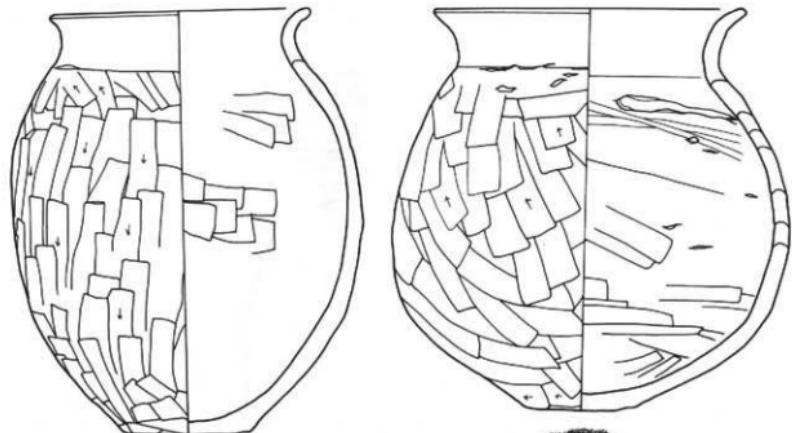
| | | | | | |
|---|------|-----------------------|---|------|-----------------------------|
| 1 | 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 | 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 | 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 | 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 | 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | | | |
| 5 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片1,306点（壺類184、高坏4、壺類1,117、手捏土器1）、須恵器片42点（壺類14、壺28）、土製品12点（支脚片）、石器5点（磨石1、砥石2、浮子1）、石鏃1）、鐵器6点（鎌1、鎌1、不明4）のほか、混入したと思われる繩文土器片46点（深鉢）、弥生土器片11点（広口壺）、陶器片2点（碗類）、疋22点が全域から散在して出土している。76・77は北コーナー付近の覆土下層から、78は東壁寄りの覆土下層から、79は覆土上層からそれぞれ正位や斜位の状態で出土している。窓内からは86-DP10が横位、87が斜位で出土し、竪右袖の外側からは92が正位で出土している。

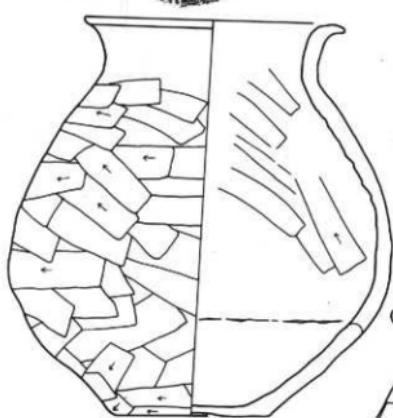
所見 時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



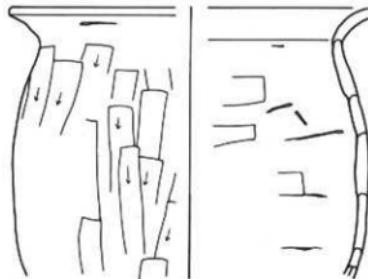
第38図 第16号住居跡出土遺物実測図(1)



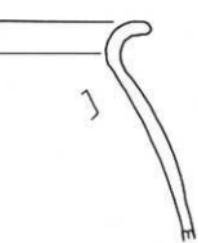
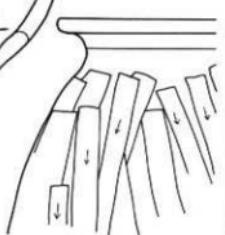
86



87

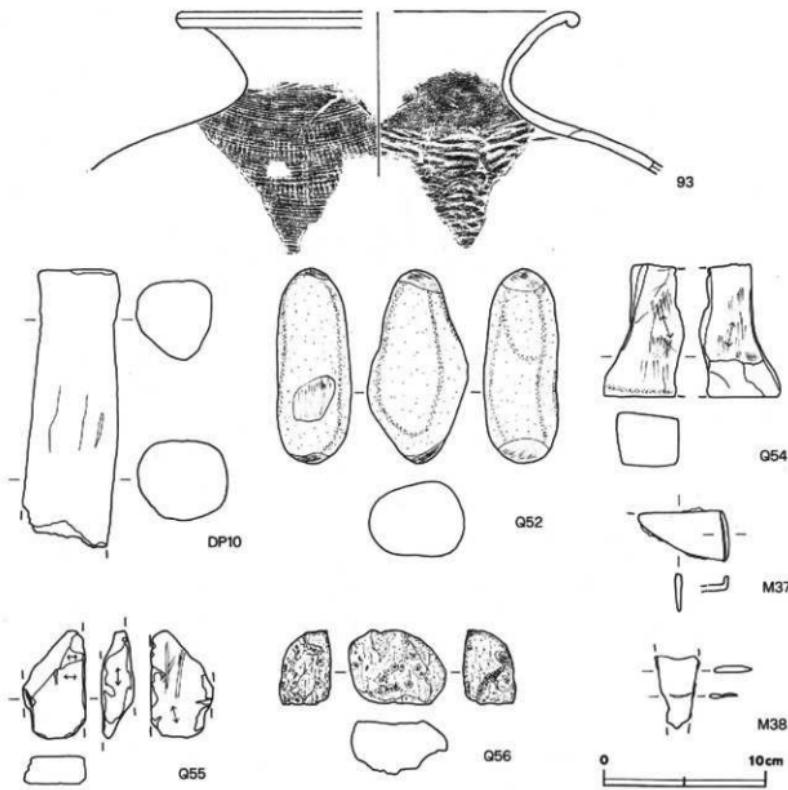


91



0 10cm

第39図 第16号住居跡出土遺物実測図(2)



第40図 第16号住居跡出土遺物実測図(3)

第16号住居跡出土遺物観察表（第38～40回）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|--------|-------|----|------------------|-------------|----|-----------------------------|------|-----------------------|
| 76 | 土師器 | 环 | 11.5 | 4.2 | — | 長石・石英
赤色粒子 | 黒褐色 | 普通 | 体部外面へラ削り後へラ磨き 内面ナデ
後へラ磨き | 下層 | 100% PL22
内・外表面色處理 |
| 77 | 土師器 | 环 | 13.7 | 5.5 | — | 長石・石英
赤色粒子 | 赤灰 | 普通 | 体部外面へラ削り後へラ磨き 内面ナデ
後へラ磨き | 下層 | 80% PL22
内・外表面色處理 |
| 78 | 土師器 | 环 | [11.9] | 5.4 | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | 浅黄褐色 | 普通 | 体部外面へラ削り 内面へラ磨き | 下層 | 70% PL22 |
| 79 | 土師器 | 环 | [14.2] | 4.9 | — | 長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面へラ削り 内面ナデ | 上層 | 70% PL21 |
| 80 | 土師器 | 环 | [12.6] | (4.5) | — | 長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面へラ削り 内面へラ磨き | 床面 | 40% |
| 81 | 土師器 | 环 | [13.0] | 3.7 | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | 黒褐色
にぶい橙 | 普通 | 体部外面へラ削り後へラ磨き 内面ナデ
後へラ磨き | 上層 | 40% |
| 82 | 土師器 | 环 | [12.0] | (4.3) | — | 長石・石英
赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部外面摩滅 内面ナデ後へラ磨き | 下層 | 40% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 高さ | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|--------|--------|-----|------------|------|----|---------------------------------------|-------|--------------|
| 83 | 土師器 | 壺 | [119] | 4.6 | — | 雲母・長石・石英 | 黒褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 覆土中 | 40% |
| 85 | 土師器 | 壺 | [178] | (7.0) | — | 長石・石英 | に赤い陶 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 下 罂 | 10% 内・外側黒色施釉 |
| 86 | 土師器 | 壺 | 19.0 | 25.8 | 6.8 | 長石・石英・赤色鉱物 | に赤い黄 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外商ヘラ削り 内面ヘラナデ 内・外面輪積痕 底部ヘラ削り | 竪 内 | 100% PL21 |
| 87 | 土師器 | 壺 | 15.0 | 24.8 | 9.4 | 雲母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部内・外商ヘラ削り 内面ヘラ削り | 竪 内 | 100% PL21 |
| 88 | 土師器 | 壺 | 15.7 | 26.4 | 7.8 | 雲母・長石・石英 | 黒褐 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外商ヘラ削り 内面ヘラナデ 外面輪積痕 底部木素痕 | 床 面 | 65% PL22 |
| 89 | 土師器 | 壺 | [21.6] | (13.3) | — | 長石・石英 | に赤い陶 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外商ヘラ削り 内面ヘラナデ | 下 罂 | 10% |
| 90 | 土師器 | 壺 | [23.8] | (8.8) | — | 長石・石英 | に赤い陶 | 普通 | 体部外商ヘラ削り 内面ナデ | 下 罂 | 5% |
| 91 | 土師器 | 壺 | [22.1] | (16.5) | — | 雲母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外商ヘラ削り 内面ヘラナデ 内・外面輪積痕 | 上層～下層 | 5% |
| 92 | 土師器 | 小形壺 | 13.1 | 10.5 | 7.8 | 長石・石英 | 明褐色 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外商ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り | 下 罂 | 100% PL21 |
| 93 | 箆 惠器 | 壺 | [24.2] | (10.2) | — | 長石・石英 | 灰 | 良好 | 体部外商横位の平行叩き 内面輪積痕 | 中層～下層 | 5% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-------|-----|---------|---------|---------------|------|----|
| DP10 | 支脚 | (15.3) | 5.6 | 5.0 | (589.4) | 上製 | 外面ナデ | 竪 内 | |
| Q52 | 唐石 | 12.0 | 5.2 | 4.6 | 417.8 | 砂岩 | 両端部に磨痕あり 磨石転用 | 下 罂 | |
| Q54 | 瓦石 | 8.2 | (4.3) | 3.2 | (171.7) | ホルンフェルス | 底面2面 | 覆土中 | |
| Q55 | 瓦石 | (6.7) | 3.9 | 2.0 | (53.1) | 凝灰岩 | 底面3面 | 覆土中 | |
| Q56 | 浮子 | 4.6 | 6.1 | 3.3 | 20.9 | 軽石 | 抉部あり | 中 罂 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|--------|----|------------|------|------|
| M37 | 錠 | (3.4) | 5.7 | 0.4 | (14.8) | 鉄製 | 基部は全体を折り返す | 覆土中 | PL38 |
| M38 | 錠 | (4.5) | 2.8 | 0.4 | (6.5) | 鉄製 | 雁足式* 基部欠損 | 中 罂 | PL38 |

第17号住居跡（第41・42図）

位置 調査1区東部のB3d2区に位置し、低位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第16・25号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.70m、短軸4.50mほどの方形で、主軸方向はN-92°-Eである。壁高は10~35cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼り床で、中央部から龜にかけて踏み固められている。また、各壁下には断面U字形の壁溝が巡っている。掘り方は、東部はほぼ平面的に床が貼られ、出入り口付近が特に深く掘りくぼめられ、上をブロック状に入れ込んで、床が作られている。

壁 東壁のやや南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで85cm、袖部幅は122cm、壁外への掘り込みは20cmほどである。袖部は、住居の掘り方を埋め戻して床を作り、その上部に砂質粘土で構築されている。火床部は、東壁ラインの内側に位置し、袖部と同様に住居の床の上に粘土を貼った面を使用しており、

火床面は赤変している。また、煙道にも粘土が貼られており、火床部から外傾して立ち上がる。

竪土層解説

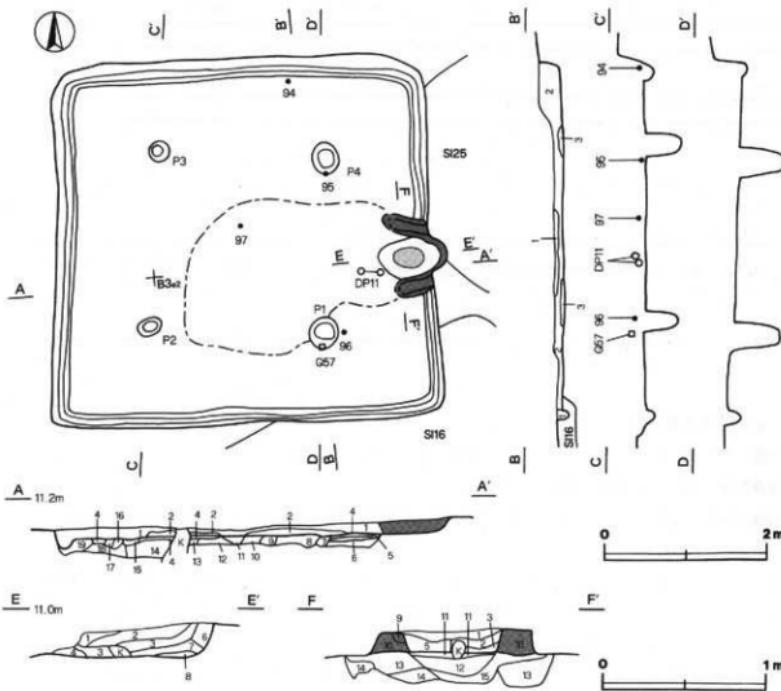
| | | | | | |
|---|---------|--------------------------|----|-------|-------------|
| 1 | 暗 茶 色 | ロームブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量 | 9 | 暗 茶 色 | 焼土粒子多量 |
| 2 | 暗 赤 茶 色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 10 | にぶい褐色 | 粘土粒子多量、砂粒中量 |
| 3 | 褐色赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 11 | 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 4 | 褐色 茶 色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 | 12 | 黒 茶 色 | ローム粒子微量 |
| 5 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂粒少量、ロームブロック微量 | 13 | 暗 茶 色 | ロームブロック微量 |
| 6 | 褐色 | 砂粒多量、粘土粒子少量 | 14 | 暗 茶 色 | ロームブロック微量 |
| 7 | 褐色 | 砂粒多量、粘土粒子少量 | 15 | 暗 茶 色 | ローム粒子少量 |
| 8 | 黒 茶 色 | ローム粒子微量 | | | |

ピット A 4か所。P 1～P 4は、深さ41～62cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。

覆土 19層に分層され、第4～19層は、掘り方の埋土である。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

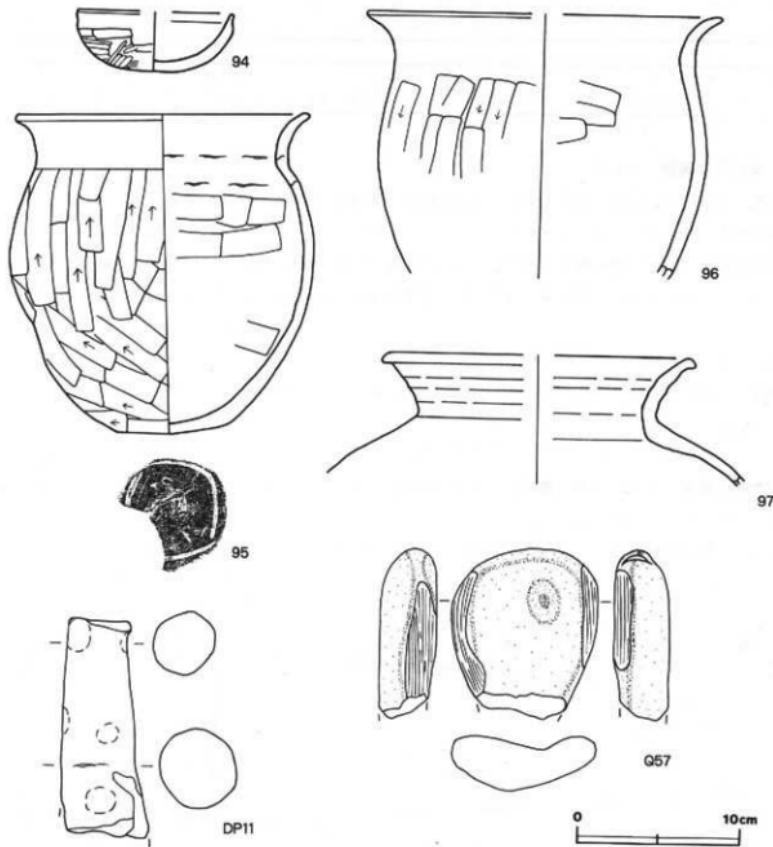
| | | | | | |
|----|--------|----------------|----|-------|-----------|
| 1 | 黒 茶 色 | ローム粒子微量 | 11 | 黒 茶 色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 極暗 茶 色 | ローム粒子少量 | 12 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 | 暗 茶 色 | ロームブロック少量 | 13 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 黒 茶 色 | ロームブロック少量 | 14 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 | 極暗 褐色 | ロームブロック中量 | 15 | 暗 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 | 暗 褐色 | ローム粒子中量 | 16 | 暗 褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 | 暗 褐色 | ローム粒子中量（しまり弱い） | 17 | 黒 褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 | 暗 褐色 | ロームブロック微量 | 18 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 9 | 暗 褐色 | ローム粒子少量 | 19 | 黒 褐色 | ロームブロック中量 |
| 10 | 暗 褐色 | ロームブロック中量 | | | |



第41図 第17号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片41点（壺類7、甕類34）、須恵器片2点（甕）、土製品1点（支脚）、石器2点（磨石）のほかに、流れ込みと思われる縄文土器片1点（深鉢）、繩4点が中央部から東寄りの覆土中に多く出土している。94は北壁際の覆土下層、95はP4南側の床面から斜位の状態でそれぞれ出土している。また、DP11は、甕の焚口部の外側から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。



第42図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第42図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|-------|------|-----|----------|------|----|-----------------------------------|------|----------|
| 94 | 土師器 | 壺 | [9.6] | 3.7 | — | 長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ナデ | 下層 | 50% |
| 95 | 土師器 | 甕 | 17.7 | 20.0 | 6.9 | 雪母・長石・石英 | にぶい黄 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕 底部ヘラ削り | 床面 | 90% PL22 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎上 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|--------|--------|----|------------|-----|----|-----------------|------|-----|
| 96 | 土師器 | 甕 | [21.8] | (16.0) | — | 雲母・長石・石英・輝 | 黒褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ | 下層 | 10% |
| 97 | 埴輪器 | 甕 | [18.8] | (7.8) | — | 雲母・長石・赤色粒子 | 灰黄褐 | 普通 | 口辺部内・外面横ナデ | 下層 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-------|-----|---------|----|----------|------|----|
| DP11 | 支脚 | (13.5) | (5.6) | 5.0 | (352.1) | 土製 | 外面ナデ 指頭削 | 壁前下層 | |

| 番号 | 岩種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重 量 | 材 質 | 特 徹 | 出 土 位 置 | 備 考 |
|-----|----|--------|-----|-----|---------|-----|------------------|---------|------|
| G57 | 軽石 | (10.5) | 9.0 | 3.5 | (433.8) | 砂岩 | 両側面に磨痕 中央部に凹み部あり | 下層 | PL37 |

第18号住居跡（第43図）

位置 調査1区西部のB2b2区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第13号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に延び、さらに北部が第13号住居に掘り込まれているため、長軸は6.1m、短軸は2.1mほどが確認され、主軸方向N-42°-Wで長方形と推定される。壁高は21cmほどで、外傾して立ち上がりっている。

床 ほぼ平坦である。

覆土 2層に分層され、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

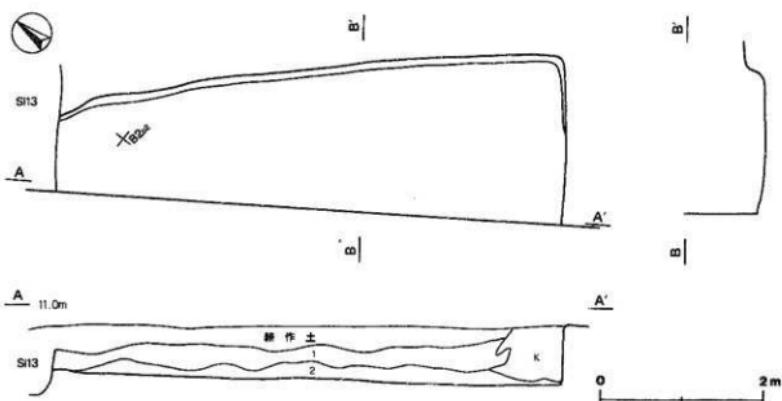
土層解説

1 砂褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 黄褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点（甕類2）、罐4点が出土している。土師器片は、南壁寄りから出土しているが、細片であり図示できるものはない。

所見 時期は明確ではないが、古墳時代後期の第13号住居に掘り込まれているため、それ以前と考えられる。

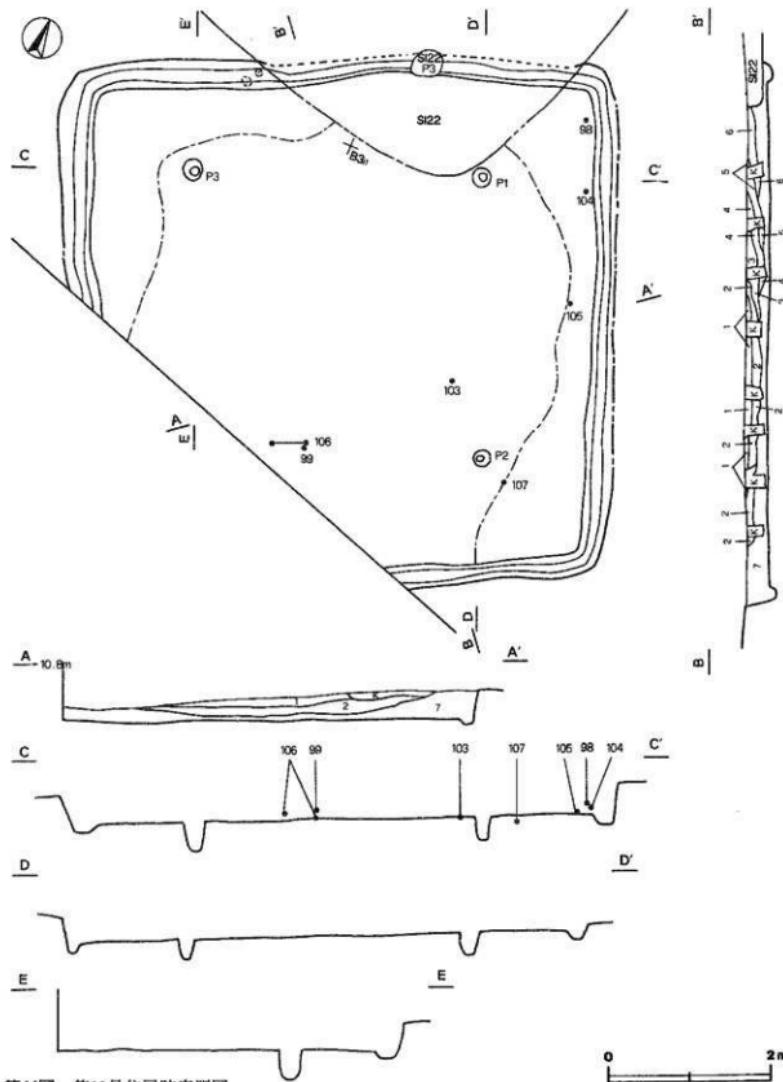


第43図 第18号住居跡実測図

第19号住居跡（第44～46図）

位置 調査1区南東部のB311区に位置し、低位段丘の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第22号住居に掘り込まれている。



第44図 第19号住居跡実測図

規模と形状 南西部が調査区域外に延び、北部を住居跡に掘り込まれているが、長軸6.72m、短軸6.65mほどの方形で、主軸方向はN-23°-Wと推定される。壁高は30~37cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。また、各壁下には断面U字形の壁溝が巡っている。

竈 出土土器から竈が使用された時代の住居跡と考えられるが、北壁先部が第22号住居に壊されており、残存していない。

ピット 3か所。P1~P3は、深さ26~38cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。

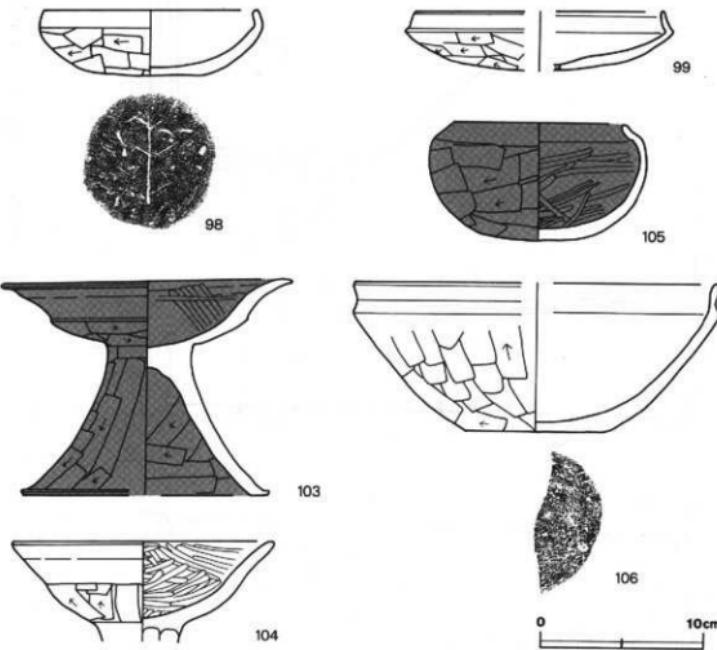
覆土 7層に分層され、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

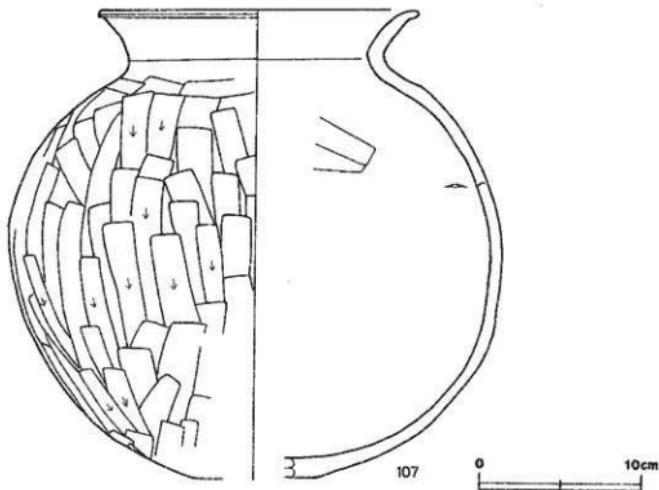
| | | | |
|--------|----------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片318点(坏88、高坏4、鉢2、甕222、手捏土器2)、須恵器片7点(高台付坏1、甕6)、土製品1点(支脚)のほかに、流れ込みと思われる繩文土器片10点(深鉢)、弥生土器片7点(広口壺)、陶器片1点(不明)、繩30点がほぼ全域から出土している。98は逆位で北東コーナー部の下層、103は横位で中央南東寄りの床面、104は正位で北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。また、105は東壁際下層から逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第45図 第19号住居跡出土遺物実測図(1)



第46図 第19号住居跡出土遺物実測図(2)

第19号住居跡出土遺物観察表 (第45・46図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 高さ | 底形 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 | |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|---------------|------------|-----|--|---------------------|---------------------|----------|
| 98 | 上 | 師 瓶 | 环 | 13.1 | 4.0 | 一 | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナダ 底部木柵痕 | 下層 | 68% PL22 |
| 99 | 上 | 師 瓶 | 环 | [15.2] | (3.6) | --- | 長石・石英 | 浅黃褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナダ | 下層 | 40% |
| 103 | 土 師 瓶 | 高环 | 17.6 | 13.3 | [15.0] | 長石 | 黑 | 普通 | 环部外面ヘラ削り 我ヘラ磨き 内面ヘラ磨き 脚部から船部外面・脚部内面ヘラ削り後ヘラ磨き | 床面 | 70% PL22
内・外墨色混用 | |
| 104 | 土 師 瓶 | 高环 | 15.9 | (6.2) | 一 | 長石・石英
赤色斑子 | 浅黃 | 普通 | 环体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラ磨き | 下層 | 50% | |
| 105 | 土 師 瓶 | 瓶 | 10.5 | 7.3 | — | 雲母・長石 | にぼい黄
石英 | 普通 | 体部・底部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き | 下層 | 93%
内・外墨色混用 | |
| 106 | 土 師 瓶 | 瓶 | [22.6] | 9.1 | 8.6 | 長石・石英 | 黒 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナダ 底部ヘラ削り | F層～床面 | 40% | |
| 107 | 土 師 瓶 | 瓶 | 19.5 | 29.0 | [7.4] | 長石・石英 | にぼい橙 | 普通 | 口沿部横ナダ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ 粘積痕 | 床面 | 70% PL23 | |

第21号住居跡 (第47～50図)

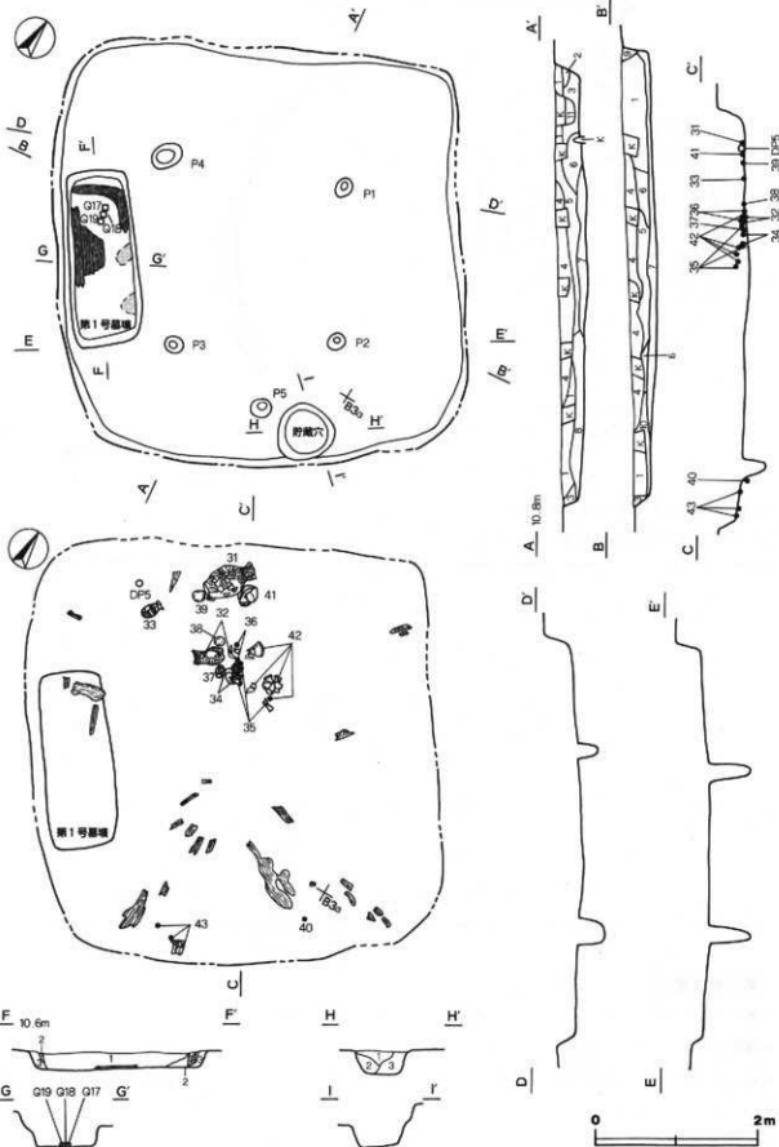
位置 調査区東部のB 3 h2区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 床面を第1号墓塚に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.17m、短軸4.97mの隅丸方形で、主軸方向はN-32°Wである。壁高は10～32cmほどで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。踏み固められた部分は確認できなかった。

炉 離認できなかった。



第47図 第21号住居跡・第1号墓塚実測図

ピット 5か所。P 1～P 4は、深さは22～50cmで、配置から主柱穴と考えられ、P 5は深さ30cmほどであり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 平面形は椎円形を呈し、南壁際に付設されている。深さは30cmほどで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化材少量

2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

覆土 11層に分層される。ブロック状に堆積している層が見られることや、ロームブロック・焼土・炭化材が各層に見られることなどから人為的堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 烧土ブロック微量

7 黒褐色 ロームブロック中量、炭化材少量

2 黒褐色 ローム粒子微量

8 墓赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量

3 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

9 墓褐色 ロームブロック微量

4 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

10 墓赤褐色 焼土粒子・炭化材少量、ロームブロック微量

5 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量

11 墓褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

6 黑褐色 炭化物少量、ロームブロック・燒土粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片33点(広口壺)、土師器片58点(高杯3、甕55)、土製品1点(球状土錐)のほかに、混入と思われる绳文土器片5点(深鉢)、罐5点が出土している。主に中央部から北西壁にかけての覆土下層及び床面から、ほぼ完形で遺物が集中して出土している。また、下層から床面にかけて炭化材が散在している。北壁際からは31・41が横位で、39が正位で、中央部北西寄りからは、32・34・35・36・37・38・42がそれぞれまとまって出土している。40は貯蔵穴、43は南コーナー付近の壁際からそれぞれ出土している。

所見 弥生土器と土師器の共伴が見られることから、弥生時代末から古墳時代初頭にかけて生活が営まれた住居であると推定される。また、炭化材の出土から本跡廃絶時に焼失した可能性があり、住居が廃絶した時期は、古墳時代初頭と考えられる。

第1号墓塚(第47・51図)

位置 第21号住居内西部

重複関係 第21号住居の床面を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.18m、短軸0.82mの長方形で、深さ30cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層に分層される。第2層は、炭化材を含む層、第3層は表込め部であり、人為的に埋め戻されたと考えられる。

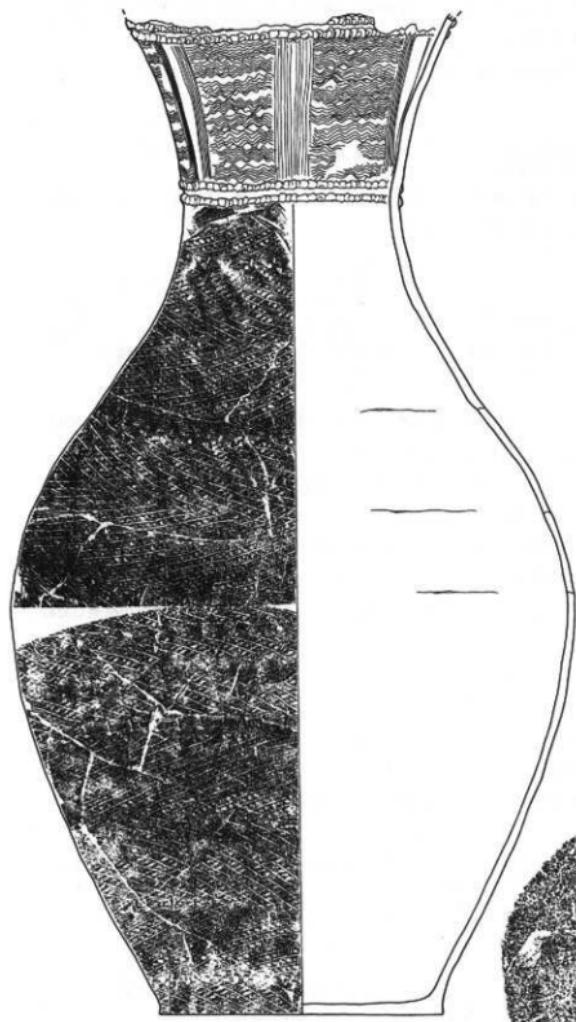
土層解説

1 墓褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化材少量

2 暗褐色 炭化材中量、ローム粒子少量

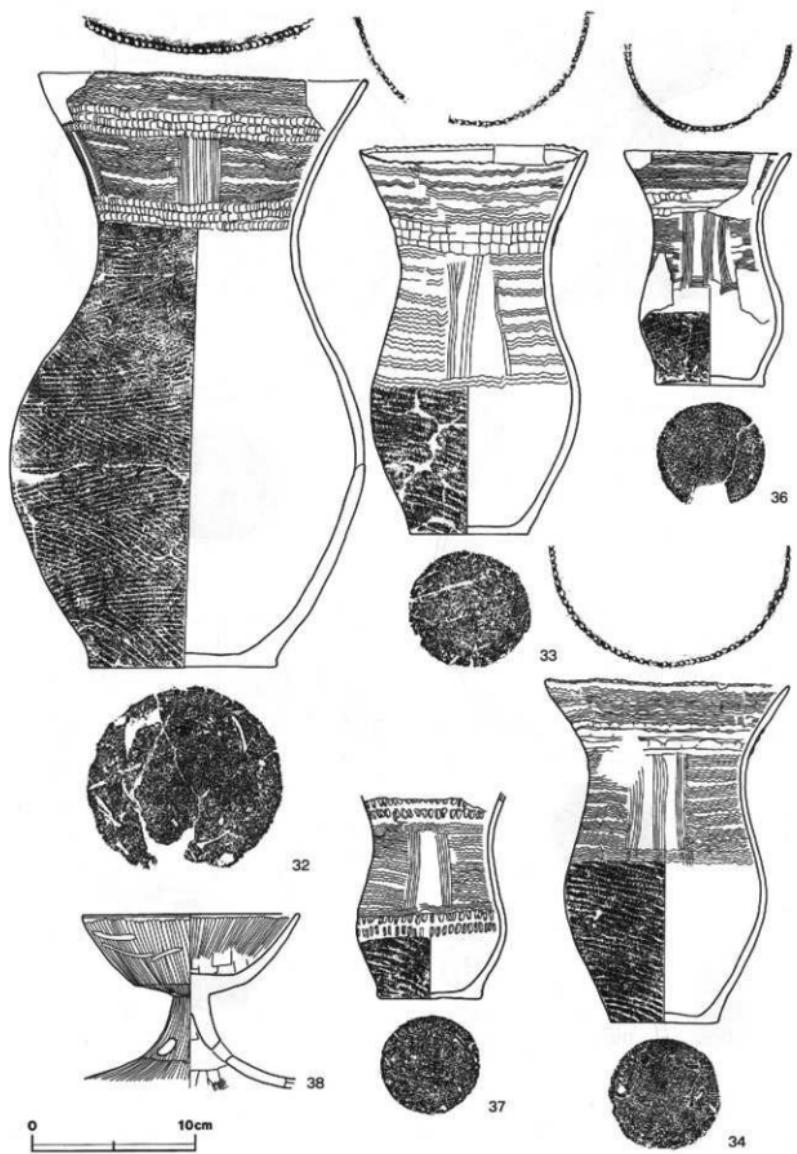
遺物出土状況 一部ではあるが、西・北西・東壁面に板状の炭化材が確認され、下層からも板状の炭化材が出土している。北西部底面からは、ガラス小玉31点と琥珀玉1点が出土している。

所見 板状の炭化材は、出土状況から木棺が残存したものと推定され、ガラス小玉の出土とあわせて、本跡は墓塚と考えられる。第21号住居の確認前や土層観察からは、第21号住居を上面から掘り込んでいる様相は見られないことから、第21号住居の廃絶の時期と埋葬時期の時間差はあまりないと考えられ、古墳時代初頭のこの集落の有力者の墓と想定される。

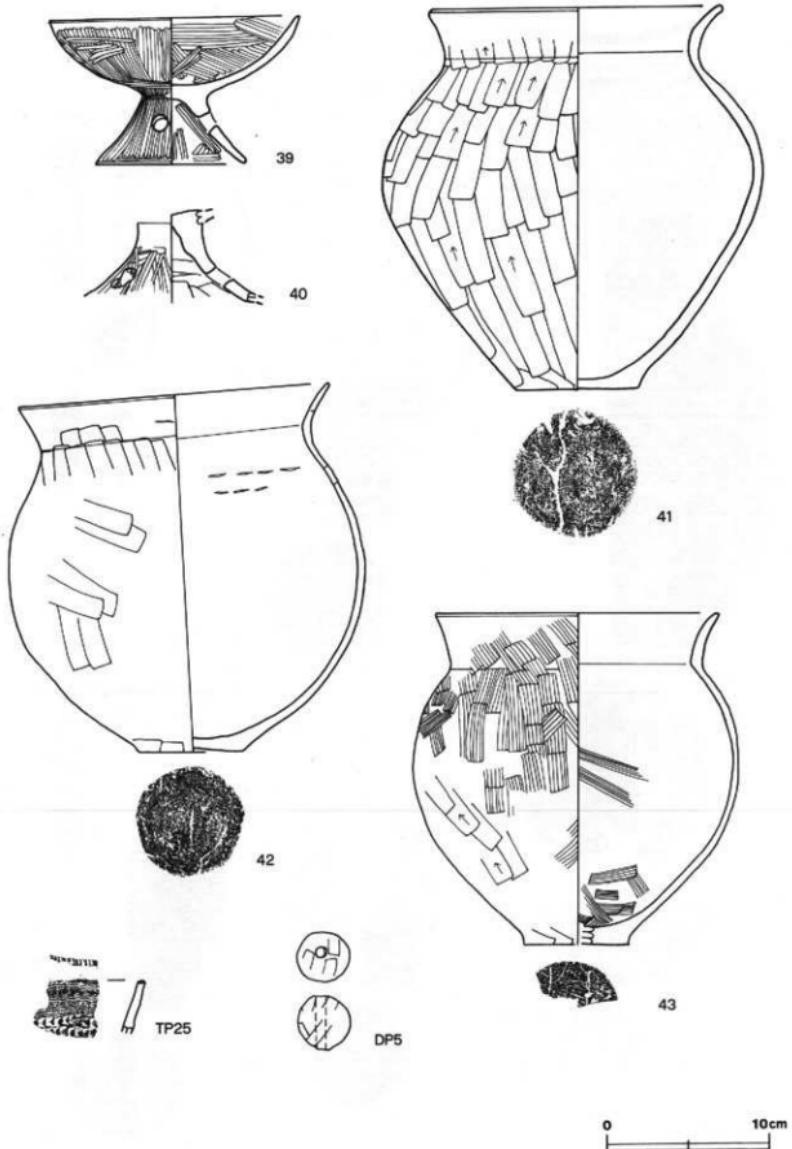


0 10cm

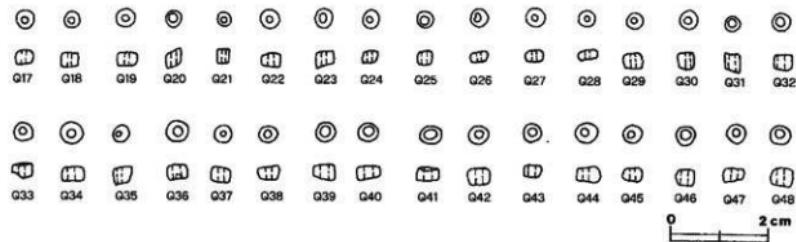
第48図 第21号住居跡出土遺物実測図(1)



第49図 第21号住居跡出土遺物実測図(2)



第50図 第21号住居跡出土遺物実測図(3)



第51図 第1号墓壙出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表 (第48~50図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 軸 | 上 | 色 | 焼成 | 文様及び手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|--------|--------|-------|---------------|-----------|----|--|-----------|-------------|----|
| 31 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (61.6) | 17.4 | 雲母・長石・石英 | にぶい黄
緑 | 普通 | 頭部上・下位に押圧のある2条の隆脊 脈部
彫痕状工具(5本)による縦区画により6分
割 区画内に波状文 頭部附加条二種(附加
1条)の縞文 羽状構成 底部砂目痕 | 床面 | 80%
PL17 | |
| 32 | 弥生土器 | 広口壺 | [19.8] | 36.8 | 21.5 | 長石・石英
赤色粒子 | にぶい赤
緑 | 普通 | 口唇部彫痕状工具による刺み 口辺部彫
痕工具(5本)による波状文 縞文上位押圧上・下位に3条の帶
状刻文突起 彫痕部彫痕状工具による縦区画により
5分割 区画内に波状文 脈部附加条二種(附加
1条)の縞文 羽状構成 底部布目痕 | 下層 | 75%
PL17 | |
| 33 | 弥生土器 | 広口壺 | 13.9 | 24.0 | 7.2 | 雲母・長石・
長石 | にぶい黄
緑 | 普通 | 口唇部彫痕状工具による刺み 突起上・下位に2条の帶
状刻文突起 彫痕部彫痕状工具による縦区画に2分割 区画内に波状文 脈部附加
条二種(附加1条)の縞文 底部布目痕 | 床面 | 90%
PL18 | |
| 34 | 弥生土器 | 広口壺 | 15.0 | 21.1 | 6.6 | 雲母・長石・
石英 | 灰褐 | 普通 | 口唇部彫痕状工具による刺み 口辺部彫
痕工具(5本)による波状文 縞文上位輕い押圧
のある3条の隆脊 脈部彫痕工具による縦区画
により3分割 区画内に波状文 脈部附加
条二種(附加1条)の縞文 底部布目痕 | 下層 | 90%
PL18 | |
| 35 | 弥生土器 | 広口壺 | 11.9 | 22.6 | 7.7 | 雲母・長石・
石英 | 灰褐 | 普通 | 口唇部彫痕状工具による刺み 口辺部彫
痕工具(5本)による波状文 縞文上位に1条 下位に
2条の隆脊 脉部は彫痕工具による縦区画
により4分割 区画内に波状文 縞文と脈部の
境に下向きの迷路文 彫痕附加条二種(附加
1条)の縞文 羽状構成 底部砂目痕 | 下層 | 65%
PL19 | |
| 36 | 弥生土器 | 広口壺 | 10.3 | 14.3 | 6.8 | 雲母・長石・
石英 | 灰褐 | 普通 | 口唇部彫痕状工具による押圧 口辺部彫
痕工具(6本)による波状文 縞文上位押圧のある3
条の隆脊 脉部は彫痕工具による縦区画
により3分割 区画内に波状文 縞文と脈部の
境に下向きの迷路文 彫痕附加条二種(附加
1条)の縞文 底部砂目痕 | 下層 | 60%
PL18 | |
| 37 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (12.7) | 6.4 | 長石・石英 | 黒褐 | 普通 | 頭部上・下位に2条の刺突文 脈部彫痕状工
具(5本)による縦区画により3分割 区画
内に波状文 脈部附加条二種(附加1条)の
縞文 黑褐 底部布目痕 | 下層 | 70%
PL18 | |
| 38 | 土器 | 高環 | 13.2 | (10.7) | — | 雲母・長石・
石英 | にぶい黄
緑 | 普通 | 縫部内外・外側ヘラ磨き 脈部内面ヘラ磨
き縫部内面ヘラナダ 深3か所 内面深 | 床面 | 90%
PL19 | |
| 39 | 土器 | 高環 | 15.3 | 9.1 | 9.2 | 雲母・石英・
長石 | にぶい黄
緑 | 普通 | 縫部内外・外側ヘラ磨き 脈部内・外側ヘラ磨
き 深3か所 | 床面 | 95%
PL19 | |
| 40 | 土器 | 高環 | — | (5.7) | — | 長石・石英 | にぶい黄
緑 | 普通 | 縫部内外・外側ヘラ磨き 脈部内面ナダ 深1か所
末穿孔1か所 | 貯蔵穴 | 40% | |
| 41 | 土器 | 壺 | 17.9 | 23.8 | 7.4 | 長石・石英 | にぶい黄
緑 | 普通 | 縫部外側ヘラ削り 内面ナダ 底部ヘラナダ | 床面 | 90% PL19 | |
| 42 | 土器 | 壺 | 19.2 | 22.5 | 6.6 | 長石・石英 | にぶい黄
緑 | 普通 | 縫部内・外側ヘラナダ 底部ヘラナダ | 下層 | 65% PL19 | |
| 43 | 土器 | 壺 | 17.4 | 21.3 | [6.4] | 長石・石英 | にぶい赤
緑 | 普通 | 口縁部・脇部内・外側ハケ日形凹 底部下端
ヘラ削り | 床面 | 45%
PL19 | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|----|-----|----|----------|------|----|---|------|----|
| TP25 | 赤生土器 | 広口歩 | — | 3.2 | — | 雲母・長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 口辺部窓状工具による縫み 口辺部窓状工具(4本)による波状文 梯状工具による刺突文 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ(径) | 幅(孔径) | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-------|-------|-----|------|----|--------|------|------|
| DP5 | 珠状上縫 | 3.3 | 0.6 | 3.3 | 30.6 | 上製 | ナデ平面穿孔 | 下層 | PL37 |

第1号墓墳出土遺物観察表（第51図）

| 番号 | 器種 | 長さ(径) | 幅(孔径) | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|---------|------|-------|-------|------|-----|----------------|----------------|-------|-----|
| Q17 小 玉 | 0.34 | 0.11 | 0.27 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 北西部底面 | PL1 |
| Q18 小 玉 | 0.35 | 0.11 | 0.29 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 北西部底面 | PL1 |
| Q19 小 玉 | 0.42 | 0.11 | 0.29 | 0.06 | ガラス | 透明度のないコバルトブルー | 側面は円筒形 | 北西部底面 | PL1 |
| Q20 小 玉 | 0.36 | 0.13 | 0.31 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q21 小 玉 | 0.29 | 0.11 | 0.29 | 0.04 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q22 小 玉 | 0.30 | 0.11 | 0.24 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q23 小 玉 | 0.42 | 0.11 | 0.27 | 0.06 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q24 小 玉 | 0.35 | 0.08 | 0.27 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q25 小 玉 | 0.37 | 0.11 | 0.28 | 0.04 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q26 小 玉 | 0.36 | 0.12 | 0.23 | 0.04 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q27 小 玉 | 0.42 | 0.07 | 0.23 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q28 小 玉 | 0.37 | 0.06 | 0.23 | 0.04 | ガラス | コバルトブルー | 側面はわずかに膨らむ | 覆土中 | PL1 |
| Q29 小 玉 | 0.34 | 0.08 | 0.33 | 0.06 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q30 小 玉 | 0.36 | 0.14 | 0.29 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q31 小 玉 | 0.33 | 0.09 | 0.35 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q32 小 玉 | 0.30 | 0.12 | 0.29 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q33 小 玉 | 0.39 | 0.09 | 0.25 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 一部欠損 | 覆土中 | PL1 |
| Q34 小 玉 | 0.32 | 0.11 | 0.28 | 0.07 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q35 小 玉 | 0.26 | 0.07 | 0.31 | 0.06 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q36 小 玉 | 0.31 | 0.08 | 0.30 | 0.06 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 一部欠損 | 覆土中 | PL1 |
| Q37 小 玉 | 0.34 | 0.06 | 0.33 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q38 小 玉 | 0.38 | 0.11 | 0.24 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q39 小 玉 | 0.36 | 0.14 | 0.27 | 0.06 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q40 小 玉 | 0.41 | 0.16 | 0.21 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q41 小 玉 | 0.40 | 0.14 | 0.21 | 0.05 | ガラス | コバルトブルー | 小口部にへこみ 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q42 小 玉 | 0.36 | 0.12 | 0.29 | 0.06 | ガラス | コバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q43 小 玉 | 0.33 | 0.10 | 0.24 | 0.04 | ガラス | コバルトブルー | 側面はわずかに膨らむ | 覆土中 | PL1 |
| Q44 小 玉 | 0.37 | 0.09 | 0.31 | 0.06 | ガラス | コバルトブルー | 側面はわずかに膨らむ | 覆土中 | PL1 |
| Q45 小 玉 | 0.39 | 0.16 | 0.29 | 0.04 | ガラス | コバルトブルー | 側面はわずかに膨らむ | 覆土中 | PL1 |
| Q46 小 玉 | 0.39 | 0.16 | 0.29 | 0.06 | ガラス | 赤みのかかったコバルトブルー | 側面は円筒形 一部欠損 | 覆土中 | PL1 |
| Q47 小 玉 | 0.35 | 0.10 | 0.21 | 0.05 | ガラス | 白みのかかったコバルトブルー | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |
| Q48 小 玉 | 0.36 | 0.13 | 0.36 | 0.07 | 琥珀 | 琥珀色 | 側面は円筒形 | 覆土中 | PL1 |

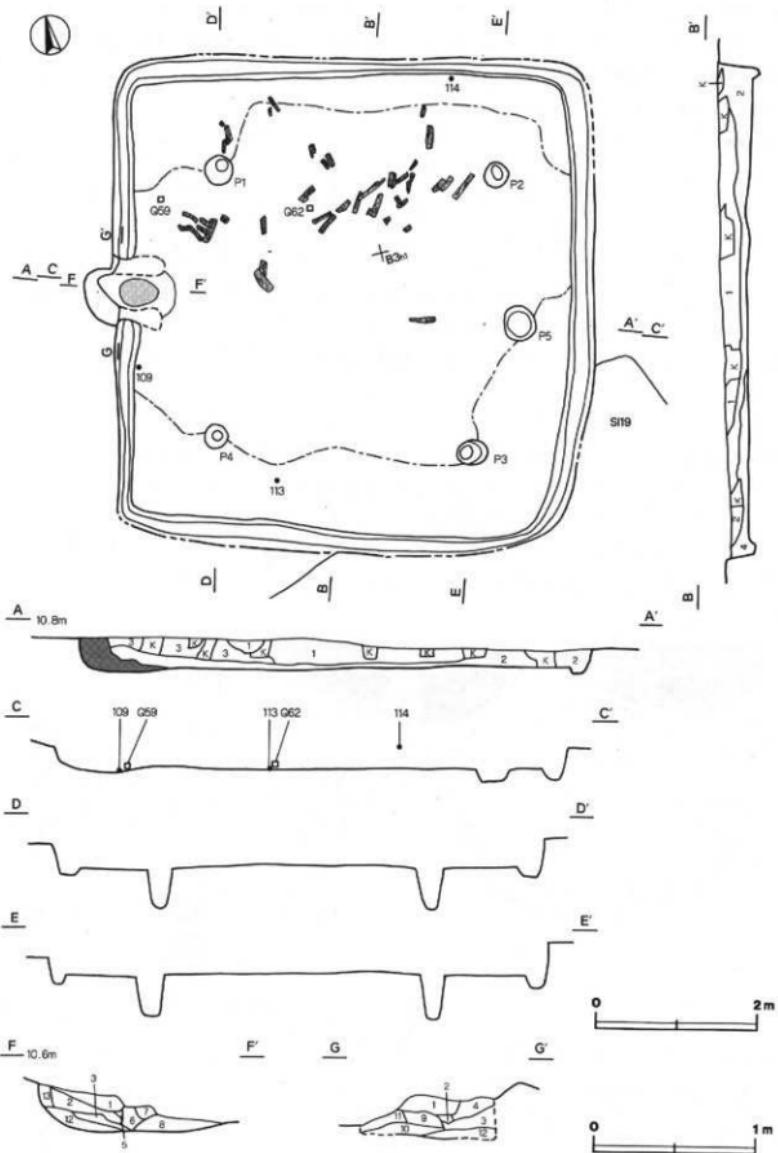
第22号住居跡（第52・53図）

位置 調査1区南東部のB2h0区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第19号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.13m、短軸5.90mほどの方形で、主軸方向はN-74°Wである。壁高は26~37cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部から各主柱穴にかけて踏み固められている。また、各壁下には断面U字形の壁溝が巡っている。



第52図 第22号住居跡実測図

窓 西壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで110cm、袖部幅は90cmほどと推定され、壁外への掘り込みは36cmほどである。袖部は壊されており、床面に残る粘土の範囲から袖部を推定した。火床部は北西壁ラインの内側に位置し、掘りくぼめた地山面を使用しており、火床面は赤変硬化している。また、煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竪土層解説

| | | | | | |
|---|------|-------------------------|----|-------|---------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 8 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、粘土ブロック微量 | 9 | 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 | 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子微量 | 10 | 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子微量 | 11 | にぼい褐色 | ク・炭化物微量 |
| 5 | 深暗褐色 | ロームブロック微量 | 12 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 | 深暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 13 | 褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 7 | 褐色 | ロームブロック中量 | | | ロームブロック少量 |

ピット 5か所。P 1～P 4は、深さ50～57cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ19cmほどで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

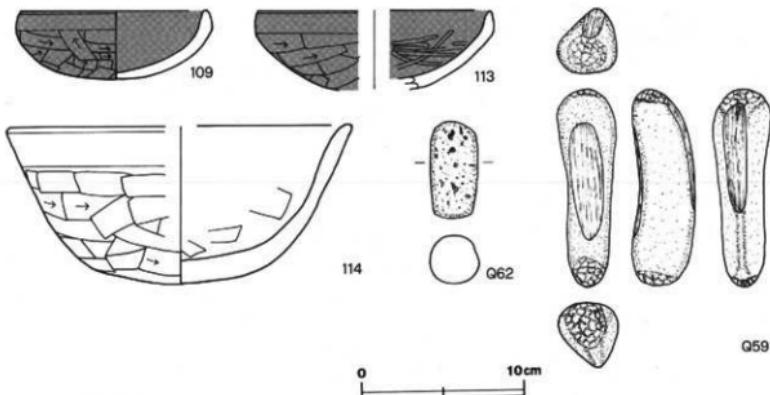
覆土 4層に分層される。ロームブロック、焼土、炭化物を含む層が多いことから人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | | | |
|---|------|-------------------------|---|-----|------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 | 深暗褐色 | 焼土粒子・炭化物中量、ロームブロック少量 | 4 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片525点(壺類56、甕類469)、須恵器片7点(壺類5、甕2)、石器2点(敲石1、浮子1)のほかに、流れ込みと思われる繩文土器片9点(深鉢)、弥生土器片33点(広口甕)、陶器片1点(不明)、礫23点が、ほぼ全域から出土している。109は西壁際の覆土下層から、113は南壁寄りの床面から出土している。また、炭化材が北部を中心として出土している。

所見 炭化材が覆土下層から集中して出土していることから焼失住居であり、時期は出土土器から6世紀後半と考えられる。



第53図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表（第53図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|------|----|----|----------|----|----|--------------------|------|-----------------------|
| 109 | 土師器 | 壺 | 11.7 | 43 | — | 霰母・長石・石英 | 明褐 | 普通 | 体部外側ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ナダ | 下層 | 80% PL23
内・外表面墨色処理 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|-------|----|-----------------------------|------|----|----------------------|------|-----------------|
| I13 | 土師器 | 壺 | [14.4] | (4.8) | — | 玄母・長石・石英 | 灰褐色 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 床面 | 30%
内・外面部毛處理 |
| I14 | 土師器 | 壺 | [21.1] | 9.7 | — | 玄母・長石・石英
赤色粒子・鉄分
鉄物・塵 | にぶい棕 | 普通 | 体部外曲ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 上層 | 50% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|------|-----|-----|-------|----|----------------|------|----|
| Q59 | 鐵石 | 12.1 | 3.7 | 4.0 | 227.3 | 砂岩 | 上下に敵痕あり 剥離磨石転用 | 下層 | |
| Q62 | 浮子 | 5.9 | 3.0 | 3.0 | 125 | 輕石 | 円筒状に加工 | 下層 | |

第23号住居跡（第54図）

位置 調査1区南西部のB24区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第20・24号住居を掘り込み、第9号住居に掘り込まれている。南壁と北西部が搅乱されている。

規模と形状 西部が調査区域外のため、長軸4.72m、短軸は3.77mほどが確認され、主軸方向はN-21°-Wで方形と推定される。壁高は15cmほどで、外傾して立ち上がっていいる。

床 ほぼ平坦で、西部の調査区域境付近と南東コーナー付近に踏み固められた面が見られる。

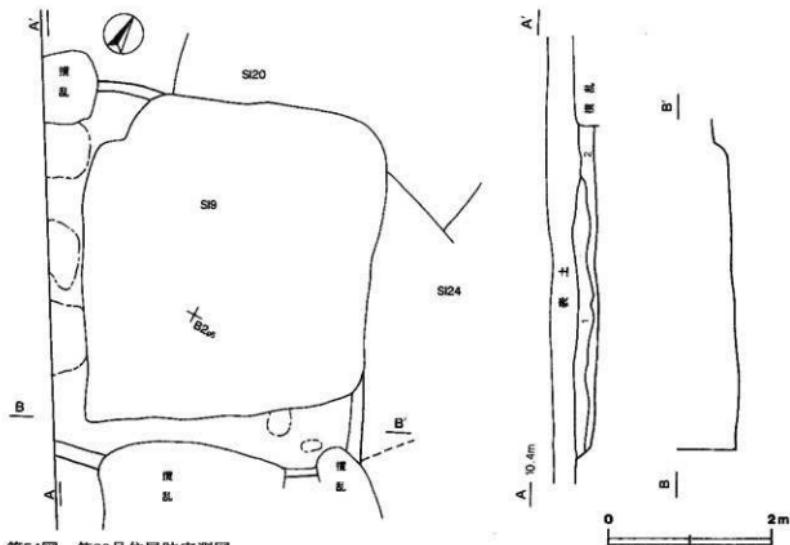
覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片10点（壺1、甕9）、須恵器片1点、弥生土器片1点、陶器片1点が覆土中から出土しているが、いずれも細片である。



第54図 第23号住居跡実測図

所見 出土物が少ないため、遺物から時期を決定するのは困難であるが、本跡を掘り込んでいる第9号住居が6世紀後半のものと考えられることから、本跡はそれ以前と考えられる。

第24号住居跡（第55図）

位置 調査1区南西部のB25g区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第20号住居を掘り込み、第9・23号住居に掘り込まれている。

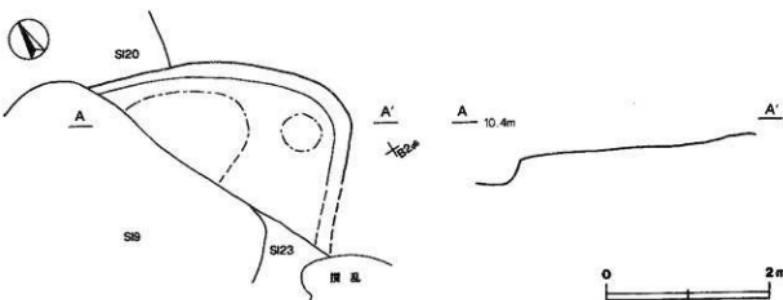
規模と形状 西部を第9号住居に掘り込まれているため、長軸は3.2m、短軸は2.0mのみが確認された。主軸方向はN-57°-Wで方形と推定される。壁高は5~8cmほどで、緩やかに外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、北東壁付近と東コーナー付近に踏み固められた面が見られる。

覆土 ほとんど床が露出した状態で検出されたため、覆土は確認できなかった。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 わずかに残存する掘り込みと硬化面から住居跡と判断した。本跡は、縄文時代と考えられる第20号住居を掘り込み、さらに6世紀後半と考えられる第9号住居に掘り込まれているが、明確な時期を特定することはできない。本跡の時期は、6世紀後半以前ではあるが縄文時代までは遡らないと考えられる。



第55図 第24号住居跡実測図

第27号住居跡（第56・57図）

位置 調査3区東部C5g6区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南・東部が調査区域外に延びているため、長軸6.63m、短軸は3.04mほどが確認され、主軸方向はN-7°-Eで方形と推定される。壁高は20~30cmほどで、外傾して立ち上がっている。

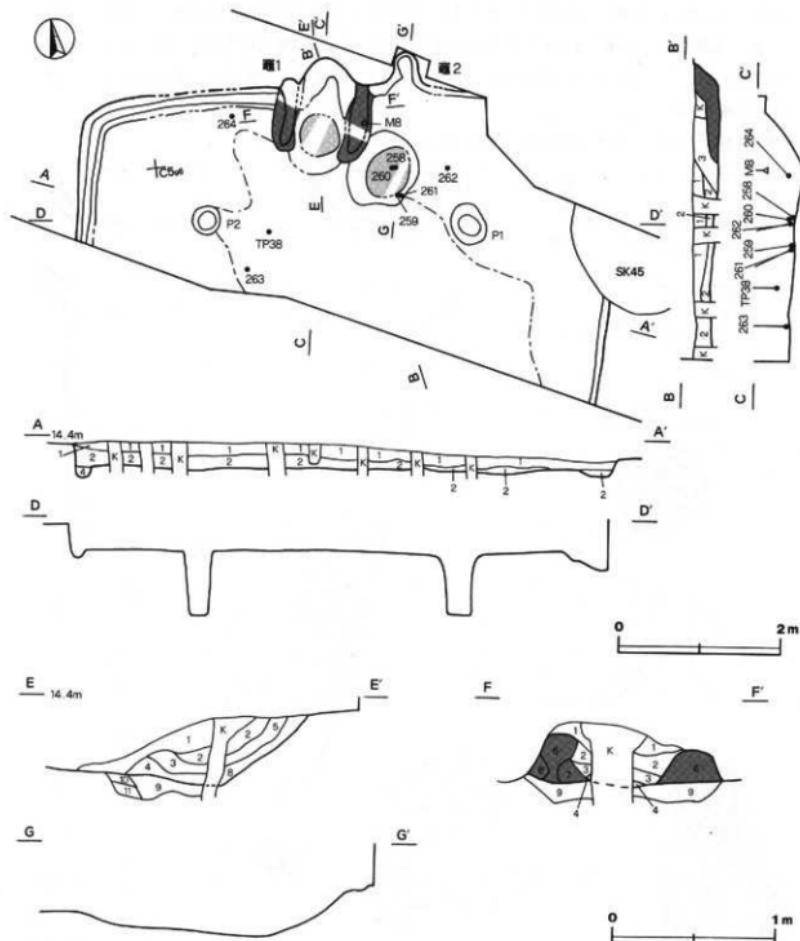
床 ほぼ平坦で、中央部から竈や各主柱穴にかけて踏み固められている。また、北・西部の壁下には断面U字形の壁溝が巡っている。

竈 北壁に竈1、竈2が付設されている。竈1は袖部が残存し、焚口部から煙道部先端まで145cm、袖部幅は122cmほどである。煙道部は壁外へ30cmほど掘り込まれ、緩やかな傾斜で立ち上がっている。砂粒、粘土粒、焼土を含む土で竈の掘り方を床面とはほぼ同じ高さまで埋め戻し、その上部にロームを混ぜた砂と粘土で袖部を構築している。火床部は北壁ラインの内側に位置し、袖部と同様の土で竈の掘り方を埋め戻した面を使用しており、火床面は赤変している。竈2は壁外に50cmほど掘り込まれた煙道部とわずかに赤変した火床面が残存してい

る。竈 1 の埋め戻した土の観察から、竈 2 から竈 1 への作り替えが推定される。

竈土層解説

| | | | |
|---------|---------------------------------|---------|-------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 | 7 灰褐色 | 砂粒・粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 |
| 4 にじ赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック・砂粒・粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 |
| 6 黄褐色 | 砂粒多量・粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | | |



第56図 第27号住居跡実測図

ビット 2か所。P 1は深さ77cm、P 2は深さ73cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。

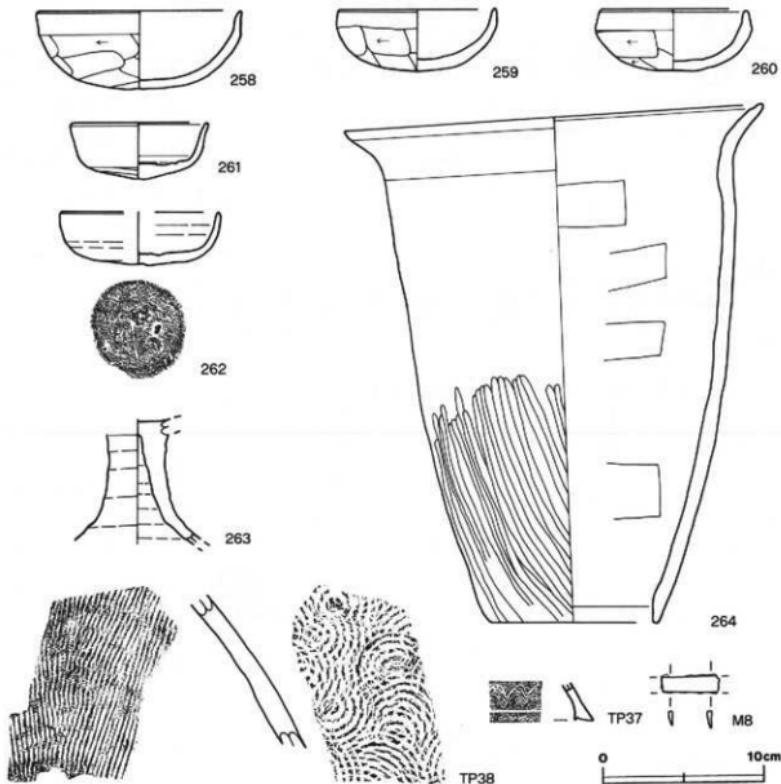
覆土 4層に分層される。耕作による擾乱が激しく明確ではないが、土砂が流入するような堆積状況を呈することから自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 灰褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片387点（坏18、甕・瓶類369）、須恵器片36点（坏6、高坏1、甕29）、土製品2点（支脚）、鉄製品2点（刀子1、不明1）のほかに、流れ込みと思われる弥生土器片31点（広口甕）、土師質土器片1点（小皿）、陶器片5点（碗類）がおもに中央部から出土している。258は竈右袖外側付近の覆土下層から正位の状態で出土し、その中に260が重ねられて出土している。また、同様に259の中に261が重ねられている。264は北壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。



第57図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表（第57図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|------|-------|------|----------|------|----|---------------------|------|-----------|
| 258 | 土器 | 壺 | 12.6 | 4.8 | — | 長石・石英 | に赤い櫻 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 下層 | 100% PL23 |
| 259 | 上部器 | 壺 | 9.7 | 3.9 | — | 長石・石英・石英 | 灰白 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 下層 | 100% PL23 |
| 260 | 上部器 | 壺 | 9.1 | 3.7 | — | 長石・長石・石英 | に赤い櫻 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 下層 | 95% PL23 |
| 261 | 須恵器 | 壺 | 8.3 | 3.4 | — | 雲母・長石・石英 | 灰 | 良好 | 底部回転ヘラ切り後ナデ 体部内・外側口 | 下層 | 100% PL23 |
| 262 | 須恵器 | 壺 | 9.8 | 3.3 | — | 長石・石英 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後ナデ 体部内・外側口 | 下層 | 65% PL23 |
| 263 | 須恵器 | 高壺 | — | (7.9) | — | 長石 | 灰白 | 良好 | 脚部内・外側口クロナデ | 下層 | 30% |
| 264 | 上部器 | 壺 | 25.9 | 32.2 | 10.6 | 長石・石英・輝 | 浅黄 | 普通 | 体部外面下端ヘラ磨き 内面ヘラナデ | 下層 | 50% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|----|-------|----|----------|-------|------------------------|------|----|
| TP37 | 須恵器 | 器台 | — | (2.0) | — | 雲母・長石・石英 | 灰黄 | 普通 脚部片 勝負状工具による波状文 | 覆土中 | |
| TP38 | 須恵器 | 蓋 | — | (9.4) | — | 雲母・長石・石英 | 灰オリーブ | 普通 体部外面平行叩き 内面同心円の当て具痕 | 中層 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|-------|-----|-----|-------|----|------------|------|----|
| M8 | 刀子 | (3.6) | 1.1 | 0.3 | (2.5) | 鉄製 | 刃部の破片 基部欠損 | 上層 | |

第29号住居跡（第58図）

位置 調査4区東部のB5j3区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 東部が調査区域外に延び、さらに耕作による擾乱が激しいため硬化面の範囲などから住居跡のプランを想定した。長軸7.20m、短径は4.16mほどが確認され、方形と推定される。主軸方向はN-26°-Eで、壁高は28cmほどで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈付近と南西部に踏み固められた面が見られる。

竈 北壁中央部に付設されたと思われる。竈内が耕作による擾乱のため壊されているが、残存する部分から、焚口部から煙道部先端まで120cm、袖部幅は160cm、壁外への掘り込みは20cmほどと考えられる。袖部は、砂・粘土・ロームで構築されている。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、火床面はわずかに赤変している。また、煙道は火床部から急な角度で立ち上がるるものと推定される。

竈層解説

| | | | |
|--------|-------------------------------|---------|-----------------------------------|
| 1 瞑赤褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 に赤い褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 瞑赤褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 に赤い褐色 | 砂粒・粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

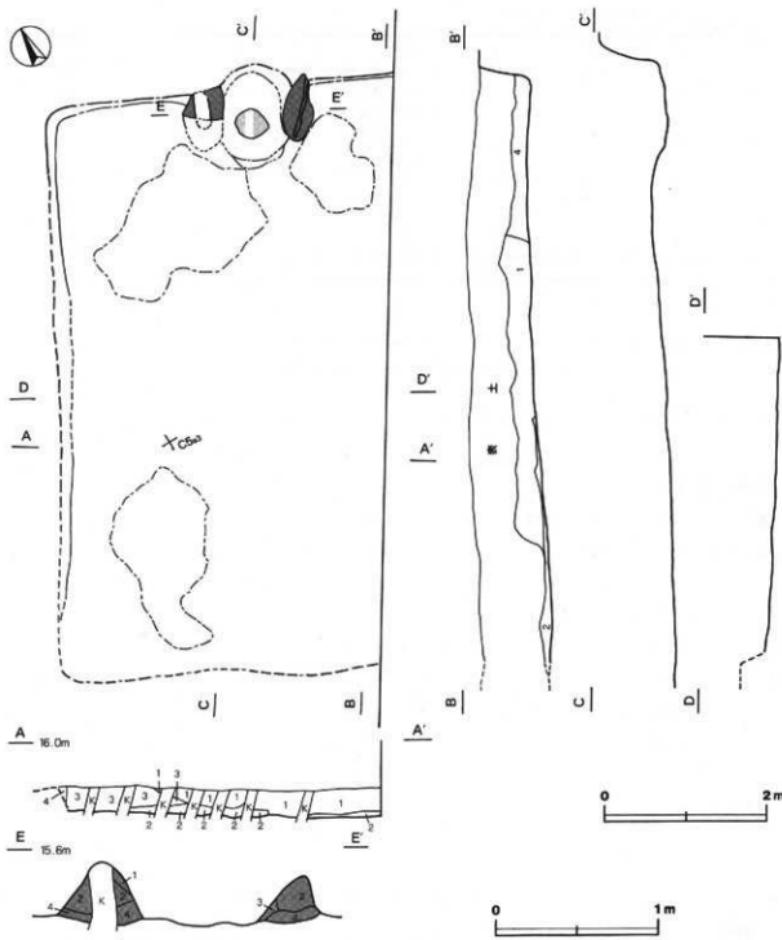
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 塗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 3 塗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 青褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 青褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片327点（壺40、甕287）、須恵器片26点（壺10、高台付壺2、瓶類1、蓋1、甕12）のはかに後世の耕作により混入したと考えられる繩文土器片3点（深鉢）、弥生土器片15点（広口壺）、土師質土器片2点（小皿）、瓦質土器片16点（鉢7、培塿9）、鐵器2点（釘1、不明1）、礫12点がほぼ全城から出土している。いずれも細片であり、図示できるものではなく、擾乱のため、遺物から明確な時期決定はできない。

所見 遺物による時期決定は困難であるが、他の住居跡の形態と比較すると、7世紀後半のものと類似し、時期は7世紀後半と推定される。



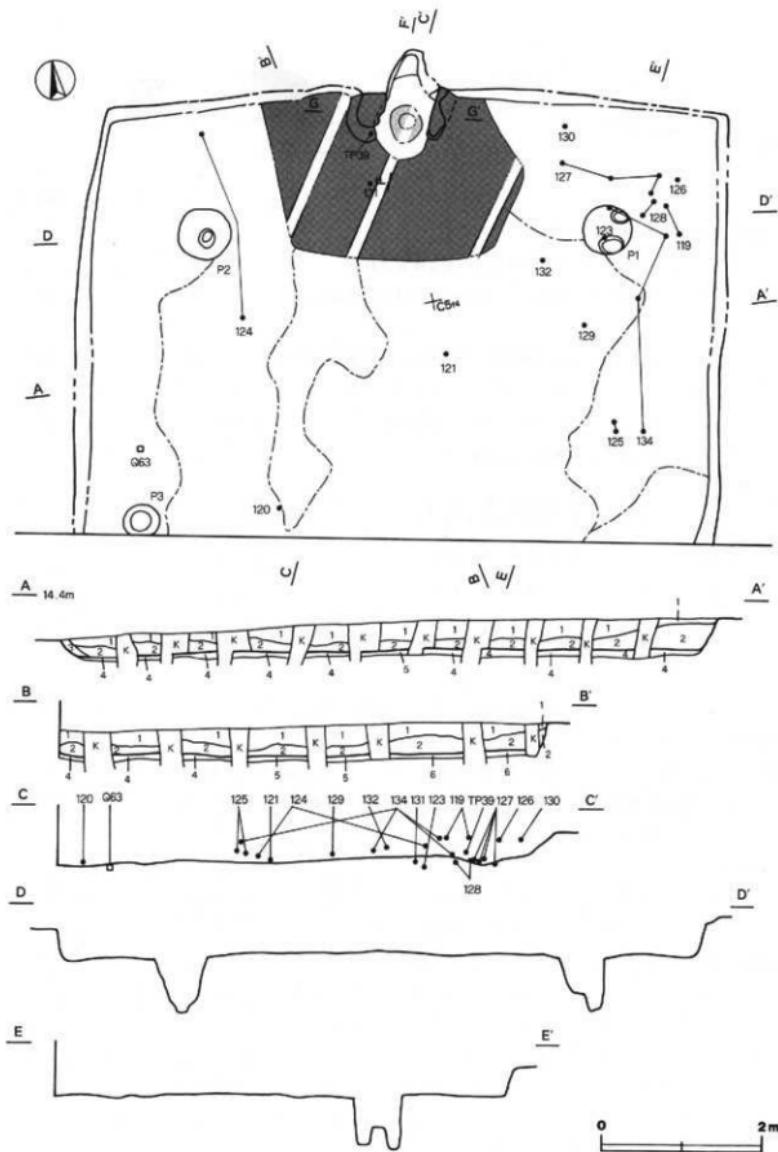
第58図 第29号住居跡実測図

第30号住居跡（第59～62図）

位置 調査3区東部のC5e3区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第31号住居上に拡張して構築されており、南部が調査区域外に延びている。また、耕作による擾乱を受けている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、長軸7.94m、短軸は5.52mほどが確認され、主軸方向はN-13°-Eで方形と推定される。壁高は32～42cmほどで、ほぼ直立している。また、第31号住居からは、北方向へ



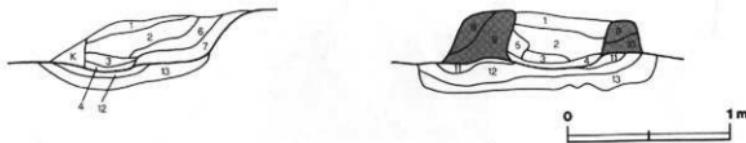
第59図 第30号住居跡実測図(1)

F 14.4m

F'

G

G'



第60図 第30号住居跡実測図(2)

1.5~1.7m, 東西方向へ0.6~1.0m拡張されていると推定される。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められ、10cmほどの床が貼られている。竈前には粘土が貼られ、壁溝は確認されなかった。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで136cm、袖部幅は122cm、煙道部の壁外への掘り込みは50cmほどで、外傾して立ち上がっている。袖部・火床面とも掘りくぼめた面を暗褐色土で埋め戻して作られている。袖部は、埋め戻した面の上部に砂粒・粘土・ロームを積み上げて構築され、火床部は、北壁ラインの内側に位置し、火床面は赤変硬化している。

壁土層解説

| | | | |
|---------|-------------------------------------|---------|-------------------------------------|
| 1 にい赤褐色 | 燒土ブロック・炭化物・砂粒・粘土粒子少量 | 7 暗赤褐色 | ロームブロック中量、燒土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 燒土ブロック中量、炭化物・砂粒・粘土粒子少
量 | 8 にい赤褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子・
炭化粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 | 燒土ブロック・炭化粒子中量、砂粒・粘土粒子少
量 | 9 にい赤褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ロームブロック・燒土ブ
ロック・炭化粒子少量 |
| 4 にい赤褐色 | 燒土ブロック中量、炭化粒子・砂粒・粘土粒子
微量 | 10 灰褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にい赤褐色 | 炭化粒子中量、燒土ブロック少量、砂粒・粘土
粒子微量 | 11 暗褐色 | 燒土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 6 にい赤褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ロームブロック・燒土粒
子少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子・粘
土粒子微量 |
| | | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ68cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。P 3は深さ28cmほどで、住居跡が調査区域外に延びているために規模は明確ではなく、性格は不明である。

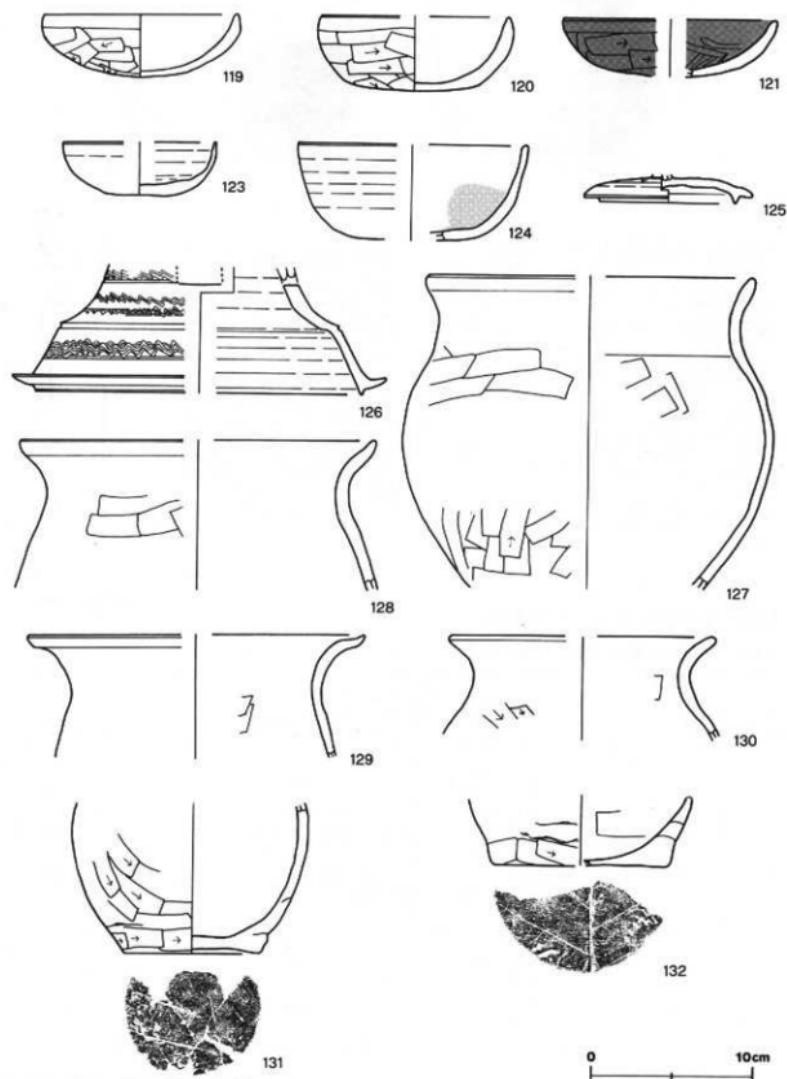
覆土 6層に分層される。1~3層が住居跡の覆土、4・5・6層が貼り床の土層であり、4・5層の下端に第31号住居の硬化面が検出された。耕作による搅乱がひどいため、明確には確認できないが、レンズ状の堆積状況を呈した自然堆積と考えられる。

土層解説

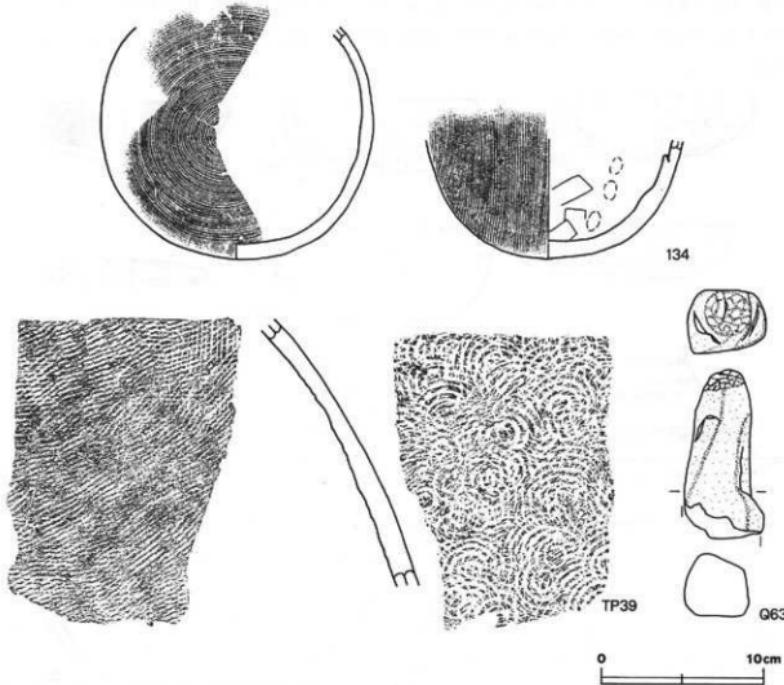
| | | | |
|-------|----------------------|-------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・燒土ブロック・
炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、燒土粒子・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1,915点（壺272、高杯1、甕1,642）、須恵器片41点（壺32、蓋4、瓶4、器台1）土製品5点（支脚片）のほか、流れ込みの弥生土器片134点（広口壺）、陶器片18点（碗類10、擂鉢3、不明5）、鐵製品2点（不明）、漆26点が全域から散在して出土している。総量は多いが、ほとんどが細片である。120は南部の調査区境界部付近の床面、121は中央部の床面、123はP 1内からそれぞれ出土している。北東コーナー付近からは、126の筒形器台の脚部と思われる破片が覆土中層から、127・128が床面から出土している。TP39は、竈左袖端部内に突き刺さるように出土し、竈の補強に利用されたと考えられるが、二次焼成痕は認められない。

所見 掘り方調査を行った結果、貼り床の下から、第31号住居の硬化面、火床面、柱穴が検出され、第31号住居を拡張して本住居を構築したものと推定され、本跡が廃絶された時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。



第61図 第30号住居跡出土遺物実測図(1)



第62図 第30号住居跡出土遺物実測図(2)

第30号住居跡出土遺物観察表（第61・62図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 手 法 の 特 徴 | | 出土位置 | 備 考 | |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|------------------|------|----|-----------------|-----------|--------|----------|---------|
| | | | | | | | | | 方法 | 特徴 | | | |
| 119 | 土 器 | 壺 | 12.0 | 3.9 | — | 雲母・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外側・底部ヘラ削り | 内面ナデ | 中 層 | 60% | |
| 120 | 土 器 | 壺 | [11.8] | 4.6 | — | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部外側・底部ヘラ削り | 内面ナデ | 床 面 | 50% | |
| 121 | 土 器 | 壺 | [13.3] | 3.6 | — | 雲母・長石・石英 | 灰褐 | 普通 | 体部外側ヘラ削り | 内面ヘラ磨き | 床 面 | 40% | |
| 123 | 須 悠 器 | 壺 | [9.6] | 3.3 | — | 長石・石英 | 灰白 | 不良 | 底部刮削ヘラ切り後ナデ | | P 1 内 | 70% | |
| 124 | 須 悠 器 | 壺 | [14.3] | 5.9 | — | 雲母・長石・石英 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後ナデ | | 下 層 | 20%内面に朱付 | |
| 125 | 須 悠 器 | 蓋 | 10.6 | (1.7) | — | 雲母・長石・石英 | 灰 | 普通 | 天井部右回りのヘラ削り | | 下 层 | 50% | |
| 126 | 須 悠 器 | 盤留台 | — | (7.8) | [20.2] | 長石・石英 | 灰黄 | 良好 | 脇部外表面彫刻工具による波状文 | 方形状の透かしあり | 中 層 | 5% PL23 | |
| 127 | 土 器 | 甕 | [20.3] | (19.4) | — | 雲母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部外側ヘラ削り | 内面ヘラナデ | 下層～屋裏方 | 20% | |
| 128 | 土 器 | 甕 | [22.2] | (9.3) | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | 浅赤橙 | 良好 | 体部外側ヘラナデ | 内面ナデ | 下層～掘り方 | 5% | |
| 129 | 土 器 | 甕 | [20.9] | (7.6) | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 口辺部内・外側横ナデ | | 下 层 | 5% | |
| 130 | 土 器 | 甕 | [16.4] | (6.4) | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部内・外側横ナデ | | 中 层 | 5% | |
| 131 | 土 器 | 甕 | — | (9.5) | 8.4 | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部外側下端ヘラ削り | 底部木葉痕 | 掘り方 | 5% | |
| 132 | 土 器 | 甕 | — | (4.1) | [10.8] | 長石・石英 | 灰白 | 普通 | 体部外側下端ヘラ削り | 内面ヘラナデ | 底部木葉痕 | 下 层 | 5% |
| 134 | 須 悠 器 | 瓶頸 | — | (14.4) | — | 雲母・長石・石英 | 灰 | 普通 | 体部外側カキ目 | 内面ナデ | 指頭板 | 中層～下層 | 5% PL23 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|----|--------|----|--------------|----|----|-----------------------------|------|----|
| TP39 | 須恵器 | 壺 | — | (17.0) | — | 雲母・長石・
石英 | 灰白 | 普通 | 体部外面斜面の平行叩き 内面同心円状
の当て具痕 | 下層 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|-----|-----|---------|------|---------|------|----|
| Q63 | 磁石 | (15.2) | 8.3 | 5.1 | (242.0) | 石英斑岩 | 上部に鐵痕あり | 床面 | |

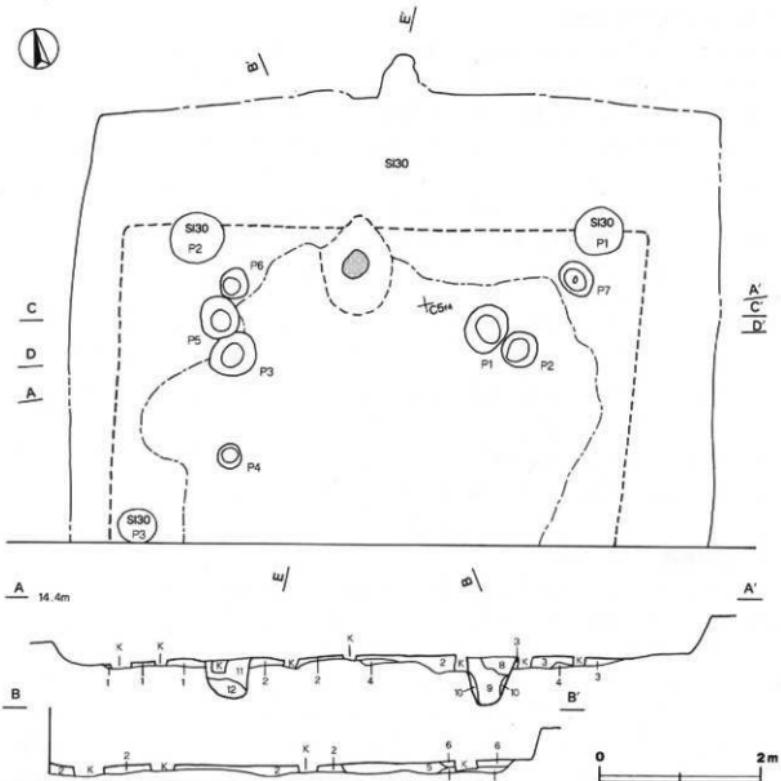
第31号住居跡（第63・64図）

位置 調査3区の東部C5e3区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

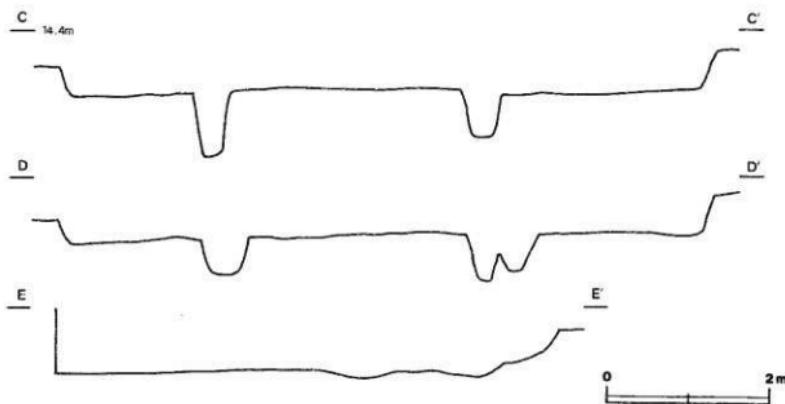
重複関係 本跡を拡張して第30号住居を構築したと推定され、南部が調査区域外に延びている。

規模と形状 南部が調査区域外に延び、第30号住居に拡張されているため明確ではないが、検出された硬化面と竈の火床面から長軸6.4m、短軸は3.6mほどが残存し、主軸方向はN-13°-Eで方形と推定される。

床 ほぼ平坦で、火床部。ピットにかけて踏み固められ、10~15cmほどの床が貼られている。壁溝は確認されなかった。



第63図 第31号住居跡実測図(1)



第64図 第31号住居跡実測図(2)

電 床面に残存する赤変した部分を火床面と捉え難く推定した。火床面は床面とほぼ同じ高さの面を使用していたと考えられる。袖部、煙道部は残存していない。

ビット 7か所。P1～P7は、深さ32～78cmほどである。P1は深さ54cm、P5は深さ78cmほどで、配置・規模から柱穴と考えられる。P2・P3・P6・P7は第30号住居の補助柱穴とも考えられるが、P4とあわせて性格は不明である。

覆土 第30号住居に建替えが行われているため、覆土は確認されなかった。第1～4層が本跡の掘り方の土層であり、第5～7層は第30号住居を構築する際の掘り方の土層と考えられる。第8～10層はP1、第11・12層はP3の上層である。

土層解説

| | | | |
|---------|--------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黄色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 喀褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量 |
| 2 茶色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 極褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 茶色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 10 極褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 明褐色 | ローム粒子中量 | 11 茶色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量 |
| 5 茶色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 茶色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にいき褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量 | | |
| 7 にいき褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 本跡に関連する遺物は出土していない。

所見 建替えが行われた第30号住居が7世紀後半であるため、本跡はそれ以前と考えられる。

第32号住居跡（第65・66図）

位置 調査3区東部のC5e1区に位置し、中位段丘上の南西方向への斜面部に立地している。

規模と形状 北部が調査区域外に延び、南部が削平されているが、長軸4.60m、短軸4.52mほどの方形で、主軸方向はN-36°Wと推定される。壁高は10cmほどで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部からP1と、出入り口にかけて踏み固められている。

電 西壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで110cm、袖部幅は92cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは26cmほどであり、緩やかに外傾して立ち上がっている。袖部は、ロームと砂質粘土により構築されている。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、床面とほぼ同じ高さの面を使用し、火床面は

赤変している。

電土層解説

1 白 色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒、 2 黄褐色 砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子中量
粘土粒子少量

ピット 1か所。P1は深さ42cmほどであり、配置から主柱穴と考えられるが、他の柱穴は検出されていない。

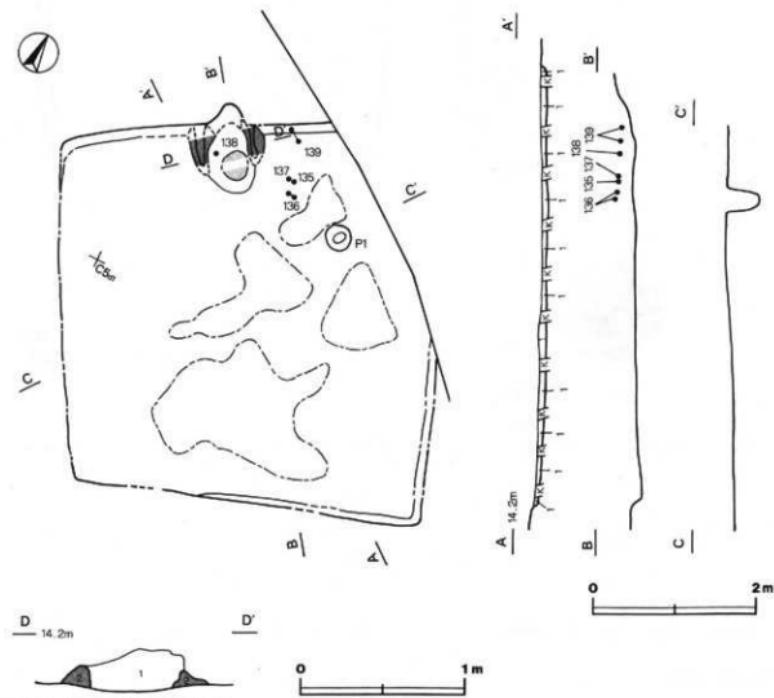
覆土 1層のみ確認された。覆土が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

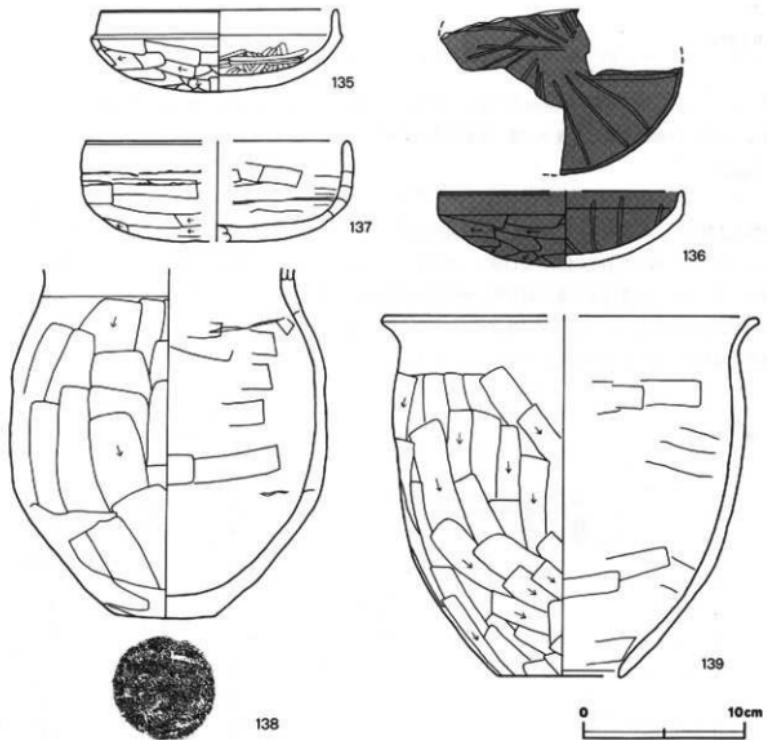
1 白 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片187点(壺35、楕1、甕・甌類151)、須恵器片3点(壺)、土製品1点(支脚片)のほか、混入と思われる弥生土器片24点(広口壺)、陶器片3点(楕2、不明1)、瓦質土器片5点(焼造3、鉢2)、鐵製品3点(不明)が窓内及び窓右袖外側、南西壁寄りを中心に出土している。135・136・137は窓右袖の外側、138は窓内から横位で出土し、139は北壁際から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第65図 第32号住居跡実測図



第66図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第66図）

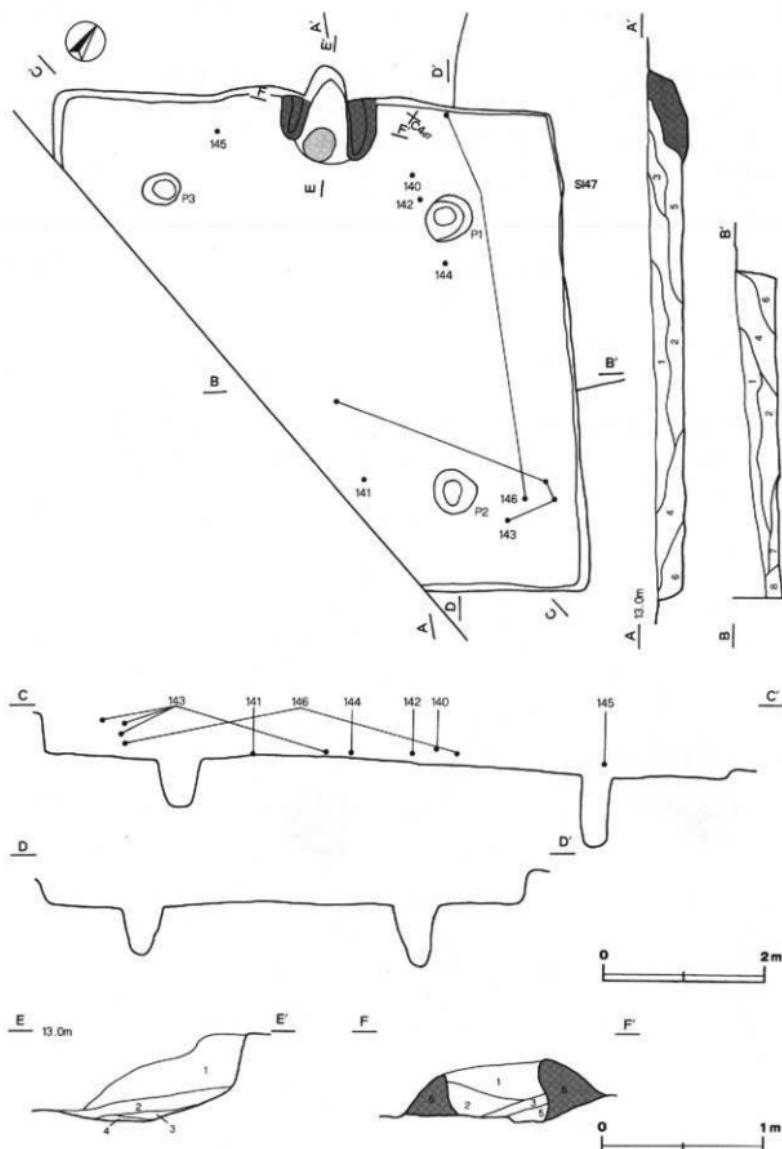
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|-----|--------------|------|----|----------------------------------|------|---------------|
| 135 | 土師器 | 壺 | 14.7 | 5.1 | — | 長石・石英
赤褐色 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き | 上層 | 90% PL23 |
| 136 | 土師器 | 壺 | [14.9] | 4.6 | — | 長石・石英 | 灰褐色 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面放射状のヘラ磨き | 上層 | 30% 内・外表面黒色処理 |
| 137 | 土師器 | 甌 | [16.2] | 6.2 | — | 長石・石英 | 灰褐色 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ 輪模痕 | 上層 | 60% PL24 |
| 138 | 土師器 | 甌 | — | (21.7) | 6.2 | 長石・石英 | 灰褐色 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ 底部
ヘラ削り 内面輪積痕 | 甌内 | 50% |
| 139 | 土師器 | 甌 | [23.0] | 22.5 | 7.8 | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ | 上層 | 65% PL24 |

第36号住居跡（第67・68図）

位置 調査3区西部のC4d7区に位置し、中位段丘から低位段丘の南西方向への斜面部に立地している。

重複関係 第47号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているが、長軸6.14m、短軸は5.92mほどであり、方形で主軸方向はN-45°-Wである。壁高は34~50cmほどで、ほぼ直立している。



第67図 第36号住居跡実測図

床 ほぼ平坦であるが、礫層を掘り込んでおり、床や壁に礫が露出しているため、踏み固められた面は確認できなかった。

電 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで148cm、袖部幅は116cm、壁外への掘り込みは40cmほどである。袖部は、砂・粘土・ロームを積んで構築されている。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、火床面は赤変している。また、煙道は火床部から外傾して急な角度で立ち上がっている。

電土層解説

| | | | |
|---------|-----------------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 黒 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・礫微量 | 4 赤 色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 2 にじ赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒・
粘土粒子・礫微量 | 5 暗 色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒・
粘土粒子微量 |
| 3 赤 色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・礫微量 | 6 にじ黄褐色 | 砂粒・粘土ブロック多量、ローム粒子中量 |
| | | | |

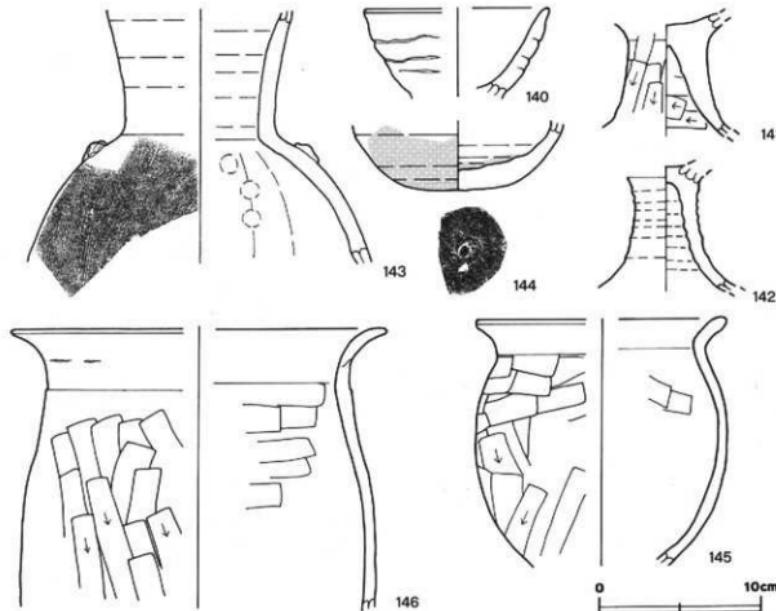
ピット 3か所。P 1～P 3は、深さ54～86cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|---------------|---------|----------------|
| 1 暗 色 | ローム粒子・礫微量 | 5 暗 色 | 粘土粒子・ローム粒子・礫少量 |
| 2 純 色 | 礫少量、ローム粒子微量 | 6 暗 赤褐色 | 礫少量、ローム粒子微量 |
| 3 純 色 | ローム粒子微量 | 7 暗 色 | 礫少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗 色 | 礫少量、ロームブロック微量 | 8 暗 色 | ローム粒子少量、礫微量 |

遺物出土状況 土師器片239点(坏14、椀1、高坏2、甕1、瓶類222)、須恵器片17点(坏3、高坏1、壺1、瓶類1、甕11)、土製品3点(支脚片)のほかに、流れ込んだと思われる繩文土器片2点(深鉢)、弥生土器片19点(広口壺)、礫4点が北コーナー部や東コーナー部を中心に出土している。145は南西壁寄りの覆土下層、146は北東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。また、143は中央部と東コーナー部から出土した破片が接合したものである。



第68図 第36号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は環濠の中に構築されて、壁や床に礫が露出した状態で検出されている。時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。

第36号住居跡出土遺物観察表（第68図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-----|--------|--------|-----|------------------|------|----|-------------|--------------------|-------|-----|
| | | | | | | | | | 体部外側ヘラナダ | 輪様痕 内面ヘラナダ | | |
| 140 | 土師器 | 甌 | [11.2] | (5.6) | — | 長石・石英 | 明赤褐色 | 普通 | — | — | 下層 | 20% |
| 141 | 土師器 | 高环 | — | (7.7) | — | 長石・石英・赤化粒子 | にぶい橙 | 普通 | 脚部内・外側ヘラ削り | — | 下層 | 20% |
| 142 | 須恵器 | 高环 | — | (7.9) | — | 長石 | 灰褐色 | 良好 | 脚部内・外側ロクロナダ | — | 下層 | 20% |
| 143 | 須恵器 | 投瓶 | — | (15.8) | — | 雲母・長石・石英 | 澄 | 普通 | 脚部内・外側ロクロナダ | 体部外側カキ目
内面ナダ | 中層～下層 | 65% |
| 144 | 須恵器 | 壺 | — | (4.3) | 6.0 | 長石・石英 | 灰褐色 | 普通 | 脚部内・外側ロクロナダ | 体部外側及び底
部に自然釉付着 | 下層 | 5% |
| 145 | 土師器 | 小形甌 | [15.4] | (15.3) | — | 雲母・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外側ヘラ削り | 内面ヘラナダ | 下層 | 40% |
| 146 | 土師器 | 甌 | [23.1] | (17.5) | — | 雲母・長石・石英
赤化粒子 | 澄 | 普通 | 体部外側ヘラ削り | 内面ヘラナダ 輪様痕 | 下層 | 30% |

第38号住居跡（第69図）

位置 調査2区中央部のB4j1区に位置し、中位段丘から低位段丘の南西方向への斜面部に立地している。

重複関係 第42号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.46m、短軸3.42mほどの方形で、主軸方向はN-27°Wである。壁高は34cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から竈・貯蔵穴にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで110cm、袖部幅は104cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは24cmほどであり、外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、土層断面図の第3層が崩落した天井の一部である。火床部は北壁ラインの内側に位置し、地山をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面は火熱をあまり受けていない。

竈土層解説

| | | | | | |
|---|-------|-----------------------------|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ローム粒子・砂粒・粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 | 暗褐色 | 燒土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 | にぶい褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子・燒土プロック | 6 | 暗褐色 | ロームプロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 |

ピット 1か所。P1は、深さ12cmほどであり、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 平面形は楕円形を呈し、北東コーナー部に付設されている。深さは24cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

| | | | | | |
|---|-----|----------------|---|----|-----------|
| 1 | 灰褐色 | ローム粒子少量 | 3 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・燒土粒子微量 | | | |

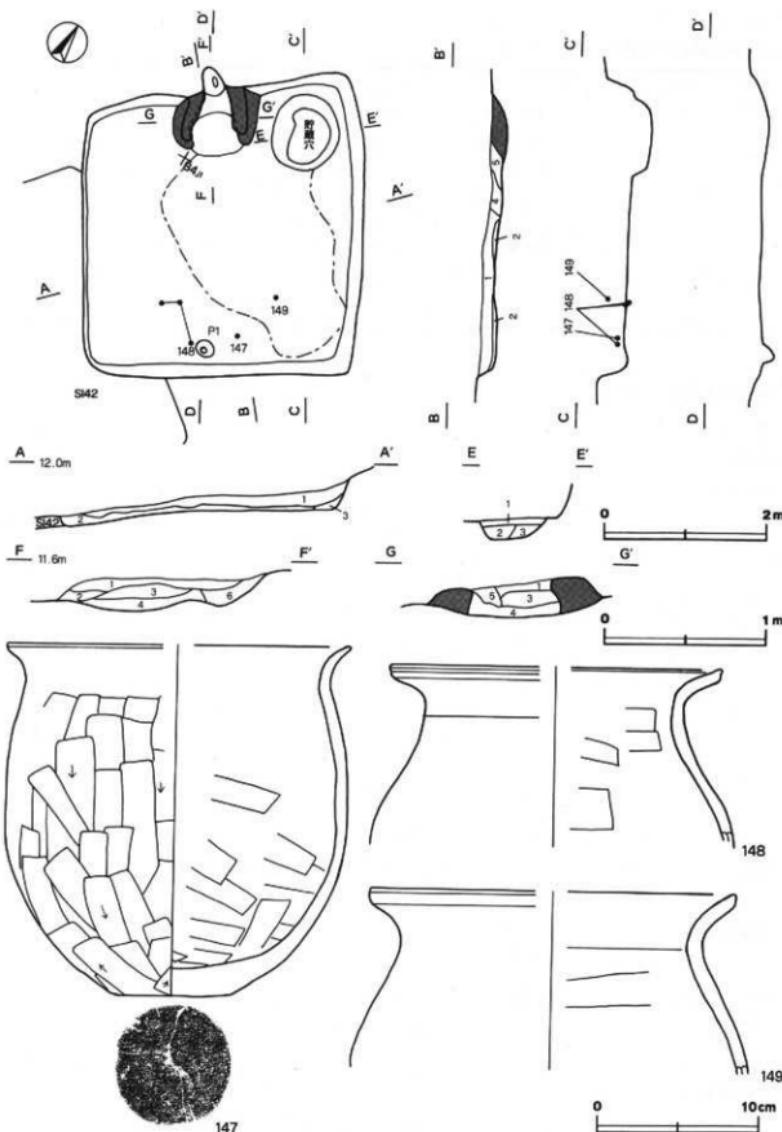
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | | | |
|---|----|---------------------|---|-------|---------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子・礫混入 | 4 | にぶい褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック少量 | | | |

遺物出土状況 上師器片199点（壺11、甌188）、須恵器片2点のほかに、流れ込みと思われる弥生上器片7点（広口壺）、陶器片1点（不明）、土師質土器片1点（焰烙）、環2点が南東部を中心に出土している。147は南東壁寄りの覆土下層、148はP1付近の覆土下層、149は東コーナー寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。



第69図 第38号住居跡・出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表（第69図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 手 法 の 特徴 | 出土位置 | 備 考 |
|-----|-----|----|--------|--------|-----|------------------|------|------------|--------------------|------|-----|
| 147 | 土 器 | 甕 | [21.2] | 21.6 | 7.0 | 雲母・長石・石英
等 | にぶい褐 | 普通
ハフ削り | 体部外面ハラ削り 内面ヘラナデ 底部 | 下 層 | 55% |
| 148 | 土 器 | 甕 | [20.4] | (11.0) | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ナデ 内面ヘラナデ | 下 層 | 5% |
| 149 | 土 器 | 甕 | [22.4] | (11.0) | — | 雲母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部外面ナデ 内面ヘラナデ | 中 層 | 5% |

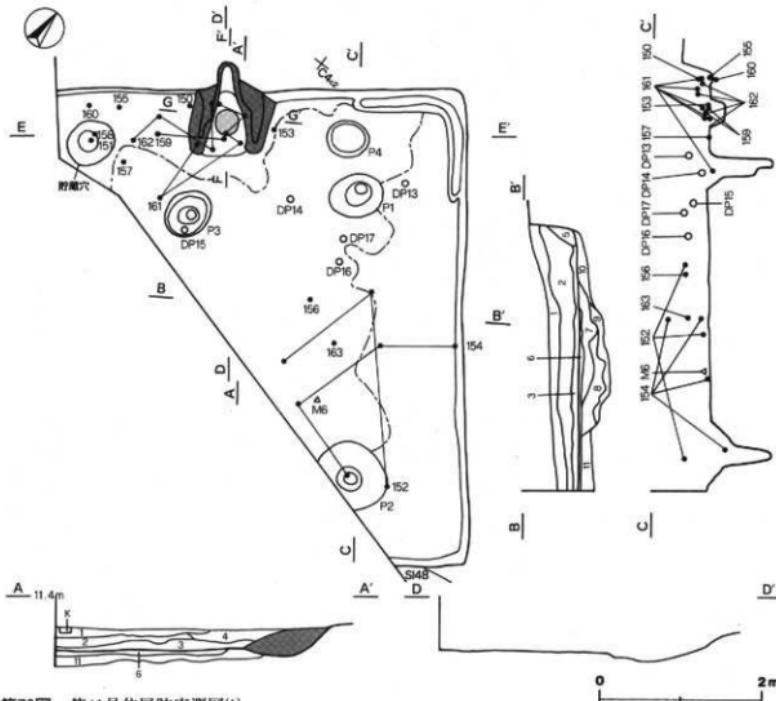
第41号住居跡（第70～73図）

位置 調査2区南部のC4c2区に位置し、低位段丘上の南西方向への斜面部に立地している。

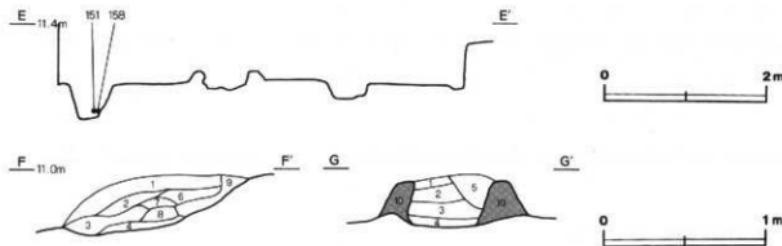
重複関係 第48号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、長軸5.94m、短軸は5.06mほどが確認され、主軸方向がN-41°-Wで方形と推定される。壁高は30～56cmほどで、外傾して立ち上がっていている。

床 ほぼ平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。また、北コーナーの壁下には断面U字形の整構が確認された。掘り方は中央部が不整楕円形状に34cmほど掘りくぼめられ、ロームブロックで厚さ8cmほどの床が貼られている。



第70図 第41号住居跡実測図(1)



第71図 第41号住居跡実測図(2)

竈 西北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで120cm、袖部幅は100cmほどである。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込まれ、緩やかに外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、土層断面図の第2・6・7層が崩落した天井の一部である。袖部は、砂・粘土・ロームで構築されている。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、床面をわずかに掘りくぼめて作られており、火床面は赤変硬化している。

壁層解説

| | | | |
|--------|-----------------------------|----------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂粒・ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 棕褐色 | 砂粒・粘土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂粒・粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂粒・ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 棕褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 ぶい赤褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

ピット 4か所。P 1は深さ83cm、P 2は深さ77cmほどで配置から主柱穴と考えられる。P 3・P 4の深さは20・36cmほどであり、性格は不明である。

貯蔵穴 平面形は梢円形を呈し、西コーナー部に付設されている。深さは44cmほどで底面は皿状を呈し、壁は、外傾して立ち上がっている。

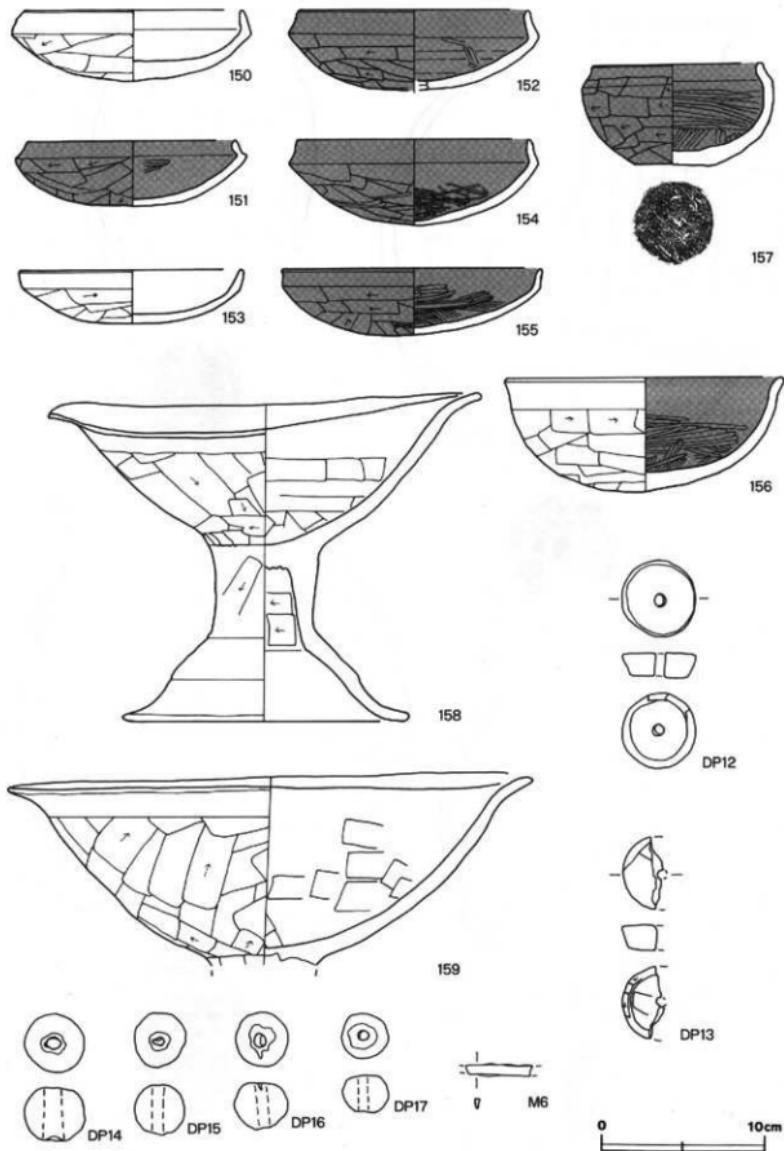
覆土 11層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

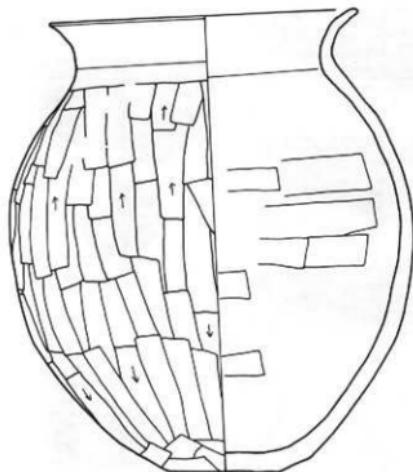
| | | | |
|-------|-------------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 黑褐色 | ロームブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片324点（壺56、高杯3、楕2、甕263）、須恵器片2点、土製品11点（支脚片5、紡錘車2、球状土錐4）、鉄製品1点（刀子）のほかに、後世の耕作により混入したと思われる繩文土器片1点（深鉢）、弥生土器片72点（広口壺）、陶器片3点（碗類2、不明1）、土師質土器片1点（焰烙）、甕4点が南西部から中央北東寄りを中心に出土している。150は竈左袖脇、153は竈右袖脇からそれぞれ逆位で出土し、159は竈左袖脇と竈内から出土している。また貯蔵穴内からは、151・158が出土している。さらに、161と162は竈内の破片が接合したものである。

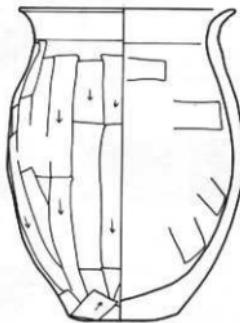
所見 貯蔵穴内と竈周辺から大形の高杯が出土しており、6世紀後半における当集落内での中心的な住居と考えられる。



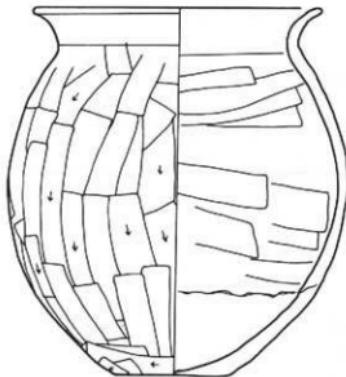
第72図 第41号住居跡出土遺物実測図(1)



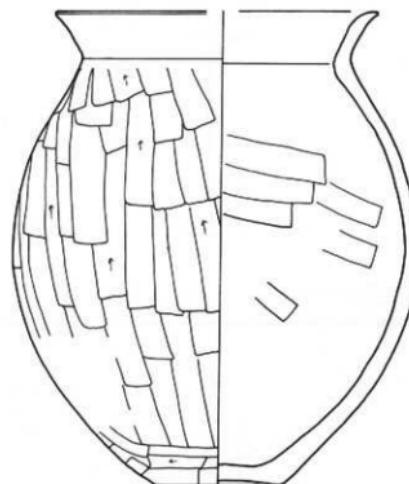
160



163



162



161

0 10cm

第73図 第41号住居跡出土遺物実測図(2)

第41号住居跡出土遺物観察表（第72・73回）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 施上 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-----|--------|--------|-------|-----------------|------------|----|--|-------|----------------------|
| 150 | 土師器 | 壺 | 13.5 | 4.3 | — | 雲母・長石・石英
赤鉄子 | にぶい黄
褐色 | 普通 | 体部外側ヘラ削り 内面ナダ | 下層 | 100% PL24 |
| 151 | 土師器 | 壺 | 12.8 | 4.0 | — | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外側ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ
磨き | 貯藏穴内 | 90% PL24
内・外面黑色處理 |
| 152 | 土師器 | 壺 | 14.2 | 5.0 | — | 長石・石英 | にぶい赤
褐色 | 普通 | 体部外側ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ
磨き | 上層～下層 | 70% PL24
内・外面黑色處理 |
| 153 | 土師器 | 壺 | 13.7 | 3.3 | — | 長石・石英
赤鉄子 | にぶい黄
褐色 | 普通 | 体部外側ヘラ削り 内面ナダ | 下層 | 70% |
| 154 | 土師器 | 壺 | 14.5 | 5.3 | — | 雲母・長石 | 黒褐 | 普通 | 体部外側ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ
磨き | 上層～下層 | 60% PL24
内・外面黑色處理 |
| 155 | 土師器 | 壺 | 16.0 | 4.1 | — | 雲母・長石・
石英 | 黒灰 | 普通 | 体部外側ヘラ削り 後ヘラ磨き 内面ヘ
ラ磨き | 下層 | 95% PL24
内・外面黑色處理 |
| 156 | 土師器 | 壺 | 17.0 | 7.3 | — | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外側ヘラ削り 内面ヘラ磨き | 中層 | 90% PL24
内面黑色處理 |
| 157 | 土師器 | 壺 | 10.2 | 6.3 | 5.1 | 長石・石英 | 黒褐 | 普通 | 体部外側ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部
ヘラ削り | 床面 | 90% PL24
内・外面黑色處理 |
| 158 | 土師器 | 高壺 | 26.7 | 30.4 | 17.7 | 雲母・長石・
石英 | にぶい橙 | 普通 | 環体部外側ヘラ削り 内面ヘラナダ 腹
部内・外側ヘラ削り 腹部内・外面ナダ | 貯藏穴内 | 95% PL25 |
| 159 | 土師器 | 高壺 | 32.0 | (11.6) | — | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 環体部外側ヘラ削り 内面ヘラナダ | 下層 | 50% PL25 |
| 160 | 土師器 | 壺 | 18.9 | 28.9 | 6.5 | 雲母・長石・
石英 | 淡青・黒
褐色 | 普通 | 口辺部横ナダ 体部外側ヘラ削り 内面
ヘラナダ 底部ヘラ削り | 床面 | 95% PL25 |
| 161 | 土師器 | 壺 | [19.8] | 29.5 | 7.8 | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部横ナダ 体部外側ヘラ削り 内面
ヘラナダ 底部ヘラ削り | 窓内 | 80% PL25 |
| 162 | 土師器 | 壺 | 17.4 | 22.9 | [7.0] | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部横ナダ 体部外側ヘラ削り 内面
ヘラナダ 底部ヘラ削り 磨損状 | 窓内・下層 | 70% PL25 |
| 163 | 土師器 | 小形壺 | 13.2 | 19.4 | 6.7 | 雲母・長石・
石英 | 黒褐 | 普通 | 口辺部横ナダ 体部外側ヘラ削り 内面
ヘラナダ 底部ヘラ削り | 中層 | 70% PL25 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|-------|-----|--------|----|---------------|------|------|
| DP12 | 紡錘車 | 4.7 | 4.6 | 1.5 | 40.3 | 土製 | ナダ 片面穿孔 斜面台形 | 廻土中 | PL37 |
| DP13 | 紡錘車 | 4.5 | (2.5) | 1.5 | (18.3) | 土製 | ナダ 1/2残存 斜面台形 | 中層 | |
| DP14 | 球狀土器 | 3.7 | 3.3 | 1.3 | 40.0 | 土製 | ナダ 片面穿孔 | 下層 | PL37 |
| DP15 | 球狀土器 | 3.3 | 3.2 | 0.7 | 33.2 | 土製 | ナダ 片面穿孔 | 下層 | PL37 |
| DP16 | 球狀土器 | 3.3 | 2.9 | 0.7 | 31.4 | 土製 | ナダ 片面穿孔 | 中層 | PL37 |
| DP17 | 球狀土器 | 2.9 | 2.3 | 0.7 | 20.5 | 土製 | ナダ 片面穿孔 | 中層 | PL37 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|-------|----|------------|------|----|
| M 6 | 刀子 | (4.1) | 0.8 | 0.3 | (2.9) | 銅製 | 刃部の破片 穴部欠損 | 下層 | |

第43号住居跡（第74～76回）

位置 椰柵8区南部のC5g0区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 北東コーナーが擾乱を受け、南西部が調査区域外に延びており、長軸は6.4m、短軸は5.8mほどが確認され、主軸方向はN-20°-Wで長方形と推定される。壁高は25cmほどで、外傾して立ち上がっている。

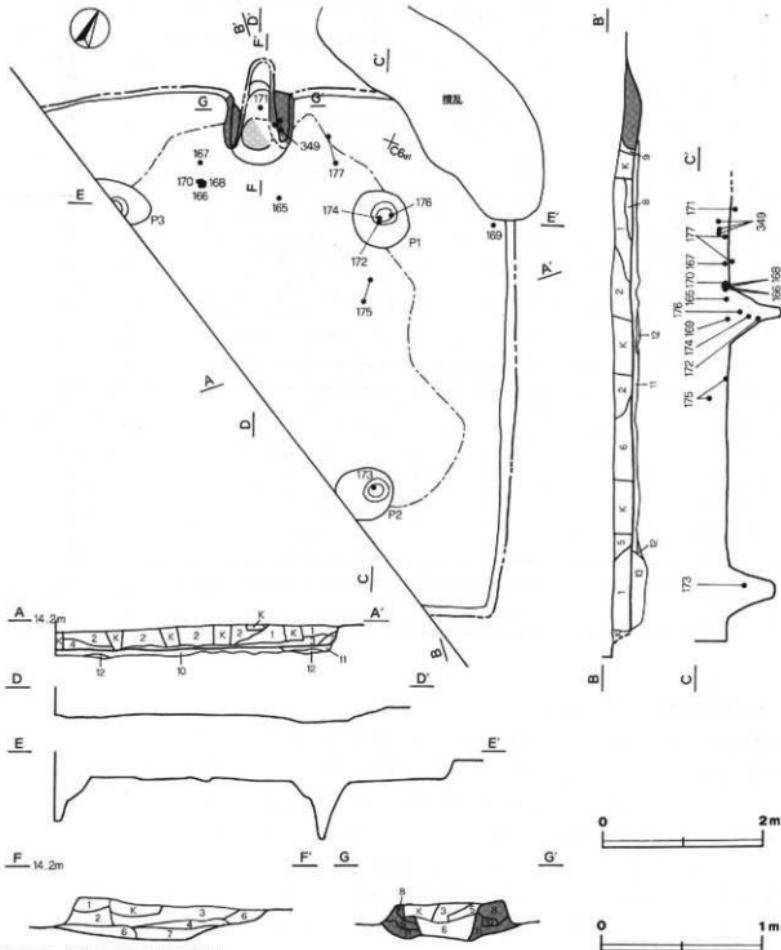
床 ほぼ平坦な貼床で壁際を除いて踏み固められている。掘り方は、南東コーナー部が方形状に20cmほど掘りくぼめられ、ロームブロックで厚さ6cmほどの床が貼られている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで132cm、袖部幅は84cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは32cmほどで、緩やかに外傾して立ち上がっている。袖部は褐色土で基部を作り、その上部に砂粒・粘土・ロームを積み上げて構築されている。火床部は北壁ラインの内側に位置し、床面をわず

かに掘りくぼめて作られ、火床面は赤変硬化している。

竪土層解説

| | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、砂粒・粘土粒子・ローム粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、砂粒・粘土粒子・ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| | | 11 黑色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |



第74図 第43号住居跡実測図

ピット 3か所。P 1～P 3は、深さ56～64cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。

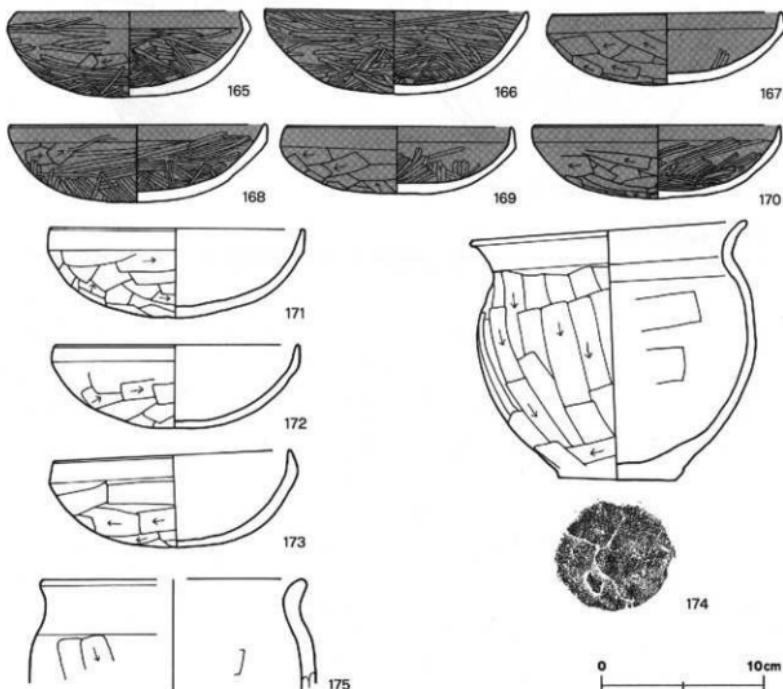
覆土 13層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。10～13層が掘り方の土層である。

土層解説

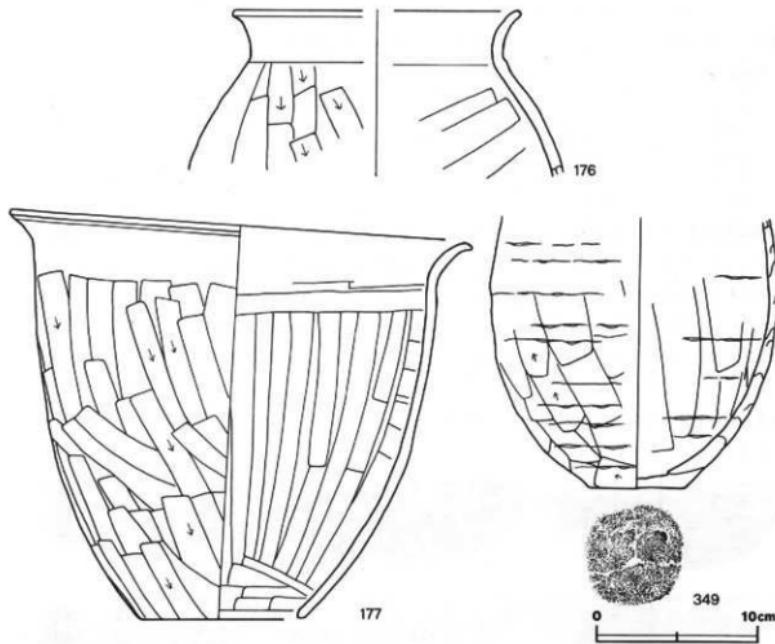
| | | | |
|-------|-----------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片540点（坏94、高坏8、甕・瓶類438）、須恵器片3点（坏）、土製品2点（支脚片）のほかに、後世の搅乱により混入したと思われる弥生土器片35点（広口壺）、土師質土器片1点（焙烙）、礫3点が甕やP 1付近を中心に出土している。165は焚口手前、167は甕左袖外側、169は北東壁際の覆土下層からそれぞれ正位の状態で出土している。166・168・170は甕左袖から南に寄った位置から、3枚重なった状態で出土している。P 1内からは172・174・176が、P 2内からは173が斜位でそれぞれ出土している。甕内からは349の甕が出土している。

所見 甕周辺や柱穴内からの出土が多く、柱穴内は柱の抜き取り後に入り込んだと考えられ、時期は6世紀後半と考えられる。



第75図 第43号住居跡出土遺物実測図(1)



第76図 第43号住居跡出土遺物実測図(2)

第43号住居跡出土遺物観察表（第75・76図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-----|--------|--------|-----|------------------|----------|----|-------------------------------|-------|------------------|
| 165 | 土師器 | 环 | 14.0 | 5.2 | — | 雲母・長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 下層 | 95% PL26 内・外黒色処理 |
| 166 | 土師器 | 环 | 16.1 | 5.1 | — | 長石・石英 | 褐灰 | 普通 | 体部外面ヘラ磨き | 下層 | 95% PL26 内・外黒色処理 |
| 167 | 土師器 | 环 | 14.3 | 4.3 | — | 雲母・長石・石英 | 暗赤灰 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 下層 | 90% PL26 内・外黒色処理 |
| 168 | 土師器 | 环 | 15.8 | 4.9 | — | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 下層 | 85% PL26 内・外黒色処理 |
| 169 | 土師器 | 环 | 14.0 | 4.2 | — | 雲母・長石・石英 | 褐灰・にぶい黄橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 下層 | 80% PL26 内・外黒色処理 |
| 170 | 土師器 | 环 | 15.4 | 4.5 | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 下層 | 70% PL26 内・外黒色処理 |
| 171 | 土師器 | 环 | 15.8 | 5.5 | — | 長石・石英 | にぶい黄 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 竪内 | 70% PL26 |
| 172 | 土師器 | 环 | 15.0 | 5.1 | — | 雲母・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | P 1内 | 60% PL26 |
| 173 | 土師器 | 环 | 14.5 | 5.9 | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | P 2内 | 100% PL27 |
| 174 | 土師器 | 小形甕 | 17.0 | 16.0 | 7.2 | 雲母・長石・石英 | にぶい橙・灰褐 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り | P 1内 | 100% PL27 |
| 175 | 土師器 | 甕 | [16.0] | (7.0) | — | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ | 中層～下層 | 10% |
| 176 | 土師器 | 甕 | [17.7] | (10.2) | — | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ | P 1内 | 30% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|------|--------|------|-------|------|----|--------------------------------------|------|----------|
| 349 | 土器 | 甕 | 一 | (16.7) | 6.0 | 長石・石英 | にぼい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部
ヘラ削り 体部内・外面輪積痕 | 底部 | 龜内 40% |
| 177 | 土器 | 甕 | 28.4 | 25.2 | 10.1 | 長石・石英 | にぼい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ | 下層 | 80% PL26 |

第44号住居跡（第77・78図）

位置 調査8区の中央部C612区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第81号土坑に掘り込まれ、耕作による擾乱を受けている。

規模と形状 長軸3.67m、短軸3.47mほどの方形で、主軸方向はN-38°-Wである。壁高は20~26cmほどで、外傾して立ち上がっている。

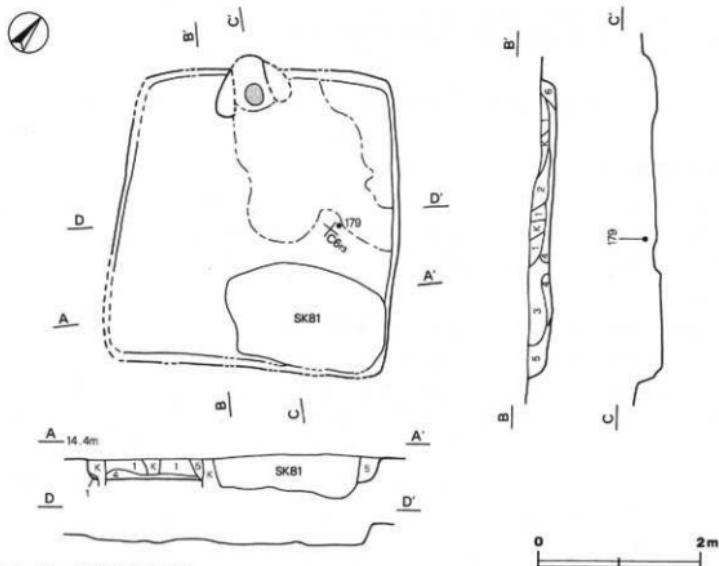
床 ほぼ平坦で、北コーナー付近が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。耕作による擾乱で壊されているため、床面に残る粘土とわずかに赤変している火床面から竈の範囲を推定した。焚口部から煙道部先端まで70cm、袖幅部は88cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは16cmほどで、急激に立ち上がっていったと考えられる。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、床面をわずかに掘りくぼめており、火床面は赤変している。

覆土 6層に分層される。不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | | | |
|---|-----|-------------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |

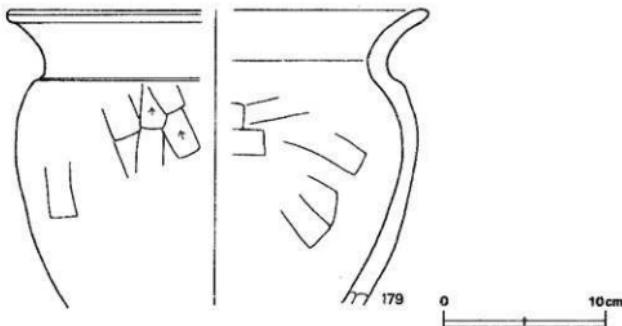


第77図 第44号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片103点（坏3、高坏1、甕・瓶類98、器台1）、須恵器片9点（坏8、高台付坏1）、土製品（鉢鉢車）のほかに、混入したと思われる繩文土器片2点（深鉢）、弥生土器片29点（広口甕）、陶器片23点（碗8、鉢7、土鍋8）。土師質土器片1点（小皿）、瓦質土器片7点（涼炉）、が中央部から北コーナー部にかけて出土しているが、細片が多く図示できるものは少ない。本跡は近世の墓域内に存在するため、その時期の遺物及び周囲に存在する遺構の遺物が、トレンチャによる搅乱のため多く混入しているものと考えられる。

179は北東壁寄り覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉から8世紀前葉と考えられる。



第78図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表（第78図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|----|-------|-----|----|------------------------|------|-----|
| 179 | 土師器 | 甕 | [25.6] | (18.1) | — | 長石・石英 | 明褐色 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ヘラナデ | 下層 | 10% |

第45号住居跡（第79～81図）

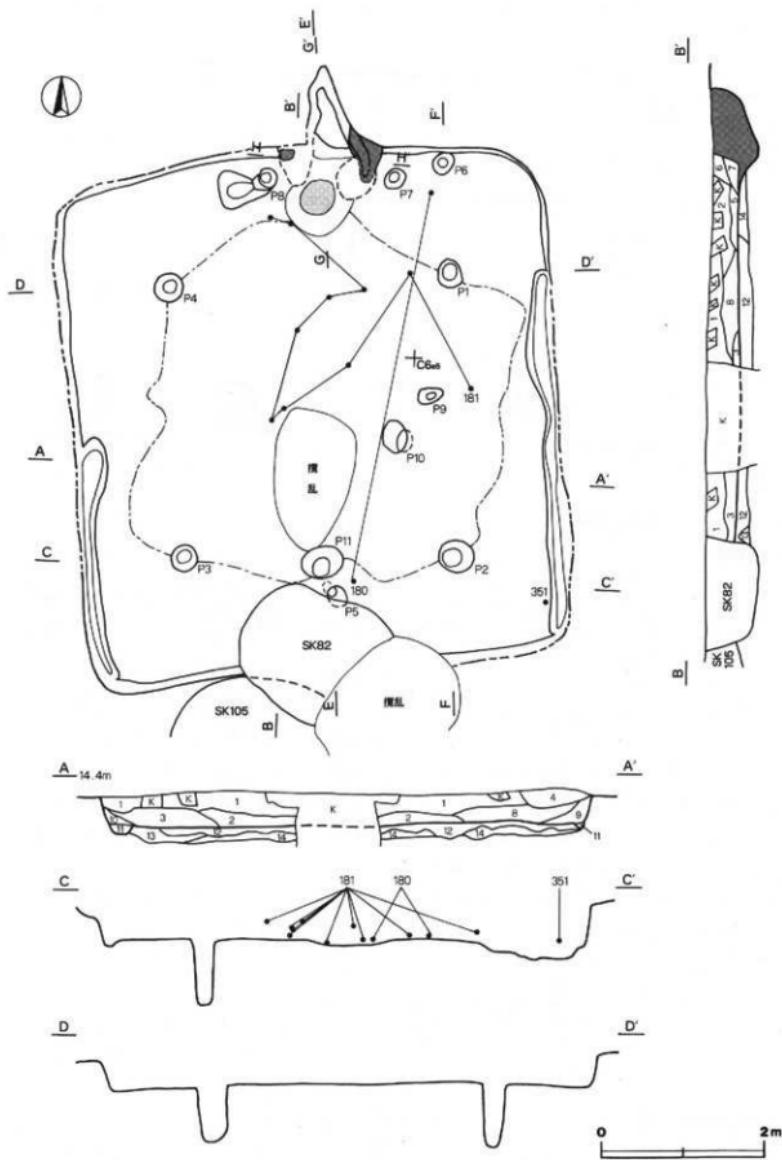
位置 調査8区北東部のC6e4区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 南壁中央部を第82・105号土坑に掘り込まれ、さらに中央部が搅乱されている。

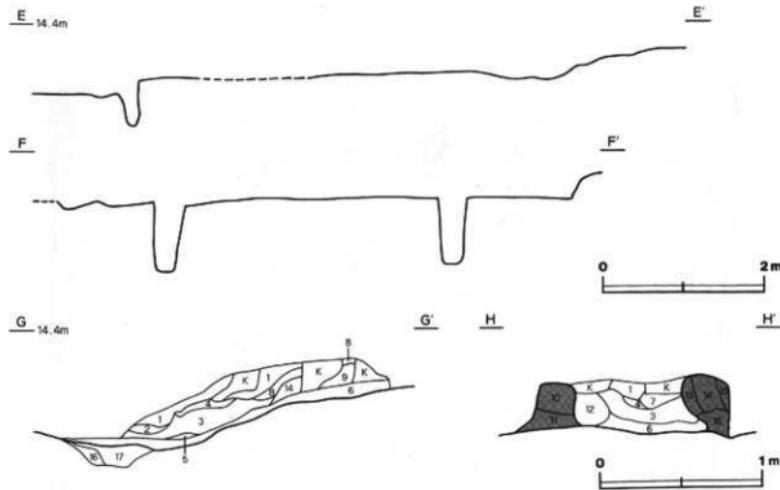
規模と形状 長軸6.5m、短軸6.0mほどの方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は40～45cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められ、東西壁に断面U字形の壁溝が造っている。掘り方は、各コーナー部が不整規円形状に20～30cmほど掘りくぼめられ、焼土・炭化粒子・ロームを含んだ土で埋め戻されている。また中央部は、ロームブロックで厚さ12cmほどの床が貼られている。

壁 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで216cm、左袖部が壊されているが、袖部幅は残存部から112cmほどと推定される。煙道部の壁外への掘り込みは100cmほどで、緩やかに外傾して立ち上がりっている。天井部は崩落しており、土層断面図中第8層が崩落した天井の一部である。袖部は、黒褐色土で基部を作り、その上部に砂粒・粘土・ロームを積み上げて構築されている。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、床面をわずかに掘りくぼめており、火床面は赤変している。



第79図 第45号住居跡実測図(1)



第80図 第45号住居跡実測図(2)

竪土層解説

| | | | |
|---------|-----------------------------------|----------|-------------------------------|
| 1 帯赤灰色 | 砂粒・粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 黒 色 | 砂粒・粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 帯赤褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 帯赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒・粘土粒子微量 |
| 3 帯赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 10 帯黄褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂粒・粘土粒子中量、炭化粒子少量 | 11 黒 色 | ロームブロック中量 |
| 5 赤褐色 | 炭化粒子・焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 12 黒 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にじ赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 帯赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂粒・粘土粒子中量 |
| 7 帯褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 | 14 にじ赤褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子微量 |
| | | 15 帯褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ロームブロック微量 |
| | | 16 黒 色 | 砂粒・粘土粒子多量、ロームブロック微量 |
| | | 17 帯赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂粒・粘土粒子少量 |

ピット 11か所。P 1～P 4は深さ70～80cmほどであり、配置から主柱穴と考えられ、P 5は深さ60cmほどで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 11は、掘り方の調査時に検出されたものであり、P 6～P 8は竪付近に並び、竪と何らかの関係が想定されるが、P 9・P 10とあわせて性格は不明である。P 11は配置的に、出入り口施設に関連するピットと考えられる。

覆土 14層に分層される。各層にロームブロック、焼土、炭化物を含んでいることから人為堆積と考えられる。

12～14層は掘り方の埋土である。

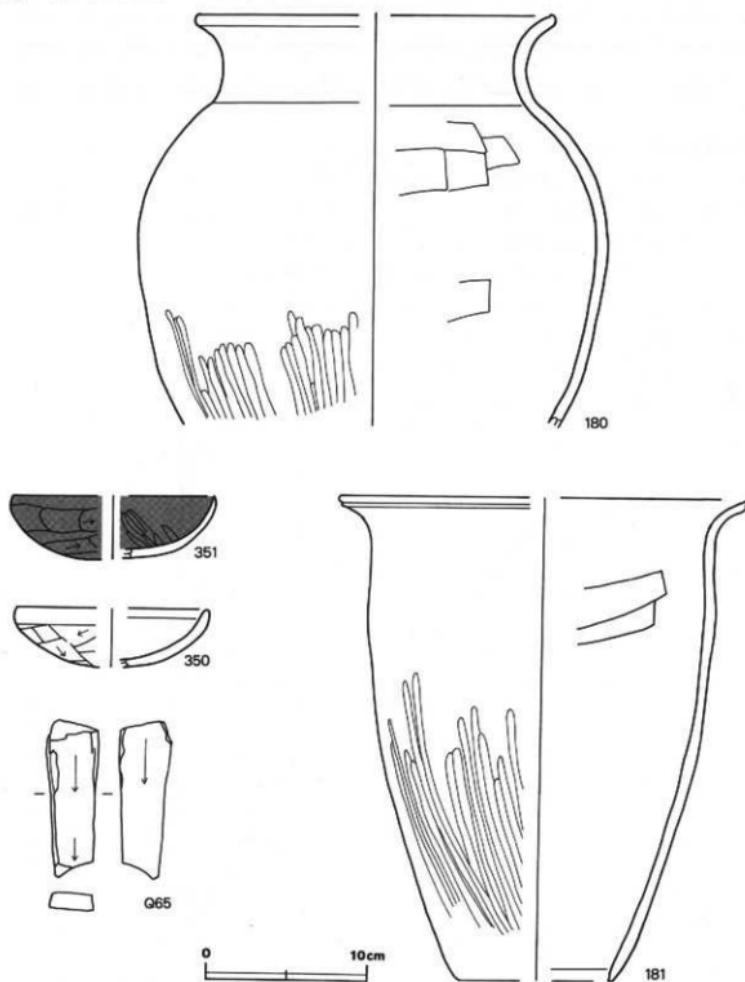
土層解説

| | | | |
|--------|--------------------------|--------|------------------|
| 1 帯褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒 色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 帯褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 帯褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 帯褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 帯褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 帯褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 | 11 帯褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 帯褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 黒 色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 6 黒 色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 13 黒 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 7 帯赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒・粘土粒子少量 | 14 黒 色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片392点（壺94、高杯1、甕、瓶類554）、須恵器片9点（壺3、甕6）、後世の擾乱により混入したと思われる弥生土器片198点（広口壺）、陶器片13点（碗5、擂鉢4、土鍋4）、土師質土器片10点（培焰4、内耳鍋6）、石器2点（砥石）、礫5点がほぼ全域から散在して出土している。350は覆土中、351は南東

コーナー部の床面からそれぞれ出土したものである。180は竈右袖外側付近の覆土下層から出土し、181は中央部の覆土下層から散在した状態で出土した破片が接合したもので、投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第81図 第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表（第81図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|-------|-----|----|---------------|------|----|----------------|------|-----|
| 350 | 土師器 | 壺 | [122] | 3.6 | — | 赤土・長石・石英
混 | にぶい褐 | 普通 | 体部外表面ハラ削り 内面ナデ | 覆土中 | 40% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 脚高 | 底様 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|---------------|------|----------|------------------|------|-----------------|------------------|------|-----------------|
| 351 | 土師器 | 环 | [12.6] | 3.9 | | 青灰・長石・石英
他色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き | 床 面 | 30%
内・外墨黒色處理 |
| 180 | 土師器 | 甕 | [22.0] (25.6) | — | 青灰・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ | 下 突 | 35% | |
| 181 | 土師器 | 甕 | [25.1] | 30.2 | [9.6] | 青灰・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外曲面ヘラ削り 内面ヘラナデ | 下 突 | 60% PL27 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|--------|-----|------|------|----|
| Q66 | 砥石 | (9.7) | 3.2 | 1.0 | (58.3) | 礫状岩 | 砥面2面 | 甕上中 | |

第46号住居跡（第82～84図）

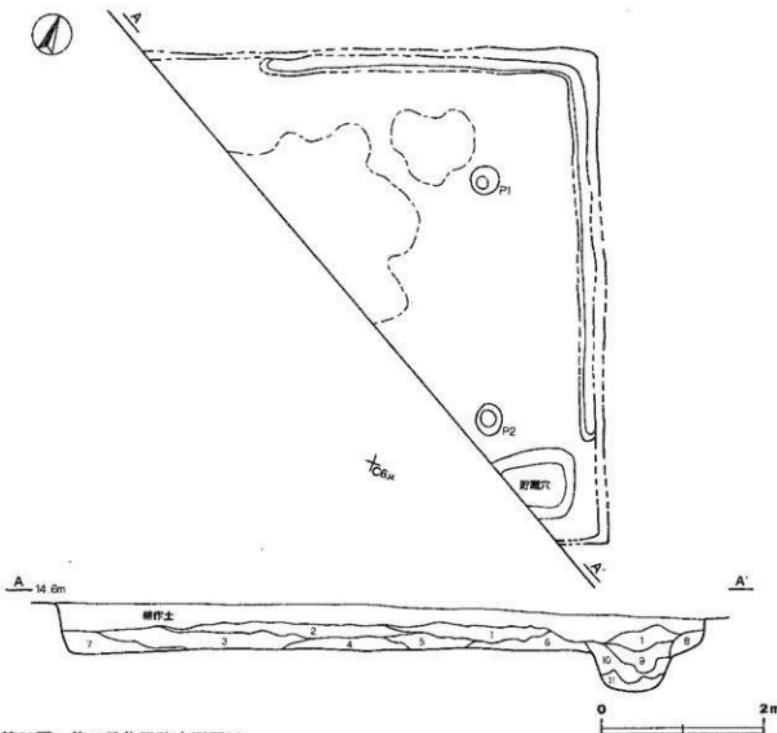
位置 調査8区南東部のC 613区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、長軸6.20m、短軸5.42mほどが確認され、主軸方向はN-33°Wで方形と推定される。壁高は30～40cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められ、北・東壁に断面U字形の整溝が巡っている。

ピット 2か所。深さはP1が76cm、P2が72cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。

竈・炉 痕跡は確認できなかった。



第82図 第46号住居跡実測図(1)

貯藏穴 一部調査区域外に延びるが、平面形は方形を呈し、南東コーナー部に付設されている。深さは44cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

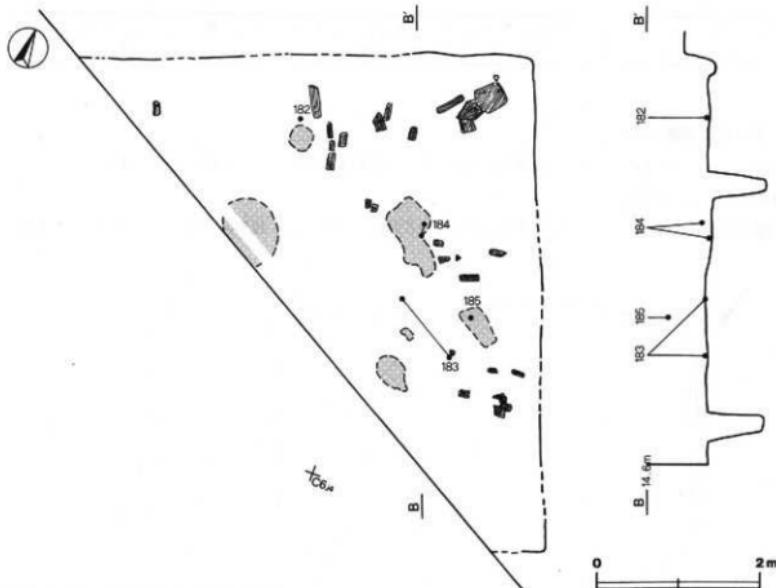
覆土 8層に分層される。各層に焼土、炭化物を含み、不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。9~11層は貯藏穴の覆土である。

土層解説 (9~11層は貯藏穴)

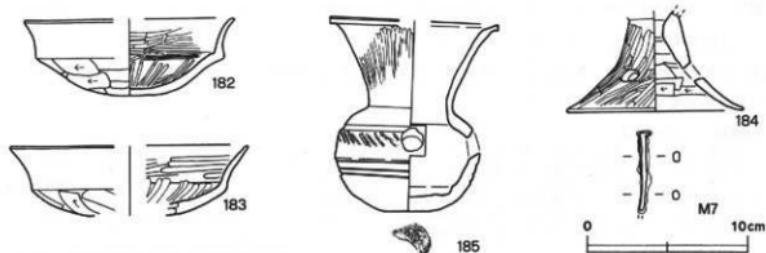
| | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 閑色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 閑色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片298点(坏47、鉢6、甕242)、須恵器片10点(坏9、甕1)、土製品1点(球状土錐)のほかに、後世の搅乱による混入と思われる弥生土器片83点(広口壺)、陶器片8点(碗5、鉢3)、土師質土器片1点(焙烙)、鉄製品1点(釘)、古銭3点、環7点が北東部を中心に出土している。炭化材が覆土下層から床面にかけて検出され、焼土塊も床面に數か所散在しており焼失住居である。182は北西壁寄りの覆土下層、183は東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。また、185は東壁際の覆土上層から出土している。184は覆土下層から出土しているが混入と考えられる。

所見 本跡は焼失住居で、瓦が出土しているが、覆土上層からの出土であり、投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第83図 第46号住居跡出土遺物実測図



第84図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第84図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|-------|------|------------------|------|----|---------------------------------|------|----------|
| 182 | 土師器 | 壺 | [12.9] | 4.8 | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部外表面ヘラ削り 口縁部・体部内面ヘラ磨き | 下層 | 80% PL27 |
| 183 | 土師器 | 壺 | [14.8] | (4.3) | — | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部外表面ヘラ削り 口縁部・体部内面ヘラ磨き | 下層 | 20% |
| 184 | 土師器 | 器台 | — | (6.3) | 10.9 | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 脚部外表面ヘラ磨き 内面ヘラ削り | 下層 | 80% |
| 185 | 須恵器 | 甌 | [10.3] | 12.1 | 2.6 | 長石・輝 | 灰黄 | 普通 | 口縁部外表面の櫛摺文 体部外表面櫛削
状工具による刺突文 | 上層 | 80% PL27 |

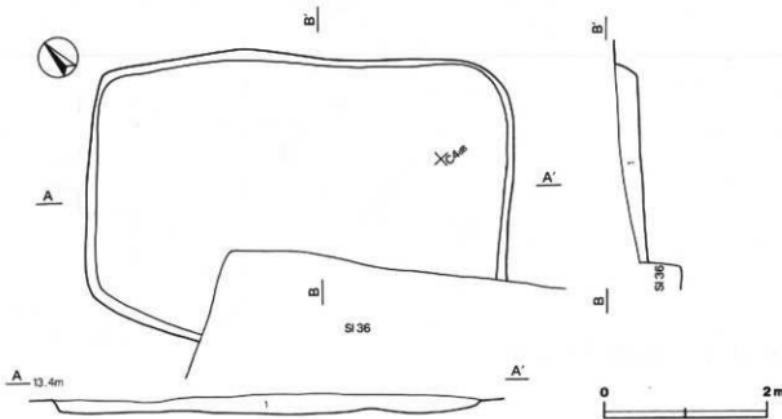
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|-------|----|----|------|----|
| M 7 | 釘 | (5.1) | 0.9 | 0.7 | (4.4) | 鉄製 | 角釘 | 覆土中 | |

第47号住居跡（第85図）

位置 調査3区西部のC4c7区に位置し、中位段丘から低位段丘の南西方向への斜面部に立地している。

重複関係 第36号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が第36号住居に掘り込まれているため、長軸5.23m、短軸は2.56mほどが確認され、主軸方



第85図 第47号住居跡実測図

向はN-44°-Wで長方形と推定される。壁高は12~25cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

覆土 単一層である。礫や鹿沼ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 にぶい褐色 磨中量、ロームブロック・鹿沼ブロック少量

遺物出土状況 出土していない。

所見 残存した掘り込みから住居跡と判断した。時期は、本跡を掘り込んでいる第36号住居跡が7世紀前半と判断されるため、それ以前と考えられる。

第52号住居跡（第86図）

位置 調査7区北部のC6 18区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 北・西部が調査区域外に延びているため、長軸が3.81m、短軸が2.44mほど確認され、主軸方向はN-66°-Wで長方形と推定される。壁高は12cmほどで外傾して立ち上がり、耕作による擾乱を受けている。

床 ほぼ平坦である。

竈 調査区域外に存在すると推定される。

ピット 1か所。深さは68cmほどで、配置から主柱穴と考えられる。

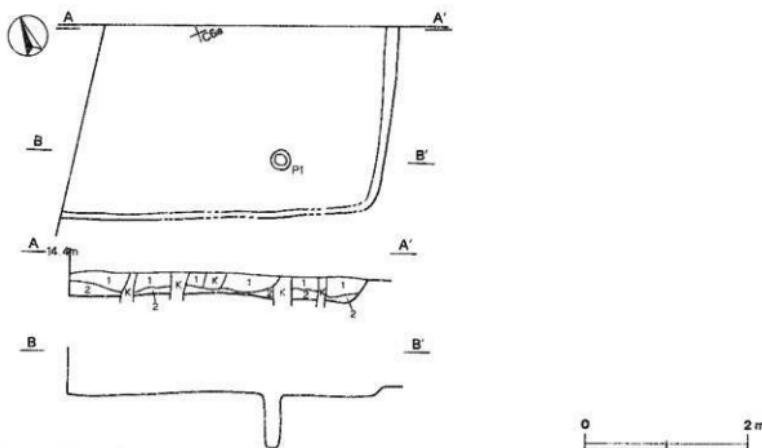
覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 喀 極 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 極 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片59点（坏7、甕類52）、須恵器片5点（坏類）、土製品1点（球状土錐）のほかに、流れ込んだと思われる弥生土器片18点（広口盞）、陶器5点（碗類）、鐵製品1点（不明）が覆土中から出土しているが、細片が多く図示できるものはない。

所見 時期は、出土土器の様相から判断して、6世紀代と考えられるが明確ではない。



第86図 第52号住居跡実測図

第53号住居跡（第87・88図）

位置 調査7区南東部のD7a1区に位置し、中位段丘から低位段丘の南東方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第95号土坑に掘り込まれている。また、耕作による搅乱を受けている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、長軸は4.20m、短軸は1.76mほどが確認され、主軸方向はN-53°Wで長方形と推定される。壁高は22cm~32cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

電 南部の調査区域外に存在すると推定される。

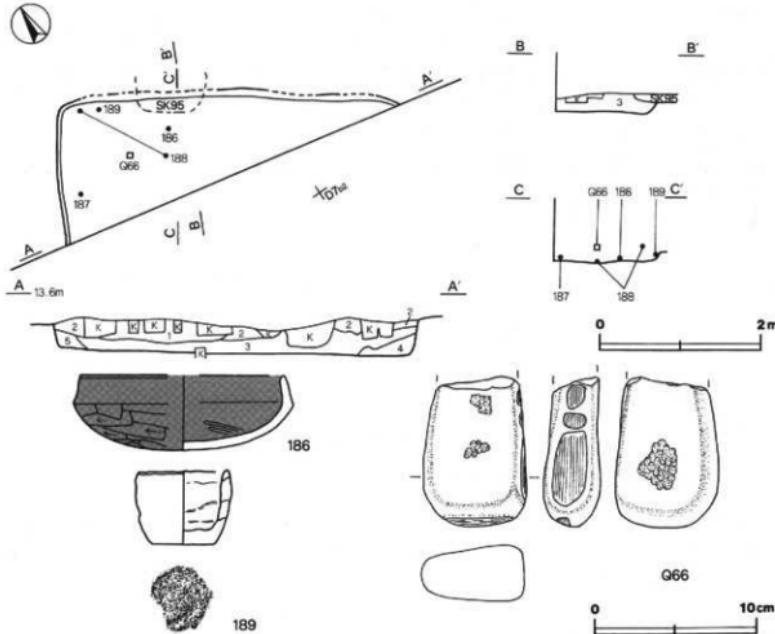
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

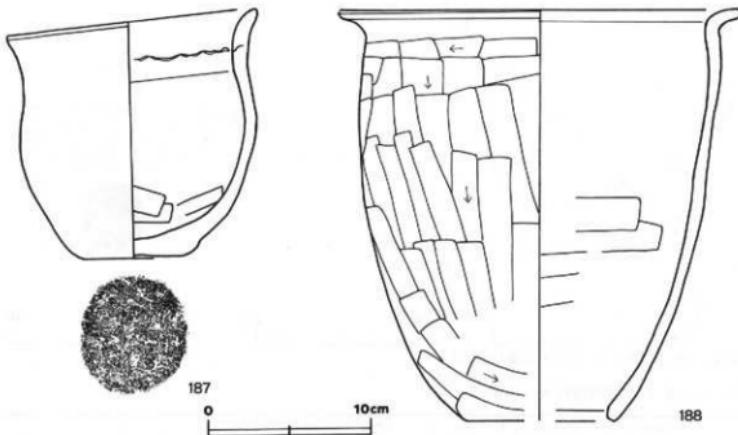
| | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量 | 4 墓園色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 墓園色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片286点（坏4、甕・瓶類281、手捏土器1）、須恵器片1点（坏）、石器1点（磨石）のほかに、流れ込みと思われる弥生土器片4点（広口壺）が北西部を中心に出土している。186は、正位で北東壁寄りの床面、187は横位で西壁際の床面、189は横位で北コーナー際の覆土下層からそれぞれ出土している。188は186の南西寄りの位置から、つぶれた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第87図 第53号住居跡・出土遺物跡実測図



第88図 第53号住居跡出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表（第87・88図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|------|-------|----------|--------|----|-------------------|-------|-----------------|
| 186 | 土師器 | 壺 | [12.6] | 4.7 | — | 雲母・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き | 床面 | 50%
内・外側黒色毛層 |
| 187 | 土師器 | 甕 | 15.3 | 15.1 | 6.2 | 長石・石英 | にぶい赤褐色 | 普通 | 体部外面削減 内面ヘラナデ 縦積板 | 床面 | 75% PL27 |
| 188 | 土師器 | 甕 | 24.6 | 25.3 | [9.4] | 長石・石英・鐵 | にぶい黄褐色 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ | 中層一下層 | 60% PL32 |
| 189 | 土師器 | 手捏 | 5.4 | 4.6 | 3.8 | 雲母・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ナデ 内面輪積痕 | 下層 | 100% PL27 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|---------|----|----------------|------|----|
| Q66 | 磨石 | (9.4) | 6.4 | 3.6 | (331.2) | 砂岩 | 下端・側面磨損あり 敷石転用 | 中層 | |

第54号住居跡（第89図）

位置 調査6区北部のC7f0区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため、長軸は1.96m、短軸は1.30mほど確認され、主軸方向はN-53°-Wで方形と推定される。壁高は20cmほどで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

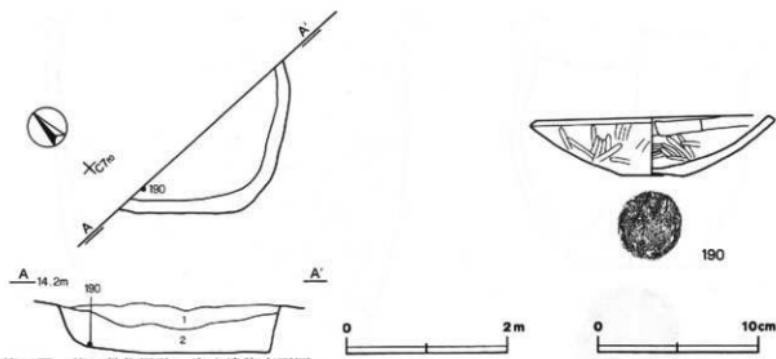
土層解説

1 黒色 ローム粒子・礫小微量

2 黒褐色 種少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片13点（甕類）、甕1点が出土している。190の甕底部は西コーナー付近の覆土下層から出土し、破碎面が研磨され、皿に転用されていたと推定される。

所見 出土土器の様相から判断して、時期は6世紀代と考えられるが、遺物は細片が多く明確ではない。



第89図 第54号住居跡・出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表（第89図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|------|-----|-----|-------|-----|----|------------------------------|------|------|
| 190 | 土器 | 壺 | 14.6 | 3.8 | 3.8 | 長石・石英 | 灰褐色 | 普通 | 体部外表面ハラ削り後ハラ磨き 内面ハラ磨き 底部ハラ削り | 下層 | 100% |

第55号住居跡（第90・91図）

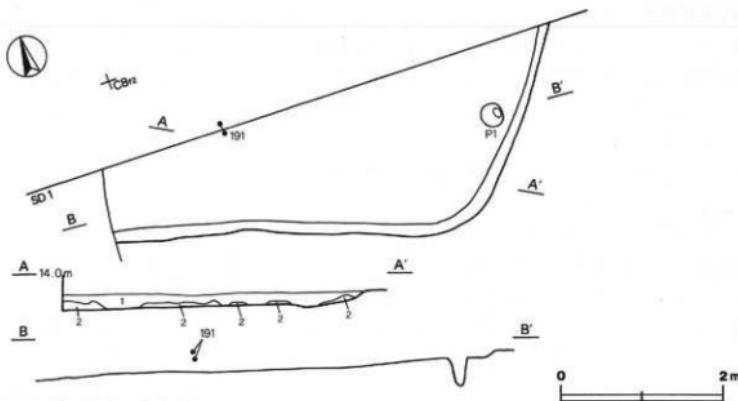
位置 調査6区北部のC822区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため、長軸は4.80m、短軸は2.44mほど確認され、主軸方向はN-66°Wで方形と推定される。壁高は8cm~14cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は深さ34cmほどであり、配置から出入り口施設に伴うものと考えられるが、性格は不明である。



第90図 第55号住居跡実測図

覆土 2層に分層される。不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

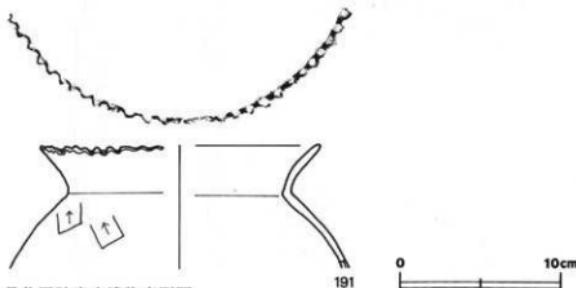
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 黑褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片26点（塔1、甕25）のほかに、流れ込みと思われる赤生土器片6点（広口壺）が出土している。波状口縁を持つ191は南西部の調査区域との境界部覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



第91図 第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表（第91図）

| 番号 | 種別 | 断面 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----------|--------|-------|----|-------|-------|----|------|----------|------|----|
| 191 | 土師器
甕 | [17.3] | (7.6) | — | 良石・石英 | にい青褐色 | 普通 | 波状口縁 | 体部外側ヘラ削り | 上層 | 5% |

第56号住居跡（第92～94図）

位置 調査6区東部のC7h0区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第2号竪穴造構を掘り込み、第1号溝に掘り込まれている。また、耕作による擾乱を受けている。

規模と形状 長軸5.42m、短軸5.20mほどの方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は30～34cmほどで、外傾して立ち上がっている。

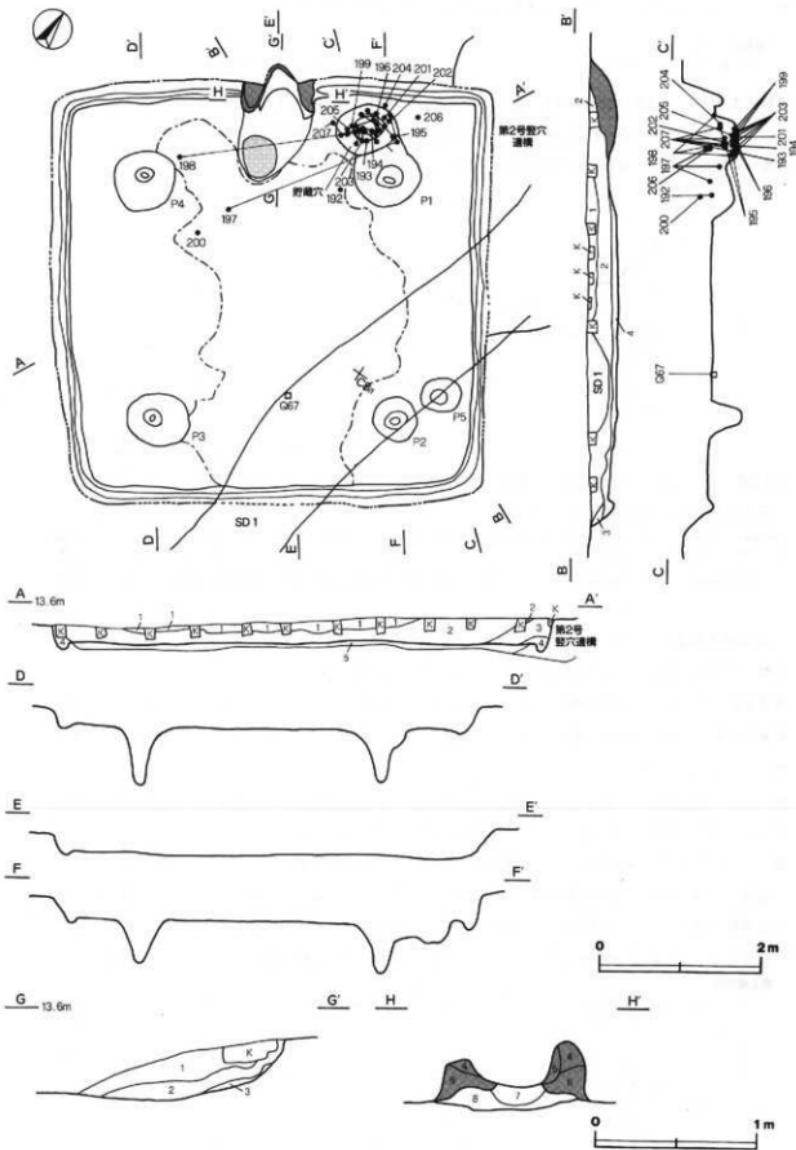
床 ほぼ平坦な貼床で、中央部から竈や各主柱穴にかけて踏み固められ、各壁下には断面U字形の豊溝が巡っている。また、床はロームブロックで厚さ8cmほどに貼られている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで150cm、袖部幅は90cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは20cmほどで、外傾して立ち上がっている。袖部は、褐色土で基部を作り、その上部に砂粒・粘土・ロームを積み上げて構築している。火床部は、北西壁ラインの内側に位置し、煙道の中心より南西にずれ、床面をわずかに掘りくぼめて作られており、火床面はわずかに赤変している。

選土層解説

| | | | | | |
|---|-------|-------------------------------|---|-------|------------------------|
| 1 | 褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒・粘土粒子微量 | 6 | 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 | 7 | にい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 | にい青褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 | 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は、深さ58～64cmほどで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ36cmほどで、位置的に補助柱穴の可能性も考えられるが、性格は不明である。



第92図 第56号住居跡実測図

貯藏穴 平面形は梢円形を呈し、竪の北東脇に付設されている。深さは30cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は、外傾して立ち上がっている。

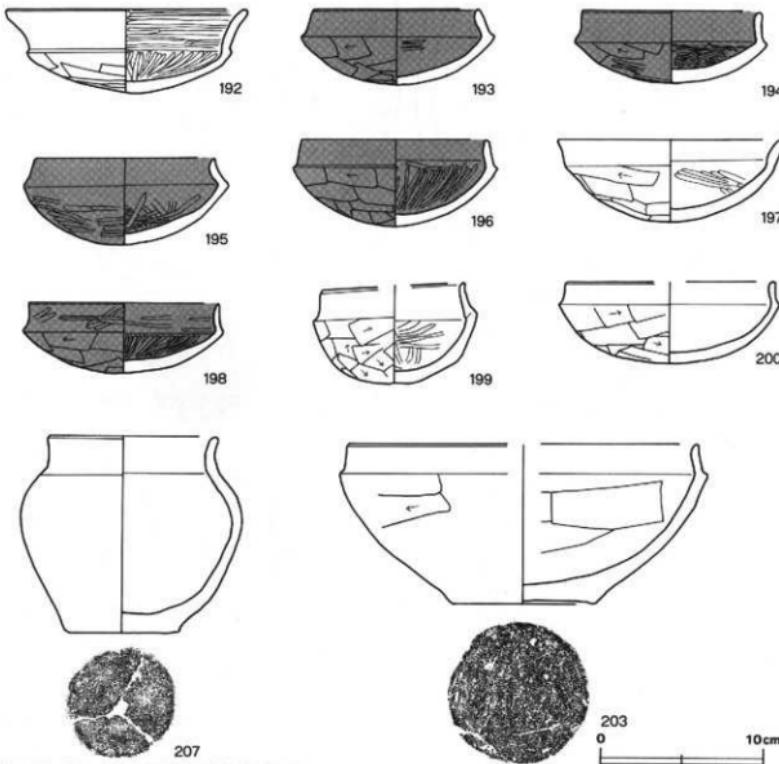
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。5層は貼床の埋土である。

土層解説

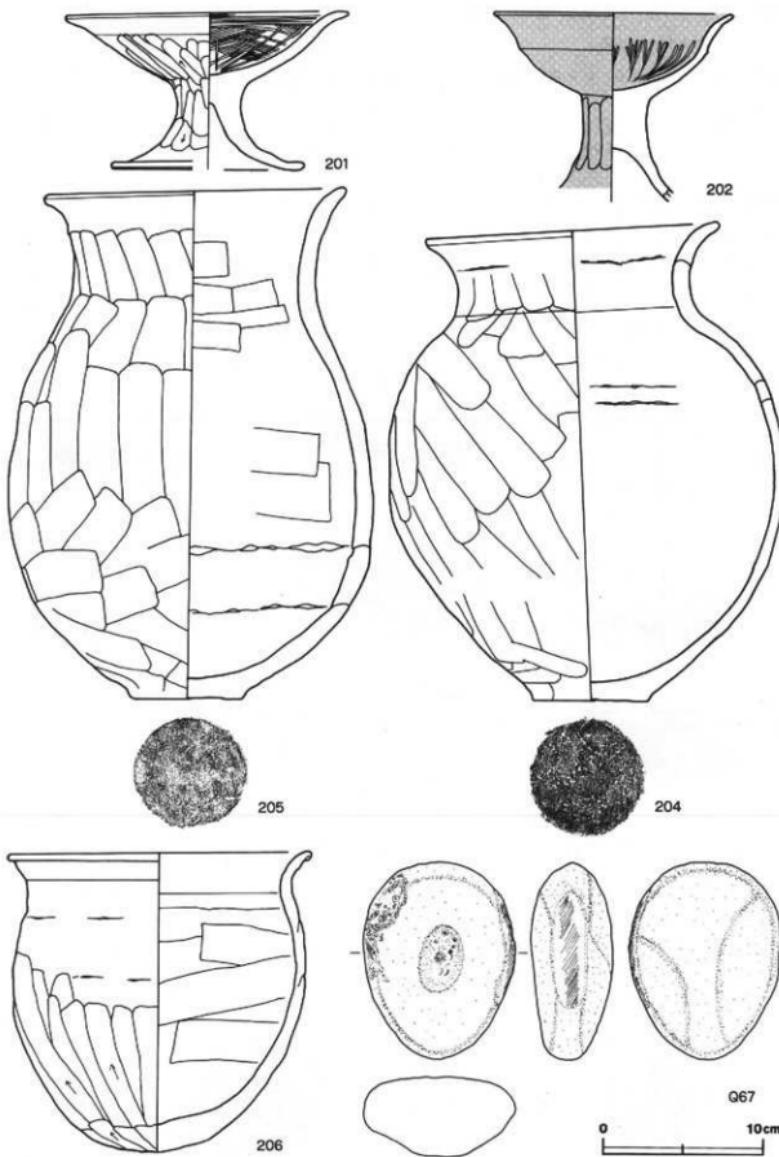
| | | | | | | | |
|---|---|----|---------------------|---|---|----|---------|
| 1 | 暗 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 | 暗 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 黒 | 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 褐 | 色 | ローム粒子中量 |
| 3 | 暗 | 褐色 | ロームブロック微量 | | | | |

遺物出土状況 土師器片176点（坏31、高坏2、鉢2、甕141）、須恵器片10点（坏・高台付坏類）、石器1点（鐵石）のほか、流れ込んだと思われる弥生土器片34点（広口壺）、陶器片1点（不明）、環11点がおもに中央部から北東壁にかけて散在して出土している。192は逆位で中央北寄りの床面、193は正位で中央部西寄りの覆土下層、北コーナー部の貯藏穴付近の床面からは、206が斜位で出土している。貯藏穴の覆土上層からは、202が斜位、204が横位、205が斜位で出土している。貯藏穴内からは、193がつぶれた状態で出土し、194が正位、201が斜位の状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。



第93図 第56号住居跡出土遺物実測図(1)



第94図 第56号住居跡出土遺物実測図(2)

第56号住居跡出土遺物観察表（第93・94図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-----|--------|--------|--------|-------------------|-----|----|---|-------------|----------------------|
| 182 | 土師器 | 环 | 14.7 | 5.2 | — | 雲母・長石・石英
にぶい櫻 | 棕 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面暗めヘラ磨き | 床面 | 100% PL28 |
| 193 | 土師器 | 环 | 10.1 | 4.6 | — | 雲母・長石・
石英・煙 | 棕 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き | 貯藏穴内 | 100% PL28
内・外黒色處理 |
| 194 | 土師器 | 环 | 11.0 | 4.4 | — | 長石・石英
にぶい櫻 | 棕 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き | 貯藏穴内 | 100% PL28
内・外黒色處理 |
| 195 | 土師器 | 环 | 11.1 | 5.3 | — | 雲母・長石・
石英・小煙 | 棕 | 普通 | 体部内外面ヘラ磨き | 貯藏穴内 | 95% PL28
内・外黒色處理 |
| 196 | 土師器 | 环 | 11.4 | 5.4 | — | 雲母・長石・
石英 | 淡黄 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 貯藏穴内 | 80% PL28
内・外黒色處理 |
| 197 | 土師器 | 环 | 13.7 | 5.0 | — | 長石・石英
赤色粒子 | 棕 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き | 床面・貯藏穴内 | 80% PL28 |
| 198 | 土師器 | 环 | 11.6 | 4.3 | — | 長石・石英
黑褐 | 棕 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面放射状ヘラ磨き | 床面・貯藏穴内 | 75% PL28
内・外黒色處理 |
| 199 | 土師器 | 环 | [8.7] | 6.0 | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | 棕 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き | 貯藏穴内 | 75% PL28 |
| 200 | 土師器 | 环 | [12.7] | 5.0 | — | 長石・石英
赤褐 | 棕 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナデ | 下層 | 60% |
| 201 | 土師器 | 高环 | 17.3 | 9.7 | [11.8] | 長石・石英
にぶい櫻 | 棕 | 普通 | 环体・脚部外面ヘラ削り 环部内面ヘラ磨き 脚部内面ナデ | 貯藏穴内 | 70% PL33 |
| 202 | 土師器 | 高环 | 14.7 | (11.6) | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | 明褐 | 普通 | 环体外部ナデ 内面ヘラ磨き 脚部外
ヘラ削り 内面ナデ | 貯藏穴上層
赤 | 90% PL33 |
| 203 | 土師器 | 鉢 | [21.4] | 9.8 | 9.0 | 長石・石英
にぶい櫻 | 棕 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部
ヘラ削り | 貯藏穴内 | 65% |
| 204 | 土師器 | 鉢 | 17.8 | 20.7 | 7.2 | 長石・石英
にぶい櫻 | 棕 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ナデ 輪積痕 底部ヘラ削り | 貯藏穴内 | 100% PL29 |
| 205 | 土師器 | 鉢 | 18.4 | 32.9 | 6.8 | 長石・石英
にぶい櫻 | 棕 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部内・外面ヘラ削り 内
面ヘラナデ 底部ヘラ削り 輪積痕 | 貯藏火上層 | 100% PL29 |
| 206 | 土師器 | 鉢 | 18.6 | 18.6 | — | 雲母・長石・
石英・煙 | 淡黄棕 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ヘラナデ 底部ヘラ削り 輪積痕 | 床面 | 100% PL33 |
| 207 | 土師器 | 小形鉢 | 10.2 | 12.1 | 6.1 | 雲母・長石・
石英・赤色粒子 | 淡黄棕 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部内・外面・底部ナデ | 床面・貯藏
穴内 | 75% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|------|-----|-----|-------|-----|--------------|------|----|
| Q67 | 散石 | 12.2 | 9.5 | 5.0 | 747.3 | 花崗岩 | 侧面に斜面あり 磨石転用 | 床面 | |

第57号住居跡（第95～97図）

位置 調査6区東部のC 8 h1区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

遺構関係 第59号住居、第2号竪穴造構をそれぞれ掘り込み、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.55m、短軸3.44mほどの方形で、主軸方向はN-11°-Eである。壁高は18cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口から竪にかけての中央部が踏み固められている。

竪 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで128cm、袖部幅は、左袖部のほとんどが壊されているので残存部から76cmほどと推定される。煙道部の窓外への掘り込みは54cmほどで、緩やかに外傾して立ち上がっている。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、床面をわずかに掘りくぼめて作られており、火床面はわずかに赤変している。

壁土層解説

| | | | | | |
|---|--------|---------------------------|---|--------|--------------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、粘土ブロック少量 | 5 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量、ローム粒子微量 | 6 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒・粘土ブロック中量 |
| 3 | にぶい赤褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、燒土ブロック少量 | 7 | 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・灰化粒子微量 |
| 4 | 暗赤褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、燒土ブロック少量 | 8 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・灰化粒子微量 |

ピット 8か所。P 1～P 4は、深さ30～52cmほどで、掘り方や配置などから主柱穴と考えられ、P 5は深さ30cmほどで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8は、深さ20～32cmほどで、P 7・P 8は配置的に柱穴の可能性も考えられるが、性格は不明である。

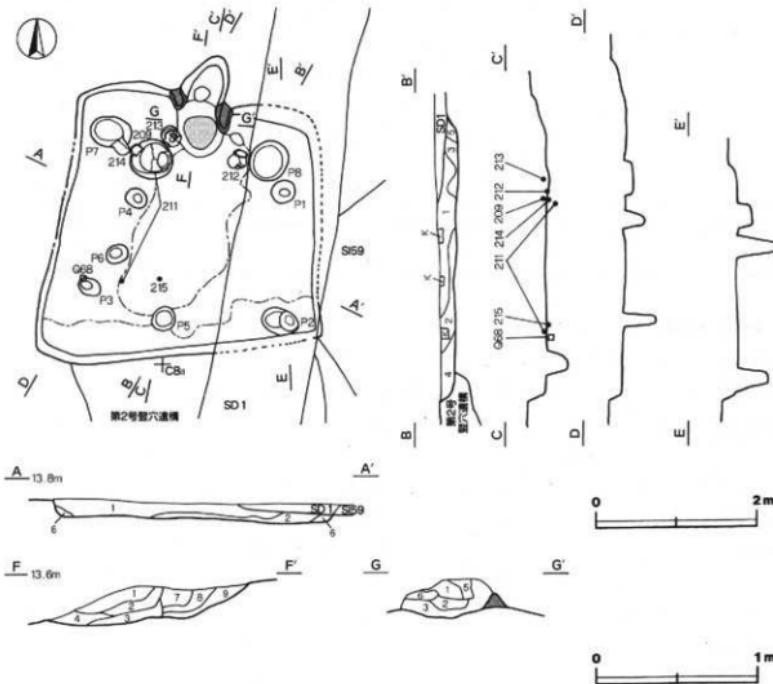
覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

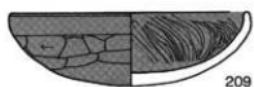
| | | | | | | | |
|---|---|----|----------------|---|---|----|----------------|
| 1 | 暗 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 | 暗 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 褐 | 色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 | 褐 | 色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 | 暗 | 褐色 | ロームブロック微量 | 6 | 褐 | 色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片145点（坏19、甕・瓶126）、石器1点（敲石）のほかに、流れ込んだと考えられる弥生土器片16点（広口壺）、環4点が竈の両袖付近と南西コーナー部に集中して出土している。212は竈右袖前に斜位で、213は竈左袖前から逆位で、それぞれに対称的に据え付けられたような状態で出土している。袖部の残りが悪いため、明確ではないが、袖部材として使用されていた可能性も考えられる。211は、213の南側から床面を掘り込んで据え付けられたように出土し、214は211の西側から横位の状態で出土している。また、215はP 5北側の床面からつぶれた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



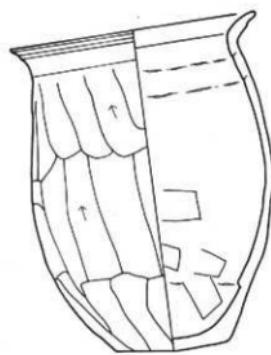
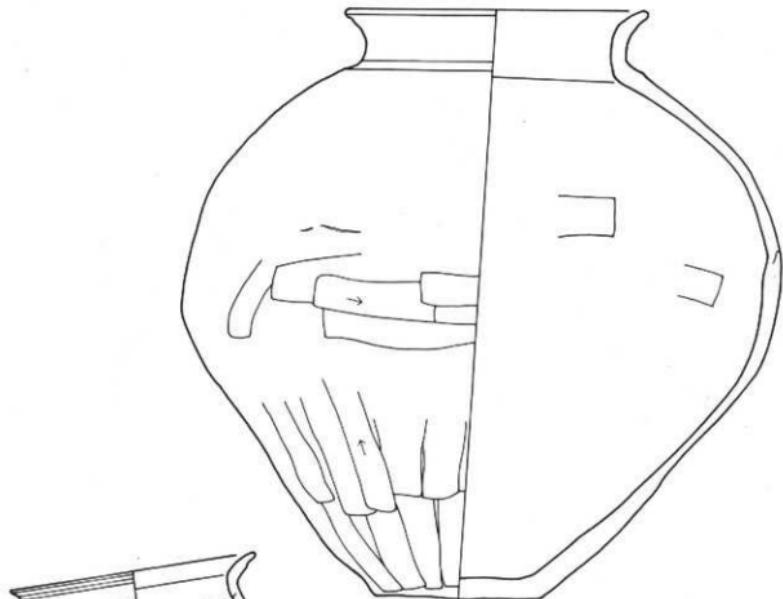
第95図 第57号住居跡実測図



209



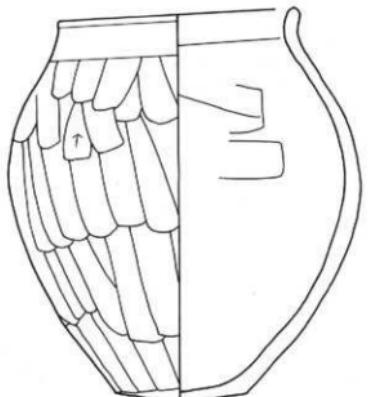
210



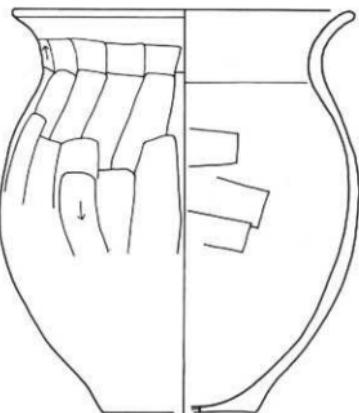
211



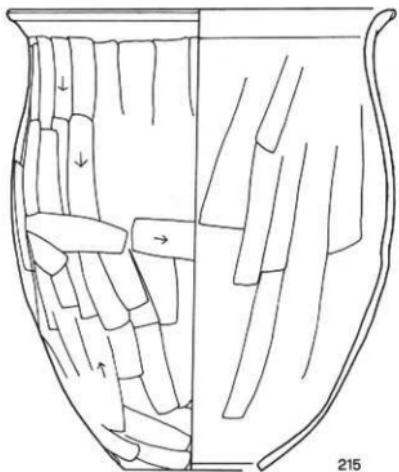
第96図 第57号住居跡出土遺物実測図(1)



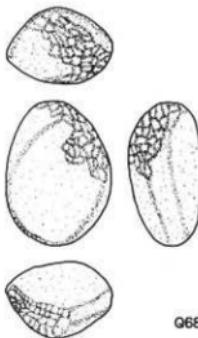
212



213



215



068



第97図 第57号住居跡出土遺物実測図(2)

第57号住居跡出土遺物観察表（第96・97図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|------|------|-------|------------------|--------|----|-------------------------------|------|----------------------|
| 209 | 土師器 | 壺 | 14.6 | 4.5 | — | 長石・石英 | 明褐色 | 普通 | 体部外側ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 下層 | 70% PL28
内・外面黒色處理 |
| 210 | 土師器 | 壺 | 12.9 | 4.4 | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい黄褐色 | 普通 | 体部外側ヘラ削り後ヘラ磨き 内面放射状のヘラ削り | 窓内覆土 | 80% PL28
内・外面黒色處理 |
| 211 | 土師器 | 壺 | 18.3 | 37.0 | 10.2 | 雲母・長石・石英
小嘴 | 埋揚 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り | 床面 | 65% PL29 |
| 212 | 土師器 | 壺 | 14.3 | 24.3 | 8.0 | 長石・石英 | 澄 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り | 床面 | 100% PL29 |
| 213 | 土師器 | 壺 | 20.8 | 25.0 | [9.6] | 長石・石英 | にぶい黄褐色 | 普通 | 体部外側ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部
ヘラ削り | 下層 | 70% PL29 |
| 214 | 土師器 | 壺 | 15.0 | 21.1 | 6.9 | 雲母・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外側ヘラ削り 内面ヘラナデ 軸積
底 | 床面 | 95% PL29 |
| 215 | 土師器 | 瓶 | 23.6 | 28.6 | 8.5 | 雲母・長石・石英
小嘴 | 澄 | 普通 | 体部外側ヘラ削り 内面ヘラナデ | 床面 | 65% PL32 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-----|-----|-----|-------|---------|--------|------|----|
| Q68 | 敲石 | 8.9 | 6.5 | 4.6 | 346.1 | ホルンフェルス | 上端部に敲痕 | P3内 | |

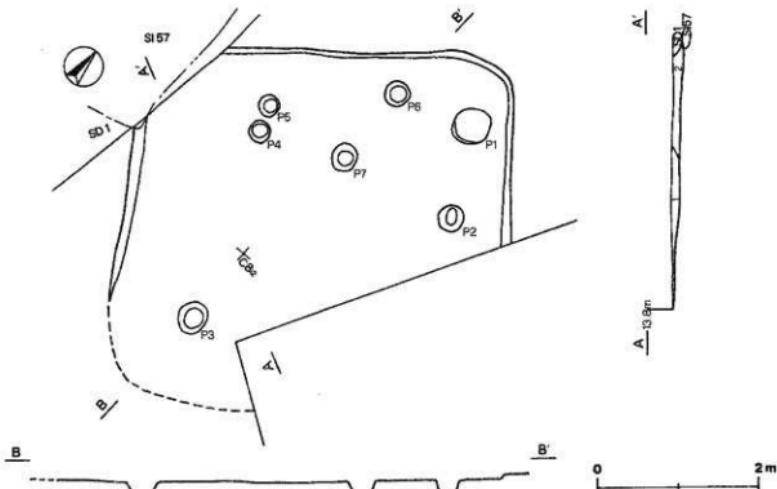
第59号住居跡（第98・99図）

位置 調査区6区のC 8 h2区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 西コーナー部を第57号住居、第1号溝に掘り込まれ、東部は調査区域外に延びている。

規模と形状 西コーナー部が溝に掘り込まれ、東部が調査区域外に延び、さらに南部が削平されているが、長軸4.76m、短軸4.50mの隅丸方形で、主軸方向はN-37°-Wと推定される。壁高は5~7cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。踏み固められた部分は確認できなかった。



第98図 第59号住居跡実測図

ピット 7か所。P 1は深さ92cm、P 2～P 7は深さ20～29cmである。主柱穴は配置的に明確ではなく、P 1は掘り方が外側を向いて、柱穴とは考えられず、配置的にP 3・P 4は主柱穴と推定されるが、その他のピットの性格は明確ではない。

覆土 2層に分層される。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

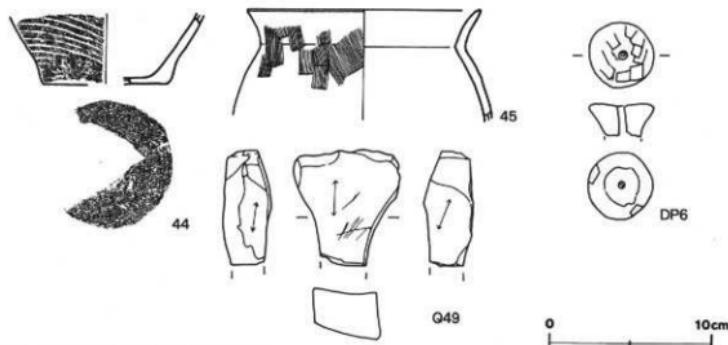
土層解説

1 層 色 ロームブロック少量

2 明褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 弥生土器片9点（広口壺）、土師器片13点（壺）、土製品1点（筋錘車）のほかに、混入と思われる陶器片2点（碗）、石器1点（砥石）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



第99図 第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表（第99図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様及び手法の特徴 | | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|------|-------|-------|-------|-----|----|---------------------|-------|------|-----|
| | | | | | | | | | 網部下追加条二種(附加1条)の織文 | 底部布目痕 | | |
| 44 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (4.4) | [7.6] | 長石・石英 | ぶい裡 | 普通 | 網部下追加条二種(附加1条)の織文 | 底部布目痕 | 覆土中 | 10% |
| 45 | 土師器 | 壺 | 14.2 | (6.9) | — | 長石・石英 | 裡 | 普通 | 口唇部ナデ 口縁部・体部外面ハケ日調整 | — | 覆土中 | 30% |

| 番号 | 器種 | 長さ(径) | 幅(孔径) | 厚さ | 重量 | 材質 | 質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-------|-------|-------|--------|----|----|------------|------|------|
| DP6 | 筋錘車 | 4.1 | 2.0 | (4.0) | (29.6) | 土製 | ナデ | 断面は台形 片面穿孔 | 覆土中 | PL37 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|---------|-----|---|-------------|------|----|
| Q49 | 砥石 | (7.1) | 6.5 | 3.2 | (142.9) | 凝灰岩 | — | 断面は四角形 砥面3面 | 覆土中 | — |

第60号住居跡（第100・101図）

位置 調査5区北部のC 7 f2区に位置し、中位段丘上の南東方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第6号戸井戸、第101号土坑に掘り込まれている。また、耕作による搅乱を受けている。

規模と形状 一辺4.97mほどの隅丸方形で、主軸方向はN-56°-Wである。南東方向に向かって傾斜しているため、覆土は薄くなるが、壁高は12～32cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部の北西寄りに、長径82cm、短径54cmの楕円形の範囲に、わずかな焼土と炭化物の痕跡が確認され

た。

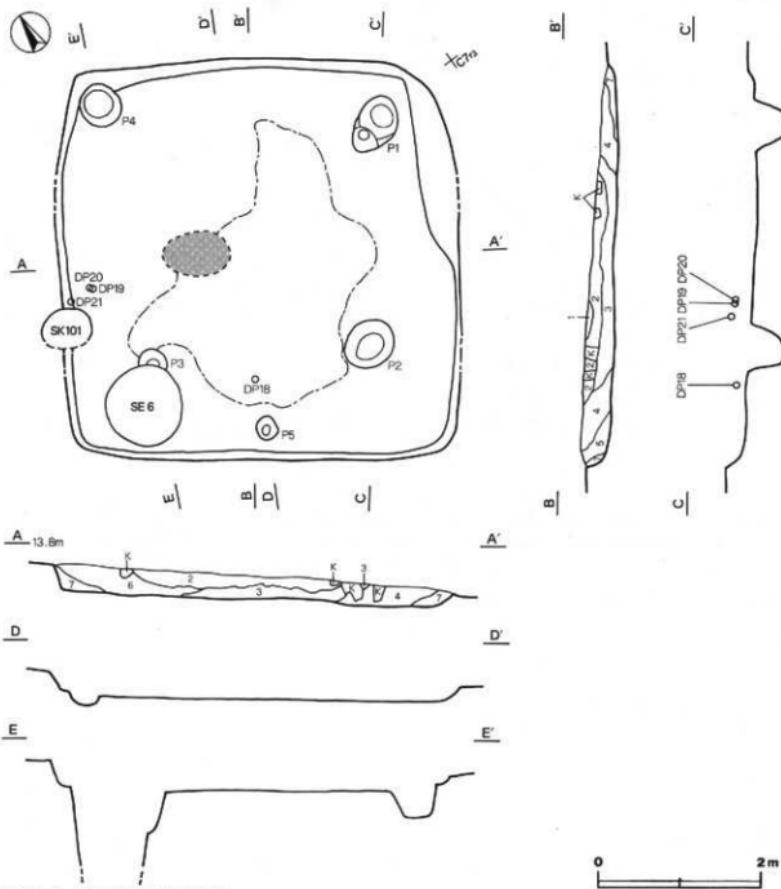
ピット 5か所。P1～P4は、深さは30～56cmであり、配置から主柱穴であると考えられる。P5は深さ14cmであり、規模及び配置的に性格は不明である。

覆土 7層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|--------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 單褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 單褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、燒土粒子微量 | 7 單褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 細暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量 | | |

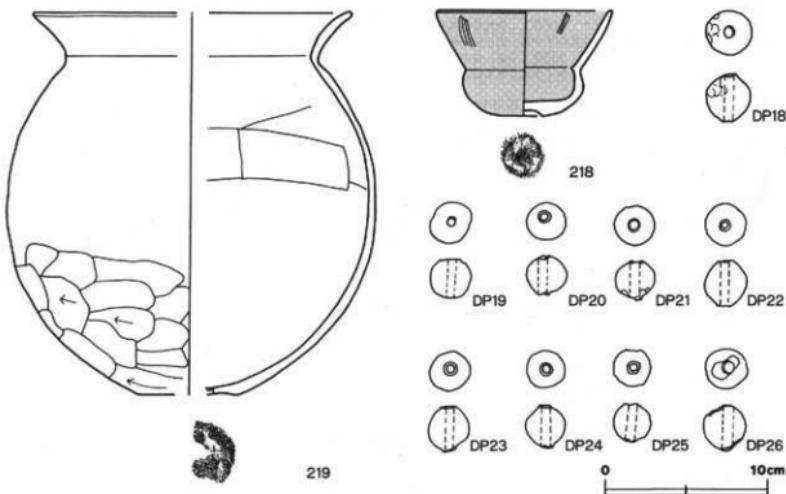
遺物出土状況 土器片120点（壺・高杯10、器台3、壠3、甕104）、土製品9点（球状土錐）のほかに、後世の搅乱による混入と思われる須恵器片9点（壺）、縄文土器片4点（深鉢）、弥生土器片113点（広口壺）、甕7



第100図 第60号住居跡実測図

点が、おもに北西壁中央付近及び南コーナー付近から出土している。218はP 1内、219はP 2内からそれぞれ出土している。また、球状土錐の出土が多く、DP19~21が北西壁際、DP22はP 1内、DP23~26はP 2からまとめて出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



第101図 第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第101図）

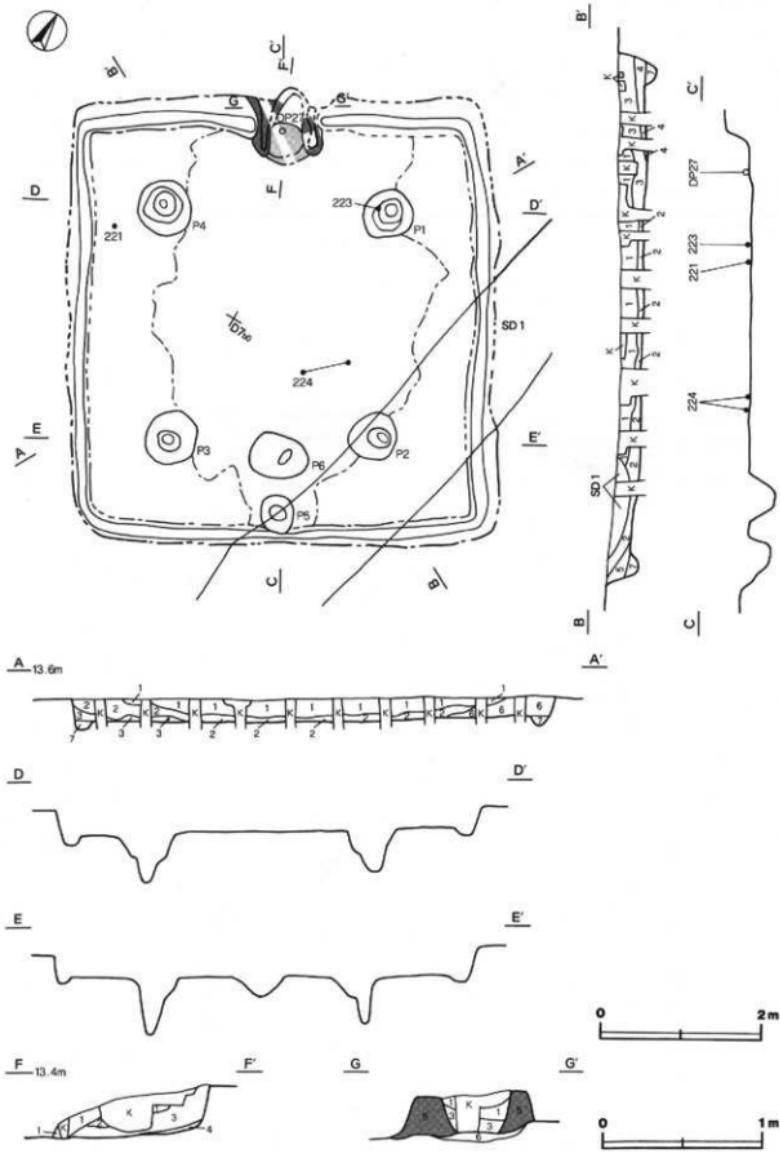
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|------|-------|--------------------|------|----|-----------------------------|------|-----------------|
| 218 | 土師器 | 壺 | 10.7 | 6.5 | 2.3 | 紫母・灰石・石英
赤色粒子・塵 | 赤橙 | 普通 | 体部内・外面ヘラ磨き | P 1内 | 100% PL33
赤彩 |
| 219 | 土師器 | 壺 | [19.3] | 23.7 | [6.0] | 長石・石英・
塵 | にぶい棕 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ
底部ヘラ削り | P 2内 | 45% |

| 番号 | 器種 | 最大径 | 厚さ | 孔径 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|-----|-----|--------|----|---------------|------|------|
| DP18 | 球状土錐 | 2.9 | 2.9 | 0.6 | 20.4 | 土製 | ナゲ 片面穿孔 | 下層 | PL37 |
| DP19 | 球状土錐 | 2.6 | 2.4 | 0.5 | 13.7 | 土製 | ナゲ 片面穿孔 | 下層 | PL37 |
| DP20 | 球状土錐 | 2.4 | 2.4 | 0.6 | 11.9 | 土製 | ナゲ 片面穿孔 | 下層 | PL37 |
| DP21 | 球状土錐 | 2.5 | 2.3 | 0.6 | 10.9 | 土製 | ナゲ 片面穿孔 | 下層 | PL37 |
| DP22 | 球状土錐 | 2.6 | 2.8 | 0.5 | 14.7 | 土製 | ナゲ 片面穿孔 | P 1内 | PL37 |
| DP23 | 球状土錐 | 2.6 | 2.7 | 0.5 | 14.2 | 土製 | ナゲ 片面穿孔 | P 2内 | PL37 |
| DP24 | 球状土錐 | 2.4 | 2.6 | 0.6 | 11.4 | 土製 | ナゲ 片面穿孔 | P 2内 | PL37 |
| DP25 | 球状土錐 | 2.3 | 2.4 | 0.6 | 9.6 | 土製 | ナゲ 片面穿孔 | P 2内 | PL37 |
| DP26 | 球状土錐 | 2.7 | 2.8 | 0.6 | (14.9) | 土製 | ナゲ 片面穿孔 欠損部有り | P 2内 | PL37 |

第62号住居跡（第102・103図）

位置 調査6区南部のD7a0区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。また、耕作による擾乱を受けている。



第102図 第62号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.62m、短軸5.36mほどの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は24~40cmほどで、ほぼ直立している。

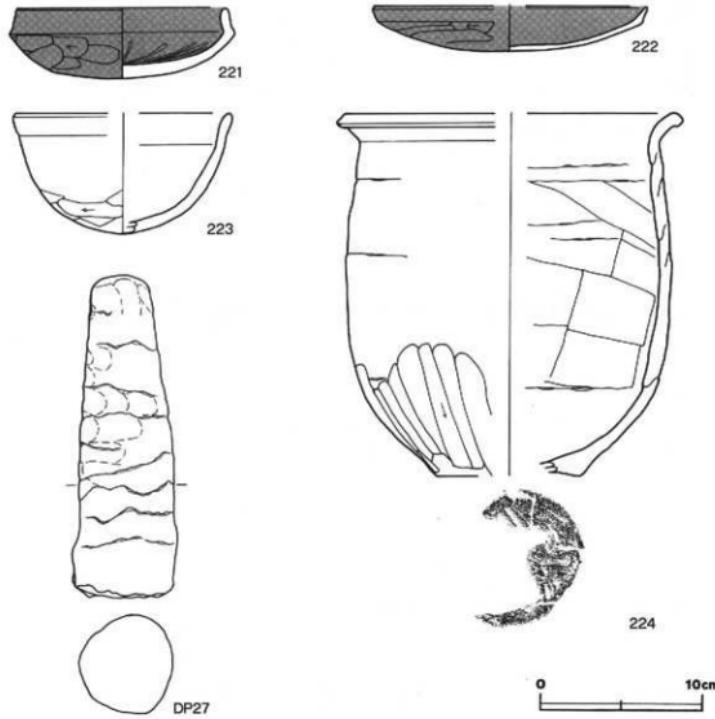
床 ほぼ平坦で、礎際を除いて踏み固められ、各壁下に断面U字形の壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで92cm、袖部幅は86cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは20cmほどで、急激に立ち上がっている。袖部は竈の掘り方を暗褐色の土で埋め戻し、上部に砂粒・粘土・ロームを積み上げて構築している。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、袖部と同様に暗褐色の土で埋め戻した面を使用しており、火床面はわずかに赤変している。

竈土層解説

| | | | | | |
|---|-------|---------------------------------|---|--------|------------------------|
| 1 | 褐 色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、砂粒・粘土粒子微量 | 4 | にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 | 赤 色 | 砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 | 板暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 6 | 暗 褐 色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 6か所。P 1~P 4は、深さ52~68cmほどであり、配置から主柱穴であり、P 5は深さ28cm、P 6は深さ36cmほどであり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第103図 第62号住居跡出土遺物実測図

覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | | | |
|---|-------|---------------------|---|------|---------------|
| 1 | 暗 色 | ローム粒子少、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 暗 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 | 暗 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 | 褐色 | ローム粒子少、炭化粒子微量 |
| 4 | にじむ褐色 | ローム粒子・炭化物微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片343点(環22, 瓶2, 高杯1, 壺318), 須恵器片19点(环類16, 壺3), 上製品4点(支脚片)のほかに、後世の搅乱による混入と思われる弥生土器片9点(広口壺), 鉄製品1点(不明), 磨1点がほぼ全域から散在して出土している。室内にはDP27が掘えられており、221は、西壁寄りの床面から鉢位の状態で出土している。また、223は北東部の覆土下層から、224は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

第62号住居跡出土遺物観察表(第103回)

| 番号 | 種 別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 断 土 | 色 調 | 焼成 | 手 法 の 特 徴 | 出 土 位 置 | 備 る |
|-----|-------|----|--------|------|-------|--------------------|-----------|----|-------------------------------------|---------|----------------------|
| 221 | 土 師 器 | 环 | 13.0 | 4.4 | — | 青母-灰石・
石英 | 灰赤 | 普通 | 体部外側へラ削り内面暗文
状のヘラ削き | 床 面 | 90% PL30
内-外側黒色斑模 |
| 222 | 土 師 器 | 环 | [16.9] | 2.7 | [6.0] | 青母-灰石-石英
赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 体部外側へラ削り 内面ナデ | 覆土中 | 40%
内-外側黒色斑模 |
| 223 | 土 師 器 | 碗 | [13.2] | 7.4 | — | 青母-灰石-石英
赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 体部外側下端へラ削り 内面ナデ | 下 层 | 40% |
| 224 | 土 師 器 | 壺 | [20.3] | 22.5 | [8.8] | 青母-灰石-石英
赤色粒子-塵 | にじむ黄
色 | 普通 | 体部外側下端へラ削り 内面へラナデ
内-外側輪様痕 成部へラ削り | 床 面 | 40% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重 量 | 材 質 | 特 徴 | 出 土 位 置 | 備 考 |
|------|-----|------|-----|-----|-------|-----|----------|---------|------|
| DP27 | 支 脚 | 20.0 | 6.4 | 6.2 | 747.7 | 土製 | 外側ナデ 指痕痕 | 覆土内 | PL37 |

第65号住居跡(第104~106回)

位置 調査5区南部のC7hl区に位置し、中位段丘上の南東方向への緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 長軸5.30m, 短軸5.10mほどの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は9~28cmほどで、ほぼ直立している。また、耕作による搅乱を受けている。

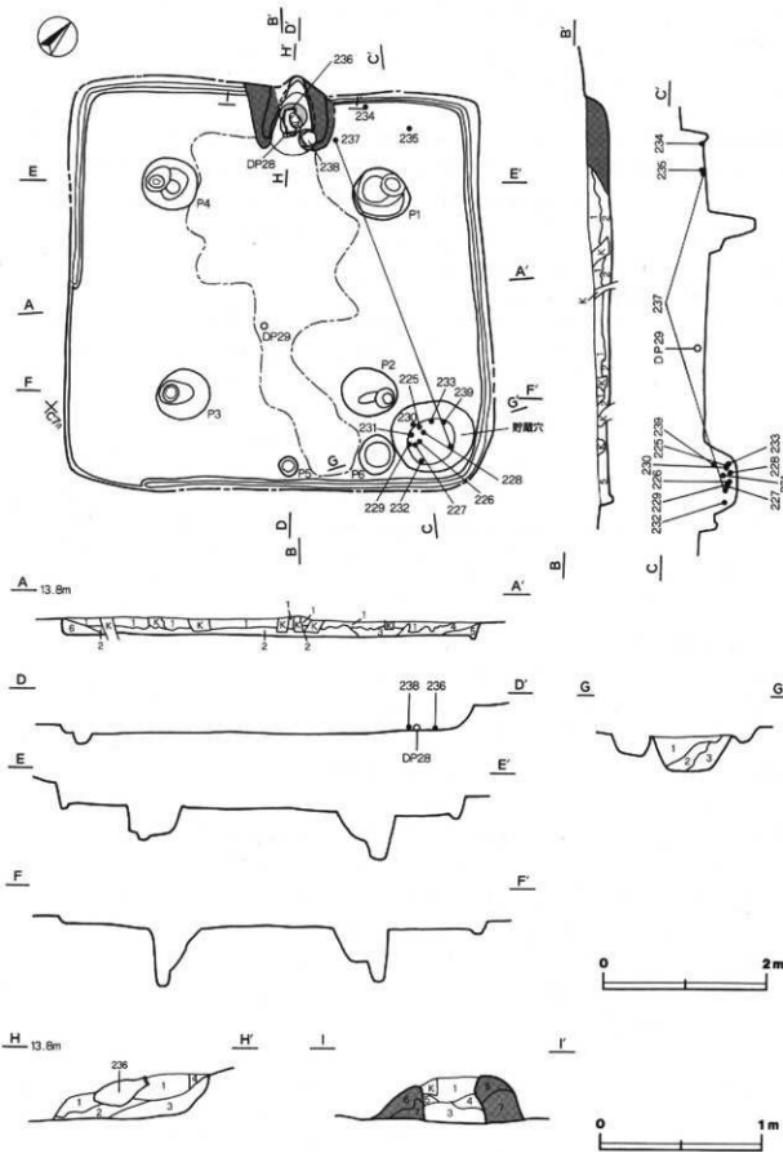
床 ほぼ平坦で、出入り口付近から龜にかけての中央部が踏み固められ、南コーナー付近を除いて断面U字形の横溝が走っている。

龜 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで98cm, 脇部幅は108cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは20cmほどで、外傾して立ち上がっている。袖部は、池山を掘り残しその上部に炒粒・粘土・ロームで構築されている。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、ほぼ平坦で火床面はわずかに赤変している。火床面には、支脚が掘えられており、龜が並んで出土していることから、横並びの二掛け龜の可能性が考えられる。

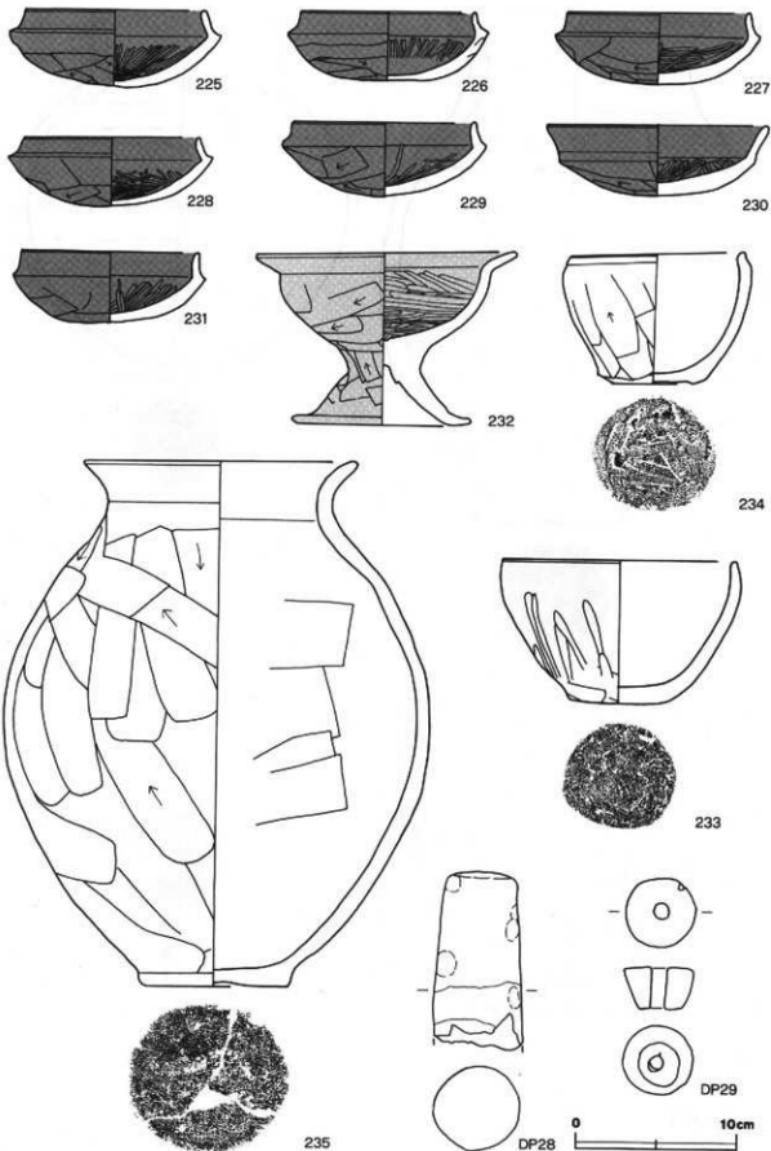
覆土層解説

| | | | | | |
|---|------|------------------------------|---|-------|----------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少 | 4 | 灰褐色 | 焼土粒子・砂粒・粘土粒子中量 |
| 2 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少 | 5 | にじむ褐色 | 焼土ブロック中量、砂粒・粘土粒子少 |
| 3 | 暗赤褐色 | 砂粒・粘土粒子少、ローム粒子・焼土ブロック微量 | 6 | にじむ褐色 | 砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少、ローム粒 |
| | | | 7 | 灰褐色 | 子・粘土ブロック微量 |

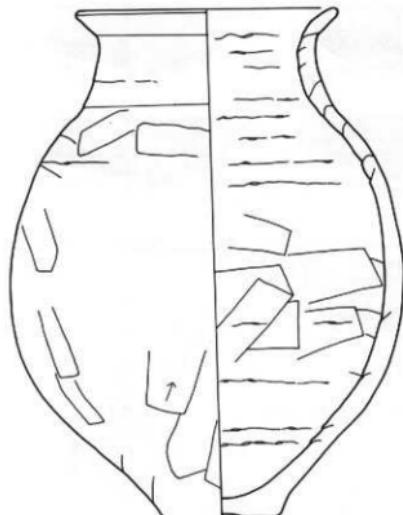
ピット 6か所。P 1~P 4は、深さ44~72cmほどであり、配置から柱穴である。P 5は深さ14cmほどであり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 4は、柱材のあたり痕が2か所検出されており、建て替えた可能性が考えられる。P 6は深さ20cmほどであり、補助柱穴の可能性も考えられるが、性格は不明である。



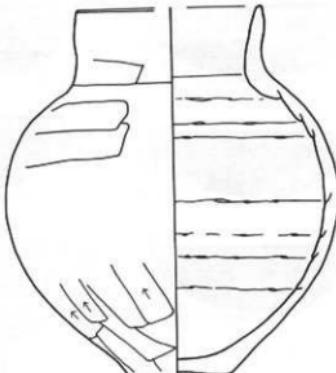
第104図 第65号住居跡実測図



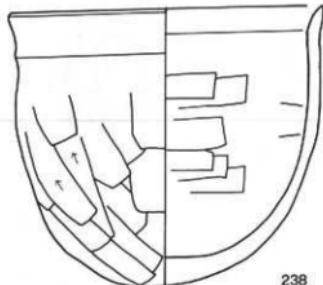
第105図 第65号住居跡出土遺物実測図(1)



236



237



238



239

0 10cm

第106図 第65号住居跡出土遺物実測図(2)

貯蔵穴 平面形は楕円形を呈し、東コーナー部に付設されている。深さは42cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は、外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴層解説

- | | |
|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 4 黑褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 塗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 塗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 上師器片218点(环23、高环2、鉢2、甕191)、土製品2点(鎌鋸車、支脚)のほかに、後世の搅乱による混入と思われる須恵器片10点(环)、繩文土器片1点(深鉢)、弦生土器片31点(広口甕)、縄12点がほぼ全城から散らして出土している。貯蔵穴内遺物の遺存状態は良く、225・230・231は正位で、226・229・232・233は斜位で、235・237・239の甕は横位の状態でそれぞれ出土している。竈内は、上層がトレンチャによる搅乱を受けているが、DP28の支脚上に236・238の甕が並ぶような状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

第65号住跡出土遺物観察表(第105・106図)

| 番号 | 種別 | 部種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-----|------|------|------|--------------------|--------|----|------------------------------------|-------------|----------------------|
| 225 | 上師器 | 环 | 11.1 | 4.8 | — | 空燒・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 貯蔵穴内 | 100% PL30
内・外黒色地層 |
| 226 | 上師器 | 环 | 10.8 | 4.3 | — | 空燒・長石・石英 | 黒褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 貯蔵穴内 | 100% PL30
内・外黒色地層 |
| 227 | 上師器 | 环 | 11.3 | 4.5 | — | 空燒・長石・石英 | 黒灰 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 貯蔵穴内 | 100% PL30
内・外黒色地層 |
| 228 | 上師器 | 环 | 10.8 | 4.3 | — | 空燒・長石・石英 | 灰褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 貯蔵穴内 | 100% PL30
内・外黒色地層 |
| 229 | 上師器 | 环 | 11.1 | 4.5 | — | 長石・石英 | 褐灰 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 貯蔵穴内 | 100% PL30
内・外黒色地層 |
| 230 | 土師器 | 环 | 13.8 | 4.3 | — | 空燒・長石・石英
赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 貯蔵穴内 | 95% PL30
内・外黒色地層 |
| 231 | 土師器 | 环 | 10.9 | 4.5 | — | 長石・石英・隕 | 褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 貯蔵穴内 | 90% PL30
内・外黒色地層 |
| 232 | 土師器 | 环 | 16.0 | 10.8 | 11.0 | 空燒・長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部等・脚部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き
脚部内面ヘラナダ | 貯蔵穴内 | 100% PL33
赤色 |
| 233 | 土師器 | 鉢 | 11.6 | 8.9 | 6.3 | 長石・石英・隕 | にぶい橙 | 普通 | 外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ナダ 脱脂ヘラ削り | 貯蔵穴内 | 100% PL33 |
| 234 | 土師器 | 鉢 | 10.6 | 8.1 | 6.9 | 空燒・長石・石英
赤色粒子・隕 | 褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナダ 成部木製
底 | 床面 | 70% |
| 235 | 土師器 | 甕 | 16.5 | 32.6 | 8.9 | 比石・石英 | にぶい赤褐色 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ 底部削り | 床面 | 70% PL33 |
| 236 | 土師器 | 甕 | 16.0 | 31.5 | 7.0 | 空燒・長石・石英・隕 | 褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ 内・外
面輪横痕 武部ヘラ削り | 床内 | 65% PL33 |
| 237 | 土師器 | 甕 | 11.2 | 22.9 | 6.0 | 空燒・長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナダ 脱脂痕
底部ヘラ削り | 貯蔵穴内・
床面 | 95% PL33 |
| 238 | 土師器 | 小形甕 | 19.3 | 17.2 | — | 空燒・長石・石英
赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口沿部等ナダ 体部外面ヘラ削り 内面
ヘラナダ | 床内 | 65% |
| 239 | 土師器 | 小形甕 | 13.0 | 14.7 | 7.0 | 長石・石英 | 棕 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ナダ 内・外輪
積痕、底部ヘラ削り | 貯蔵穴内 | 100% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|--------|-----|-----|---------|----|--------------|----|------|------|
| DP28 | 支脚 | (11.0) | 3.7 | 5.3 | (349.8) | 土製 | 外表面ナダ 指頭痕 | | 竈内 | |
| DP29 | 防護草 | 4.2 | 4.4 | 2.6 | 52.2 | 土製 | ナダ 片面空孔 断面白芯 | | 下層 | PL37 |

第66号住居跡（第107～109図）

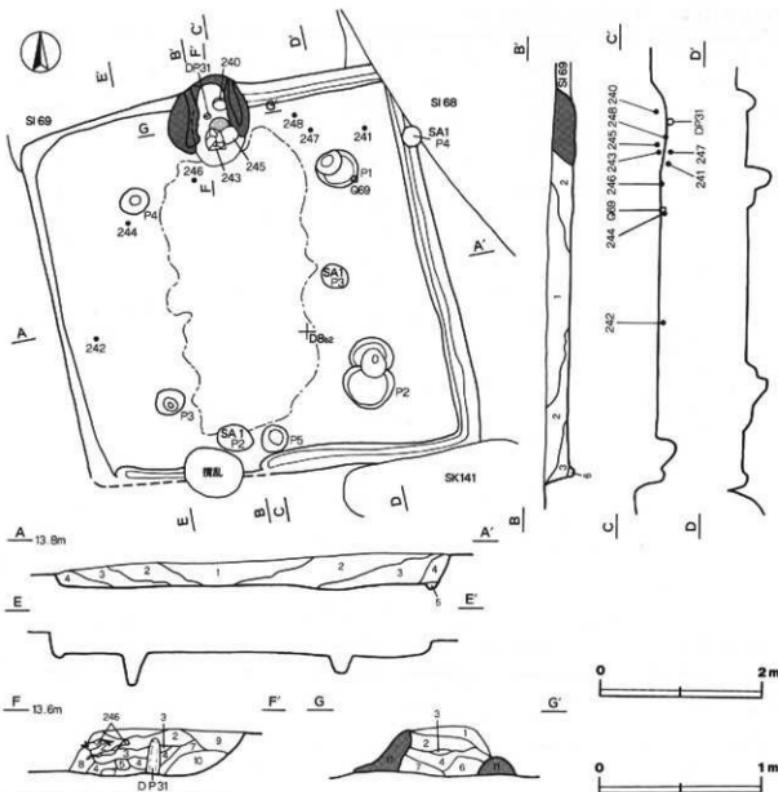
位置 調査6区東部のD8al区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第69号住居を握り込み、第68号住居、第1号櫛列、第141号土塹にそれぞれ握り込まれている。

規模と形状 長軸4.94m、短軸4.84mほどの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は22~32cmほどで、ほぼ直立している。

床はほぼ平坦で、出入り口付近から龜にかけての中央部が踏み固められており、北西壁を除いて断面U字形の壁溝が巡っている。

北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで114cm、袖部幅は、98cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは16cmほどで、外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、廩土層断面図中の第2層が天井部崩落土の一部である。袖部は、砂粒・粘土・ロームで構築され、火床部は、北壁ラインの内



第107図 第66号住居跡実測図

側に位置し、わずかに掘りくぼめて使用しており、火床面は赤変している。

電土層解説

| | | | |
|----------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 にぶい褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・砂粒・粘土粒子中量、焼土ブロック | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ク・炭化粒子少量 | 8 黑褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい褐色 | 粘土ブロック・ロームブロック少量 | 10 灰褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子少量 |

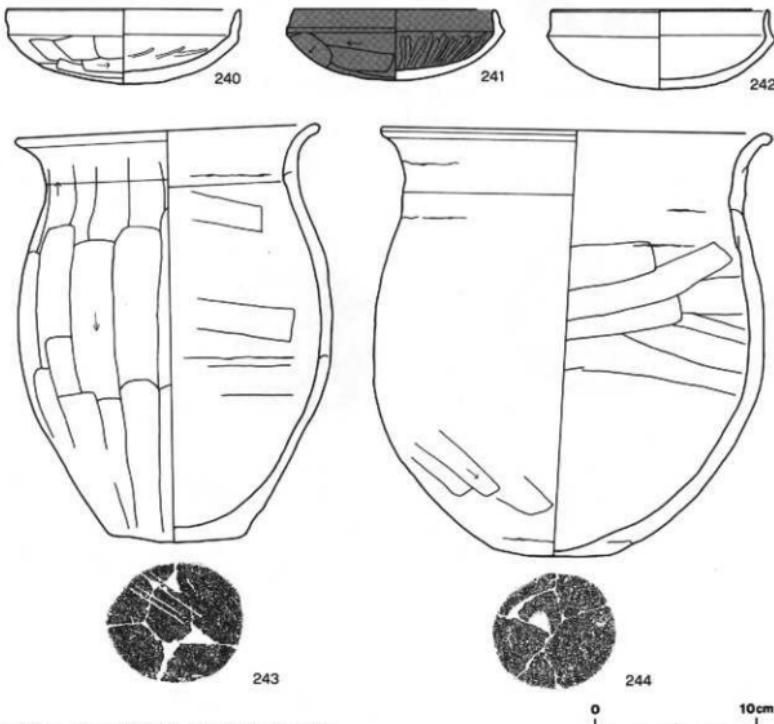
ピット 5か所。P 1～P 4は、深さ20～38cmほどであり、配置から主柱穴であり、P 5は深さ26cmほどで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

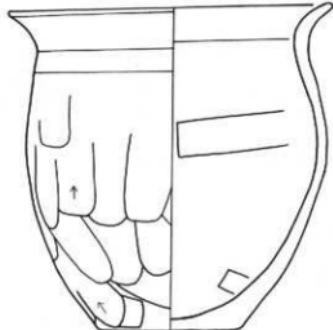
土層解説

| | | | |
|-------|----------------|-------|---------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土器部器片365点（壺・高杯7、壺1、甕・瓶357）、須恵器片5点（壺4、盤1）、土製品2点（球状土錘・支脚）、のほかに弥生土器片17点（広口壺）、石器（砥石）、礫2点がほぼ全域から散在して出土している。これらの中には、重複している第69号住居から流れ込んだと思われる甕や壺も出土している。甕内の左に寄った位置にはDP31が据えられており、その奥に240、手前上部には支脚上から倒れたと思われる243と245



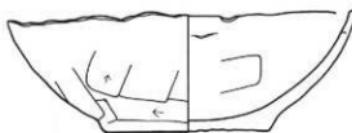
第108図 第66号住居跡・出土遺物実測図(1)



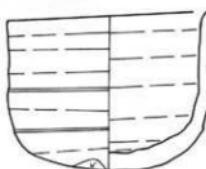
245



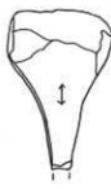
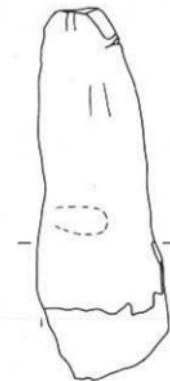
247



246



248



DP30



DP31

Q69



第109図 第66号住居跡出土遺物実測図(2)

がつぶれた状態で出土している。241は北コーナー部の床面、242は西壁際の床面からそれぞれ出土し、248は北壁際の床面から斜位の状態で出土している。また、破砕面が研磨されて、面上に転用されていたと思われる246の甕の底部は、焚口手前の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

第66号住居跡出土遺物観察表（第108・109図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 高さ | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|------|------|------|------------------|-----------|----|--|------|----------------------|
| 240 | 上師器 | 壺 | 14.5 | 4.7 | — | 雲母・長石・石英・小礫 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ削き | 床内 | 100% PL30 |
| 241 | 土師器 | 壺 | 12.3 | 4.4 | — | 長石・石英・赤色粒子 | 棕 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 床面 | 100% PL30
内・外黒褐色地 |
| 242 | 土師器 | 壺 | 13.5 | 5.0 | — | 雲母・長石・赤色粒子 | 浅黄褐 | 普通 | 体部外面摩擦 内面ナデ | 床面 | 63% |
| 243 | 土師器 | 壺 | 18.6 | 26.1 | 8.3 | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | 褐灰 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ヘラナデ 輪模様 底部ヘラ削り | 床内 | 90% PL31 |
| 244 | 上師器 | 壺 | 24.3 | 26.6 | 7.3 | 雲母・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ヘラナデ 内・外輪模様 底部ヘラ削り | 床面 | 70% PL31 |
| 245 | 土師器 | 壺 | 19.2 | 20.3 | 8.4 | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ヘラナデ 底部ヘラ削り | 下肩 | 80% PL31 |
| 246 | 上師器 | 壺 | 21.2 | 7.4 | 10.2 | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪模
痕部木葉模 | 床面 | 90% 黑釉 |
| 247 | 上師器 | 壺 | 14.4 | 14.9 | 6.2 | 長石・石英・隕 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面
ヘラナデ 底部ヘラ削り | 床面 | 65% |
| 248 | 須恵器 | 壺 | 12.4 | 10.0 | — | 長石・石英 | オリーブ
灰 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ 底部一方向のヘ
ラ削り | 床面 | 100% PL33 |

| 番号 | 器種 | 最大径 | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|-----|-----|--------|----|--------------|------|------|
| DP20 | 球状土器 | 3.0 | 3.1 | 0.6 | (24.8) | 土製 | ナデ 片面穿孔 一部欠損 | 覆土中 | PL37 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-----|-----|---------|----|----------|------|----|
| DP21 | 支脚 | (22.1) | 8.1 | 7.0 | (941.6) | 土製 | 外面ナデ 指頭痕 | 床内 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|---------|----|------|------|----|
| Q69 | 砥石 | (9.8) | 8.1 | 6.6 | (392.6) | 砂岩 | 砥所4面 | 床面 | |

第67号住居跡（第110図）

位置 調査6区東部のC 8J3区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第68・70号住居をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため、長軸は3.58m、短軸は2.52mほど確認され、主軸方向はN~4°~Eで長方形と推定される。標高は58cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、南壁付近が踏み固められ、各壁下に断面U字形の堀溝が巡っている。

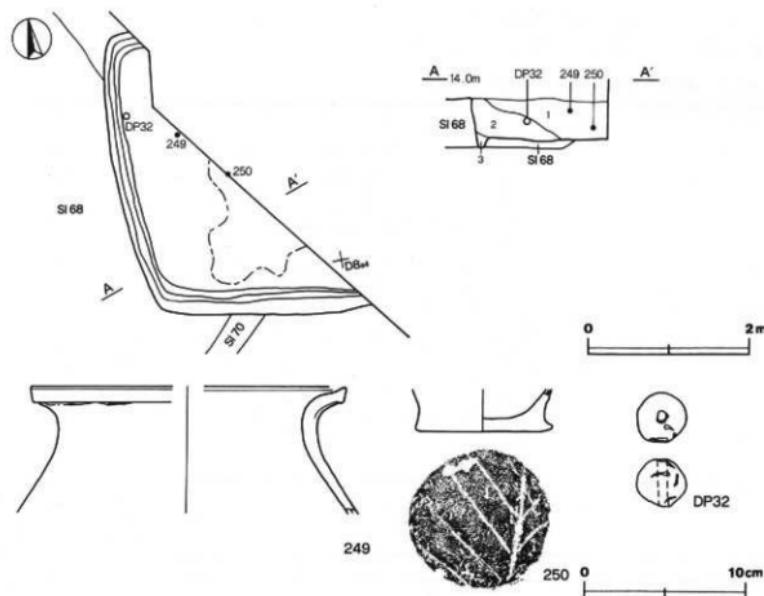
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 砂褐色 ローム粒子・燧上粒子・炭化粒子微量
- 2 砂褐色 ローム粒子少量、燧土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片22点（壺3、甕類19）のほかに、流れ込んだとおもわれる弥生土器片7点（広口壺）、鉄製品1点（不明）、鍍2点が出土している。調査区境界部の覆土上層から249、覆土中層から250の甕がそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物の総量が少なく明確ではないが、7世紀前半の第68号住居を掘り込んでいることや出土土器などから、7世紀後半と考えられる。



第110図 第67号住居跡・出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表（第110図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 手 法 の 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|-----|-----|----|--------|-------|-----|--------------------|-----|----|-----------|------|-----|
| 249 | 土 器 | 甕 | [19.4] | (7.8) | — | 雲母・長石・石英
赤色斑子・褐 | 浅黄橙 | 普通 | 口辺部内・外圓ナデ | 上 層 | 5% |
| 250 | 土 器 | 甕 | — | (2.6) | 8.6 | 雲母・長石・石英 | 棕 | 普通 | 底部木葉痕 | 中 層 | 5% |

| 番号 | 器種 | 最大径 | 厚さ | 孔 径 | 重 量 | 材 質 | 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|------|------|-----|-----|-----|------|-----|---------|------|------|
| DP32 | 球状土錐 | 3.1 | 2.8 | 0.6 | 24.7 | 土製 | ナデ 片面穿孔 | 中 層 | PL37 |

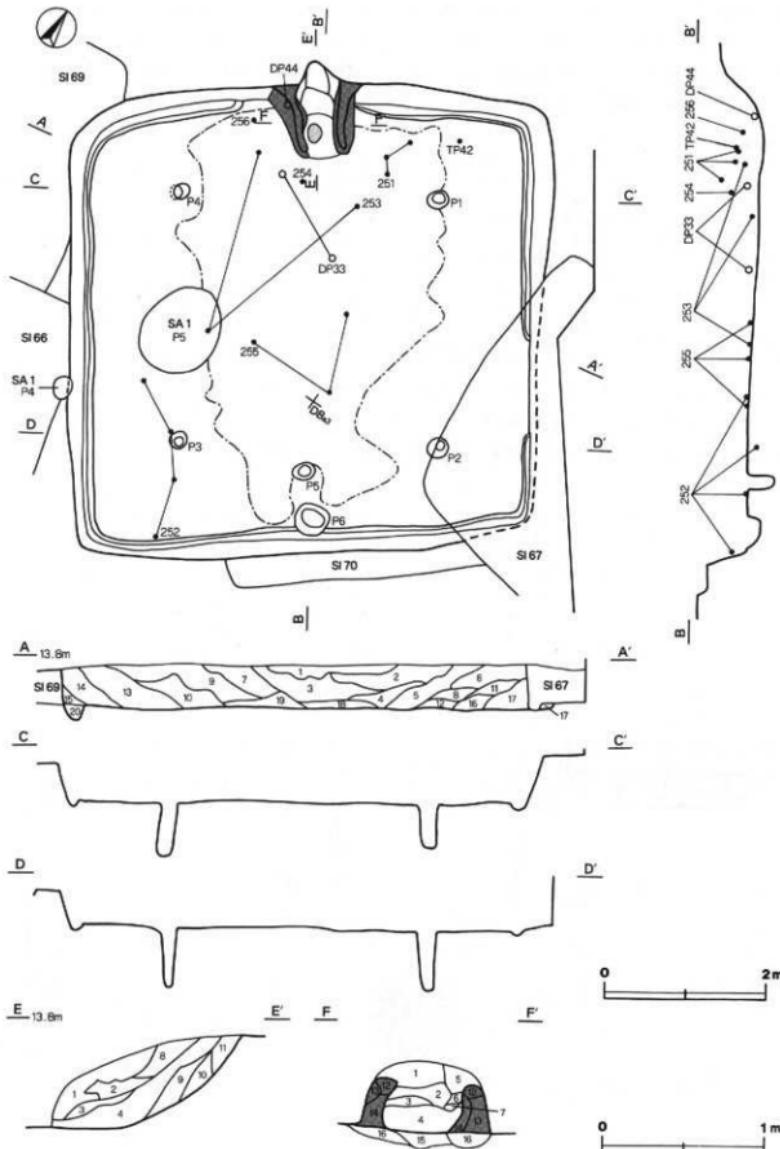
第68号住居跡（第111～113図）

位置 調査6区東部のC 8 j2区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第66・69・70号住居を掘り込み、第67号住居、第1号構列にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.86m、短軸5.83mほどの方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は44～56cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から竈にかけての中央部が踏み固められ、東壁の一部を除いて断面U字形の壁溝が巡っている。



第111図 第68号住居跡実測図

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで120cm、袖部幅は90cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは32cmほどで、外傾して立ち上がっている。袖部は、暗褐色土で竈の掘り方を床面と同じ高さまで埋め戻し、その上部に砂粒・粘土・ロームで構築している。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、袖部と同様に暗褐色土で竈の掘り方を埋め戻した面を使用しており、火床面は赤変硬化している。

竈土層解説

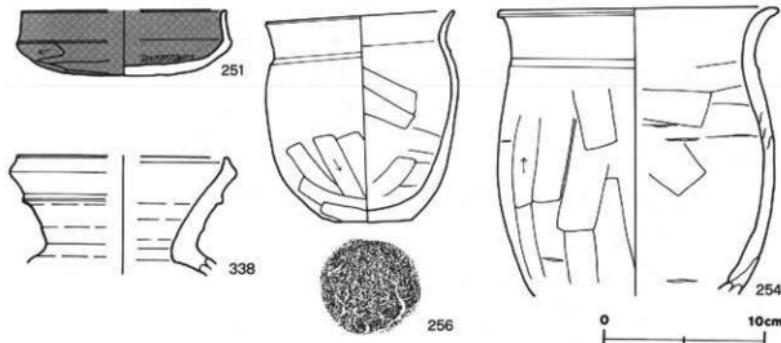
| | | | |
|-------|-------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 貫褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黄褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 明褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒・粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 明褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量 | 11 黄褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黄褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 黄褐色 | ローム粒子・砂粒・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 黄褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子少量 |
| 7 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂粒・粘土粒子中量 |
| | | 15 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 16 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 6か所。P 1～P 4は、深さ50～72cmほどであり、配置から主柱穴と考えられ、P 5は深さ34cm、P 6は深さ14cmほどで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

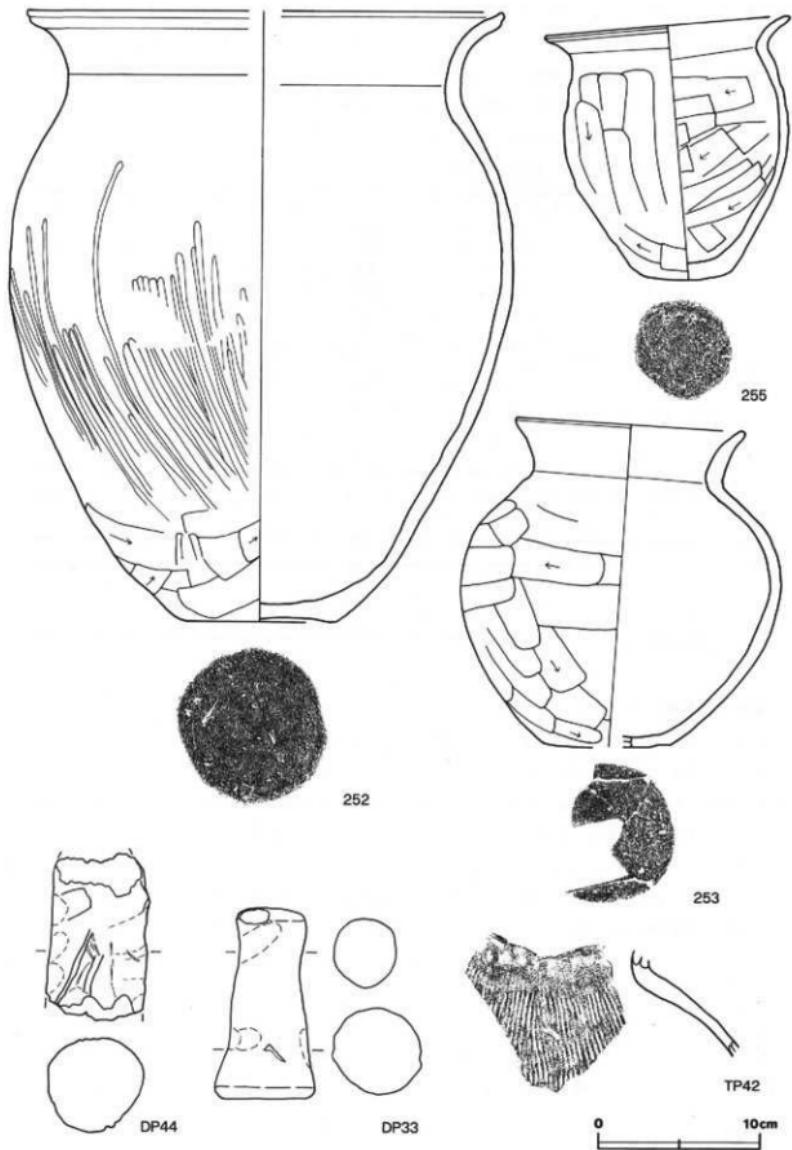
覆土 20層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|--------|---------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 12 黑褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 13 黑褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 14 黑褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 16 黑褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 黑褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 黑褐色 | ローム粒子中量 | 18 黑褐色 | ロームブロック微量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ロームブロック微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |



第112図 第68号住居跡出土遺物実測図(1)



第113図 第68号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片77点(坏4, 瓶73), 須恵器片2点(瓶), 土製品2点(支脚), のほかに流れ込んだと思われる弥生土器片120点(広口壺), 瓶12点がほぼ全城から散在して出土しているが, 南西コーナー付近に大型の破片が見られる。251は竈右脇付近, 252は南西コーナー付近, 254は竈焚口手前, 256は竈左袖外側付近からそれぞれ斜位で出土している。また, 竈内からはDP44の支脚が出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前半と考えられる。

第68号住居跡出土遺物観察表(第112・113図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-----|--------|--------|-------|---------------|--------|----|-------------------------------|------|------------|
| 251 | 土師器 | 坏 | [12.7] | 4.0 | — | 雲母・長石・赤色粒子 | にぶい赤褐色 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き | 中層 | 50% 内外面赤褐色 |
| 252 | 土師器 | 瓶 | [29.4] | 37.7 | 9.5 | 雲母・長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙褐色 | 普通 | 体部下端ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ナデ | 下層 | 50% |
| 253 | 土師器 | 瓶 | 13.9 | 20.3 | [7.8] | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 底部ヘラ削り | 下層 | 60% |
| 254 | 土師器 | 瓶 | 17.3 | (17.9) | — | 雲母・長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ | 下層 | 60% |
| 255 | 土師器 | 小形器 | 15.2 | 16.3 | 5.7 | 長石・石英 | 明赤褐色 | 普通 | 体部・外面ヘラ削り 底部ヘラ削り | 床面 | 90% |
| 256 | 土師器 | 小形器 | 11.6 | 13.0 | 5.4 | 長石・石英 | 褐灰 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り | 下層 | 95% |
| 358 | 須恵器 | 壺 | [12.9] | (7.3) | — | 雲母・長石・赤色粒子 | 灰 | 良好 | 器内部・外側ロクロナデ | 壁認面 | 5% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|----|-------|----|----------|----|----|---------------|------|----|
| TP45 | 須恵器 | 壺 | — | (5.8) | — | 雲母・長石・石英 | 灰 | 普通 | 体部外面平行叩き 内面ナデ | 中層 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-----|-----|---------|----|----------|------|------|
| DP33 | 支脚 | 11.8 | 6.3 | 5.4 | 332.2 | 土製 | 外面ナデ 指頭痕 | 下層 | PL37 |
| DP44 | 支脚 | (10.4) | 6.3 | 5.8 | (307.3) | 土製 | 外面ナデ 指頭痕 | 竈内 | |

第69号住居跡(第114図)

位置 調査6区東部のC8j1区に位置し, 中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第66・68号住居, 第1号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 南部が住居跡に掘り込まれているため, 長軸4.32m, 短軸は3.10mほど確認され, 主軸方向はN-7°-Wで方形と推定される。壁高は12~25cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 炉を中心として踏み固められている。

炉 中央のやや北寄りに位置し, 径48cmほどの円形であり, 床面を12cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は被熱で赤変硬化している。

ピット 2か所。P1は深さ10cm, P2は, 深さ38cmほどであり, 配置から主柱穴と考えられるが, P1は深さから考えると主柱穴との判断はしにくい。

伊土層解説

1. 非培赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 2. 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

覆土 2層に分層される。覆土が薄く堆積状況は不明である。

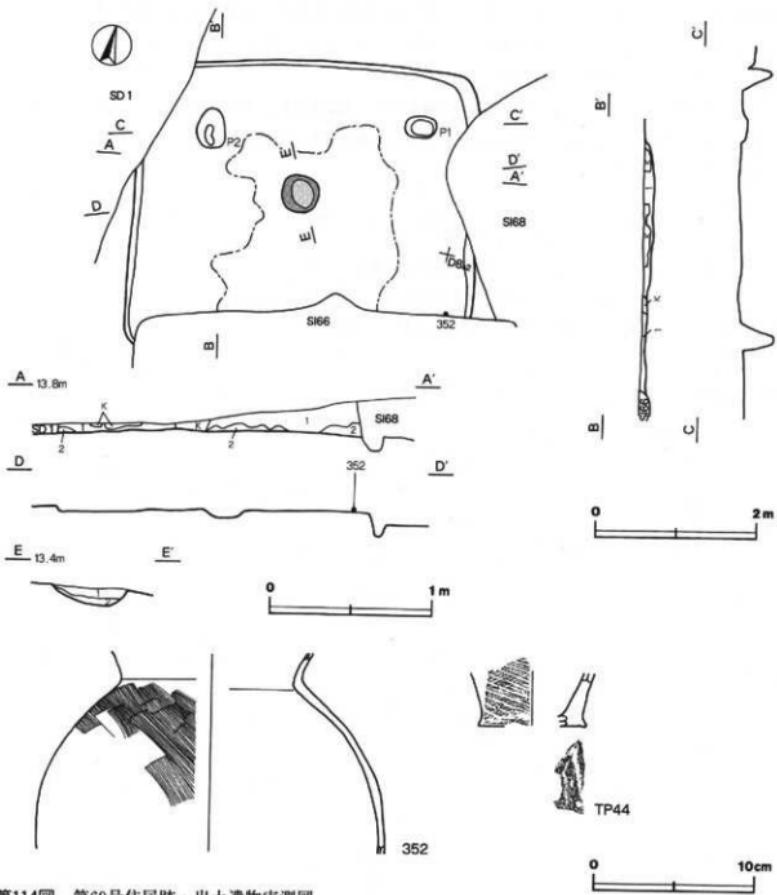
土層解説

1. 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2. 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片17点（壺），弥生土器片27点（広口壺），がいずれも破片で出土している。ハケ目整形を施す352は，東壁際の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。



第114図 第69号住居跡・出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表（第114図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様及び手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|----|--------|-------|------------------|--------|----|-----------------------------|------|----|
| 352 | 土 師 器 | 壺 | — | (12.4) | — | 雲母・長石・赤色粒子 | にぶい赤褐色 | 普通 | 体部外面ハケ目整形 | 床面 | |
| TP44 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.5) | [6.6] | 雲母・長石・石英
赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 腹部下端附加条二種（附加1条）の縦文
底部木象痕 | 覆土中 | |

第71号住居跡（第115・116図）

位置 調査区中央部のC 6 g6区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 西部を第51号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外に延びるため、長軸5.6m、短軸は4.0mほどが確認され、主軸方向はN-12°-Eで隅丸長方形と推定される。壁高は15cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、炉を中心にはみ固められている。

炉 中央部の北寄りに付設されている。北部分が壊乱され、東部は調査区域外となるため、長径52cm、短径32cmほどが確認され、形状は稍円形と推定される。床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床面は被熱で赤変硬化している。

堆土層解説

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-----------|
| 1 極暗赤褐色 | 燒土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 極暗赤褐色 | ロームの非変硬化層 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 2か所。P1、P2とも深さ52cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。P2は、第51号住居内で確認されている。その他の主柱穴は東側の調査区域外に存在すると考えられる。

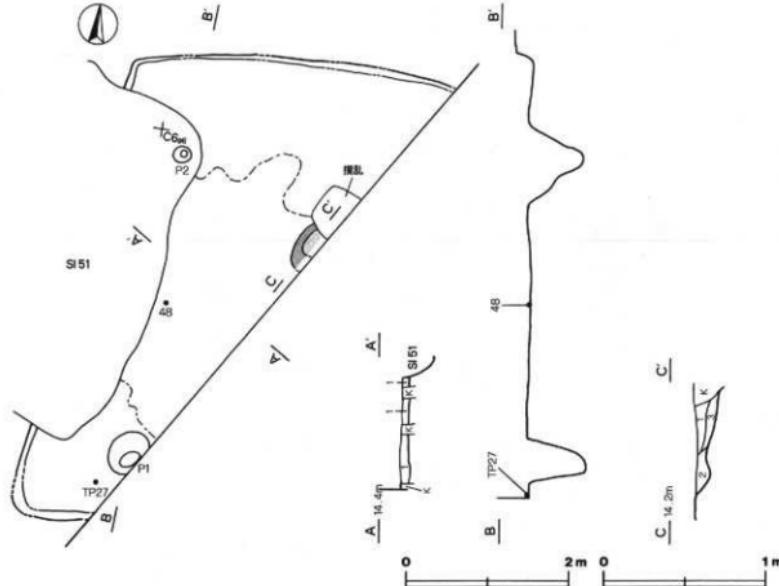
覆土 覆土が薄く、確認できたのは1層であり、堆積状況は不明である。

土層解説

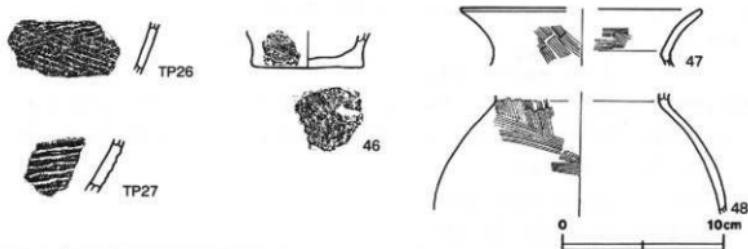
| | |
|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
|-------|----------------|

遺物出土状況 土師器片69点（高杯4、甕65）、弥生土器片10点（広口壺）のほかに、混入と思われる須恵器片5点（壺）、陶器片1点（不明）が出土している。48は床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



第115図 第71号住居跡実測図



第116図 第71号住居跡出土遺物実測図

第71号住居跡出土遺物観察表（第116図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様及び手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|--------|-------|-----|-------|----|----|-----------------------------|------|----|
| 46 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (2.2) | 7.0 | 長石・石英 | 棕 | 普通 | 肩部下端附加条二種（附加1条）の繩文
底部砂目痕 | 覆土中 | 5% |
| 47 | 土師器 | 甕 | [15.0] | (3.5) | — | 長石・石英 | 明褐 | 普通 | 口唇部ナメ 口縁部内・外側ハケ目調整 | 覆土中 | 5% |
| 48 | 土師器 | 甕 | — | (7.4) | — | 長石・石英 | 黒褐 | 普通 | 体部外側ハケ目調整 | 床面 | 5% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|----|-------|----|-------|-------|----|-----------------------|------|----|
| TP26 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.3) | — | 雲母・長石 | にぶい棕 | 普通 | 肩部附加条二種（附加1条）の繩文 羽状模様 | 覆土中 | |
| TP27 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (1.8) | — | 雲母・長石 | にぶい黄褐 | 普通 | 肩部附加条二種（附加1条）の繩文 | 床面 | |

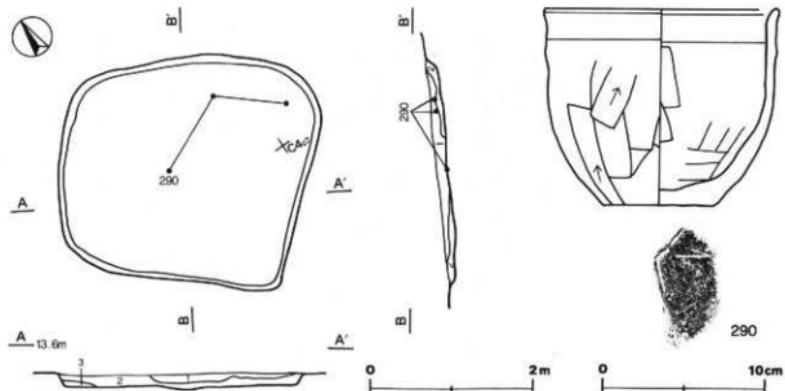
(2) 壴穴遺構

第1号竪穴遺構（第117図）

位置 調査3区西部のC 4 b6区に位置し、中位段丘から低位段丘への南西方向への斜面部に立地している。

規模と形状 長軸3.1m、短軸2.8mほどの方形で、長軸方向はN-51°-Wである。壁高は9~15cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。



第117図 第1号竪穴遺構・出土遺物実測図

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

| | |
|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、礫微量 |
| 2 黄褐色 | ローム粒子中量、東沼ブロック・礫微量 |

| | |
|-------|---------|
| 3 黄褐色 | ローム粒子微量 |
|-------|---------|

遺物出土状況 土師器片35点(壺・瓶)、須恵器片3点(环)のほかに、流れ込みと思われる弥生土器片10点(広口壺)、鉄製品1点(不明)が北東部を中心出土している。290は東コーナー部覆土中層と中央部床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

第1号竪穴造構出土遺物観察表(第117図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-----|------|------|-----|-------|----|----|-----------------|-------|-----|
| 290 | 土師器 | 小形壺 | 14.2 | 12.2 | 6.9 | 長石・石英 | 黒褐 | 普通 | 体部外側ヘラ削り 内面ヘラナデ | 中層～床面 | 40% |

第2号竪穴造構(第118図)

位置 調査6区東部のC8街区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第56・57号住居、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.70m、短軸2.89mほどの不整方形で、長軸方向はN-4°-Wである。壁高は47~56cmほどで、外傾して立ち上がっていている。

床 磨が露出しており、凸凹状を呈している。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

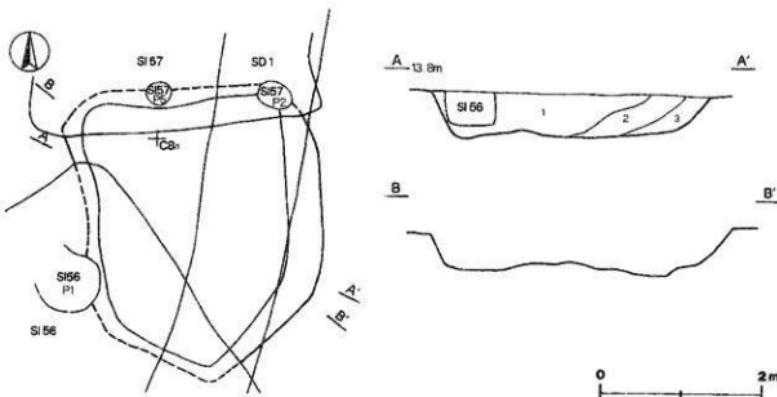
土層解説

| | |
|-------|---------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黄褐色 | ロームブロック少量、礫微量 |

| | |
|-------|-----------|
| 3 黄褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|-----------|

遺物出土状況 土師器片11点(壺)、弥生土器片2点(広口壺)、磚1点が出土している。土師器裏片は覆土中層から出土しているが、第57号住居と重複している位置からであり、本跡に伴うものかは明確ではない。

所見 時期は、遺物が少ないため、明確に判断することはできないが、6世紀前半の第37号住居に掘り込まれていることからそれ以前と考えられる。



第118図 第2号竪穴造構実測図

第3号竪穴遺構（第119図）

位置 調査8区東部のC5b6区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第71・93号土坑、第4号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 北部は調査区域外に延び、西部が土坑に掘り込まれているため、長軸7.56m、短軸3.54mほどが確認される。長軸方向N-64°-Wの長方形と推定される。壁高は35cmほどで、壁は緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

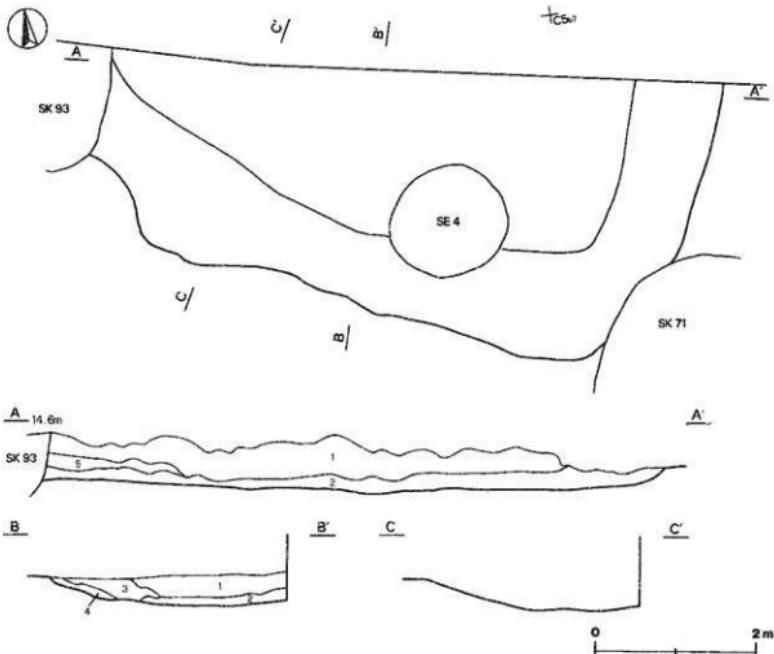
覆土 5層に分層される。ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子が各層に観察されることから人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片107点（坏18、甕類89）、須恵器片5点（坏3、甕2）、混入したと思われる弥生土器5点（広口壺）、土師質土器片39点（小皿13、内耳綱17、鉢9）、糠2点が、南東コーナー付近を中心に出土しているが、いずれも細片である。

所見 硬化面や柱穴が確認できなかったために、竪穴遺構としたが性格は不明である。時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第119図 第3号竪穴遺構実測図

4 奈良・平安時代の遺構と遺物

今回の調査で、奈良・平安時代の堅穴住居跡10軒、土坑1基を確認した。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

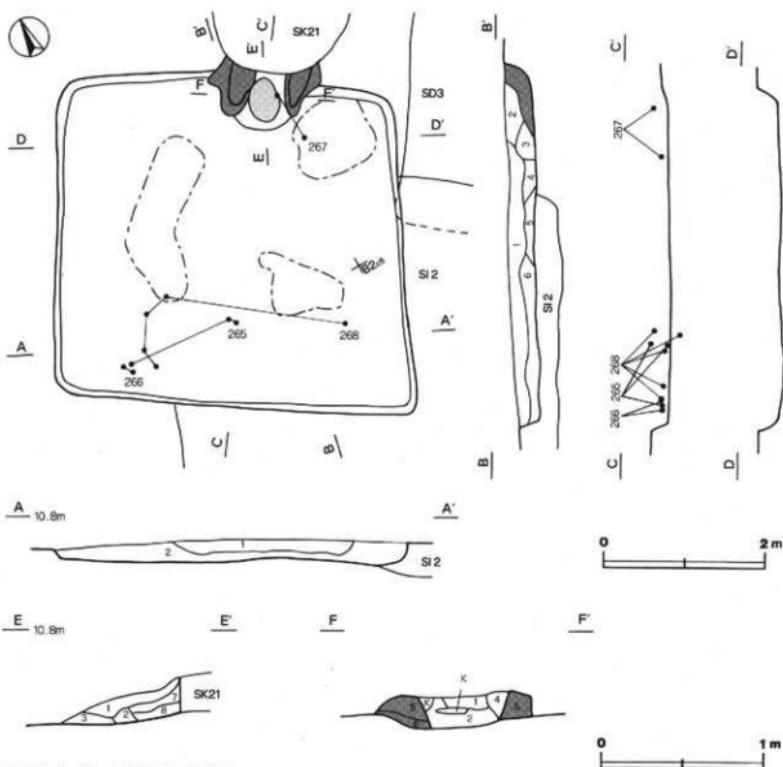
第1号住居跡（第120～122図）

位置 調査1区西部B2 b4区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第2号住居を掘り込み、第21号土坑、第3号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.22m、短軸4.16mほどの方形で、主軸方向はN-29°-Eである。壁高は24～26cmほどで、外傾して立ち上っている。

床 ほぼ平坦な貼床で、東コーナー付近、北西部、南部に踏み固められている面が見られる。全体的に10～20cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックで埋め戻して床を作っている。



第120図 第1号住居跡実測図

竈 北東壁中央部に付設されているが、煙道部は土坑に掘り込まれている。袖部幅は110cmほどであり、袖部は砂粒・粘土・ロームで構築されている。火床部は北東壁ラインの内側に位置し、地山面をわずかに掘りくぼめた面を使用しており、火床面は赤変している。

竈土層解説

| | | | |
|--------|--------------------------|---------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・砂粒・粘土粒子微量 | 4 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・砂粒・粘土粒子微量 |
| 子微量 | | 5 黒褐色 | ロームブロック・砂粒・粘土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・砂粒・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・砂粒・粘土粒子微量 | 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物微量 |
| | | 8 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、砂粒・粘土粒子微量 |

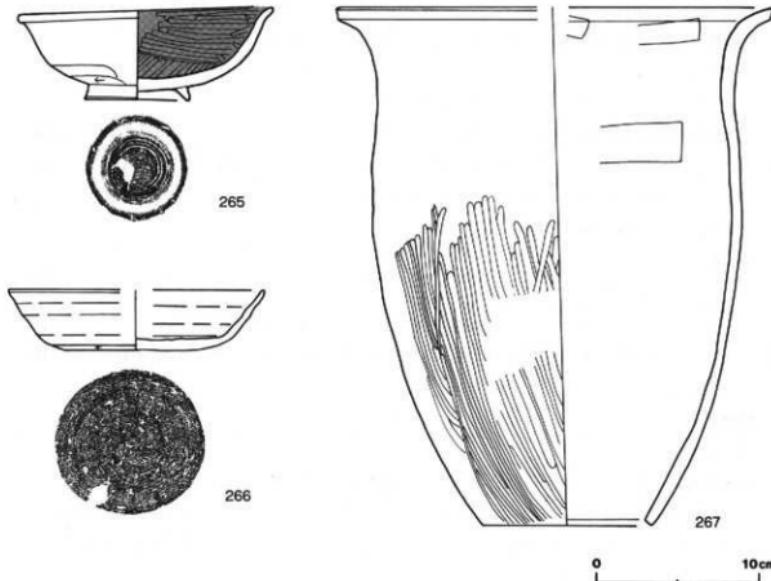
覆土 6層に分層される。1・2層は自然堆積、3~6層は不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片120点（环3、高台付坏1、甕・瓶116）、須恵器片28点（环17、甕・瓶11）のほか、流れ込んだと思われる縄文土器片2点、弥生土器片2点、混入したと思われる陶器片1点、瓦質土器片1点、環8点が、主に竈や西壁付近から出土している。267は竈内から出土していることから、時期決定資料となる。266は西コーナー壁際覆土下層、267は竈の覆土上層の破片と右袖外側覆土下層から出土した破片が接合したものである。265は中央部と西コーナー壁際から出土した破片が接合したものであるが、他の遺物と時期差があり、混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第121図 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第122図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

第1号住居跡出土遺物観察表 (第121・122図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|------|--------------------|------|----|------------------------------|-------|--------------------|
| 265 | 土師器 | 壺 | 15.6 | 5.9 | 6.4 | 雲母・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部下端手持ちヘラ削り 口縁部外側へラ削き 内面ヘラ削き | 下層 | 70% PL34
内面黒色処理 |
| 266 | 須恵器 | 壺 | [15.8] | 3.8 | 8.0 | 長石・石英 | 灰黄 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り | 下層 | 40% |
| 267 | 土師器 | 甌 | [27.0] | 32.0 | 10.6 | 雲母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部外側下端ヘラ削き 内面ヘラナダ | 窓内・下層 | 70% PL32 |
| 268 | 須恵器 | 甌 | [19.0] | (11.9) | — | 雲母・長石・石英
赤色粒子・鐵 | 橙 | 普通 | 口縁部沈線 体部外斜位の叩き | 中層～床面 | 5% PL33 |

第2号住居跡 (第123図)

位置 調査1区西部B2c4区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第3号住居を掘り込み、第1号住居、第16号土坑、第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.38m、短軸4.20mほどの方形で、主軸方向はN-27°-Eである。壁高は27~39cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から窓にかけての中央部が踏み固められている。

電 北東壁中央部に付設されているが、第1号住居により、煙道部・袖部の大部分が壊されている。袖部は砂粒・粘土・ロームで構築されており、残存する袖部幅は114cmほどである。火床部は、北東壁ラインの内側に位置し、床面とはほぼ同じ高さの面を使用しており、火床面はわずかに赤変している。土層断面図中第1~5は壊れた窓の土層、第6層が袖部の土層である。

電土層解説

| | | | |
|---------|-----------------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量、灰化物・灰燼量 | 4 楊葉赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 2 楊葉赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・灰燼量 | 5 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量 |
| 3 赤黒色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土粒子微量 | 6 黄褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ロームブロック少量、燒土粒子微量 |

覆土 4層に分層される。第1号住居に掘り込まれているため、全体を捉えられないが、不自然な堆積状況を示す層があることから人為堆積と考えられる。

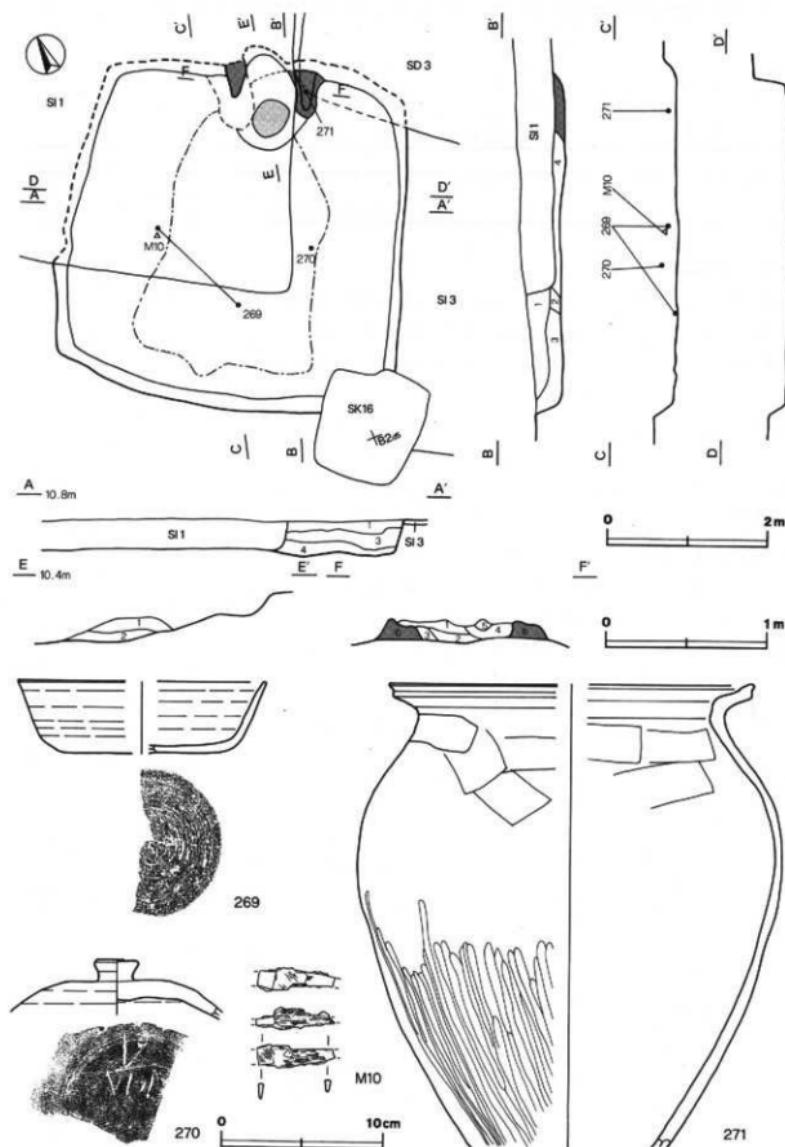
土層解説

| | | | |
|--------|------------------|-------|------------------|
| 1 楊葉褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量 | 3 楊葉色 | ローム粒子中量 |
| 2 楊葉褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片107点(壺1、甌1、瓶106)、須恵器片22点(壺類18、蓋4)、鉄製品1点(刀子)、流れ込みと思われる弥生土器片3点(広口壺)、礫11点がほぼ全域から散在して出土している。269は中央部付近の覆土下層と床面から出土した破片が接合したものであり、271は窓内、茎部に木質が付着するM10は中央部西寄りの覆土中層から出土している。

所見 8世紀前葉の第1号住居に掘り込まれているため、時期はそれ以前と推定されるが、出土土器の比較か

ら時期差はそれほど無いと考えられる。



第123図 第2号住居跡・出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表（第123図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|--------|-------------------------|------|-------------|------------------------------|-------|--------------------|
| 269 | 須恵器 | 壺 | [15.4] | 4.4 | [10.0] | 雲母・長石・石英
骨灰混入 | 褐灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り | 下層～床面 | 40% |
| 270 | 須恵器 | 蓋 | — | (3.7) | — | 雲母・長石・
石英 | 灰黄 | 普通 | 天井部右回りのヘラ削り | 中層 | 20% PL38
刻書「前々」 |
| 271 | 土師器 | 甕 | [22.5] | (29.0) | — | 雲母・長石・石英
赤色斑子・鐵
錫 | にぶい赤 | 普通 | 口沿部ヘラナデ 体部外側下端ヘラ密き
内面ヘラナデ | 甕内 | 30% |
| M10 | 刀子 | 子 | (4.9) | 1.4 | 0.4 | (7.3) | 鉄製 | 刃部欠損 基部木質付着 | | 中層 | PL38 |

第3号住居跡（第124図）

位置 調査1区西部B2c5区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第2号住居、第16号土坑、第3号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 第2号住居や、第3号溝などに掘り込まれているため、長軸は4.1m、短軸は1.5mほどが確認され、主軸方向N-17°-Eの方舟と推定される。壁高は10cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、検出されたピット付近と北部に踏み固められた面が見られる。

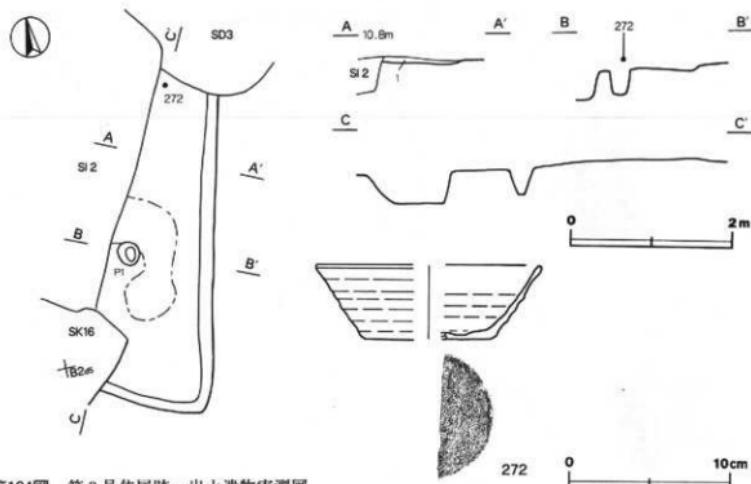
ピット 1か所。深さ34cmほどで、配置から柱穴と考えられる。

覆土 覆土が薄く、1層のみ確認されたため、堆積状況は不明である。

土層解説

I 著色 ローム粒子少量
 遺物出土状況 土師器片34点（壺1、甕類33）、須恵器片11点（壺）、流れ込みと思われる縄文土器片2点（深鉢）、弥生土器片1点（広口壺）が出土しているが、遺物はいずれも細片である。272は北部の覆土上層から出土おり、混入したものと推定される。

所見 8世紀前葉と推定される住居跡に掘り込まれているため、時期はそれ以前と考えられる。



第124図 第3号住居跡・出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第124回）

| 番号 | 器種 | 器種 | 口径 | 縦高 | 底径 | 底上 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|-----|-------|-----------------|----------|----|-------------|------|-----|
| 272 | 埴輪器 | 坏 | [14.0] | 4.6 | [8.1] | 灰石・石質
引出直物・磨 | にい黄
赤 | 良好 | 底部四軒ヘラ切り後ナデ | 上層 | 25% |

第4号住居跡（第125～128回）

位置 調査1区中央部のB2d6区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第7号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.25m、短軸5.15mほどの方形で、主軸方向はN-19°-Eである。縦高は17～55cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。北東コーナー部を除いた各壁下に、断面U字形の壁溝が巡っている。掘り方は、全面梢円形や不整形に10～34cmほど掘りくぼめた部分が数か所見られ、ロームブロックや粘土ブロックを用いて版築状に床が貼られている。

竈 北東壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで136cm、袖部幅は132cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは32cmほどであり、外傾して立ち上がりしている。天井部は崩落しており、土層断面図中の第1・2・6・8層が天井の一部である。袖部は、地山の上に砂粒・粘土・ロームで構築され、火床部は、北壁ライン上に位置し、ほぼ平坦で、火床面はわずかに赤変している。

竈土層解説

| | | | | | | | |
|----|---|----|----------------------------|----|-----|-----|-------------------------------|
| 1 | 灰 | 褐色 | ローム粒子・砂粒・粘土粒子少量 | 12 | 灰 | 褐色 | ローム粒子・砂粒・粘土粒子少量、燒土ブロック微量 |
| 2 | 灰 | 褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、燒土ブロック微量 | 13 | 灰 | 褐色 | 燒土ブロック・砂粒・粘土粒子少量 |
| 3 | 黒 | 褐色 | 燒土ブロック・砂粒・粘土粒子少量 | 14 | 暗 | 赤褐色 | ローム粒子・火化粒子・燒土ブロック・砂粒微量 |
| 4 | 灰 | 褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子少量 | 15 | 暗 | 赤褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子少量、燒土粒子 |
| 5 | 黒 | 褐色 | ローム粒子・燒土ブロック・砂粒・粘土粒子・灰塵微量 | 16 | にい黄 | 褐色 | ローム粒子・火化粒子・燒土ブロック・砂粒微量 |
| 6 | 赤 | 褐色 | 焼土粒子・砂粒・粘土粒子多量 | 17 | にい黄 | 褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、燒土粒子中量、ローム粒子少量、燒土粒子 |
| 7 | 暗 | 褐色 | ローム粒子・砂粒・粘土粒子少量 | | | | |
| 8 | 灰 | 褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、燒土粒子少量 | | | | |
| 9 | 暗 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量 | | | | |
| 10 | 赤 | 褐色 | 燒土ブロック・砂粒・粘土粒子少量 | | | | |
| 11 | 赤 | 褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、ロームブロック・燒土ブロック微量 | | | | |

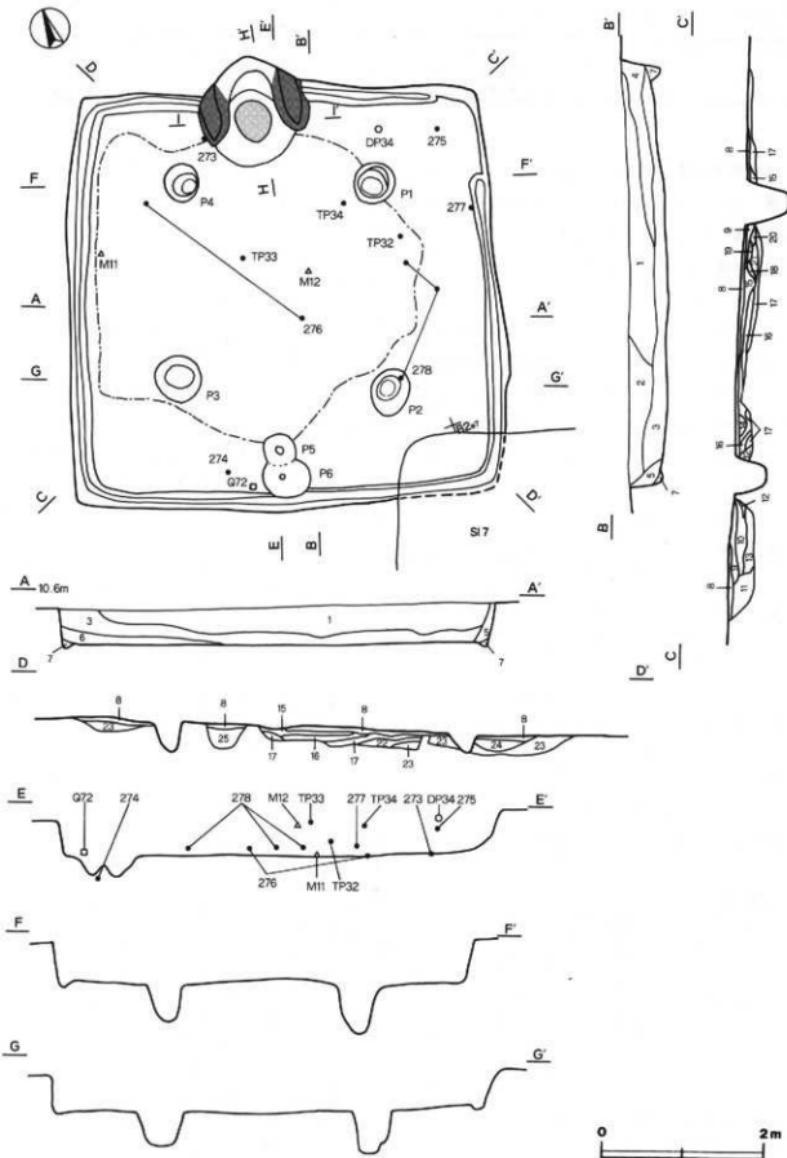
ピット 6か所。P1～P4は深さ42～58cmほどで、配置から主柱穴と考えられ、P5は深さ25cm、P6は深さ27cmほどで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

礎土 25層に分層される。1・2層は不自然な堆積状況から人為堆積、3～7層はレンズ状の堆積を呈した、自然堆積と考えられる。8～25層は掘り方の埋土である。

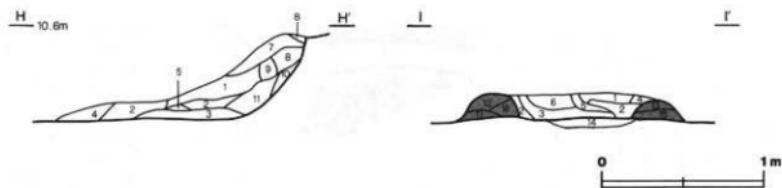
土層解説

| | | | | | | | |
|----|---|----|-----------------------|----|-----|-----|--------------------|
| 1 | 黒 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 | 暗 | 褐色 | ローム粒子・粘土ブロック少量 |
| 2 | 黒 | 褐色 | ローム粒子少量 | 15 | 暗 | 褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 3 | 黒 | 褐色 | ローム粒子・燒土粒子微量 | 16 | 暗 | 褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 4 | 黒 | 褐色 | ローム粒子・燒土ブロック少量、焼土粒子微量 | 17 | 暗 | 褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 5 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量 | 18 | 暗 | 褐色 | 粘土粒子多量 |
| 6 | 黒 | 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 19 | 灰 | 褐色 | 粘土粒子中量 |
| 7 | 暗 | 褐色 | ローム粒子少量 | 20 | 灰 | 褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 8 | 暗 | 褐色 | ローム粒子・粘土ブロック中量 | 21 | 暗 | 赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 9 | 暗 | 褐色 | ロームブロック多量 | 22 | 暗 | 褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 10 | 暗 | 褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック少量 | 23 | 灰 | 褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子中量 |
| 11 | 黒 | 褐色 | ロームブロック微量 | 24 | 灰 | 褐色 | 粘土粒子多量 |
| 12 | 暗 | 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 25 | にい黄 | 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片1,223点（环26、高环2、壺1,195）、須恵器片59点（环32、壺27）、土製品13点（支脚片12、球状土錐1）、石器1点（砥石）、鉄製品4点（刀子3、鎌1）のほかに、流れ込みと思われる縄文土器片9点（鉢）、弥生土器片12点（広口壺）、壺43点がほぼ全城から出土し、特に中央部から北壁にかけた位置から



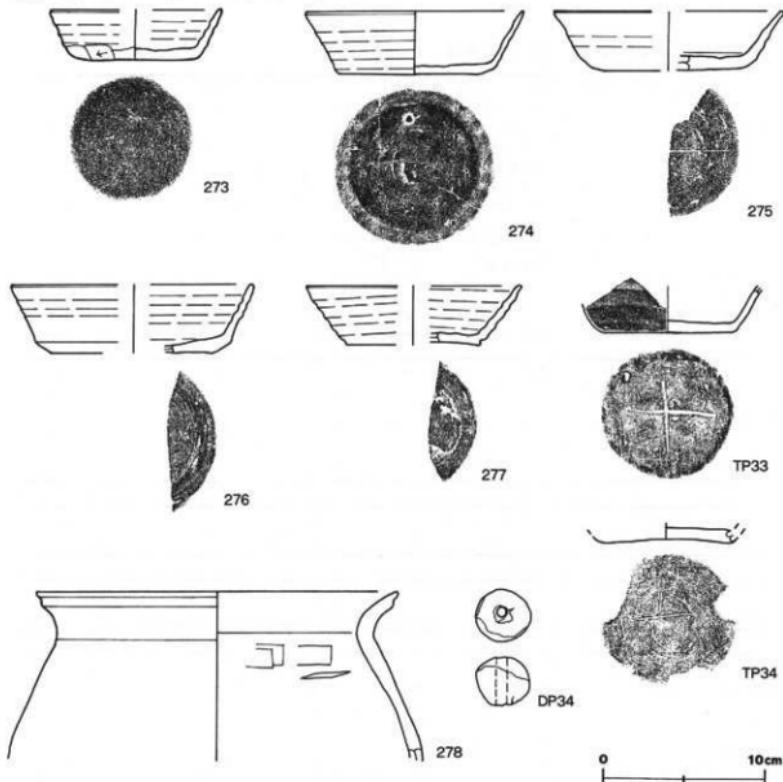
第125図 第4号住居跡実測図(1)



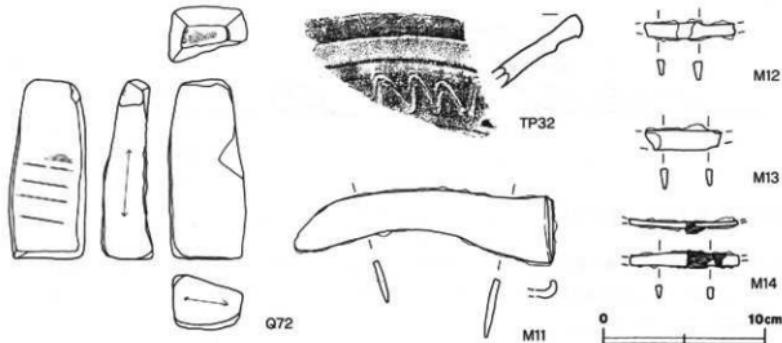
第126図 第4号住居跡実測図(2)

の出土量が多い。273は竈左袖外側の床面、ヘラ記号「-」が底部に刻まれる274は掘り方調査時に南壁際から出土し、同様のヘラ記号を施す275は北東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。また、M11は北西壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。



第127図 第4号住居跡出土遺物実測図(1)



第128図 第4号住居跡出土遺物実測図(2)

第4号住居跡出土遺物観察表（第127・128図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|--------|---------------|-----------|----|-------------------------|----------------|----------------|
| 273 | 須恵器 | 坏 | [10.5] | 3.2 | 7.5 | 長石・石英
針状鉱物 | 灰白 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後ナデ 体部下端手持ちヘラ削り | 床面 | 70% PL34 |
| 274 | 須恵器 | 坏 | 13.4 | 4.0 | 9.8 | 長石・石英
針状鉱物 | 灰黄褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後ナデ | 掘り方
ヘラ記号「-」 | 65% PL34 |
| 275 | 須恵器 | 坏 | [14.2] | 3.7 | [8.0] | 長石・石英
針状鉱物 | 灰白 | 良好 | 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り | 中層 | 40%
ヘラ記号「-」 |
| 276 | 須恵器 | 坏 | [15.0] | 4.2 | [10.2] | 長石・石英
針状鉱物 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り | 下層～床面 | 30% |
| 277 | 須恵器 | 坏 | [13.2] | 3.6 | [8.2] | 長石・石英
針状鉱物 | 灰 | 良好 | 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り | 下層 | 30% |
| 278 | 土師器 | 甕 | 22.4 | (10.4) | — | 長石・石英
赤色粒子 | にぶい赤
褐 | 普通 | 口沿部内・外縁横ナデ 内面ヘラナデ | 下層 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|----|-------|-----|-------|----|----|-------------------|------|----------------|
| TP32 | 須恵器 | 甕 | — | (4.6) | — | 長石・石英 | 灰黄 | 普通 | 口辺側面状工具による波状文 | 下層 | 5% |
| TP33 | 須恵器 | 坏 | — | (3.0) | 8.0 | 長石・石英 | 灰白 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り | 上層 | 20%
ヘラ記号「×」 |
| TP34 | 須恵器 | 坏 | — | — | 8.5 | 長石・石英 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後ナデ | 上層 | 15%
ヘラ記号「×」 |

| 番号 | 器種 | 最大径 | 厚さ | 孔径 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|-----|-----|------|----|---------------|------|------|
| DH34 | 環状土鍤 | 34 | 3.0 | 0.7 | 30.4 | 土製 | ナデ 片面穿孔 被熱痕あり | 上層 | PL37 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|------|-----|-----|-------|-----|------|------|----|
| Q72 | 砥石 | 11.0 | 4.7 | 3.3 | 194.0 | 凝灰岩 | 平面4面 | 床面 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-------|-------|----|----------------------|------|------|
| M11 | 錘 | 16.2 | 4.8 | 0.4 | 80.7 | 鉄製 | 両端はわざかに彎曲 基部は全体を折り返す | 床面 | PL38 |
| M12 | 刀子 | (5.6) | 1.3 | 0.4 | (5.4) | 鉄製 | 切先・茎尻部欠損 両闘 | 上層 | - |
| M13 | 刀子 | (4.7) | 1.3 | (0.4) | (5.7) | 鉄製 | 切先・茎尻部欠損 片闘 | 覆土中 | |
| M14 | 刀子 | (6.8) | 1.1 | 0.4 | (5.6) | 鉄製 | 切先・茎尻部欠損 基部木質付着 | 掘り方 | PL38 |

第7号住居跡（第129・130図）

位置 調査1区中央部のB2e7区に位置し、低位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第26号住居を掘り込み、第4号住居、第17・18・28号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 北部を第4号住居などに掘り込まれているが、長軸3.95m、短軸3.74mほどが確認され、主軸方向N-110°-Eの方形である。壁高は12~20cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

窓 南コーナー寄りに煙道の立ち上がりと思われる掘り込みと、火床面と思われる焼土の散らばりが確認され、窓と判断した。袖部は壊されてないが、火床部は、南壁ライン上に位置し、平坦な面を使用している。煙道の壁外への掘り込みは36cmほどであり、外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

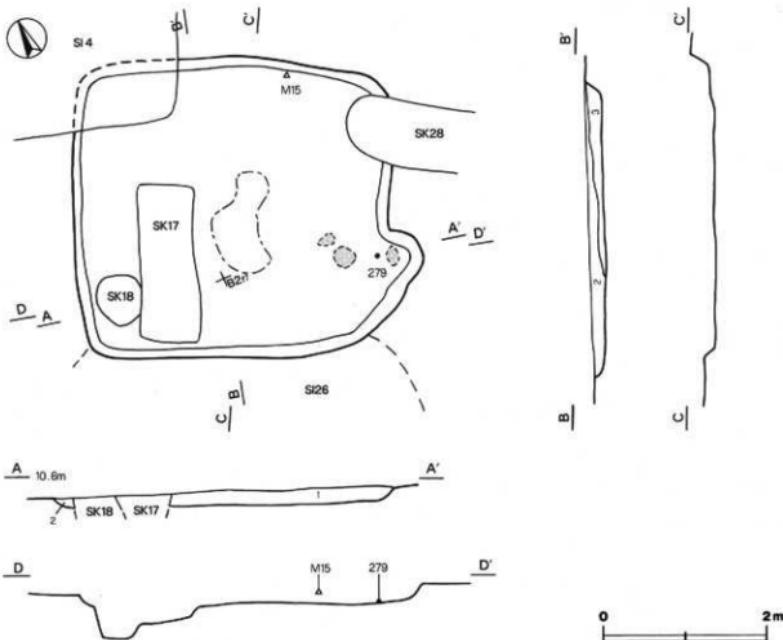
土層解説

| | |
|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 |

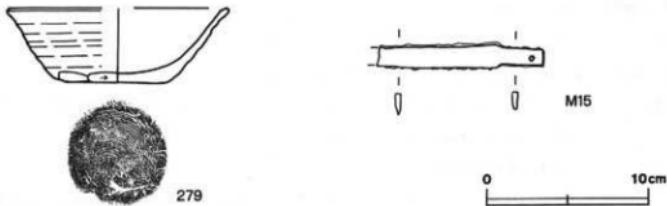
| | |
|-------|-------------------------|
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
|-------|-------------------------|

遺物出土状況 土師器片84点（坏13、甕類71）、須恵器片9点（坏）、鐵製品1点（刀子）のほか、流れ込みと思われる繩文土器片1点、弥生土器片3点、古錢1点、蝶5点が全域から出土しているが細片が多い。279は火床面手前の床面、M15は北東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第129図 第7号住居跡実測図



第130図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第130図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|--------|--------|-----|-----|------------|-----|---------------|--------------------|------|----------|
| 279 | 須恵器 | 环 | [13.4] | 4.6 | 6.2 | 長石・石英・赤色粒子 | 明闇灰 | 不良 | 底部回転糸切り 体部外下面端ヘラ削り | 床面 | 55% PL34 |
| M15 | 刀子 | (10.3) | | 1.7 | 0.4 | (18.7) | 鉄製 | 切先欠損 目釘穴有り 両側 | | 中層 | PL38 |

第8号住居跡（第131・132図）

位置 調査1区中央部のB3丘に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第14・16号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.15m、短軸3.98mほどの方形で、主軸方向はN-39°Eである。壁高は15~20cmほどで、外傾して立ち上がっている。竈の両脇に棚状施設が付設されている。

床 ほぼ平坦で、中央部から竈にかけて踏み固められている。各コーナー付近は10~16cmほど掘りくぼまれ、ロームブロックで床が貼られている。

竈 北壁中央部に付設され、袖部は残存していない。規模は、焚口部から煙道部先端まで130cmほどであり、煙道部の壁外への掘り込みは84cmで、外傾して立ち上がっている。火床部は、北東壁ライン上に位置し、床面と同じ高さの面を使用しており、火床面はあまり赤変していない。

竈土層解説

| | | | |
|---------|--------------------------|----------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂粒・粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 11 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 茶色 | ローム粒子多量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック微量 |
| 5 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 | 13 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、砂粒・粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、砂粒・粘土粒子微量 |
| 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、砂粒・粘土粒子微量 | 15 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量、粘土ブロック微量 |
| 8 施暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 | | |

棚状施設 竈を中心として左右ほぼ同規模に設けられており、幅約110cm、奥行約70cm、住居の床面から施設の底面までの高さ10~18cmほどである。棚の上面及び壁面には、粘土などを貼った痕跡は確認されていない。また、竈の左側の施設からは2か所のピット（P5・P6）が検出された。

ピット 6か所。P1~P4は、深さ42~60cmほどであり、配置から主柱穴と考えられる。

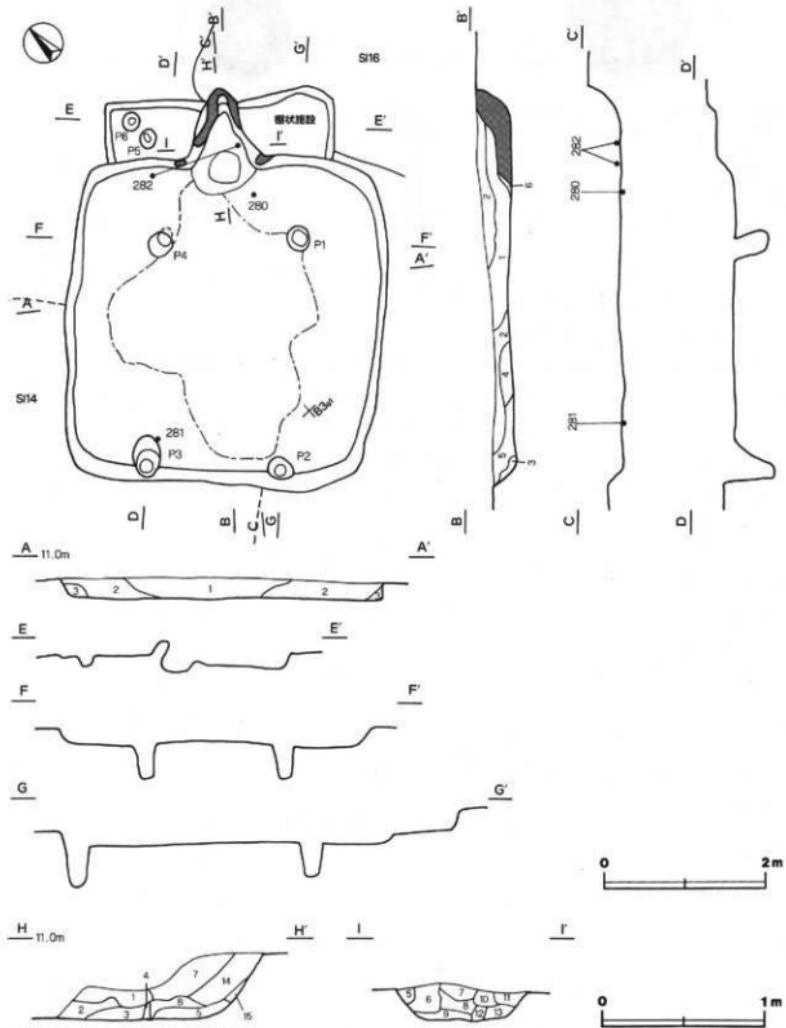
覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

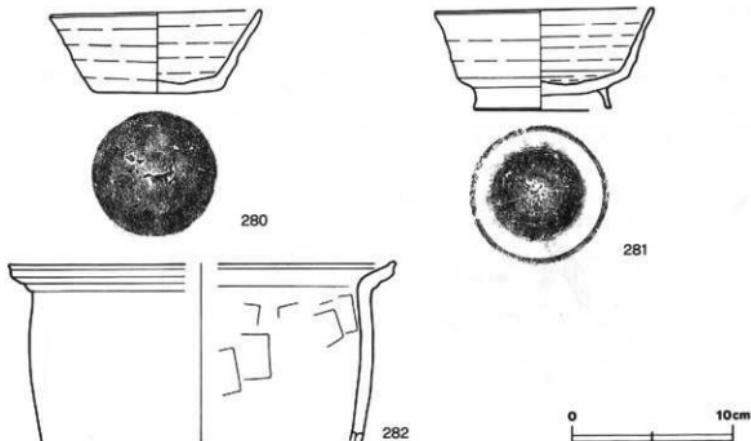
| | | | |
|--------|----------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片143点（坏類8, 壺類135）, 須恵器片16点（坏類13, 蓋3）のほかに, 流れ込みと思われる縄文土器片1点（深鉢）, 弥生土器片15点（広口壺）, 磁器11点が主に壺付近と西部を中心に出土している。280は壺手前の床面, 281はP3東側の床面からそれぞれ出土したものである。282は壺内の破片と北壁際覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 壺の両脇に棚状施設を有する住居跡は本跡だけであり, 時期は出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第131図 第8号住居跡実測図



第132図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表（第132図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎上 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|------|--------|--------|-----|------------|------|----|-------------|-------|---------------------|
| 280 | 須恵器 | 壺 | 13.1 | 5.2 | 8.1 | 長石・石英・珪 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後ナデ | 床面 | 85% PL34 |
| 281 | 須恵器 | 高台付壺 | 13.6 | 6.2 | 8.4 | 長石・石英・針状鉱物 | 灰 | 良好 | 体部内・外面ロクロナデ | 床面 | 80% PL34
ヘラ記号「-」 |
| 282 | 土師器 | 壺 | [24.0] | (11.1) | — | 鈍火・長石・石英 | に赤い赤 | 普通 | 内面ヘラナデ | 竈内・下層 | 5% |

第12号住居跡（第133・134図）

位置 調査1区の東部B34区に位置し、低位段丘上のほぼ平坦部に立地している。

重複関係 第16号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.46m、短軸3.40mほどの方形で、主軸方向はN-61°-Eである。壁高は10~20cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から窓に向かう中央部が踏み固められている。

竈 北東壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで120cm、袖部幅は106cmほどである。

煙道部の壁外への掘り込みは40cmほどであり、外傾して立ち上がっている。火床部は、北東壁ライン上に位置し、地表面をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面はわずかに赤変している。

竈土層解説

| | | | |
|--------|-----------------------------|---------|-------------------|
| 1 黒褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子微量 | 4 極暗赤褐色 | ローム粒子少量、砂粒・粘土粒子微量 |
| 2 暗赤灰色 | 燒土粒子・粘土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化物・粘土ブロック微量 | 6 極暗赤褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子微量 |

7 極暗赤褐色
燒土ブロック少量、ローム粒子微量

ピット 1か所。P1は深さ33cmほどであり、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

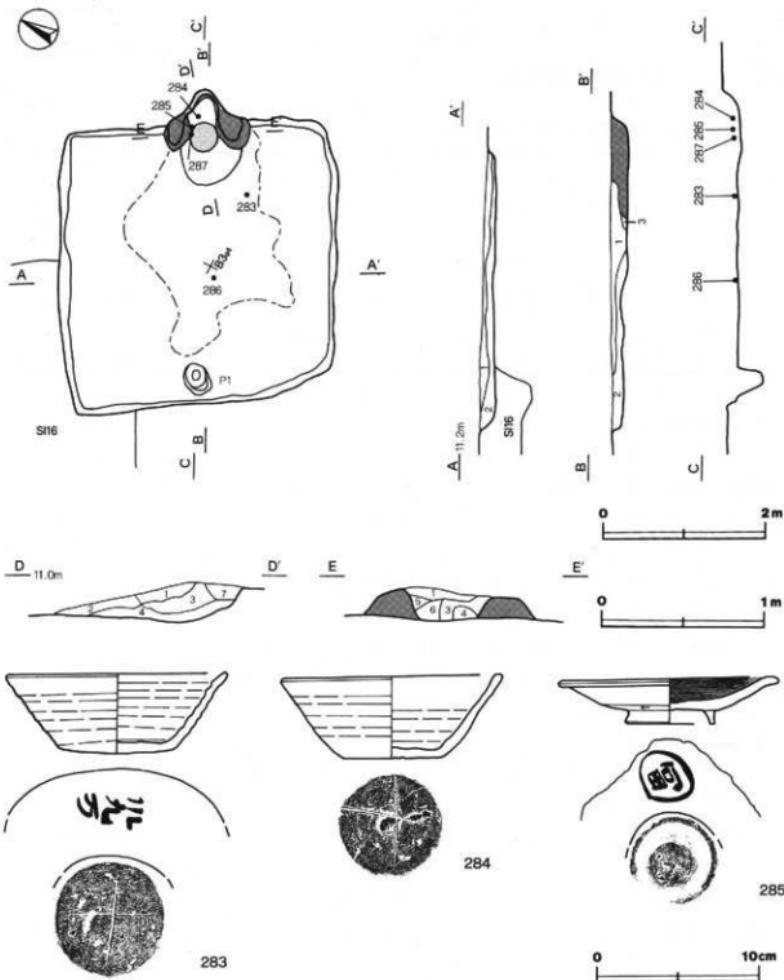
土層解説

| | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・燒土粒子微量 | | |

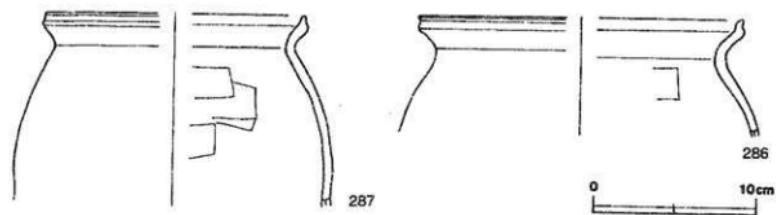
遺物出土状況 土師器片150点（壺15、高台壺皿1、甕類134）、須恵器片15点（壺類9、甕4・瓶2）、土製品1

点（支脚）のほかに、流れ込みの縄文土器片2点（深鉢）、弥生土器片1点（広口壺）、礫4点がほぼ全域から出土している。竈内からは、底部に「×」のヘラ記号を施す284、体部外面に「㊀」と墨書きされている285、287の他、土師器壺片がまとめて出土している。また、焚口手前の覆土下層からは、底部に「×」のヘラ記号を施し、体部外面に「川九万カ」と墨書きされた283が逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第133図 第12号住居跡・出土遺物実測図



第134図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第133・134図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 納土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|--------|--------|-----|------------------|------|--------------------|-----------------|------|----------------------------------|
| 283 | 瓶 | 壺 | 13.5 | 4.9 | 7 | 長石・石英・
針状鉱物・繊 | 灰黄 | 良好 | 底部回転ヘラ切り後ナダ | F層 | 100% PL34
事前「丸え方々」
ヘラ記号「×」 |
| 284 | 瓶 | 壺 | 13.5 | 5.1 | 6.2 | 長石・石英・
針状鉱物・繊 | 灰灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後ナダ | 竪内 | 80% PL34-38
ヘラ記号「×」 |
| 285 | 土器 | 壺 | 13.2 | 2.9 | 5.4 | 長石・石英・
針状鉱物 | にいわん | 普通 | 内面ヘラ削き 体感下端ヘラ削り | 竪内 | 70% PL35-38
内面黒色處理
書き「◎」 |
| 286 | 土器 | 壺 | [20.0] | (7.1) | — | 長石・石英・
繊 | 普通 | LI邊部内・外面横ナダ 内面ヘラナダ | 床面 | 5% | |
| 287 | 土器 | 壺 | [16.0] | (11.7) | — | 長石・石英・
にいわん | 普通 | 口辺部内・外面横ナダ 内面ヘラナダ | 竪内 | 5% | |

第39号住居跡（第135図）

位置 調査2区の中央部B3j0区に位置し、中位段丘から低位段丘の南西方向への斜面部に立地している。

重複関係 第42号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.02m、短軸2.93mほどの方形で、主軸方向はN-52°-Eである。壁高は8~23cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から竪や貯蔵穴にかけて踏み固められている。

竪 北東壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで96cm、袖部幅は100cmほどである。天井部は崩落しており、土層断面図中第4層が天井の一部である。煙道部の壁外への掘り込みは30cmほどであり、外傾して立ち上がっている。火床部は北東壁ラインの内側に位置し、地山をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面はあまり火熱を受けていない。

竪土層解説

| | | | |
|---------|--------------------|-------|---------------------------------------|
| 1 にいわん色 | 焼上ブロック中量、炭化粒子微量 | 4 灰褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ローム
粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 | | |
| 3 喬褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | | |

ピット P1・P2は深さ30cmほどであり、配置から柱穴と考えられるが対応する柱穴は検出されていない。P4は深さ14cmほどで出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3は配置的に他のピットと一致せず、性格は不明である。また、中央部南寄りには第42号住居のP2が検出されている。

貯蔵穴 平面形は楕円形を呈し、北コーナー部に付設されている。深さは26cmほどで、底面は皿状を呈し、縁は、外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。土砂の流入を示す堆積状況から自然堆積と考えられる。

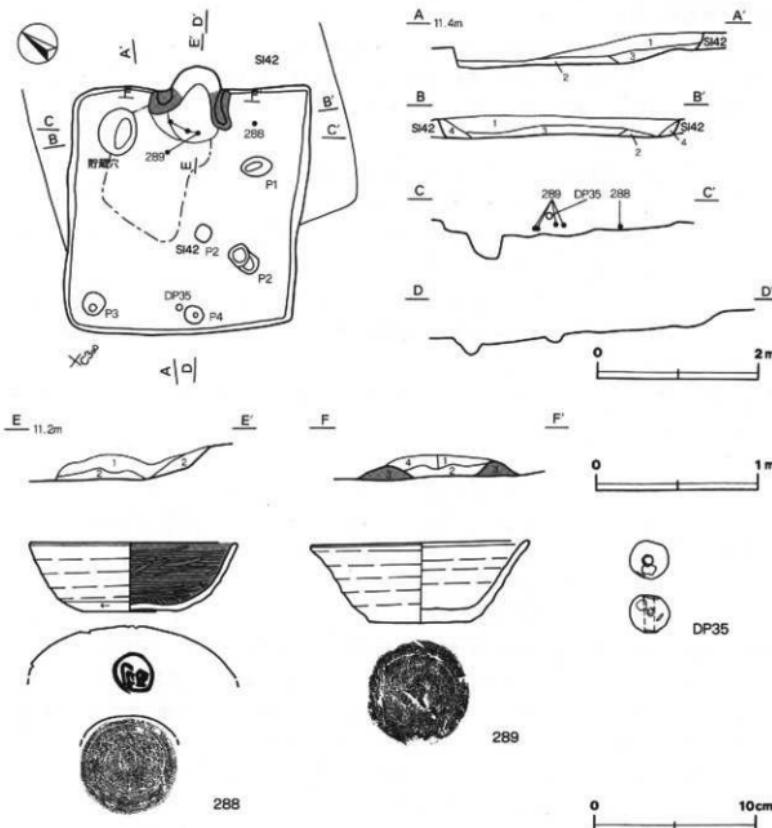
土層解説

| | |
|--------|-------------------|
| 1 黄色 | ローム粒子少量、燒土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量 |

| | |
|-------|--------------|
| 3 黄色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片58点(坏4, 麦類54), 須恵器片10点(坏4, 長頸瓶6), 土製品1点(球状土錘)のほかに, 流れ込みの繩文土器片1点, 弥生土器片1点, 砧1点が窓付近を中心に出土している。288は窓右袖東側の覆土下層から正位で出土し, 体部外面に「@」と墨書きされている。289は焚口部付近の覆土下層から出土している。

所見 288の「@」は第12号住居からも出土し, 字体は同一と考えられ, 時期も9世紀中葉と同時期であり, 密接な関連が想定される。



第135図 第39号住居跡・出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表（第135図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|------|-----|--------|--------------------|------------|------|--------------------------------------|------|---------------------------|
| 288 | 上師器 | 环 | 12.5 | 4.3 | 5.6 | 英石・石英
模 | にぶい黄
褐色 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き
底部削除ヘラ切り後回転ヘラ削り | 下 突 | 90% PL35
黒色处理
体部墨書き |
| 289 | 須恵器 | 环 | 13.4 | 5.1 | 6.1 | 空芯・長芯・石英
剥状板巻・縫 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後ナデ | 下 突 | 70% PL35 |
| 番号 | 器種 | 最大径 | 厚さ | 孔径 | 重積 | 材質 | 質 | 特徴 | 微 | 出土位置 | 備考 |
| DP35 | 環状土陣 | 2.5 | 2.3 | 0.7 | (12.9) | 土質 | ナデ | 片面穿孔 | 一部欠損 未穿孔部あり | 上 層 | PL37 |

第51号住居跡（第136・137図）

位置 調査8区東部のC-6号区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第63号・71号住居を掘り込み、第16号墓壙、115号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.67m、短軸4.25mほどの方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は24~40cmほどで、ほぼ直立している。焼失住居である。

床 ほぼ平坦な貼床で、礫隙を除いて踏み固められている。掘り方は、南東部を掘り残して8~20cmほど掘りくぼめ、ロームブロックを含んだ暗褐色土で埋め戻して床を作っている。

壁 第115号土坑に掘り込まれており、煙道部、袖部は残存していない。火床面は床面をわずかに掘りくぼめて作られており、わずかに赤変している。

ピット 9か所。P1~P4は、深さ28~80cmほどで、配置から主柱穴と考えられ、P5は出入り口施設に伴うピットである。P6~P9は、掘り方の調査時に検出されたピットである。P1~P4の内側に位置し、建て替えの可能性が考えられる。

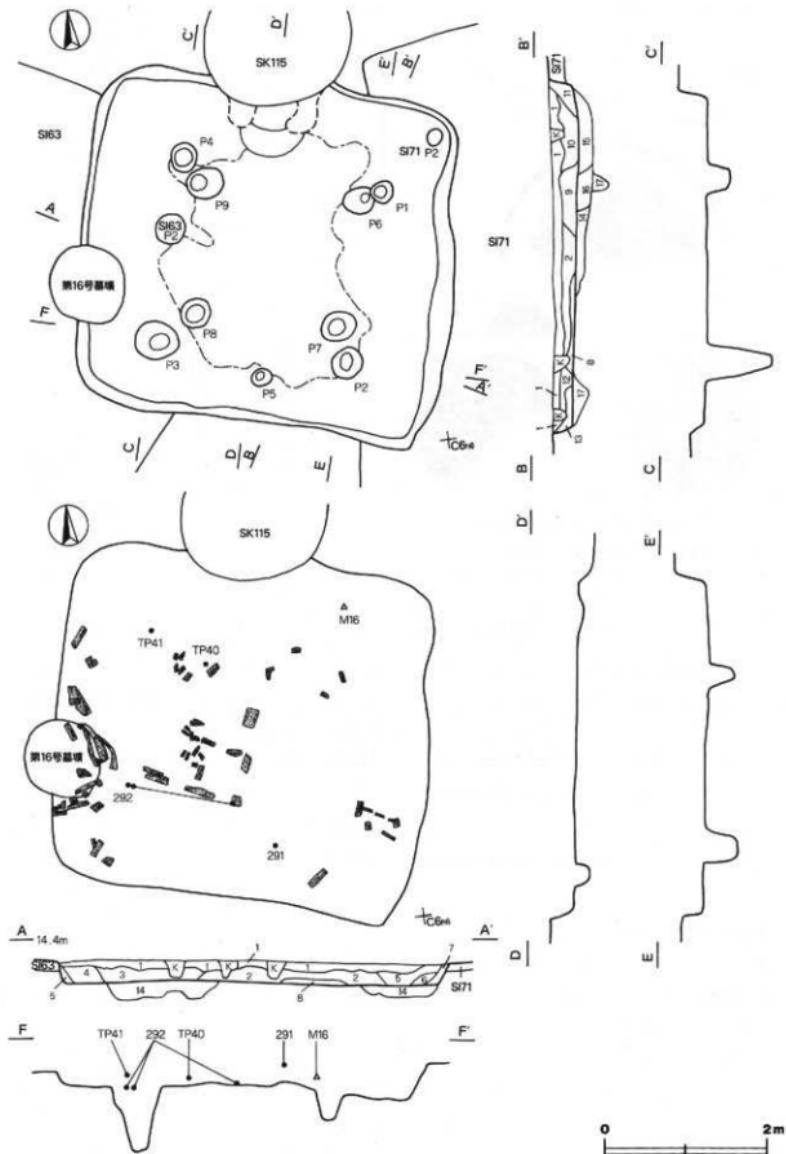
埋土 17層に分層される。各層に炭化物を含み、不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。14~17層は掘り方の埋土である。

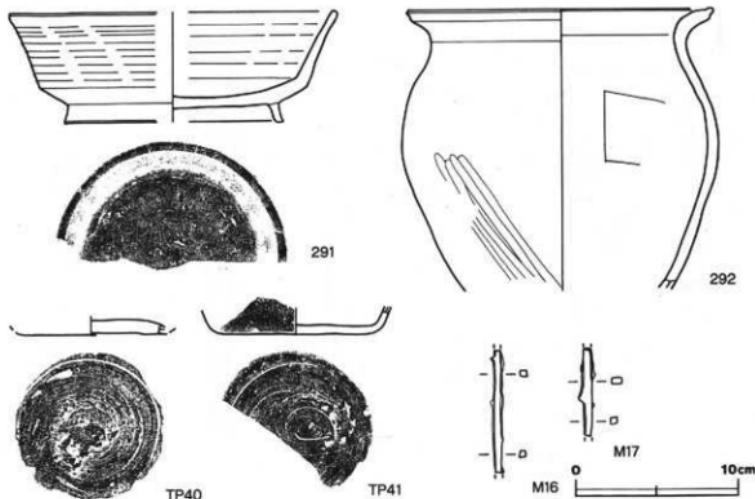
土層解説

| | | | |
|-------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼上粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物中量、ローム粒子少量、燒土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量 |
| 3 喀褐色 | ロームブロック少量、焼上粒子・炭化物少量 | 12 喀褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 喀褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化物微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 喀褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼上粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 6 喀褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 15 喀褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼上ブロック微量 |
| 7 喀褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼上粒子少量 | 17 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片251点（坏類12、甕・瓶239）、須恵器片29点（坏類24、甕類5）のほかに、流れ込みの弥生土器片56点（広口甕）、陶・磁器片14点、土師質土器片2点、瓦質土器片3点、鉄製品2点（釘）、礫3点がほぼ全城から出土している。また、主に中央部から西部にかけての櫻土下層から床面にかけて炭化材が散在している。291は、南壁寄りの覆土中層から正位で、292は、南部の床面から出土している。

所見 下層から床面にかけて炭化材が散在している状況から、焼失住居である。また、建て替えが行われた可能性が考えられる。時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。





第137図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表（第137図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|------|--------|--------|------------|------|----|-----------------------------|------|----------|
| 291 | 須恵器 | 壺 | 20.2 | 6.8 | [13.6] | 長石・石英・針状結晶 | 灰黄 | 普通 | 体部内・外面クロナデ | 中層 | 50% PL34 |
| 292 | 土師器 | 甕 | 18.7 | (17.3) | — | 雲母・長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 口辺内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ巻き 内面ヘラナデ | 床面 | 20% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|----|-------|-----|----------|----|----|-------------|------|-----|
| TP40 | 須恵器 | 环 | — | — | 9.2 | 長石・石英 | 灰白 | 普通 | 底部斜軸ヘラ切り後ナデ | 下層 | |
| TP41 | 須恵器 | 环 | — | (1.7) | 9.5 | 雲母・長石・石英 | 灰黄 | 普通 | 底部斜軸ヘラ切り後ナデ | 下層 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|-------|----|-----------|------|----|
| M16 | 鐵 | (7.6) | 0.8 | 0.4 | (6.5) | 鉄製 | 断面は長方形 棒状 | 下層 | |
| M17 | 鐵 | (5.4) | 1.1 | 0.4 | (5.6) | 鉄製 | 断面は長方形 棒状 | 覆土中 | |

第64号住居跡（第138・139図）

位置 調査5区東部のC7g4区に位置し、中位段丘上の南東方向への緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 長軸4.09m、短軸3.85mほどの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は20~29cmほどで、外傾して立ち上がってている。

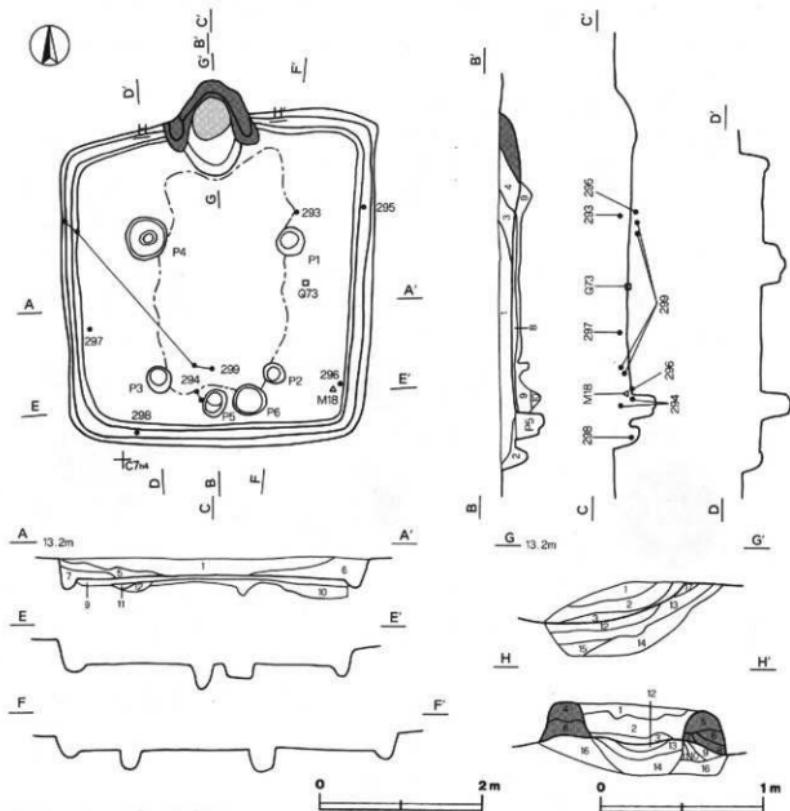
床 ほぼ平坦で、出入り口付近から竈にかけて中央部が踏み固められ、全体的に粘土が貼られている。また、各壁下には、断面U字形の壁溝が巡っている。掘り方は、中央部を除き10~25cmほど掘りくぼめ、黒褐色土で埋め戻している。また、ロームブロック、粘土で厚さ10cmほどの床が貼られている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで118cm、袖部幅は、118cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みは50cmほどで、緩やかに外傾して立ち上がってている。煙道部は粘土が貼られており、

被熱で赤変硬化している。袖部は、粘土を含んだ黄褐色土で基部を作り、その上部に砂粒・粘土・ロームを積み上げて構築されている。火床部は、北壁ライン上に位置し、窓の掘り方を粘土ブロックを含んだ黒褐色土で埋め戻して作っており、また、床面からわずかに掘りくぼめた面を使用している。火床面は赤変している。

電土層解説

| | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 | 10 浅色 | 炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 | 11 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 3 棕色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、砂粒微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・砂粒・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黑褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・砂粒・粘土ブロック微量 |
| 5 黄褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ロームブロック微量 | 14 黑褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂粒・粘土ブロック少量 |
| 6 にぶい黄褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 16 黄褐色 | ローム粒子・砂粒・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 17 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒・粘土粒子微量 | | |



第138図 第64号住居跡実測図

ピット 6か所。P 1～P 4は、深さ24～38cmほどであり、配置から主柱穴であり、P 5は深さ32cmほどで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ20cmほどであるが、性格は不明である。

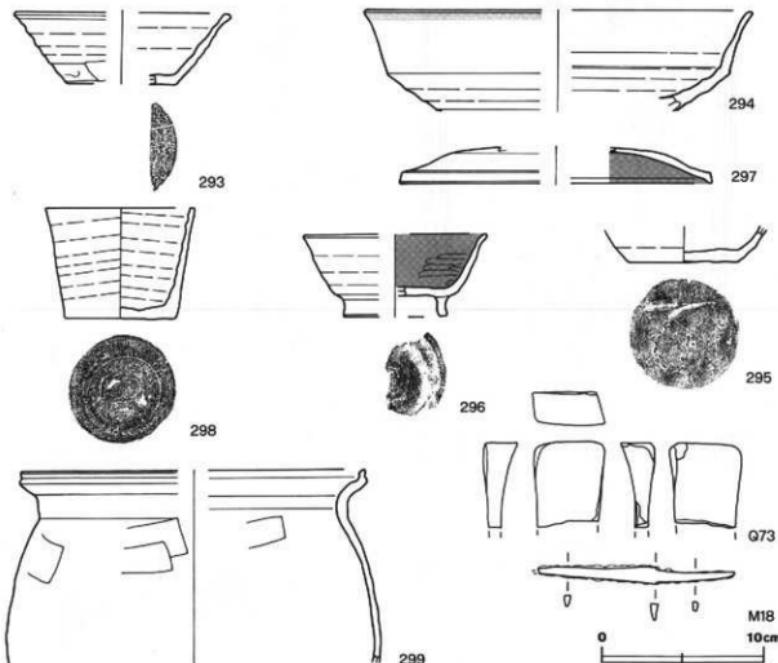
覆土 12層に分層される。粘土・焼土を含む層が多いことから人為体積と考えられる。8～12層は掘り方の埋土である。

土層解説

| | | | |
|-------|--------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂粒・粘土ブロック少量、炭化物微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・砂粒・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・堀沼ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・砂粒・粘土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 | 12 明褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片165点（坏類16、蓋4、甕類145）、須恵器片59点（坏類36、蓋4、盤2、甕類16、コップ形土器1）、石器1点（砥石）、鐵製品1点（刀子）のほかに、流れ込みの弥生土器片34点（広口壺）、陶器片1点、礫3点がほぼ全域から散在して出土している。底部にヘラ記号が施されている293はP 1の北側の覆土下層、295はP 1東側の壁溝内から出土している。南東コーナー部壁際の床面から296、覆土下層からはM18が、298が、南西コーナーの壁溝上面から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第139図 第64号住居跡出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表（第139図）

| 番号 | 種 別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 手 法 の 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|-----|-------|------------|--------|--------|-------|-----------------|-------|----|----------------------------|------------|----------------------|
| 293 | 須 恵 器 | 坪 | [13.1] | 4.4 | [6.8] | 長石・石英
針状鉱物・塵 | 黄灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後ナデ ヘラ記号△ | 下 層 | 20% |
| 294 | 須 恵 器 | 筒形斗 | [23.8] | (6.2) | — | 雲母・長石・
石英・塵 | 灰褐色 | 良好 | 体部内・外面ロクロナデ 体部外面自然釉 | 下層～床面 | 20% |
| 295 | 須 恵 器 | 坪 | — | (2.2) | 6.8 | 長石・石英・
針状鉱物 | 灰 | 良好 | 底部回転ヘラ切り後ナデ ヘラ記号△ | 壁溝内 | 30% |
| 296 | 土 鮎 器 | 高台瓶 | [11.2] | 5.1 | [6.3] | 雲母・長石・
石英 | 浅黄褐色 | 普通 | 内面ヘラ削き | 床 面 | 25%
内面黒色處理 |
| 297 | 土 鮎 器 | 壺 | [19.4] | (2.2) | — | 雲母・長石・
赤色粒子 | にぶい褐色 | 普通 | 大両部回転ヘラ削り 内面ヘラ削き | 下 層 | 20%
内面黒色處理 |
| 298 | 須 恵 器 | コップ
形口器 | 9.4 | 6.8 | 6.8 | 長石・石英・
針状鉱物 | 黄灰 | 良好 | 底部回転ヘラ切り後ナデ | 吸溝内 | 95% PL35
容量約230cc |
| 299 | 土 鮎 器 | 壺 | [21.3] | (12.0) | — | 雲母・長石・
石英・塵 | にぶい褐色 | 普通 | IJ近部内・外曲横ナデ 体部内・外面ヘラ
ナデ | 下層～壁溝
内 | 20% |

| 番号 | 器 種 | 長 さ | 幅 | 厚 さ | 重 量 | 材 質 | 特 徴 | 出 土 位 置 | 備 考 |
|-----|-----|-------|-----|-----|--------|-----|------|---------|-----|
| Q73 | 砾 石 | (5.2) | 4.5 | 2.1 | (57.2) | 凝灰岩 | 粗面5面 | 床 面 | |

| 番号 | 器 種 | 長 さ | 幅 | 厚 さ | 重 量 | 材 質 | 特 徴 | 出 土 位 置 | 備 考 |
|-----|-----|--------|-----|-----|--------|-----|---------|---------|------|
| M18 | 刀 手 | (12.3) | 1.3 | 0.4 | (10.0) | 銛製 | 切先欠損 向面 | 下 層 | PL38 |

(2) 土坑

第18号土坑（第140・141図）

位置 調査1区中央部のB 2 e6区に位置し、低位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第7号住居を掘り込み、第17号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.65m、短径0.60mほどの円形で、深さ36cmほどである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がりっている。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況により人為堆積と考えられる。

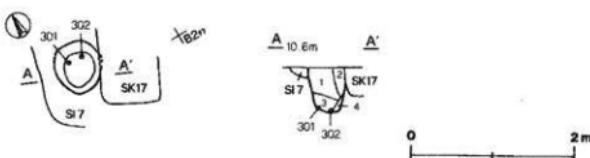
土層解説

1 里 楠 色 ローム粘土・炭化粒子微量
2 黒 楠 色 ロームブロック少層、炭化粒子微量

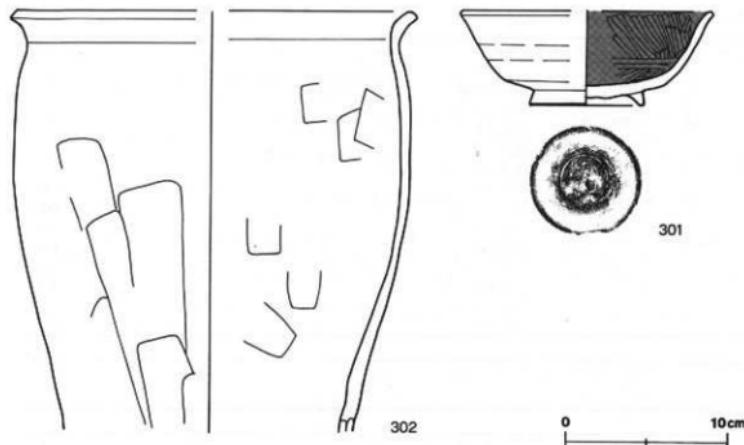
3 黒 楠 色 ロームブロック微量
4 黒 楠 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片4点（坪類2、壺類2）が出土し、301は覆土下層、302は底面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。第7号住居の床面を掘り込むように検出されており、出土土器も時期差がないことから、第7号住居と関連する可能性も考えられる。



第140図 第18号土坑実測図



第141図 第18号土坑出土遺物実測図

第18号土坑出土遺物観察表（第140図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 手 法 の 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|-----|-------|-----|---------------|-----|-----|--------------|------------|----|----------------------------|------|--------------------|
| 301 | 土 筒 器 | 高台瓶 | [15.4] | 5.8 | 7.0 | 雲母・長石・
石英 | にぶい黄
褐色 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け 内面
ヘラ磨き | 下 壁 | 70% PL34
内面黒色処理 |
| 302 | 土 筒 器 | 瓶 | [24.4] (26.0) | — | — | 長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ | 底 面 | 30% |

5 中・近世の造構と遺物

今回の調査で、中・近世の造構は、墓壙19基、土坑8基を確認した。以下、検出した造構と遺物について記述する。なお、底面や壁面に粘土が貼られているもの、土層中に粘土を多く含んでいるものは墓壙としてとりあげた。

(1) 墓壙

第2号墓壙（第142図）

位置 調査1区東部のB3g5区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 長径2.25m、短径1.63mほどの長方形で、深さ65cmほどであり、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がりっている。壁には約8cmほどの厚さで粘土が貼られている。

覆土 4層に分層される。第4層は粘土が貼られていた部分である。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

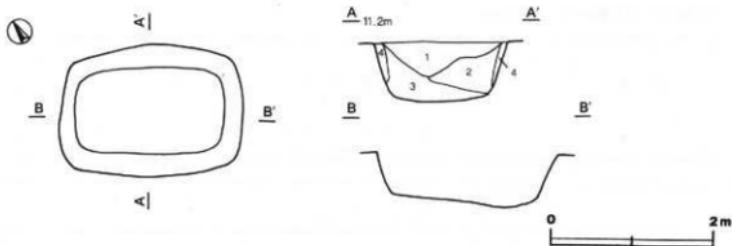
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・礫微量
2 暗褐色 ロームブロック中量、礫少量

3 灰褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量
4 暗灰色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 石1点が覆土下層から出土している。

所見 壁に粘土が貼られていることから、墓壙の可能性がある。時期は遺物が出土していないため明確ではないが、同じ調査1区から粘土が貼られている墓壙が検出され、それらは18世紀以降のものと考えられることから、ほぼ同時期と推定される。



第142図 第2号墓塚実測図

第3号墓塚（第143図）

位置 調査1区西部のB 2 b2区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 長径0.88m、短径0.78mほどの円形で、深さ17cmほどであり、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。第1層は粘土を含む層である。覆土が薄いため明確ではないが、粘土を含む層が観察できることから、人為堆積と考えられる。

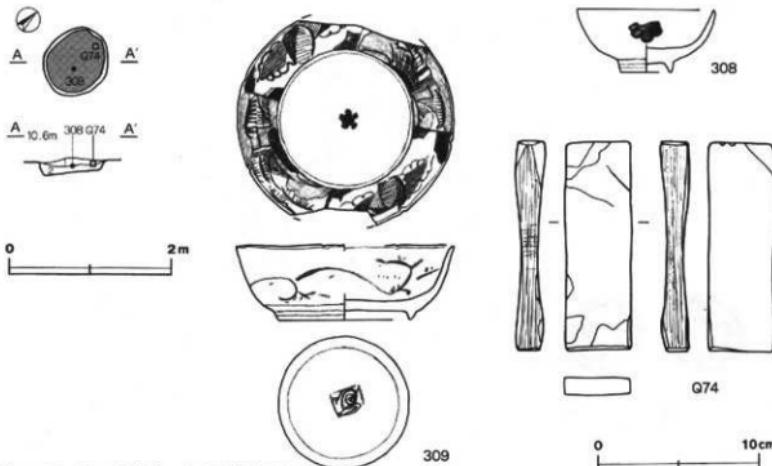
土層解説

1 層 灰色 粘土ブロック多量

2 層 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 磁器片2点（碗、鉢）、瓦質土器片1点（不明）、石器1点（砥石）、鐵製品1点（不明）が出土している。308は覆土中層、309は覆土中から出土している。

所見 粘土が貼られている層が見られることから墓塚の可能性がある。時期は、出土磁器の生産年代が18世紀初頭から19世紀前半に位置づけられるため、18世紀以降と考えられる。



第143図 第3号墓塚・出土遺物実測図

第3号墓墳出土遺物観察表（第143図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 粘土・色調 | 繪付・施墨 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|------|------|-----|-----|-------|--------|--|------|------------------|
| 308 | 磁器 | 染付丸瓶 | 8.5 | 3.9 | 3.2 | 灰白・灰白 | 染付・透明釉 | 花文 着付砂付着 高台二重圓錐 | 中層 | 100% PL36
肥前系 |
| 309 | 磁器 | 中鉢 | 13.3 | 4.6 | 8.2 | 灰白・灰白 | 染付・透明釉 | 高台砂付着 高台二重圓錐 外面唐草文
内面竹林 見込み五弁花 印「角に満福」
輪花8か所 | 覆土中 | 55% PL1
肥前系 |
| Q74 | 石 | 紙石 | 13.0 | 4.2 | 1.8 | 148.0 | 粘板岩 | 紙面4面 | 上層 | |

第4号墓墳（第144図）

位置 調査8区中央部のC5e9区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

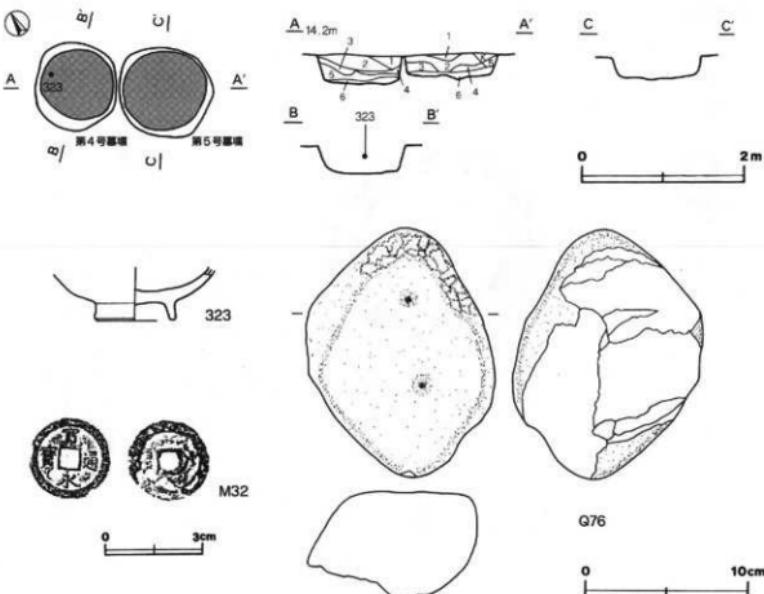
規模と形状 径1.05mほどの円形で、深さ30cmほどである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層され、第6層は粘土の層である。粘土が貼られている部分が観察され、ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 淡暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 にぼい黄褐色 | 粘土粒子多量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 磁器片3点（碗）、陶器片7点（碗4、鉢3）、土師質土器片4点（鉢）、粘土塊7点が出土している。323は覆土中層から出土している。また、本片が覆土下層と北側の壁に張り付くように出土している。



第144図 第4・5号墓塚・出土遺物実測図

所見 粘土が貼られている部分が見られることや、棺桶の一部と考えられる木片が出土していることから、墓壙と考えられる。出土磁器の生産年代が17世紀後半に位置づけられることから、時期は17世紀後半以降と考えられる。

第4号墓壙出土遺物観察表（第144図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・色調 | 繪付・輪素 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|------|-------|--------|-------|--------------|-------------------|------|--------|
| 323 | 陶器 | 高輪口器子 | 一 | (3.2) | 4.8 | 灰白・灰白 | 灰胎 | 疊付斜付着 細かい貫入 内・外曲輪 | 中層 | 10%肥培土 |
| Q 76 | 磁石 | 15.3 | 11.8 | (6.5) | (93.4) | 石英斑岩 | 上端部に吸き痕 側面剥離 | 覆土中 | | |

第5号墓壙（第144図）

位置 調査8区中央部のC 5 c9区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.20m、短径1.11mほどの円形で、深さ25cmほどである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層され、第6層は粘土の層である。粘土が貼られている部分が観察され、ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|--------|------------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 保冷褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 6 にい黄褐色 | 粘土粒子多量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 陶磁器片3点（碗）、土師質土器片3点（鉢類）、鉄製品1点（不明）、古銭1点（寛永通寶）が出土している。M32は覆土中、本片は覆土下層から出土している。

所見 粘土が貼られている層が見られることや、棺桶の一部と考えられる木片が出土していることから、墓壙と考えられる。時期は、本跡と並んで掘り込まれている第4号墓壙と同時期の17世紀後半以降と考えられる。

第5号墓壙出土遺物観察表（第144図）

| 番号 | 鉢名 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鉢年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|----|----|------|----|--------|------|------|
| M32 | 寛永通寶 | 25 | 96 | 35 | 1769 | 銅 | 新寛永 波紋 | 覆土中 | PL38 |

第6号墓壙（第145図）

位置 調査8区中央部のC 5 c0区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第7号墓壙との重複関係は不明である。

規模と形状 長径1.25m、短径1.11mほどの円形で、深さ32cmほどである。底面は平坦で、底面の内周に沿って突起している部分があり、棺桶の痕跡と思われる。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層され、第6層は粘土の層である。粘土が貼られている部分が観察され、ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

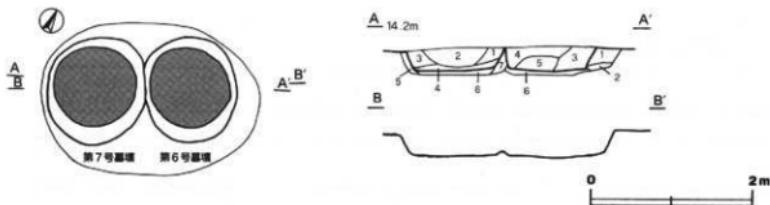
土層解説

| | | | |
|-------|--------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 | 6 にい黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子微量 |

遺物出土状況 陶器片1点（碗）が出土している。

所見 棺桶の痕跡が見られることから墓壙と考えられ、掘り方が第7号墓壙と同時に掘り込まれた状況を示す。

近親者を埋葬した可能性が考えられる。時期は、本跡が立地する8区には17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が存在することから、ほぼ同時期かそれ以前と推定される。



第145図 第6・7号墓壙実測図

第7号墓壙 (第145図)

位置 調査8区中央部のC 5 d0区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第6号墓壙との重複関係は不明である。

規模と形状 長径1.43m、短径1.26mほどの楕円形で、深さ27cmほどである。底面は平坦で、底面の円周に沿って突起している部分があり、棺桶の痕跡と考えられる。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分層され、第6層は粘土の層である。粘土が貼られている部分が観察され、ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|-------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 6 にい青褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子微量 |
| | | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |

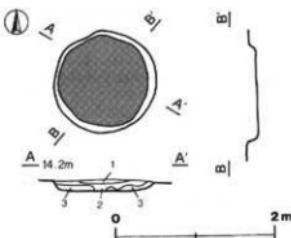
遺物出土状況 出土遺物は出土していない。

所見 棺桶の痕跡が見られることから墓壙と考えられ、掘り方が第6号墓壙と同時に掘り込まれた状況を呈し、近親者を埋葬した可能性が考えられる。時期は8区には、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が存在することから、ほぼ同時期かそれ以前と推定される。

第8号墓壙 (第146図)

位置 調査8区中央部のC 5 f0区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 径1.28mほどの円形で、深さ11cmほどであり、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。



第146図 第8号墓壙実測図

覆土 3層に分層され、第2層は粘土の層である。覆土が薄いため明確ではないが、粘土が貼られている部分が観察されるところから人為堆積と考えられる。

| | |
|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土粒子多量、炭化物中量、ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 底面に粘土が貼られ、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が同地区に存在することから、ほぼ同時期かそれ以前の墓壙と推定される。

第9号墓壙（第147図）

位置 調査8区中央部のC 5 e0区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第19号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状 東部を墓壙に掘り込まれているため、長径0.87m、短径0.81mほどが確認され、ほぼ円形と推定される。深さは20cmほどであり、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層され、第1層は粘土の層である。覆土が薄いため明確ではないが、粘土が貼られている部分が観察されることから人為堆積と考えられる。

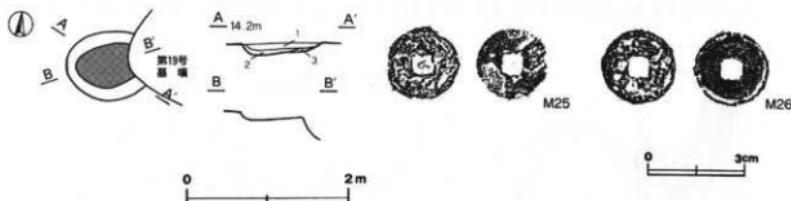
土層解説

| | | |
|---|-------|----------|
| 1 | 灰 黄 色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 | 暗 棕 色 | 粘土ブロック中量 |

3 層 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 陶器片2点（碗）、土師質土器片1点（鍋類）、古銭2点（寛永通寶）、が覆土中から出土している。

所見 底面に粘土が貼られ、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が同地区に存在することから、ほぼ同時期かそれ以降の墓壙と推定される。



第147図 第9号墓壙・出土遺物実測図

第9号墓壙出土遺物観察表（第147図）

| 番号 | 銘名 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鋤年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|----|------|------|----|
| M25 | 寛永通寶 | 2.2 | 0.7 | 1.6 | 不明 | 銅 | 新寛永 | 覆土中 | |
| M26 | 不 明 | 2.3 | 0.7 | 2.3 | 不明 | 銅 | 銘名不明 | 覆土中 | |

第10号墓壙（第148図）

位置 調査8区中央部のC 5 d8区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第11・12号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状 北・南部を墓壙に掘り込まれているため、長径1.37m、短径は0.80mほどが確認され、ほぼ円形と推定される。深さは25cmほどであり、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層され、第2層は粘土の層である。覆土が薄く明確ではないが、粘土が貼られている部分が観察されることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | |
|---|-------|-------------------------|
| 1 | 灰 棕 色 | 炭化粒子・粘土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 2 | 黄 棕 色 | 粘土粒子多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 |

3 暗 棕 色 ロームブロック微量、粘土ブロック微量

4 にい 黄 棕 色 粘土粒子多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 磁器片1点（鉢）が覆土中層から出土している。

所見 底面に粘土が貼られ、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が同地区に存在することから、本跡もほぼ同時期かそれ以降の墓壙と推定される。

第11号墓壙（第148図）

位置 調査8区中央部のC5d8区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第10号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.22m、短径1.15mほどの円形で、深さ25cmほどである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

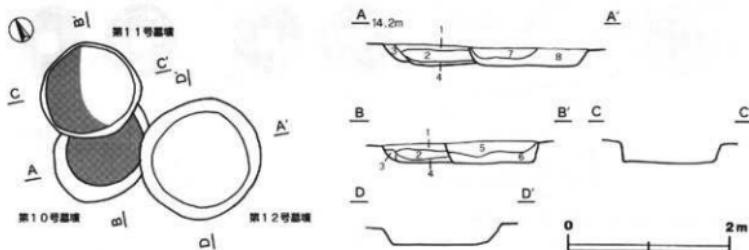
覆土 2層に分層され、各層ともロームブロック・粘土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|---------------------------|-------|--------------------|
| 5 灰褐色 | 粘土ブロック多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 6 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
|-------|---------------------------|-------|--------------------|

遺物出土状況 磁器片4点（碗3、鉢1）、土師質土器片4点（鍋類）が覆土中から出土している。

所見 粘土を含む層が見られ、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が同地区に存在することから、ほぼ同時期かそれ以降の墓壙と推定されるが、第10号墓壙を掘り込んでいるため、時期差有多少あると考えられる。



第148図 第10・11・12号墓壙実測図

第12号墓壙（第148図）

位置 調査8区中央部のC5d8区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第10号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.49m、短径1.43mほどの円形で、深さ25cmほどである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層され、各層ともロームブロック・粘土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

| | |
|-------|---------------------------|
| 7 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化物少量 |
| 8 塗褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片4点（内耳鍋類）が覆土中から出土している。

所見 粘土を含む層が見られ、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が同地区に存在することから、ほぼ同時期かそれ以降の墓壙と推定される。

第13号墓壙 (第149図)

位置 調査8区中央部のC 5 d9区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 径0.97mほどの円形で、深さ10cmほどである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。覆土が薄いため明確ではないが、各層ともロームブロック・粘土ブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

| | |
|-------|---------------------------|
| 1 灰褐色 | 粘土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 單褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 粘土を含む層が見られる、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が同地区に存在することから、ほぼ同時期かそれ以降の墓壙と推定される。

第14号墓壙 (第150図)

位置 調査8区中央部のC 5 d9区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.24m、短径1.15mほどの円形で、深さ30cmほどである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

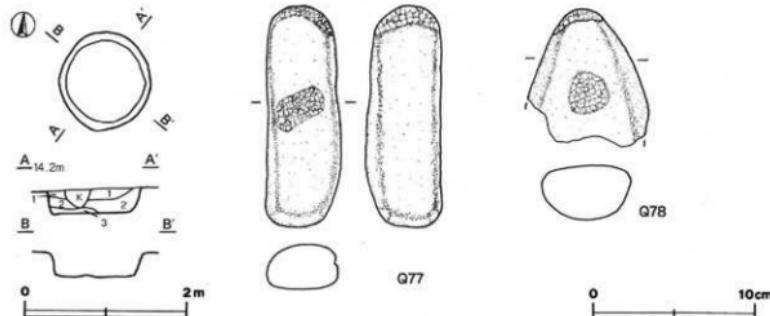
覆土 3層に分層され、各層ともロームブロック・粘土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

| | |
|-------|----------------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック・瓦
瓦ブロック少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子、粘土ブロック少量 |
| 3 單褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 陶器片1点(碗)、土師質土器片4点(鍋類)、石器2点(敲石)が覆土中から出土している。Q77・78は混入したものと考えられる。

所見 粘土を含む層が見られ、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が同地区に存在することから、本跡もほぼ同時期かそれ以降の墓壙と推定される。



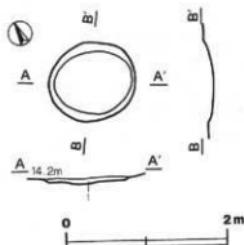
第150図 第14号墓壙・出土遺物実測図

第14号墓塙出土遺物観察表（第150図）

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-----|---------|------|-------------|------|----|
| Q 77 | 石 | 13.7 | 4.6 | 2.8 | 267.6 | 砂岩 | 上端部・側面に鉛痕あり | 覆土中 | |
| Q 78 | 石 | (8.6) | 7.6 | 3.4 | (263.3) | 石英斑岩 | 上端部・側面に鉛痕あり | 覆土中 | |

第15号墓塙（第151図）

位置 調査8区東部のC 6 g4区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。



第151図 第15号墓塙実測図

規模と形状 長径1.10m、短径1.00mほどの円形で、深さ10cmほどである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

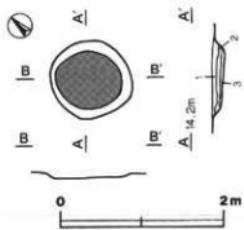
1 灰褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量

遺物出土状況 縄3点が覆土中から出土している。

所見 粘土を含む層が見られ、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓塙が同地区に存在することから、ほぼ同時期の墓塙と推定される。

第16号墓塙（第152図）

位置 調査8区東部のC 6 g4区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。



第152図 第16号墓塙実測図

規模と形状 長径1.05m、短径0.92mほどの円形で、深さ14cmほどである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。第1層は粘土の層である。覆土が薄いため明確ではないが、粘土が貼られている部分が観察されることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 灰褐色 粘土粒子多量

2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

3 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 粘土を含む層が見られ、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓塙が同地区に存在することから、ほぼ同時期かそれ以降の墓塙と推定される。

第17号墓塙（第153図）

位置 調査8区中央部のC 6 d1区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.84m、短径1.70mの円形で、深さ55cmほどである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層され、第3層に粘土ブロックが多く含まれている。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

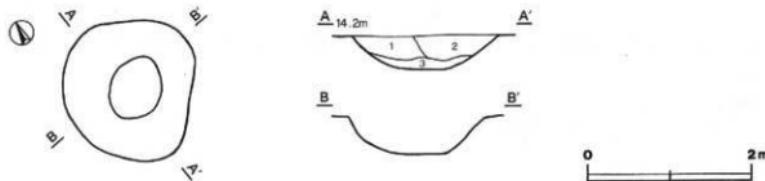
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 3 にい黄褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子微量

2 黑褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 陶器片5点(碗3, 土瓶2), 土師質土器片9(鍋類), 粘土塊1点, 鉄製品1点(不明)のはかに, 混入したと思われる土師器片5点(壺類)が出土している。

所見 粘土を含む層が見られ, 17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が同地区に存在することから, ほぼ同時期かそれ以降の墓壙と推定される。



第153図 第17号墓壙実測図

第18号墓壙 (第154図)

位置 調査8区東部のC5c8区に位置し, 中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.48m, 短径1.30mほどの円形で, 深さ30cmほどである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

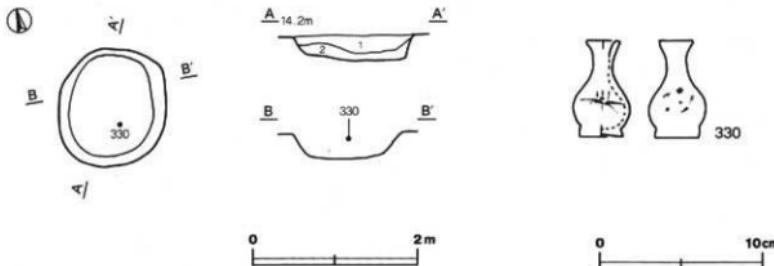
覆土 2層に分層される。各層にロームブロック・炭化物・粘土ブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|--------------------------|
| 1 | 灰褐色 | 炭化物・粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 2 | 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 磁器片7点(碗6, 小瓶1), 陶器片10点(碗4, 鉢6), 土師質土器片2点(鍋類), 石器1点(砥石)が出土している。330は覆土中層から出土している。

所見 土層中に粘土ブロックを含み, 他の墓壙と形状が類似することから, 墓壙と判断した。時期は, 出土磁器が19世紀初頭と位置づけられることから, 本跡も19世紀代と考えられる。



第154図 第18号墓壙・出土遺物実測図

第18号墓壙出土遺物観察表 (第154図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・色調 | 繪付・釉薬 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|-----|-----|-----|-------|-------|-----------------|------------|----------------------|
| 330 | 磁器 | 小瓶 | 1.8 | 5.9 | 2.6 | 白・灰白 | 共須・白釉 | 端反揃花形
縁・五弁花文 | 高台無輪
中層 | 100% PL36
渦口3・共須系 |

第19号墓壙（第155図）

位置 調査8区中央部のC5e0区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第9号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.95m、短径1.67mの楕円形で、深さ30cmほどである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

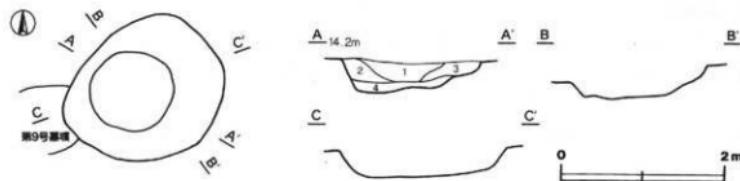
覆土 4層に分層され、第4層は粘土ブロックを多く含む層である。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|-------------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・粘土ブロック微量 | 4 にい黄褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子微量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 粘土を含む層が見られ、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が同地区に存在することから、ほぼ同時期かそれ以降の墓壙と推定される。



第155図 第19号墓壙実測図

第20号墓壙（第156図）

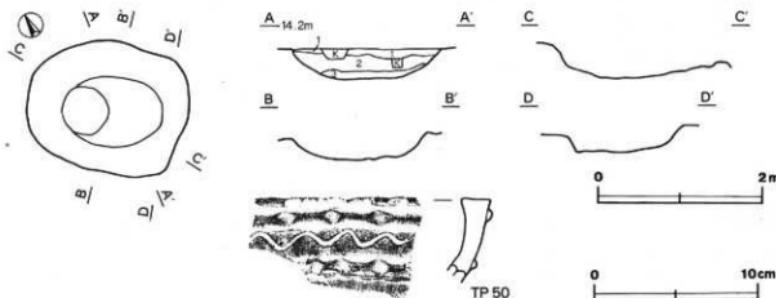
位置 調査8区中央部のC5e0区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.97m、短径1.63mの楕円形で、深さ35cmほどである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層され、第3層は粘土ブロックを多く含んでいる。ロームブロック・炭化物が含まれることが

土層解説

| | | | |
|-------|------------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化物中量、ロームブロック少量 | 3 にい黄褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | | |



第156図 第20号墓壙・出土遺物実測図

ら、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 陶器片5点(碗)、土師質土器片7点(鍋類)、瓦質土器片3点(不明)、縄1点、粘土塊6点のほかに、混入と思われる土師器片4点(壺類)、須恵器片1点(壺類)が出土している。

所見 粘土を含む層が見られ、17世紀以降と考えられる同じ形状の墓壙が同地区に存在することから、ほぼ同時期かそれ以降の墓壙と推定される。

第20号墓壙出土遺物観察表(第156図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|----|----|-------|----|----------|-------|----|--|------|----|
| TP50 | 瓦質土器 | 火鉢 | — | (6.1) | — | 雲母・長石・石英 | オリーブ黒 | 普通 | 口唇部ミガキ 口邊部指頭による押圧のある2条の隆帯貼りつけ 隆帯間に棒状工具による波状文 | 覆土中 | |

(2) 土坑

第11号土坑(第157図)

位置 調査1区西部のB2c6区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 長径2.20m、短径1.25mほどの長方形で、深さ30cmほどであり、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がりっている。

覆土 7層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

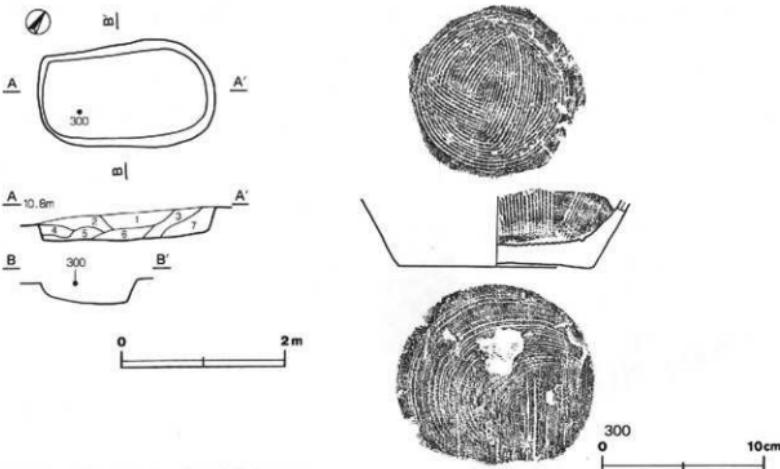
土層解説

| | | | | | |
|---|-----|--------------------|---|-----|--------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 | | | |

遺物出土状況 陶器片1点(擂鉢)、混入した縄文土器片1点(深鉢)、土師器片1点(壺)が出土している。

300は南部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土遺物が少ないため明確ではないが、300から判断して17世紀末以降と考えられる。



第157図 第11号土坑・出土遺物実測図

第11号土坑出土遺物観察表（第157図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・色調 | 繪付・釉薬 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|----|------|------|---------------|-------|---------------------|------|--------------------|
| 300 | 陶器 | 鉢 | — | (43) | 12.4 | に赤い黄褐色
明褐色 | 鐵輪 | 12条1 単位の掘り目 底部回転糸切り | 上層 | 30% PL36
瀬戸・美濃系 |

第21号土坑（第158・159図）

位置 調査1区西部のB2 b5区に位置し、低位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第1号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.88m、短径1.68mほどの楕円形で、深さ130cmほどである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

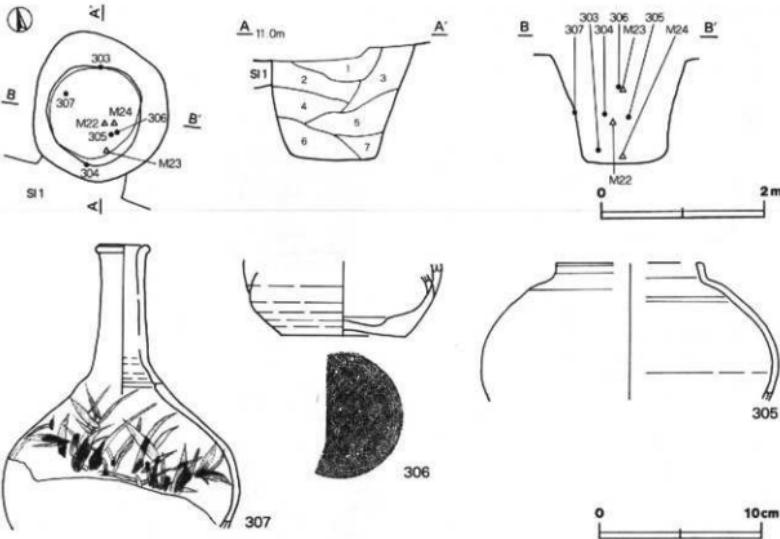
覆土 7層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

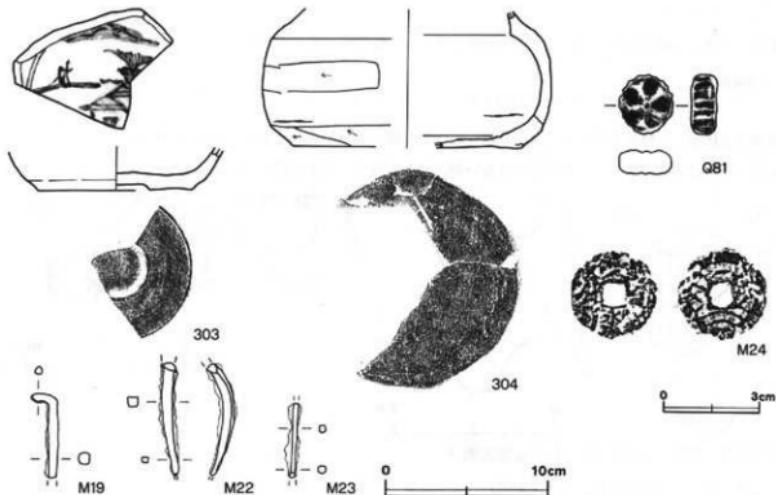
| | | | |
|-------|------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 磁器片17点(皿5, 瓶6, 鉢3, 不明3), 陶器片9点(鉢2, 瓶3, 碗4), 土師質土器片22点(鍋類), 土製品1点(泥面子), 鉄製品4点(鎌1, 鋤2, 不明1), 古銭1点(寛永通寶), 粘土塊1点, 砧2点が出土している。303・M24は覆土下層, 304・305・307は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 遺物出土の状況から投棄土坑と考えられる。出土遺物の生産年代が18世紀中葉から19世紀中葉に位置づけられるため、時期は18世紀中葉以降と考えられる。



第158図 第21号土坑・出土遺物実測図



第159図 第21号土坑出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表（第158・159図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|----|-------|------|-------|-----|----|----------------|------|-----|
| 304 | 土師質土器 | 火入れ | — | (8.4) | 14.1 | 長石・石英 | 黒褐色 | 普通 | 体部ヘラ削り後ミガキ 輪積模 | 中層 | 40% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・色調 | 絵付・輪溝 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|-------|--------|-------|---------|-------------------|-----------------|--------------|-------------|
| 303 | 磁器 | 中鉢 | — | (2.6) | [9.6] | 白・明緑灰 | 山水文 鈴の目凹凸形高台 番付無輪 | 下層 | 10% 銀山系 PL36 | |
| 305 | 陶器 | 壺 | [9.1] | (8.5) | — | 灰白・黒 | 黒輪 | 内面無輪 | 中層 | 10% |
| 306 | 陶器 | 小瓶 | — | (4.6) | 7.7 | 灰・にぶい赤褐 | 鉄輪 | ベコかん底部無輪 | 中層 | 30% 銀山系・美濃系 |
| 307 | 陶器 | 瓶 | 3.0 | (17.4) | — | 灰白・灰白 | 鉄軸輪・灰輪 | 内面灰白色の灰輪 瓶はめ込み痕 | 中層 | 40% PL36 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|----------|------|-------|
| Q81 | 不明石製品 | 1.8 | 1.6 | 0.7 | 4.9 | 礫灰岩 | 桜字 周縁部削み | 覆土中 | 表面同一絃 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|-------|----|----------------|------|----|
| M19 | 鉗 | (5.2) | 1.8 | 0.8 | (5.3) | 鉄製 | 断面長方形 | 覆土中 | |
| M22 | 釘 | (7.0) | 1.3 | 0.6 | (7.7) | 鉄製 | 頭部・先端部欠損 断面長方形 | 中層 | |
| M23 | 釘 | (4.7) | 1.0 | 0.6 | (2.4) | 鉄製 | 頭部・先端部欠損 断面長方形 | 中層 | |

| 番号 | 銘名 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鋤年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|-----|------|----|-----------|------|----|
| M24 | 寛永通寶 | 2.7 | 0.7 | 2.9 | 1769 | 銅製 | 新寛永 四文鏡 波 | 下層 | |

第32号土坑（第160図）

位置 調査1区西部のB2 b6区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれ、第34号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.81m、短径0.61mほどの楕円形で、深さ30cmほどである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち

上がっている。

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

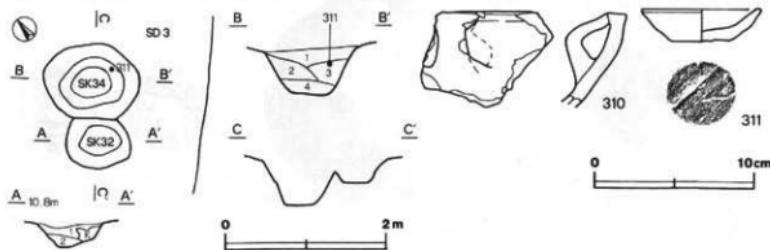
土層解説

1 黒 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗 黑 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)のほか、混入した須恵器片1点が出土している。

所見 時期は遺物が少ないため明確ではないが、出土土器から17世紀代と考えられる。



第160図 第32・34号土坑・出土遺物実測図

第32号土坑出土遺物観察表（第160図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|----|-------|----|------------|----|----|----------|------|----|
| 310 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (6.0) | — | 長石・石英・赤色粒子 | 黒褐 | 普通 | 体部内・外面ナデ | 覆土中 | 5% |

第34号土坑（第160図）

位置 調査1区西部のB2 b6区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第32号土坑、第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.22m、短径0.94mほどの楕円形で、深さ58cmほどである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がりっている。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗 黒 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

3 暗 黒 色 ローム粒子少量

2 暗 黒 色 ロームブロック中量

4 黒 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)，環1点が出土している。311は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から17世紀代と考えられ、第32号土坑との時間差はあまりないと考えられる。

第34号土坑出土遺物観察表（第160図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|------------|----|----|-------------|------|-----------|
| 311 | 土師質土器 | 小皿 | 7.2 | 2.0 | 3.8 | 長石・石英・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 体部内・外面・底部ナデ | 中層 | 100% PL35 |

第61号土坑（第161図）

位置 調査2区中央部のC3 b9区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第33号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.11m, 短径0.85mの隅丸長方形で、深さ20cmほどである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

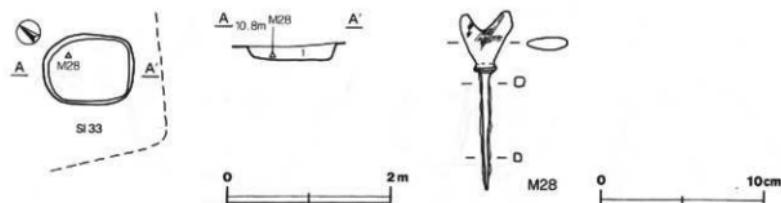
覆土 単一層である。ロームブロック、焼土、炭化物を含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 鉄製品1点（鐵）のほかに、混入と考えられる縄文土器片2点（深鉢）、弥生土器片3点（広口壺）、須恵器片1点（环）、疊1点が出土している。M28は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から中世と考えられる。



第161図 第61号土坑・出土遺物実測図

第61号土坑出土遺物観察表（第158・159図）

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|------|-----|-----|-----|----|-----------|------|------|
| M28 | 鐵 | 10.9 | 3.3 | 0.7 | 209 | 鉄製 | 雁又式 断面正方形 | 下層 | PL38 |

第71号土坑（第162・163図）

位置 調査8区西部のC5c7区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第3号竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.64m、短径2.90mほどの梢円形で、深さ50cmほどである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

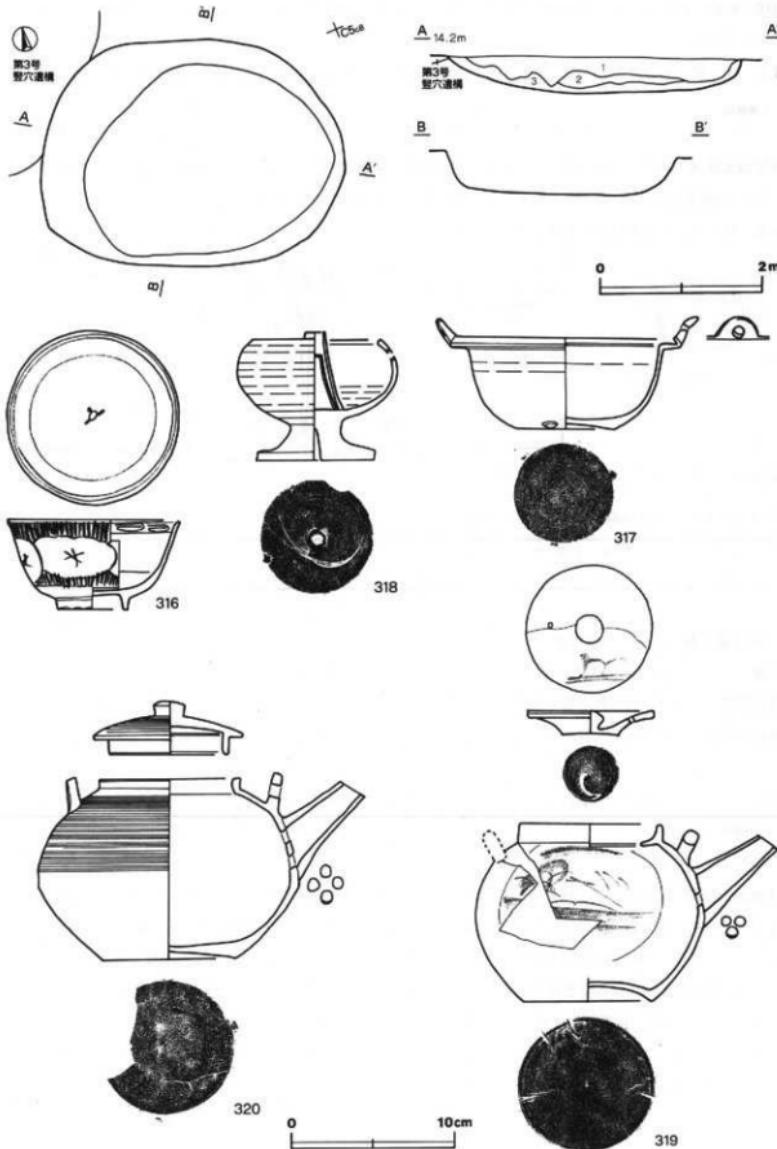
覆土 3層に分層され、各層にロームブロック・焼土・炭化物を含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 磁器片71点（碗類53、急須13、皿4、猪口1）、陶器片297点（土瓶210、土鍋54、徳利17、碗9、擂鉢4、秉燭1、花瓶1、甕1）、瓦質土器片43点（涼炉34、鍋類9）、ガラス製品2点（小瓶）、粘土塊5点、土製品2点（燒笛）、鉄製品1点（不明）、古銭3点（寛永通寶1、文久永寶1、不明1）が覆土全域から出土し、一括して投棄した後、埋め戻された様相を呈している。これらのはかに混入と思われる弥生土器片5（広口壺）、土師器片9点（甕）、須恵器片1点（环）、疊2点が出土している。

所見 出土遺物の生産年代が18世紀～19世紀であることから、遺物が投棄された時期は19世紀代と考えられ、性格は遺物の出土状況から、廃棄土坑と考えられる。

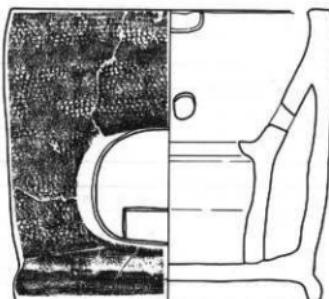


第162図 第71号土坑・出土遺物実測図



321

0 10cm



322



DP38



DP39



M29



M30



M31

0 3cm

第163図 第71号土坑出土遺物実測図

第71号土坑出土遺物観察表(第162・163図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・色調 | 焼付・釉薬 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|------|------|-----|-----------|------------|-----------------------------------|------|--------------------|
| 316 | 磁器 | 中碗 | 10.5 | 5.5 | 4.3 | 灰 | 無付・白釉 | 割り出し高台 焼付砂付着 | 覆土中 | 80% PL1
波打見・平口系 |
| 317 | 陶器 | 土鍋 | 15.7 | 6.9 | 6.1 | 明黄褐・暗赤褐 | 鉄釉 | 体部下端泡彫形 無輪 底部回転彫形
三足付 | 覆土中 | 95% PL36
在地系 |
| 318 | 陶器 | 壺 | 8.0 | 7.8 | 7.3 | 浅黄・暗赤褐 | 鉄釉 | たんころ形 武政無輪 糸切り痕 志立
て貼付 切り込み部あり | 覆土中 | 60% PL1
輪口・美濃系 |
| 319 | 陶器 | 上瓶 | 8.5 | 11.0 | 8.9 | 質白色 | 吳須・透明
釉 | 蓋：底部糸切り 身：川辺の赤 底部無輪 | 覆土中 | 80% PL1 |
| 320 | 陶器 | 土瓶 | 8.3 | 11.2 | 8.6 | に赤い褐色・暗褐色 | 鉄釉 | 蓋：淡黄 身：赤口文 下端・底部無輪
内面灰釉 足 3か所 | 覆土中 | 80% PL35
地方窓 |
| 321 | 陶器 | 罐 | 3.2 | 18.4 | 5.4 | 灰白・灰白 | 白釉 | 圓柄半球 体部下端釉変化・波肥風化 底
部糸切・無輪 | 覆土中 | 95% PL36 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|------|------|------|-------|-----|----|---|------|----------|
| 322 | 瓦質土器 | 涼炉 | 19.6 | 18.0 | 18.4 | 長石・石英 | 黑褐色 | 普通 | 口唇部・体部外側叩き 口唇部内突起
3か所 内部施設窓 6か所 風量調節窓
付 | 覆土中 | 70% PL35 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-----|-----|-----|----|---------------|------|------|
| DP38 | 馬頭 | 2.1 | 1.9 | 3.8 | 7.0 | 土製 | 左右縫合わせ | 覆土中 | PL37 |
| DP39 | 馬首 | 2.1 | 2.3 | 4.1 | 7.3 | 土製 | 左右縫合わせ 腹・尾部穿孔 | 覆土中 | PL37 |

| 番号 | 銘名 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鋲年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|-----|------|----|-----------|------|------|
| M29 | 寛永通寶 | 2.8 | 0.7 | 3.9 | 1769 | 銅 | 新寛永 四文銭 波 | 覆土中 | PL38 |
| M30 | 文久永寶 | 2.7 | 0.8 | 2.3 | 1863 | 銅 | 西文銭 波 | 覆土中 | PL38 |
| M31 | 不明 | 2.3 | 0.8 | 1.8 | 不明 | 銅 | 銘名不明 | 覆土中 | |

第82号土坑(第164図)

位置 調査8区東部のC6e[1]に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

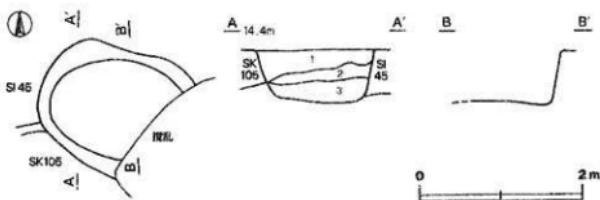
重複関係 第45号住居・第105号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 東部が擾乱されているため、長径は1.55m、短径は1.40mのみが確認され、梢円形と推定される。深さ62cmほどであり、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。各層にロームブロック・粘土ブロック含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒少
2. 焼土粒子微量
- 2 開
色 烧土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化
物少量
- 3 開
色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量



第164図 第82号土坑実測図

遺物出土状況 磁器片4点（碗3、皿1）、陶器片6点（土瓶3、徳利2、碗1）、土師質土器片6点（鍋類）、粘土塊6点のほかに、混入と思われる弥生土器片2点（広口壺）、土師器片10点（甕類）、須恵器片2点（坏）、碟3点が覆土中から出土している。

所見 墓域のある8区に立地し、粘土ブロックを含む層が見られることから、墓壙の可能性も考えられるが明確ではない。時期は、出土遺物から近世と考えられる。

第105号土坑（第165図）

位置 調査8区東部のC64区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第45号住居を掘り込み、第82号土坑に掘り込まれ、さらに東部が搅乱されている。

規模と形状 径2.05mほどの円形で、深さ55cmほどである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

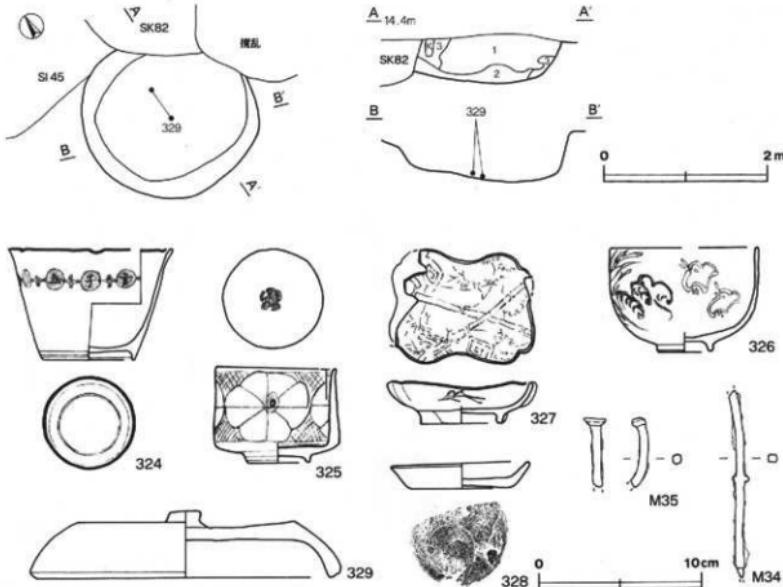
覆土 3層に分層され、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|-----------------------|-----|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 開 | 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 磁器片21点（碗16、皿5）、陶器片16点（土瓶6、土鍋5、徳利5）、土師質土器片22点（鍋類17、小皿4、蓋1）、瓦質土器片6点（鍋類）、粘土塊2点、鉄製品4点（釘2、鎌カ1、不明1）が、東部の覆土中層から下層にかけてまとめて出土している。329は覆土下層から出土している。このほかに、混入と思われる縄文土器片1点（深鉢）、土師器片16点（甕類）、須恵器片3点（坏類）が出土している。

所見 形状から墓壙の可能性も考えられるが、遺物出土の状況から一括廃棄された土坑と想定される。出土遺物の生産年代が18世紀～19世紀となることから、時期は19世紀と考えられる。



第165図 第105号土坑・出土遺物実測図

第105号土坑出土遺物観察表（第165図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・色調 | 繪付・釉薬 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-----|-------|-----|-----|-------|--------------------|----------------------------------|------|-----------------|
| 324 | 磁器 | 罐 口 | 9.9 | 6.9 | 5.5 | 白・白 | 呉須・白釉 | 十二支文 輪花6か所 下端三重團線
底部二重團線 | 覆土中 | 100% PL1
肥前系 |
| 325 | 磁器 | 小碗 | 7.2 | 5.9 | 3.7 | 白・白 | 呉須・透明釉 | 菊花繫ぎ 見込み五弁花 繪付砂付着
高台二重團線 | 覆土中 | 95% PL36
肥前系 |
| 326 | 磁器 | 中碗 | [9.1] | 6.4 | 3.3 | 灰白・淡黄 | 波:コバルト釉
千島、草:白釉 | 波に千鳥 体部下端から高台無釉 刻り
出し高台 繩かい貫入 | 覆土中 | 50% PL36 |
| 327 | 磁器 | 小皿 | 8.9 | 2.6 | 5.0 | 白・白 | 染付・透明釉 | 内面畫門 見込み竹 外面折松葉 繪付
無釉 | 覆土中 | 90% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|------|-----|-----|------------------|----|----|------------------|------|----------|
| 328 | 土師質土器 | 小皿 | 8.3 | 1.6 | 6.0 | 素身・長石・石英
赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 70% PL35 |
| 329 | 土師質土器 | 火附器 | 18.2 | 4.2 | — | 長石・石英・
赤色粒子 | 褐灰 | 普通 | 摘み貼付 | 下層 | 90% PL36 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|-----|-----|--------|----|-------------|------|----|
| M34 | 釘 | (11.6) | 1.3 | 0.4 | (19.0) | 鉄製 | 断面長方形 両側 | 覆土中 | |
| M35 | 釘 | (4.3) | 1.4 | 0.6 | (5.3) | 鉄製 | 先端部欠損 断面正方形 | 覆土中 | |

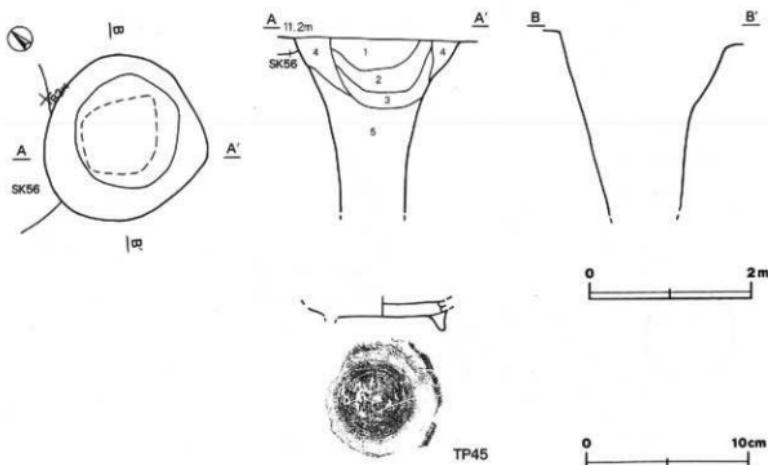
(3) 井戸跡

第1号井戸跡（第166図）

位置 調査1区東部のB3地区に位置し、低位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第56号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.34m、短径1.91mの楕円形で、漏斗状に掘り込まれている。深さ2mほど掘り下げたが、壁崩落の危険性があるために下部の調査を行っていない。



第166図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | | | |
|---|-----|------------------|---|-----|--------------------|
| 1 | 茶褐色 | 礫少見、ロームブロック微量 | 4 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 | 茶褐色 | ロームブロック少見、礫微量 | 5 | 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | | | |

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、混入と思われる須恵器片1点(高台付坏)が覆土中から出土している。

所見 調査1区からは18世紀以降の墓壙が検出されて、墓域が形成されていたと考えられ、その墓域と関連する可能性がある。時期は出土土器が少なく時期判断は困難であるが、遺構の形状、覆土の色調から近世と考えられる。

第1号井戸跡出土遺物観察表(第166図)

| 番号 | 種別 | 部種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|----|------|----|----------|----|----|-----------------|------|---------------------|
| TP45 | 須恵器 | 蓋付器 | — | (19) | — | 長石・石英・輝石 | 灰黄 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け | 覆土中 | 10% PL38
ヘラ記号(+) |

第2号井戸跡(第167図)

位置 調査1区東部のB3h4区に位置し、低位段丘上の平坦部に立地している。

規模と形状 径1.0mほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。深さ1.4mほど掘り下げたが、壁崩落の危険があるため、下部の調査を行っていない。

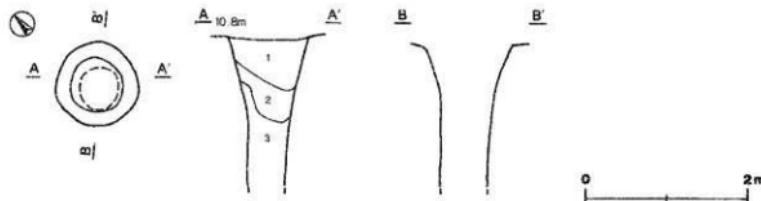
覆土 3層に分層される。焼土・炭化物を含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | | | |
|---|-----|-------------------|---|-----|------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・英化粒子微量 | 3 | 黒褐色 | 炭化物中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・英化粒子・炭化粒子微量 | | | |

遺物出土状況 混入と思われる須恵器片1点(坏)が覆土中から出土している。

所見 調査1区からは18世紀以降の墓壙が検出され、墓域が形成されていたと考えられ、その墓域と関連する可能性がある。本跡に関連する遺物がないため時期判断は困難であるが、遺構の形状や覆土の色調から近世と考えられる。



第167図 第2号井戸跡実測図

第3号井戸跡(第168図)

位置 調査2区中央部のB3j0区に位置し、中位段丘から低位段丘の南西方向への斜面部に立地している。

規模と形状 径1.21m、短径1.10mほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。深さ1.5mほど掘り下げたが、壁崩落の危険があるために下部の調査を行っていない。

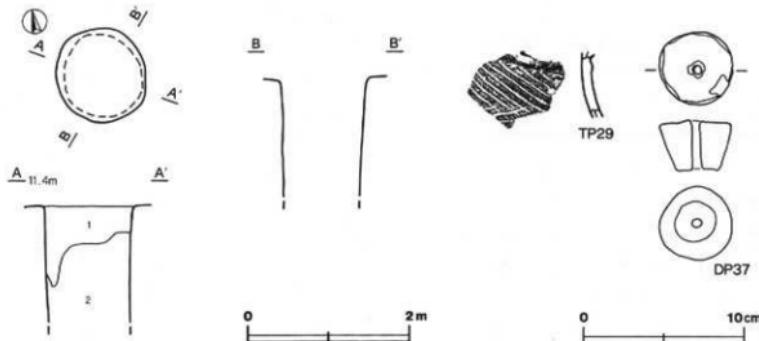
覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・砂粒中量、炭化物・藻少量 2 にい青褐色 砂粒多量、ロームブロック・藻中量

遺物出土状況 土師器片5点(甕), 弥生土器片4点(広口壺), 土製品1点(鍤鉢車), 瓦2点が覆土中から出土している。

所見 本跡が隣接する調査1区からは墓壙が検出されて、墓域が形成されていたと考えられ、その墓域と関連する可能性も考えられる。本跡に伴うと思われる遺物が出土していないため時期判断は困難であるが、遺構の形状や覆土の色調から近世と考えられる。



第168図 第3号井戸跡・出土遺物実測図

第3号井戸跡出土遺物観察表(第168図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|-----|-------|-----|----------|------|------|--------------------|------|------|
| TP29 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.9) | — | 素面・良石・石灰 | 明黄褐色 | 普通 | 腹部外側附加条2種(附加1条)の縦文 | 覆土中 | |
| DP37 | 筋鉢車 | — | 4.4 | 4.5 | 3.2 | 70.3 | 土製 | 断面台形 | ナデ 片面穿孔 | 覆土中 | PL37 |

第4号井戸跡(第169図)

位置 調査8区西部のC5b6区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第3号竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.45m、短径1.40mほどの円形、漏斗状に掘り込まれている。深さ1.5mほど掘り下げたが、壁崩落の危険があるため下部の調査を行っていない。

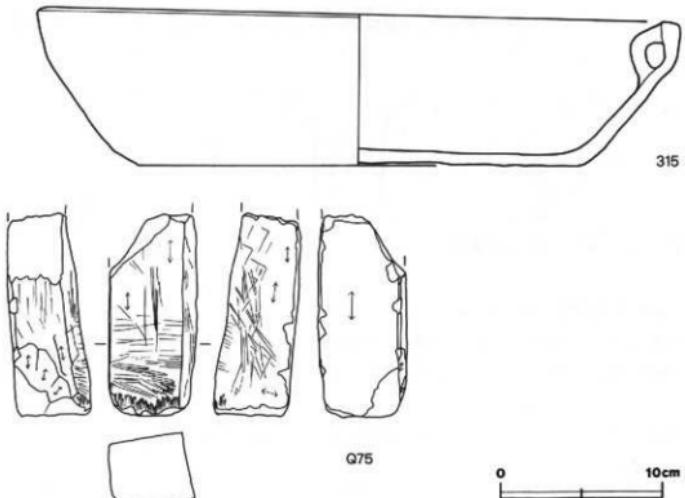
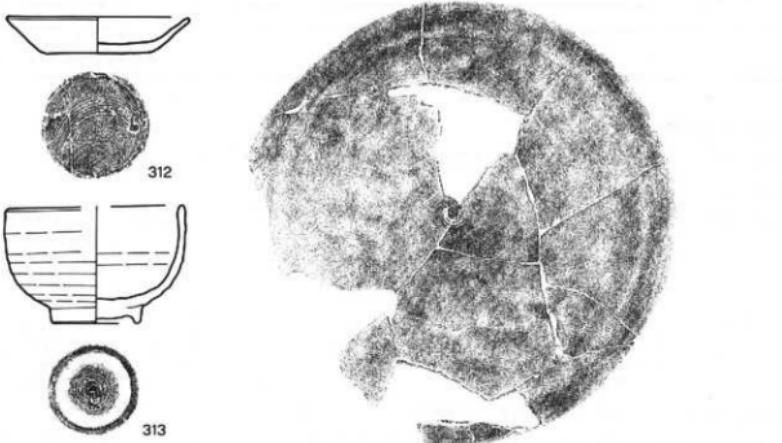
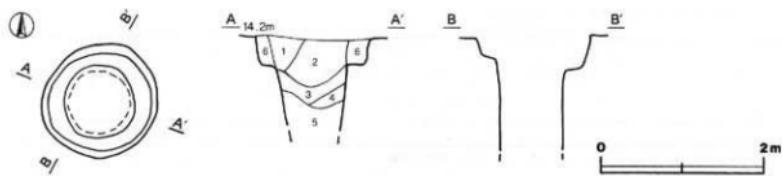
覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 塗褐色 | ロームブロック微量 | 4 塗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 2 塗褐色 | ローム粒子少量 | 5 塗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 塗褐色 | ロームブロック少量 | 6 塗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿・内耳鍋)、陶器片1点(碗)、石器1点(砥石)が投棄された状態で出土している。

所見 時期は出土土器から17世紀前半と考えられる。本跡が立地する調査8区からは17世紀以降の墓壙が検出されて、墓域が形成されていたと考えられ、その墓域と関連する可能性も考えられる。



第169図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

第4号井戸跡出土遺物観察表（第169図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底様 | 胎上 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 | |
|-----|-------|-----|------|-----|------|-------|------|----|--------------|----------------|----------|----------|
| 312 | 土師質土器 | 小口器 | 11.0 | 2.3 | 6.4 | 長石・石英 | に赤い模 | 普通 | 底部四軸系切り | 覆土中 | 80% PL35 | |
| 315 | 七郎質土器 | 内耳鉢 | 37.8 | 9.7 | 27.6 | 長石・石英 | 黒褐色 | 普通 | 内側から口縁部外面積ナゲ | 底部内面同
心円押想文 | 覆土中 | 70% PL35 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底様 | 胎上・色調 | 焼付・釉薬 | 特徴 | 出土位置 | 備考 | |
|-----|----|----|--------|-----|-----|-------|-------|--------|----------|------------|------------|
| 313 | 陶器 | 碗 | [10.7] | 7.4 | 5.4 | 灰白・灰白 | 灰釉 | 削り出し高台 | 体部内・外側貫入 | 体部下
位無地 | 覆土中
肥前系 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|-----|-----|---------|-----|------|------|----|
| Q75 | 砥石 | (12.5) | 5.4 | 5.3 | (490.9) | 礫状岩 | 砥面4面 | 覆土中 | |

第5号井戸跡（第170図）

位置 調査5区東部のC7段区に位置し、中位段丘上の南東方向への斜面部に立地している。

遺構関係 第60号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.00m、短径0.94mの円形で、円筒状に掘り込まれている。深さ1.2mほど掘り下げたが、壁崩落の危険があるため下部の調査を行っていない。

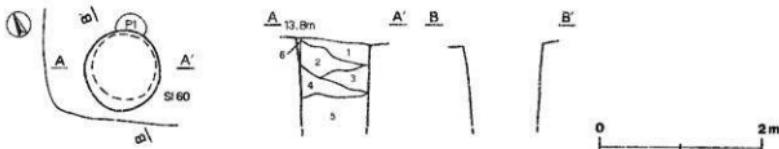
覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼上粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量 | 4 黑褐色 | ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量 |
| | 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量 | 5 黑褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| | 粘土ブロック・ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 弓生土器片2点（広口壺）、土師器片2点（环）が覆土中から出土している。

所見 本跡と隣接する調査8区からは墓壙が検出されて、墓域が形成されていたと考えられ、その墓域と関連する可能性も考えられる。本跡に伴う遺物はないため、時期判断は困難であるが、時期は造構の形状や覆土などから近世と考えられる。



第170図 第5号井戸跡実測図

第6号井戸跡（第171図）

位置 調査5区東部のC6g0区に位置し、中位段丘上の南東方向への斜面部に立地している。

規模と形状 長径1.35mほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。深さ1.3mほど掘り下げたが、壁崩落の危険があるため下部の調査を行っていない。

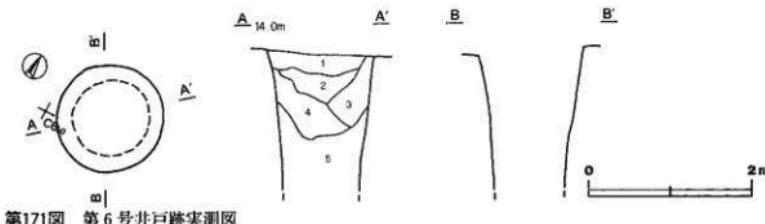
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼上粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・粘土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼上粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 売接する調査8区からは墓壙が検出されて、墓域が形成されていたと考えられ、その墓域に関連する可能性も考えられる。本跡に伴う遺物はないため、時期判断は困難であるが、遺構の形状や覆土の色調から近世と考えられる。



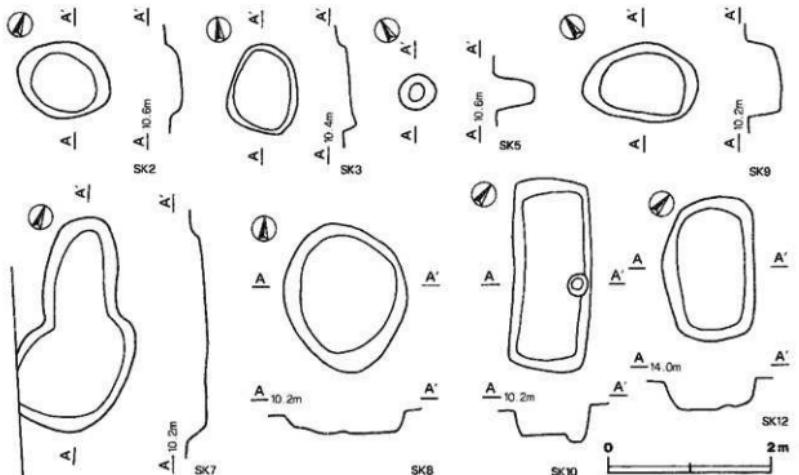
第171図 第6号井戸跡実測図

6 その他の遺構と遺物

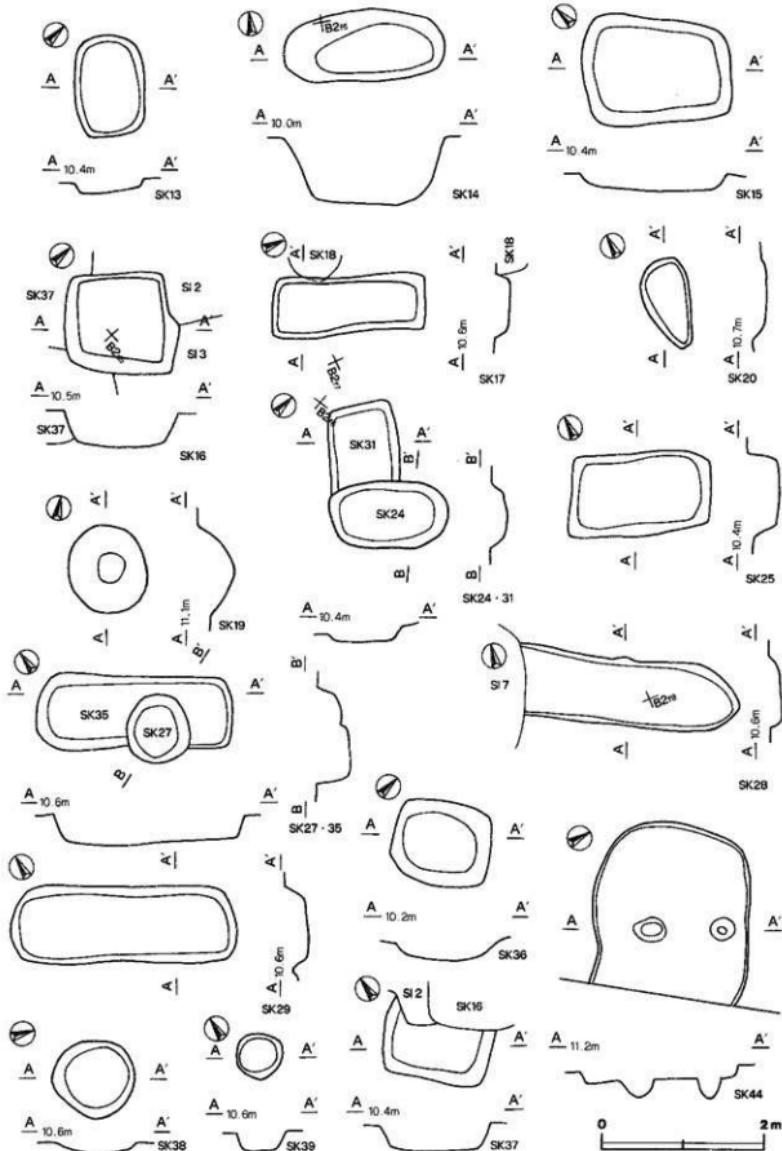
今回の調査で時期不明の土坑95基、溝跡3条、柵列跡1か所、ピット群4か所を確認した。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

(1) 土坑

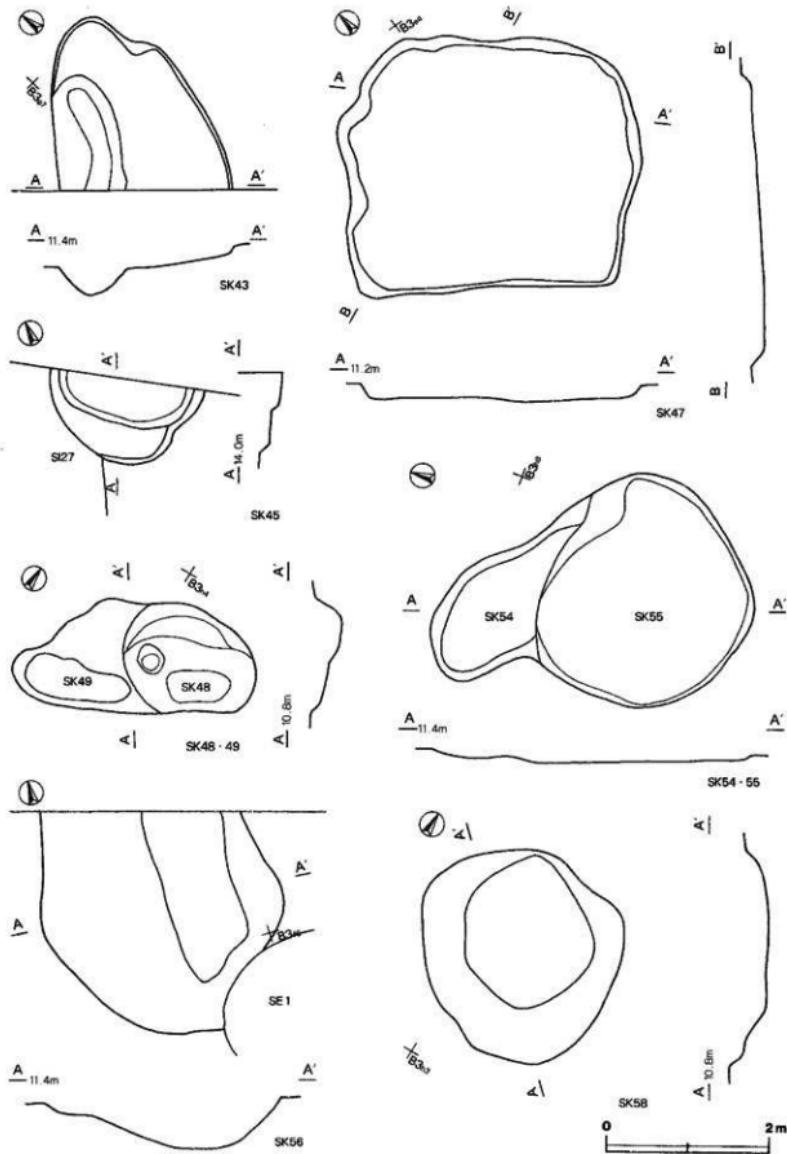
今回の調査で、106基の土坑を確認し、そのうち時期の確認できる11基（弥生時代2基、奈良・平安時代1基、中・近世8基）以外は、時期及び性格が不明のものである。ここでは、時期不明の土坑95基について実測図を掲載する。



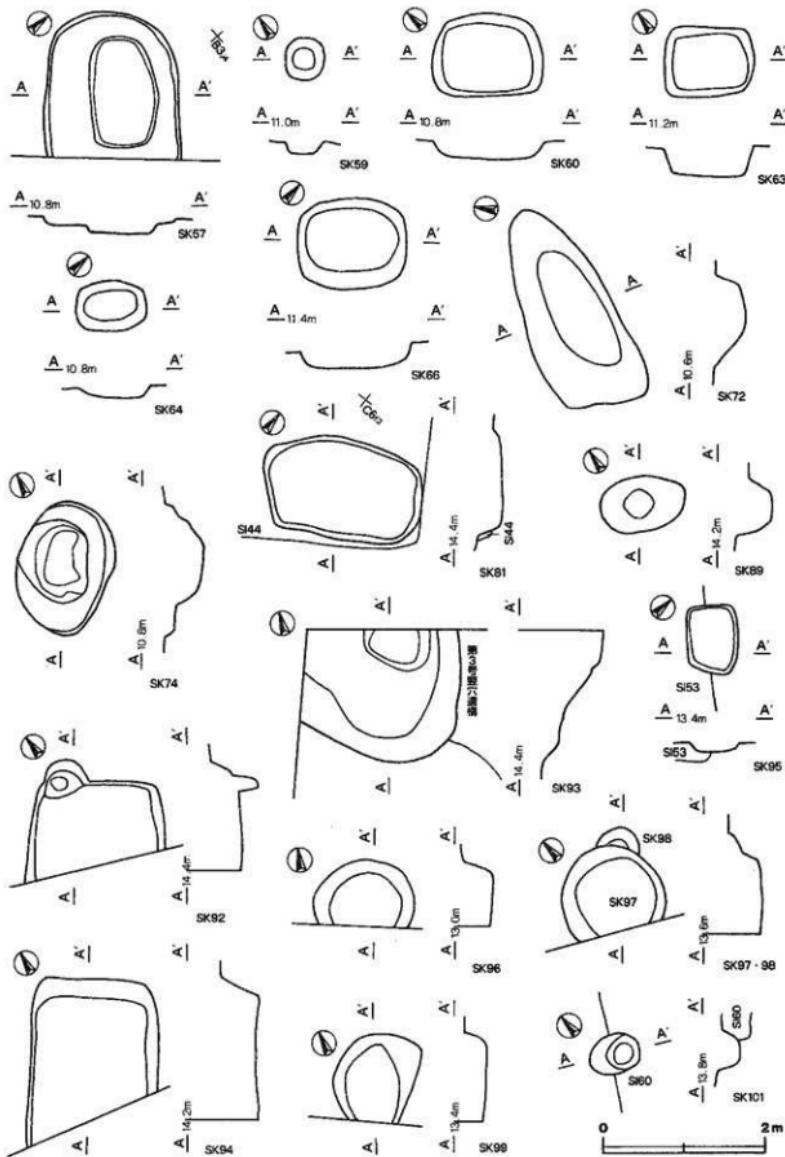
第172図 その他の土坑実測図(I)



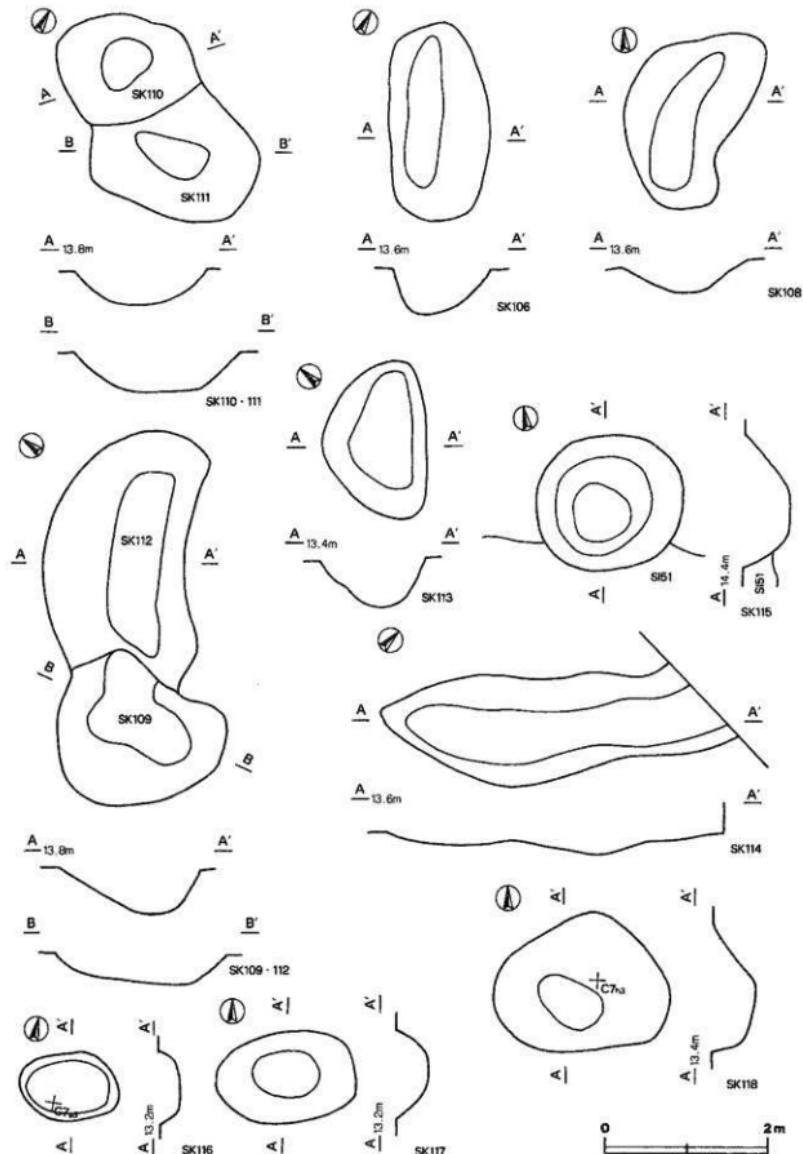
第173図 その他の土坑実測図(2)



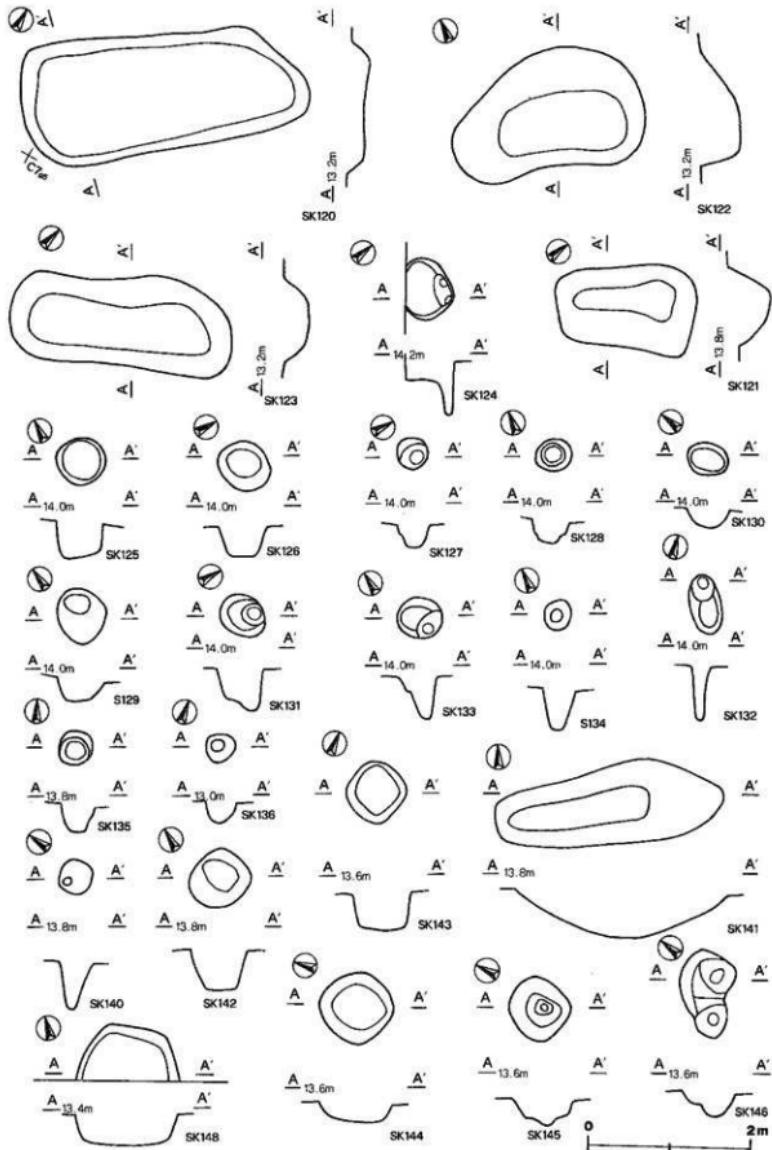
第174図 その他の上坑実測図③



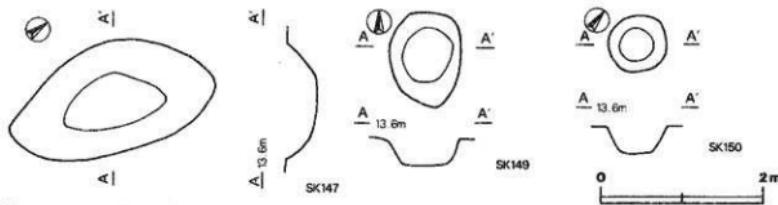
第175図 その他の土坑実測図(4)



第176図 その他の土坑実測図(5)



第177図 その他の土坑実測図(6)



第178図 その他の土坑実測図(7)

(1) 溝跡

今回の調査で3条の溝を確認したが、いずれも時期及び性格が不明な溝である。第1号溝については、平面図を全体図に示し、文章と土層断面図を記載する。

第1号溝跡（第179図）

位置 調査6区東部のD7c0～C8f1区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。

重複関係 第55・56・57・59・62・69号住居、第2号窓穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できた長さは30.2mで、調査区域外のD7c0区から北方向(N-10°-E)に直線的に延び、C8f1区で調査区域以外へ延びている。上幅1.0～1.3m、下幅0.65～0.9mで、深さは10～20cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

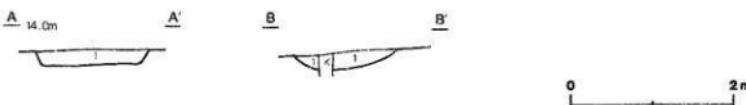
覆土 単一層である。覆土が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1 埋 地色 ロームブロック少量

遺物出土状況 弥生上器片4点(広口壺)、土師器片7点(甕類)、須恵器片1点(壺)が出土しているが、いずれも混入と考えられる。

所見 本跡に伴う出土土器はなく、明確な時期は不明である。



第179図 第1号溝跡実測図

第2号溝跡（第180図）

位置 調査3区東部のC4b6～C4c6区に位置し、中位段丘から低位段丘の南西方向への斜面部に立地している。

規模と形状 北西部が削平されており、確認できた長さは5.5mである。C4c6区内を北西方向(N-40°-W)に直線的に延びている。上幅0.95～1.25m、下幅0.7～1.03mで、深さ5～18cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

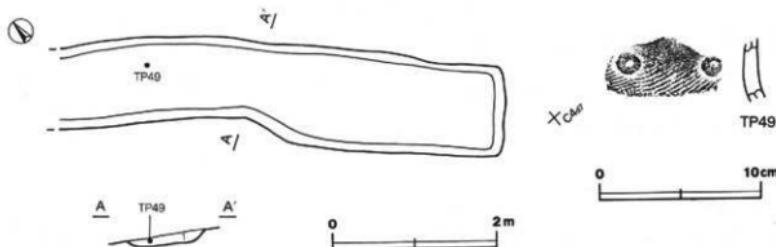
覆土 単一層であり、覆土が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1 埋 地色 ロームブロック少量

遺物出土状況 弥生土器片13点（広口壺），土師器片10点（壺類）が全域から散在して出土しているが，いずれも細片であり，周辺の遺構からの混入と考えられる。TP49は覆土上層から出土したものである。

所見 本跡に伴う出土土器はなく，明確な時期は不明である。



第180図 第2号溝跡・出土遺物実測図

第2号溝跡出土遺物観察表（第180図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|----|-------|----|----------|-----|----|--------------------------------------|------|----|
| TP49 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (4.0) | — | 雲母・長石・石英 | 明黄褐 | 普通 | 肩部と頭部の境にボタン状貼窓 脚部附近
加条一種（附加2条）の織文 | 上層 | |

第3号溝跡（第181図）

位置 調査1区西部のB 2 b5区に位置し，低位段丘上の南西方向へ緩やかに傾斜する斜面部に立地している。

重複関係 第2・3号住居，第32・34号土坑を掘り込んでいる。

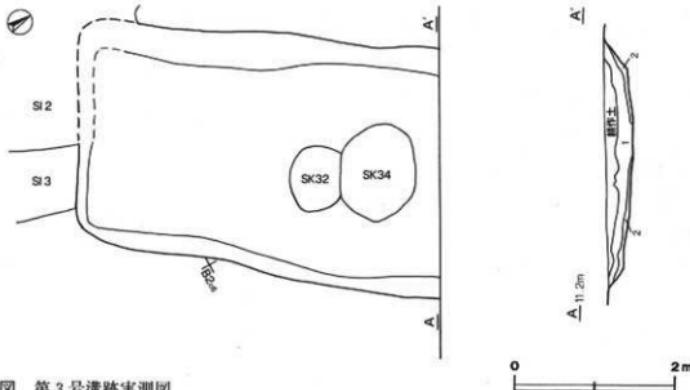
規模と形状 確認できた長さは4.52mほどで，傾斜のため南西部が削平されている。B 2 b5区内を調査区域外に向かって北東方向（N-32°-E）に直線的に延びている。上幅2.68～3.08m，下幅2.16～2.6mで，深さは30cmほどである。底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量



第181図 第3号溝跡実測図

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、17世紀の小屋が出土している第34号土坑を掘り込んでいることから、近世の可能性が考えられる。

(1) 棚列跡

第1号棚列跡（第182図）

位置 調査6区東部のD 8 a2～D 8 b1区に位置し、中位段丘の平坦部に立地している。

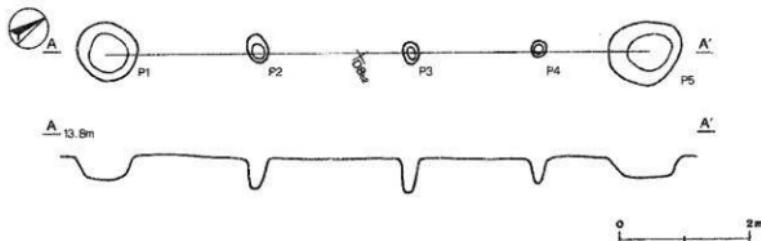
重複関係 第66・68号住居を掘り込んでいる。

規模と形状 軸方向をN-30°-Eとし、柱間寸法は北から1.72・1.98・2.34・2.24mである。P1・P5の大きめの柱穴が、P2～P4を挟むように並んでいる。

柱穴 P1・P5は長径94～124cm、短径90～96cmで、それぞれ円形である。P2～P4は長径26～46cm、短径24～26cmで、椭円形を呈し、深さは30～50cmである。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 5か所の柱穴が直線的に確認され、近接する他の柱穴と配置的な関連性は見当らなかったため、棚列として扱った。時期は、7世紀前半の住居跡を掘り込んでいるため、それ以降と考えられる。



第182図 第1号棚列跡実測図

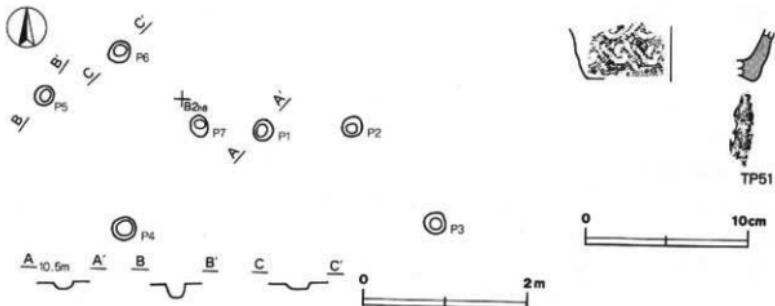
(4) ピット群

第1号ピット群（第183図）

調査1区南部のB 2 g7、B 2 h7～B 2 h8区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。ピット群の範囲は東西約5.2m、南北約2.5mである。ピットの配列は不規則であり、竪穴住居跡や獨立柱建物跡を想定することは困難である。範囲内からTP51の縄文土器が出土しているが、床面及び炉跡が検出されていないため、本跡に伴うものかどうかの判断は困難であり、時期及び性格は明確ではない。以下各柱穴の規模を表にまとめる。

第1号ピット群ピット計測表

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|-----|--------|--------|--------|-----|--------|--------|--------|-----|--------|--------|--------|
| P 1 | 24 | 24 | 25 | P 4 | 30 | 26 | 20 | P 6 | 28 | 28 | 21 |
| P 2 | 28 | 24 | 32 | P 5 | 26 | 26 | 22 | P 7 | 26 | 24 | 30 |
| P 3 | 28 | 26 | 29 | | | | | | | | |



第183図 第1号ピット群・出土遺物実測図

第1号ピット群出土遺物観察表（第183図）

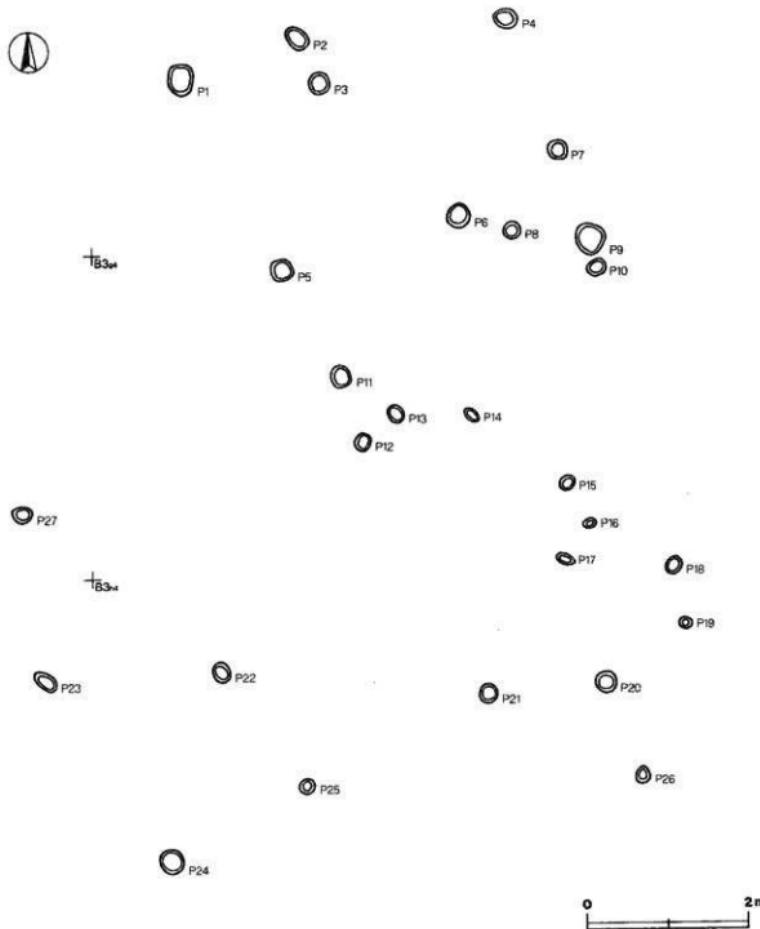
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 貯土 | 色調 | 焼成 | 文様の特徴 | | 出土位置 | 備考 |
|------|------|----|----|-------------|----|-----------------|-----|----|-------|-------------|-----------|-----|
| | | | | | | | | | 0段 | 多条横文によるループ文 | | |
| TP51 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (3.5) [102] | — | 雲母・長石・
石英・鐵磁 | 明褐色 | 普通 | 0段 | 多条横文によるループ文 | 底部上げ
底 | 確認面 |

第2号ピット群（第184図）

調査1区東部のB3f4～B3f5, B3g4～B3g5, B3h4～B3h5区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。ピット群の範囲は東西約9.9m, 南北约10.8mである。本調査区には墓域が形成されていたため、それと関連するピットの可能性も考えられるが、配列に規則性が認められず、堅穴住居跡や掘立柱建物跡を想定することにも無理がある。出土土器もなく、時期及び性格は明確ではない。以下各柱穴の規模を表にまとめる。

第2号ピット群ピット計測表

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|-----|--------|--------|--------|------|--------|--------|--------|------|--------|--------|--------|
| P 1 | 42 | 32 | 33 | P 10 | 22 | 22 | 33 | P 19 | 14 | 14 | 24 |
| P 2 | 32 | 23 | 27 | P 11 | 28 | 26 | 37 | P 20 | 26 | 24 | 35 |
| P 3 | 34 | 28 | 38 | P 12 | 20 | 18 | 31 | P 21 | 22 | 22 | 25 |
| P 4 | 28 | 24 | 36 | P 13 | 22 | 20 | 29 | P 22 | 22 | 22 | 23 |
| P 5 | 28 | 26 | 24 | P 14 | 22 | 14 | 27 | P 23 | 32 | 18 | 35 |
| P 6 | 30 | 30 | 26 | P 15 | 20 | 16 | 37 | P 24 | 30 | 24 | 36 |
| P 7 | 24 | 24 | 38 | P 16 | 16 | 12 | 21 | P 25 | 18 | 16 | 22 |
| P 8 | 22 | 20 | 35 | P 17 | 24 | 14 | 25 | P 26 | 18 | 16 | 27 |
| P 9 | 39 | 41 | 37 | P 18 | 21 | 19 | 32 | P 27 | 22 | 20 | 45 |



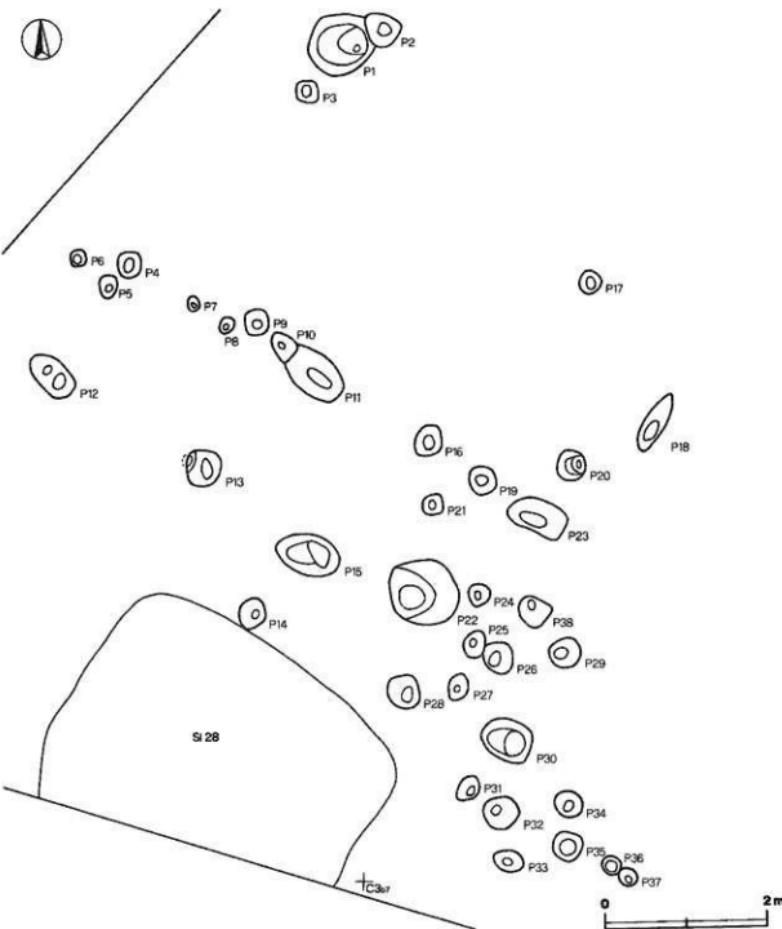
第184図 第2号ピット群実測図

第3号ピット群（第185図）

調査2区南部のB 3 j6～B 3 j7, B 3 j6～B 3 j8, C 3 a6～C 3 a7区に位置し、低位段丘上の南西方向への緩やかな斜面部に立地している。ピット群の範囲は東西約8.2m、南北約10.6mである。ピットの配列は不規則であり、堅穴住居跡や掘立柱建物跡を想定することは無理があり、時期及び性格は明確ではない。以下各柱穴の規模を表にまとめる。

第3号ピット群ピット計測表(1)

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|-----|--------|--------|--------|------|--------|--------|--------|------|--------|--------|--------|
| P 1 | 82 | 78 | 29 | P 7 | 18 | 16 | 20 | P 13 | 44 | 42 | 36 |
| P 2 | 48 | 40 | 33 | P 8 | 20 | 20 | 23 | P 14 | 40 | 36 | 31 |
| P 3 | 34 | 32 | 32 | P 9 | 35 | 32 | 22 | P 15 | 78 | 50 | 59 |
| P 4 | 32 | 28 | 27 | P 10 | 35 | 30 | 47 | P 16 | 40 | 32 | 34 |
| P 5 | 28 | 22 | 26 | P 11 | 80 | 52 | 46 | P 17 | 28 | 28 | 55 |
| P 6 | 20 | 18 | 18 | P 12 | 64 | 40 | 33 | P 18 | 80 | 26 | 50 |



第185図 第3号ピット群実測図

第3号ピット群ピット計測表(2)

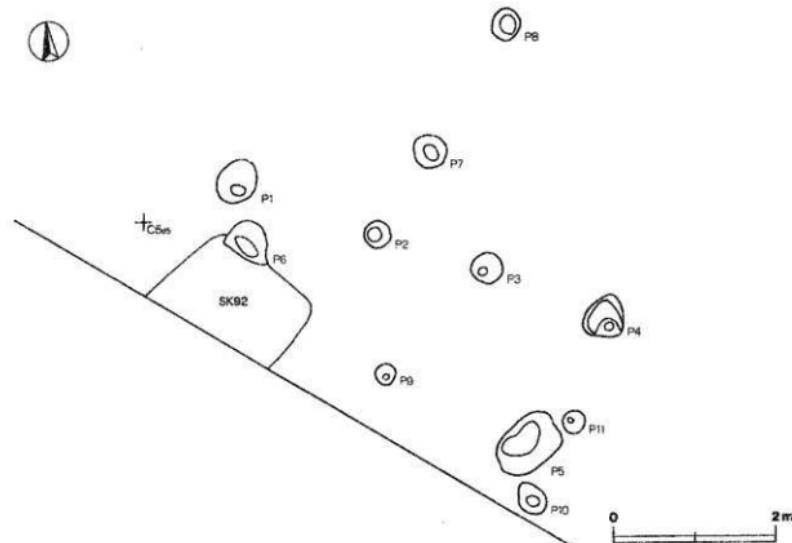
| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|------|--------|--------|--------|------|--------|--------|--------|------|--------|--------|--------|
| P 19 | 36 | 36 | 51 | P 26 | 38 | 38 | 37 | P 33 | 38 | 28 | 24 |
| P 20 | 38 | 34 | 24 | P 27 | 34 | 34 | 35 | P 34 | 38 | 32 | 55 |
| P 21 | 30 | 28 | 33 | P 28 | 44 | 40 | 38 | P 35 | 38 | 36 | 42 |
| P 22 | 92 | 80 | 32 | P 29 | 40 | 36 | 47 | P 36 | 22 | 22 | 35 |
| P 23 | 70 | 36 | 42 | P 30 | 62 | 50 | 50 | P 37 | 22 | 20 | 22 |
| P 24 | 28 | 26 | 40 | P 31 | 32 | 24 | 33 | P 38 | 40 | 38 | 42 |
| P 25 | 34 | 28 | 51 | P 32 | 48 | 42 | 51 | | | | |

第4号ピット群(第186図)

調査8区東部のC 5 c5～C 5 c6, C 5 d5～C 5 d6, C 5 e6区に位置し、中位段丘上の平坦部に立地している。ピット群の範囲は東西約5.9m、南北約5.4mである。本調査区には墓域が形成されていたため、それに関連するピットの可能性も考えられるが、配列に規則性が認められず、堅穴住居跡や掘立柱建物跡と想定することも無理がある。出土土器もなく、時期及び性格は明確ではない。以下各柱穴の規模を表にまとめる。

第4号ピット群ピット計測表

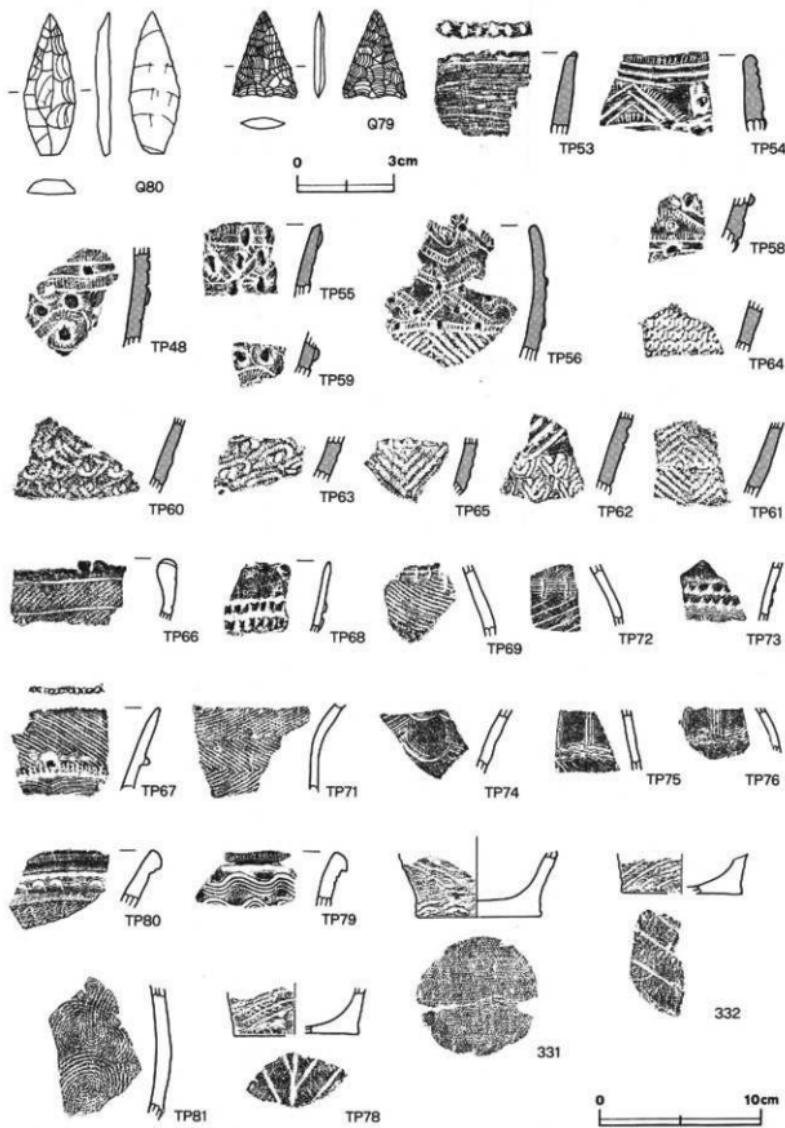
| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|-----|--------|--------|--------|-----|--------|--------|--------|------|--------|--------|--------|
| P 1 | 60 | 48 | 45 | P 5 | 80 | 56 | 75 | P 9 | 24 | 24 | 25 |
| P 2 | 36 | 36 | 24 | P 6 | 44 | 42 | 62 | P 10 | 44 | 28 | 20 |
| P 3 | 40 | 36 | 30 | P 7 | 42 | 40 | 25 | P 11 | 32 | 32 | 21 |
| P 4 | 56 | 52 | 66 | P 8 | 40 | 40 | 30 | | | | |



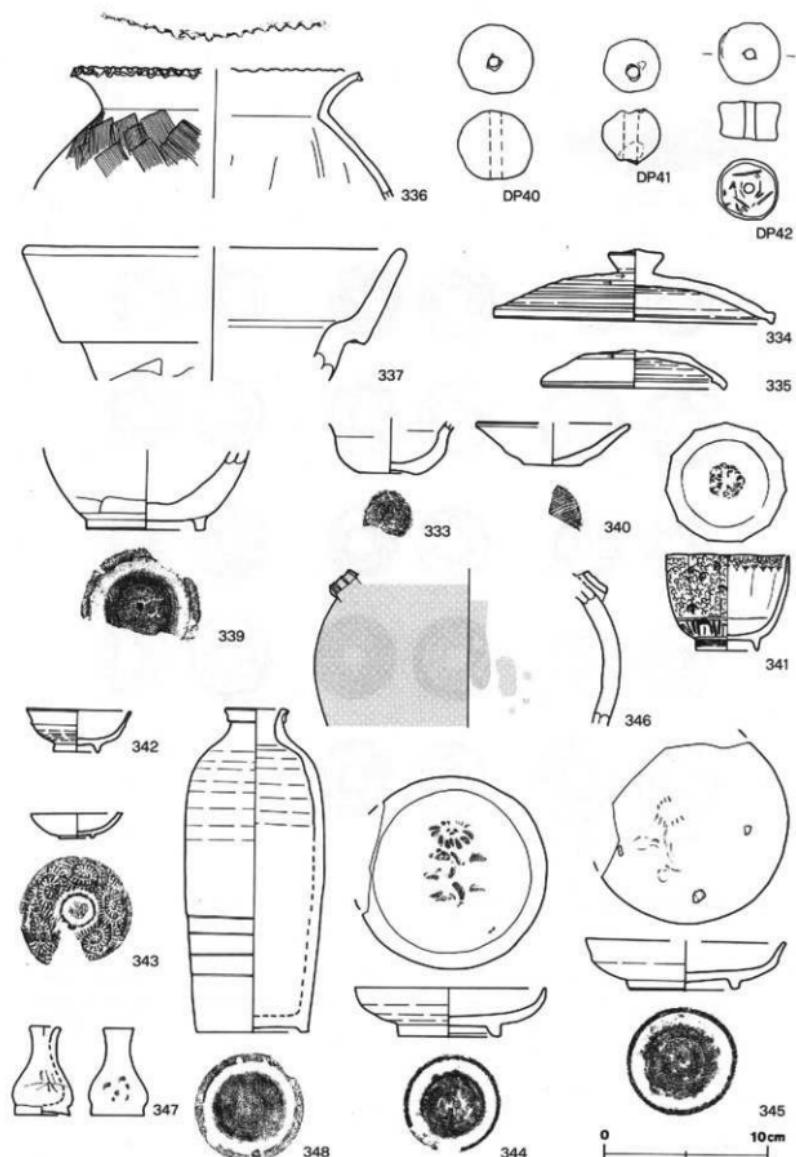
第186図 第4号ピット群実測図

(5) 遺構外出土遺物

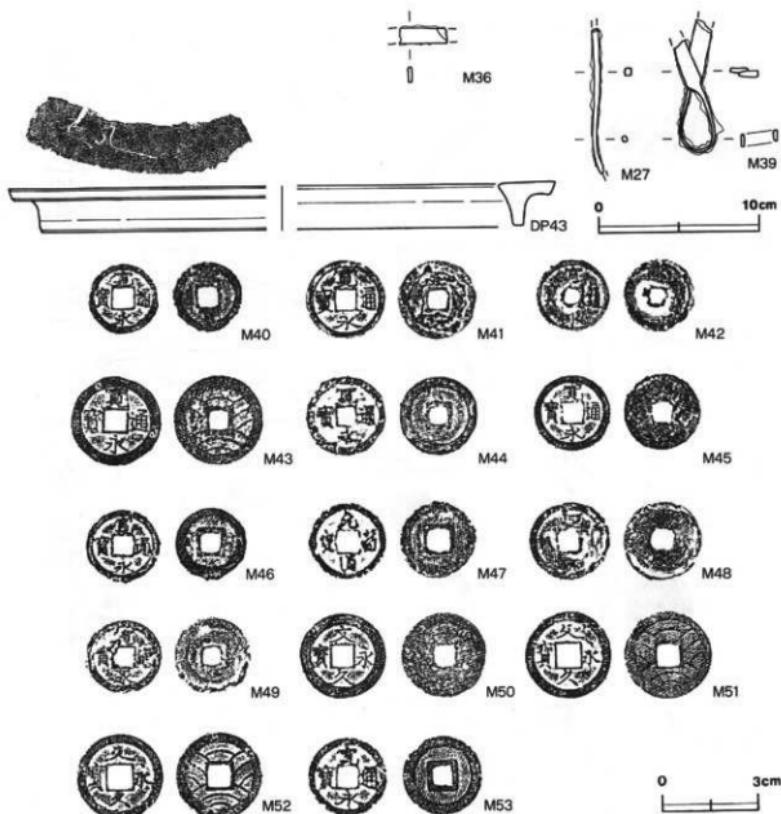
今回の調査で出土した遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び観察表で掲載する。



第187図 遺構外出土遺物実測図(1)



第188図 遺構外出土遺物実測図(2)



第189図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表（第187~189図）

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|----------|------|
| Q79 | 石 磚 | 2.7 | 2.0 | 0.4 | 1.2 | 石英 | 両面入念な押圧剥離 | SI16 覆土中 | PL38 |
| Q80 | 尖頭器 | 4.4 | 1.5 | 0.5 | 3.1 | 安山岩 | 片面加工 | SI17 覆土中 | PL38 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 手 法 の 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|------|------|----|----|-------|----|--------------|------|----|------------------------------|------------------|------|
| TP48 | 圓文土器 | 深鉢 | — | (5.8) | — | 長石・石英・
繊維 | 明赤褐色 | 普通 | 半截竹管による平行沈線 沈線間に刺突
文化焼 貼瘤 | SK58 覆土中 | 前期前業 |
| TP53 | 圓文土器 | 深鉢 | — | (5.1) | — | 雲母・長石・繊維 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部へラ押圧 脚部内・外面具沿条痕文 | 2区表土中
PL38 | 早期後業 |
| TP54 | 圓文土器 | 深鉢 | — | (5.2) | — | 長石・繊維 | にぶい褐 | 普通 | 半截竹管による沈線 沈線に沿って刺突
貼瘤 | B3g3 陶器面
PL38 | 前期前業 |
| TP55 | 圓文土器 | 深鉢 | — | (3.9) | — | 雲母・長石・
繊維 | 明褐 | 普通 | 半截竹管による沈線 沈線に沿って刺突
貼瘤 | SI16 覆土中
PL38 | 前期前業 |
| TP56 | 圓文土器 | 深鉢 | — | (8.3) | — | 長石・繊維 | 褐 | 普通 | 半截竹管による沈線 沈線内に刺突文充
填 | SI16 覆土中
PL38 | 前期前業 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|----|-------|-----|----------------------------------|------|----|--|------------------|---------------|
| TP58 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (3.8) | — | 玄母・長石・石英
灰母・長石・石英
灰母・長石・鐵母 | 暗褐色 | 普通 | 手執竹管による沈線 沈線内に刺突文充填
区画内に円形竹管文 貼彫 | S12 覆土中 | 前期前業 |
| TP59 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (2.0) | — | 玄母・長石・石英
灰母・長石・鐵母 | 明赤褐 | 普通 | 手執竹管による沈線 沈線内に刺突文充填 | S116 覆土中 | 前期前業 |
| TP60 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (4.1) | — | 鈎點・鋸齒 | 明赤褐 | 普通 | R.L.の0段多条横文によるループ文 | S116 覆土中 | 前期前業 |
| TP61 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (4.7) | — | 鈎點・鋸齒 | 暗褐色 | 普通 | 羽状横文 | S116 覆土中 | 前期前業 |
| TP62 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.0) | — | 玄母・長石・鐵母 | 明赤褐 | 普通 | 網織文 | B3d 雜誌面
PL.38 | 前期前業 |
| TP63 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (2.9) | — | 鈎點・鋸齒 | 橙 | 普通 | L.R.の0段多条横文によるループ文 | S116 覆土中 | 前期前業 |
| TP64 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (2.9) | — | 鈎點・鋸齒 | 明褐 | 普通 | ループ文 | S116 覆土中 | 前期前業 |
| TP65 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (3.6) | — | 鈎點・鋸齒 | にぶい橙 | 普通 | 羽状織文 | S135 覆土中 | 前期前業 |
| TP66 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (3.8) | — | 玄母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 口唇肥厚 扇口辺沈部区画内L.R.の單
縫接文充填 | S160 覆土中 | 後期後半
PL.38 |
| TP67 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (4.9) | — | 玄母・長石・石英 | 明褐 | 普通 | 口唇部純文押付 橢合口縁 口縁部附加条
(附)附加条(2条) 繩文 下端に墨体押付 | S160 覆土中 | 後期後半
PL.38 |
| TP68 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (4.4) | — | 玄母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 口近底無 瓶部上位押付のある隆脊 | S145 覆土中 | 後期後半 |
| TP69 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (4.6) | — | 玄母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 瓶部横状文 瓶部附加条1種(附加2条)
繩文 | S164 覆土中 | 後期後半
PL.38 |
| TP71 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (5.0) | — | 玄母・長石・石英 | 褐 | 普通 | 附加条一種(附加2条) 繩文 羽状構成 | S116 覆土中 | 後期後半 |
| TP72 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.8) | — | 玄母・長石・石英 | 黄微 | 普通 | 瓶部横状文 瓶部附加条1種(附加2条)
繩文 | 表土中 | 後期後半 |
| TP73 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.6) | — | 玄母・長石・石英 | 明褐 | 普通 | 瓶部上位横状口肩による押圧のある隆脊
4条1單位の横状文 | 表土中 | 後期後半 |
| TP74 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.8) | — | 玄母・長石・石英 | 明褐 | 普通 | 下向き泡彫文 | S141 覆土中 | 後期後半 |
| TP75 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (3.7) | — | 玄母・長石・石英 | 明赤褐 | 普通 | 2条1單位の波状文 | 表土中 | 後期後半 |
| TP76 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (2.9) | — | 鈎點・鋸齒 | 赤褐 | 普通 | 4条1單位の波状文 赤彩 | 5区表土中 | 後期後半
PL.38 |
| TP78 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (2.8) | 7.5 | 玄母・長石・石英 | 橙 | 普通 | 瓶部附加条・種(附加1条) 繩文 底部木
底葉底 | S143 覆土中 | 後期後半 |
| TP79 | 須恵器 | 壺 | — | (3.5) | — | 長石・石英 | 陶灰 | 普通 | 口縁部4条1單位の波状文 | S135 覆土中 | 後期後半 |
| TP80 | 須恵器 | 壺 | — | (3.5) | — | 長石・石英 | 陶灰 | 普通 | 口縁部4条1單位の波状文 | 1区覆土中 | 後期後半 |
| TP81 | 須恵器 | 壺 | — | (8.5) | — | 玄母・長石・石英 | 陶灰 | 普通 | 外周同心円状引き | 表土中 | 後期後半 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|-------|-------|----------|-------|----|------------------------|----------|-------|
| 331 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (4.0) | 7.6 | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 脚部附加条二條(附加1条)の繩文 底部木目痕 | S144 覆土中 | 後期後半 |
| 332 | 弥生土器 | 広口壺 | — | (2.5) | [7.5] | 鈎點・鋸齒 | 橙 | 普通 | 脚部D字型捺糸文 底部木目痕 | S144 覆土中 | 後期後半 |
| 333 | 土師器 | 壺 | — | (3.4) | 3.5 | 鈎點・長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部外側ヘラミガキ | 8区表土中 | — |
| 334 | 須恵器 | 壺 | 17.2 | 4.4 | — | 鈎點・鋸齒 | 灰 | 良好 | 外筋反方向のヘラ削り | 6区表土中 | PL.35 |
| 335 | 須恵器 | 壺 | 11.1 | (2.3) | — | 鈎點・長石・石英 | 灰オリーブ | 良好 | 外筋反方向のヘラ削り 内面ナデ | 4区表土中 | — |
| 336 | 土師器 | 壺 | [17.5] | (7.8) | — | 鈎點・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 波状口縁 体部ハケ目整形 | S166 覆土中 | — |
| 337 | 土師器 | 壺 | [23.3] | (8.2) | — | 鈎點・長石・石英 | 青綠 | 普通 | 体部外表面ナラダ | S15 覆土中 | — |
| 338 | 須恵器 | 壺 | — | (4.9) | 7.2 | 長石・石英 | 陶白 | 普通 | 外筋・邊輪凹へり引 瓶底鉢へ引り高台貼付 | 6区表土中 | — |
| 340 | 土師質土器 | 小壺 | [9.3] | 2.7 | 3.5 | 鈎點・長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 底部凹軋み切り | S15 覆土中 | — |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 繪付・釉薬 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|------|------|-------|-----|----------|--------|------------------------------------|------------------|-----------------|----|
| 341 | 磁器 | 小 瓶 | 7.5 | 5.8 | 3.2 | 白・白 | 染付・透明釉 | 輪花11 口縁部内面擦磨文 体部外表面
文・松・見込み松竹梅 | 表土中 | 肥前系
PL.1 | — |
| 342 | 磁器 | 薄手酒呑 | 6.4 | 2.6 | 2.6 | 白・灰白 | 透明釉 | 体部外表面に一条の接縫 全面施釉 | 表土中 | PL.36 | — |
| 343 | 磁器 | 紅 瓶口 | 5.4 | 1.5 | 2.0 | 灰白・灰白 | 内面白透 | 焰唇草形押し 外面部大部分なし | 8区表土中 | PL.36 | — |
| 344 | 陶器 | 壺 | 11.6 | 3.0 | 6.2 | 灰白・灰白 | 灰釉 | 削り出し高台 見込み剪黏 | 8.5区蘿花系
PL.36 | — | — |
| 345 | 陶器 | 壺 | 12.2 | 3.1 | 6.8 | 灰・灰 | 灰釉 | 内面ツクツク凹所で削り出し高台 見込み菊 | 表土中 | 蘿花・美濃系
PL.36 | — |
| 346 | 陶器 | 四耳壺 | — | (5.8) | — | オーリーフ・青白 | 灰釉 | 耳貼りつけ 灰釉流しあげ | S157 覆土中 | — | — |
| 347 | 陶器 | 小 壺 | 1.6 | 3.4 | 3.3 | 白・灰白 | 典須・白釉 | 輪反捺抹茶緋 姫・五弁花文 高台無釉 | 8区表土中 | 蘿花・美濃系
PL.36 | — |
| 348 | 陶器 | 壺 | 3.3 | 19.9 | 6.8 | 灰白・灰白 | 灰釉 | 口縁部折り曲げ 体部下端沈線 底部施
乳化し 同軸割り出し高台 | 8区表土中
PL.36 | 蘿花・美濃系
PL.36 | — |

| 番号 | 器種 | 長さ(径) | 幅(孔径) | 厚さ | 重 量 | 材 質 | 特 徴 | 出 土 位 置 | 備 考 |
|------|------|-------|-------|-----|------|-----|---------|---------|-------|
| DP40 | 球狀土罐 | 4.6 | 0.7 | 4.3 | 80.3 | 土製 | ナデ 片面穿孔 | 1区表土 | PL.37 |
| DP41 | 球狀土罐 | 3.4 | 0.9 | 3.4 | 27.3 | 土製 | ナデ 片面穿孔 | 7区表土中 | PL.37 |

| 番号 | 器種 | 長さ(径) | 幅(孔径) | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|--------|--------|-----|------|----|-----------------|-------|------|
| DP42 | 鍔 車 | 3.8 | 0.7 | 2.3 | 42.3 | 上製 | ナデ 斜面糸巻き形 | 表土中 | PL37 |
| DP43 | 鉤 掛け | [34.0] | [27.0] | 2.7 | 96.0 | 上製 | 内・外面横ナデ 絹書「五風カ」 | 8区表土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|---------|--------|----|---------------|----------|----|
| M27 | 軸カ | (9.1) | 0.9 | 0.5 | (5.0) | 鉄製 | 断面正方形 | SK54 覆土中 | |
| M36 | 刀子 | (3.2) | 1.3 | 0.2 | (2.1) | 鉄製 | 茎部の破片 刃部・茎灰欠損 | 1区表土中 | |
| M39 | 鏡 | (8.3) | 3.0 | 0.6~0.8 | (12.4) | 鉄製 | 先端部欠損 | SI16 覆土中 | |

| 番号 | 銘名 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鋲年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|-----|------|----|-----------|----------|------|
| M40 | 寛永通寶 | 2.2 | 0.6 | 2.1 | 1673 | 銅 | 新寛永 無背文 | SI30 覆土中 | |
| M41 | 寛永通寶 | 2.4 | 0.6 | 2.6 | 1673 | 銅 | 新寛永 無背文 | 表土中 | PL38 |
| M42 | 寛永通寶 | 2.2 | 0.4 | 1.7 | 1673 | 銅 | 新寛永 無背文 | 表土中 | |
| M43 | 寛永通寶 | 2.8 | 0.6 | 4.9 | 1679 | 銅 | 新寛永 四文銭 波 | 8区表土中 | PL38 |
| M44 | 寛永通寶 | 2.4 | 0.5 | 3.8 | 1673 | 銅 | 新寛永 無背文 | 8区表土中 | PL38 |
| M45 | 寛永通寶 | 2.3 | 0.6 | 2.6 | 1673 | 銅 | 新寛永 無背文 | 8区表土中 | PL38 |
| M46 | 寛永通寶 | 2.2 | 0.6 | 2.7 | 1673 | 銅 | 新寛永 無背文 | 8区表土中 | PL38 |
| M47 | 不明 | 2.3 | 0.7 | 2.7 | 不明 | 銅 | 無背文カ | SI7 覆土中 | |
| M48 | 不明 | 2.4 | 0.6 | 2.3 | 不明 | 銅 | 無背文カ | 8区表土中 | |
| M49 | 寛永通寶 | 2.3 | 0.5 | 2.8 | 1673 | 銅 | 新寛永 無背文 | 8区表土中 | |
| M50 | 文久永寶 | 2.6 | 0.7 | 3.8 | 1863 | 銅 | 四文銭 涼 | SI46 覆土中 | PL38 |
| M51 | 文久永寶 | 2.7 | 0.8 | 3.9 | 1863 | 銅 | 四文銭 波 | SI46 覆土中 | PL38 |
| M52 | 文久永寶 | 2.7 | 0.8 | 3.2 | 1863 | 銅 | 四文銭 波 | 表土中 | |
| M53 | 寛永通寶 | 2.4 | 0.6 | 3.2 | 1673 | 銅 | 新寛永 無背文カ | 8区表土中 | |

表2 繩文時代住居跡一覧表

| 住居
番号 | 位
置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平面形 | 規
模(m)
(長軸×短軸) | 壁高
(cm) | 床面
壁面
土柱穴
人口
ビット
着火穴
窓・炉 | 内
部
施
設 | | 覆土
上
主な出土遺物 | 時
期 | 備
考
(旧→新) |
|----------|--------|----------------|---------------|----------------------|------------|--|------------------|--------------------------------|-------------------|--------|-----------------|
| | | | | | | | 壁
構
造 | 土柱穴
人口
ビット
着火穴
窓・炉 | | | |
| 20 | B 2 f5 | N-65°-W | 楕円形 | 4.10×(2.30) | — | 平坦 | — | 4 | — | — | 不明 |
| 25 | B 2 d3 | N-0° | 楕円形 | 3.36×3.06 | — | 平坦 | — | 3 | — | — | 不明 |
| 26 | B 2 f6 | N-44°-W | 楕円形 | 3.12×4.35 | — | 平坦 | — | 3 | — | — | 不明 |
| 42 | B 3 j0 | N-32°-W | 長方形 | 4.00×3.40 | 10~14 | 平坦 | — | — | 2 | — | 不明 |
| 48 | C 4 d3 | — | (2.80)×(1.20) | 38 | 平坦 | — | — | — | — | — | 自然 滑跡 |

表3 弥生時代住居跡一覧表

| 住居
番号 | 位
置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平面形 | 規
模(m)
(長軸×短軸) | 壁高
(cm) | 床面
壁面
土柱穴
人口
ビット
着火穴
窓・炉 | 内
部
施
設 | | 覆土
上
主な出土遺物 | 時
期 | 備
考
(旧→新) |
|----------|--------|----------------|-------|----------------------|------------|--|------------------|--------------------------------|-------------------|--------|------------------------|
| | | | | | | | 壁
構
造 | 土柱穴
人口
ビット
着火穴
窓・炉 | | | |
| 34 | B 2 d0 | N-37°-W | 椭丸形 | 4.00×(3.75) | — | 平坦 | — | 1 | — | 1 | 41-1 不明 |
| 38 | C 3 a6 | N-43°-W | 椭丸形 | 4.03×(2.80) | 18~22 | 平坦 | — | 2 | 1 | — | 自然 法1層 |
| 33 | C 3 a9 | N-45°-W | 椭丸長方形 | 6.67×5.32 | 5~12 | 平坦 | — | 4 | — | — | 41-1 自然 法1層 胡麻草 石器(鐵石) |
| 35 | B 3 i7 | N-47°-W | 椭丸形 | 5.20×5.00 | 12~14 | 平坦 | — | — | 2 | — | 41-1 人為 法1層 |
| 37 | C 4 b1 | N-43°-W | 椭丸長方形 | 4.38×3.88 | 18~22 | 平坦 | — | 4 | 1 | 4 | 41-1 人為 法1層 |
| 61 | C 7 c2 | N-10°-W | — | (1.95)×(0.90) | 6 | 平坦 | — | — | — | — | 自然 法1層 |
| 63 | C 6 g4 | N-62°-W | 椭丸形 | 5.33×5.12 | 10~12 | 平坦 | — | 1 | — | — | 41-1 不明 法1層 壁坏 |
| 70 | D 8 a3 | N-33°-W | — | (3.10)×(0.34) | 6 | 平坦 | — | — | — | — | 不明 法1層 |

表4 弥生時代 土坑一覧表

| 上坑
番号 | 位 置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平 面 形 | 規 模(m)
(長軸×短軸) | 深さ
(cm) | 壁 面 | 底 面 | 覆 土 | 出 土 遺 物 | 備 考
(時期・III→新) |
|----------|--------|----------------|-------|-------------------|------------|-----|-----|-----|---------|-------------------|
| 46 | C 5 g8 | N - 8° - E | [楕円形] | 1.34 × (1.12) | 13 | 外傾 | 平坦 | 不明 | 広口壺 | 後期後半 |
| 100 | D 8 c1 | N - 45° - W | 楕円形 | 1.55 × 1.18 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | 広口壺 | 後期後半 |

表5 古墳時代住居跡一覧表

| 住居跡
番 号 | 位 置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平 面 形 | 規 模(m)
(長軸×短軸) | 壁 高
(cm) | 床 面 | 内 部 施 工 | | | 復元
主な構造物 | 時 期
(旧→新) | | |
|------------|--------|----------------|--------|-------------------|-------------|-----|---------|----|----|-------------|-----------------------------------|---|----------------------|
| | | | | | | | 堅 壓 | 柱穴 | 火口 | | | | |
| 5 | B 2 e8 | N - 27° - W | 方 形 | 5.08 × 7.98 | 28 - 37 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | 2 | 人馬 | 土師器 上蓋支脚
6世紀後半 7世紀前半 | |
| 9 | B 2 f5 | N - 27° - W | 方 形 | 3.88 × 3.57 | 9 - 26 | 平坦 | - | - | - | 人馬 | 土師器 上蓋支脚
6世紀後半 7世紀前半 | | |
| 13 | B 2 a1 | N - 37° - W | [方 形] | 2.78 × (2.35) | 25 | 平坦 | - | - | - | 人馬 | 土師器 上蓋支脚
6世紀後半 7世紀前半 | | |
| 16 | B 3 f2 | N - 29° - W | 方 形 | 7.60 × 7.43 | 28 - 30 | 平坦 | 全周 | 4 | 2 | - | 鹿 自然 | 1.輪替 旗基器
6世紀後半 7世紀前半 | |
| 17 | B 3 d2 | N - 95° - E | 方 形 | 4.70 × 4.50 | 19 - 35 | 平坦 | 全周 | 4 | - | - | 鹿 自然 | 土師器 猪窓器
7世紀後半 | |
| 18 | B 2 b2 | N - 42° - W | [長方形] | (6.10) × (2.10) | 21 | 平坦 | - | - | - | 自然 | 土師器
古墳時代後期 | | |
| 19 | B 2 a1 | N - 23° - W | 方 形 | 6.72 × 6.65 | 30 - 37 | 平坦 | 全周 | 3 | - | - | 電 1.自然
2.人馬 | 土師器 上蓋支脚
6世紀後半 小町 → SJ22 | |
| 21 | B 3 b2 | N - 32° - W | 椭丸方形 | 5.17 × 4.97 | 19 - 32 | 平坦 | - | 4 | 1 | 1 | 人馬 | 土師器 上蓋支脚
古墳時代初期 | |
| 22 | B 2 h0 | N - 74° - W | 方 形 | 6.13 × 5.90 | 26 - 37 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | - | 鹿 1.人馬
2.土師器 石器 (石器) | 土師器 上蓋支脚
6世紀後半 SJ19 → 小町 | |
| 23 | B 2 f4 | N - 21° - W | [方 形] | (4.72) × (3.77) | 15 | 平坦 | - | - | - | 自然 | - | 古墳時代 SJ20 → 本町 → SJ22 | |
| 24 | B 2 f5 | N - 57° - W | [方 形] | (3.29) × (2.00) | 5 - 8 | 平坦 | - | - | - | - | - | 古墳時代 SJ20 → 本町 → SJ22 | |
| 27 | C 5 g6 | N - 7° - E | [方 形] | 6.63 × (3.04) | 29 - 30 | 平坦 | - | 2 | - | - | 電 1.自然
2.鹿 | 1.輪替 旗基器
2.自然
3.瓦器
4.瓦器
5.瓦器
6.瓦器
7.瓦器
8.瓦器
9.瓦器
10.瓦器
11.瓦器
12.瓦器
13.瓦器
14.瓦器
15.瓦器
16.瓦器
17.瓦器
18.瓦器
19.瓦器
20.瓦器
21.瓦器
22.瓦器
23.瓦器
24.瓦器
25.瓦器
26.瓦器
27.瓦器
28.瓦器
29.瓦器
30.瓦器
31.瓦器
32.瓦器
33.瓦器
34.瓦器
35.瓦器
36.瓦器
37.瓦器
38.瓦器
39.瓦器
40.瓦器
41.瓦器
42.瓦器
43.瓦器
44.瓦器
45.瓦器
46.瓦器
47.瓦器
48.瓦器
49.瓦器
50.瓦器
51.瓦器
52.瓦器
53.瓦器
54.瓦器
55.瓦器
56.瓦器
57.瓦器
58.瓦器
59.瓦器
60.瓦器
61.瓦器
62.瓦器
63.瓦器
64.瓦器
65.瓦器
66.瓦器
67.瓦器
68.瓦器 | 古墳時代初期
7世紀後半 SJ45 |
| 29 | B 5 j3 | N - 26° - E | [方 形] | 7.20 × (4.16) | 28 | 平坦 | - | - | - | 電 1.人馬 | 土師器 旗基器
7世紀後半 | | |
| 30 | C 5 e2 | N - 13° - E | [方 形] | 7.94 × (5.52) | 32 - 42 | 平坦 | - | 2 | - | 電 1.自然 | 土師器 旗基器
7世紀後半 SJ11 → 小町 → SJ22 | | |
| 31 | C 5 e3 | N - 13° - E | [方 形] | (6.60) × (3.60) | - | 平坦 | - | 2 | - | 電 1.不明 | - | 古墳時代後期
本町 → SJ30 旗基 | |
| 32 | C 5 c1 | N - 36° - W | [方 形] | 4.60 × 4.52 | 10 | 平坦 | - | 1 | - | 電 1.不明 | 土師器 | 6世紀後半 | |
| 36 | C 4 d7 | N - 45° - W | 方 形 | 6.14 × 5.92 | 34 - 50 | 平坦 | - | 3 | - | 電 1.自然 | 土師器 旗基器
7世紀後半 SJ47 → 本町 | | |
| 38 | B 4 j1 | N - 27° - W | 方 形 | 3.46 × 3.42 | 34 - 41 | 平坦 | - | 1 | - | 電 1.自然 | 土師器
7世紀後半 SJ42 → 本町 | | |
| 41 | C 4 e2 | N - 41° - W | [方 形] | 5.94 × (5.06) | 36 - 50 | 平坦 | - | 2 | - | 電 1.自然 | 土師器 上蓋支脚
6世紀後半 SJ48 → 本町 | | |
| 43 | C 2 g8 | N - 20° - W | [長方形] | 6.60 × (5.80) | 25 | 平坦 | - | 3 | - | 電 1.自然 | 土師器
6世紀後半 | | |
| 44 | C 6 f2 | N - 38° - W | 方 形 | 3.67 × 3.47 | 29 - 26 | 平坦 | - | - | - | 電 1.人馬 | 土師器 旗基器
7世紀後半 SJ49 → 本町 | | |
| 45 | C 6 e4 | N - 4° - W | 方 形 | 6.5 × 6.0 | 40 - 45 | 平坦 | - | 1 | 1 | 電 1.人馬 | 土師器
7世紀後半 SJ50 → 本町 | | |
| 46 | C 6 d3 | N - 33° - W | [方 形] | 6.30 × (5.42) | 30 - 40 | 平坦 | - | 2 | - | 電 1.人馬 | 土師器
6世紀後半 SJ51 → 本町 | | |
| 47 | C 1 e7 | N - 44° - W | [長方形] | 5.23 × (2.56) | 12 - 25 | 平坦 | - | - | - | 人馬 | - | 古墳時代 SJ52 → 本町 | |
| 52 | C 6 g8 | N - 66° - W | [長方形] | (3.81) × (2.44) | 12 | 平坦 | - | 1 | - | - | 自然 | 土師器
古墳時代後期 | |
| 53 | D 7 a1 | N - 53° - W | [長方形] | (4.20) × (1.76) | 22 - 32 | 平坦 | - | - | - | 自然 | 土師器
6世紀後半 SJ53 | | |
| 54 | C 7 b0 | N - 33° - W | [方 形] | (1.96) × (1.30) | 20 | 平坦 | - | - | - | 自然 | 土師器
古墳時代後期 | | |
| 55 | C 8 d2 | N - 66° - W | [方 形] | (4.80) × (2.44) | 8 - 14 | 平坦 | - | 1 | - | - | 人馬 | 土師器
4世紀後半 SJ54 | |
| 56 | C 7 j0 | N - 33° - W | 方 形 | 5.42 × 5.20 | 30 - 35 | 平坦 | 全周 | 6 | 1 | 1 | 電 1.自然 | 土師器 石器 (石器)
6世紀後半 SJ55 | |
| 57 | C 8 h1 | N - 11° - E | 方 形 | 3.55 × 3.44 | 18 | 平坦 | - | 4 | 1 | 3 | 電 1.自然 | 土師器
6世紀後半 SJ56 | |
| 59 | C 8 h2 | N - 37° - W | [椭丸方形] | (4.76) × 4.50 | 5 - 7 | 平坦 | - | 2 | - | 5 | - | 小明 佛坐器 土師器
4世紀後半 SJ57 | |
| 60 | C 7 j2 | N - 36° - W | 椭丸方形 | 4.97 | 12 - 32 | 平坦 | - | 4 | - | 1 | 炉 1.自然 | 土師器 塔狀土器
4世紀後半 SJ58 | |
| 62 | D 7 a0 | N - 30° - W | 方 形 | 5.62 × 5.36 | 24 - 40 | 平坦 | 全周 | 4 | 2 | - | 電 1.自然 | 土師器 上蓋支脚
6世紀後半 SJ59 | |
| 65 | C 7 h1 | N - 45° - W | 方 形 | 5.30 × 5.10 | 9 - 26 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | 1 | 電 1.自然 | 土師器 上蓋支脚
6世紀後半 SJ60 | |
| 66 | D 8 a1 | N - 15° - W | 方 形 | 4.94 × 4.81 | 22 - 32 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | - | 電 1.自然 | 土師器 土製火鉢
6世紀後半 SJ61 → SJ62 | |
| 67 | C 8 j3 | N - 4° - E | [長方形] | (3.98) × (2.32) | 58 | 平坦 | 全周 | - | - | - | 自然 | 土師器 塔狀土器
7世紀後半 SJ63 → 7世紀後半 SJ64 | |
| 68 | C 8 j2 | N - 23° - W | 方 形 | 5.86 × 5.83 | 44 - 56 | 平坦 | 全周 | 4 | 2 | - | 電 1.自然 | 土師器 上蓋支脚
7世紀後半 SJ65 → SJ66 → SJ67 → 本町 → SJ68 | |

| 名前
番号 | 位
置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平面形 | 規
模(m)
(長軸×短軸) | 壁
高
(cm) | 床
面 | 内
部
施
設 | | | | 覆
土 | 主
な
出
土
遺
物 | 時
期 | 備
考
(旧→新) |
|----------|--------|----------------|--------|----------------------|----------------|--------|------------------|--------|-------------|-------------|--------|----------------------------|--------|-----------------|
| | | | | | | | 壁
構
造 | 天
井 | 火
葬
坑 | 火
葬
室 | | | | |
| 60 | C 8 j1 | N - 7° - W | [方 形] | 4.32 × (3.10) | 12 - 25 | 平坦 | - | 1 | - | 1 | 炉 1 不明 | 牛生土器 土師器 | 4世紀後半 | 本跡→SH66-68, SD1 |
| 71 | C 6 g6 | N - 12° - E | [横長方形] | 5.60 × (4.00) | 35 | 平坦 | - | 2 | - | - | 炉 1 不明 | 牛生土器 土師器 | 4世紀前半 | 本跡→S351 |

表6 古墳時代 壑穴造構一覧表

| 造
構
番
号 | 位
置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平
面
形 | 規
模(m)
(長軸×短軸) | 深
さ
(cm) | 壁
面 | 底
面 | 覆
土 | 出
土
遺
物 | 備
考
(時期・旧→新) | |
|------------------|--------|----------------|-------------|----------------------|----------------|--------|--------|--------|------------------|------------------------------|--------|
| | | | | | | | | | | 外
傾 | 内
傾 |
| 1 | C 4 b6 | N - 51° - W | 方 形 | 3.10 × 2.80 | 9~15 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器 | 6世紀後半 | |
| 2 | C 8 j1 | N - 4° - W | 不整方形 | 3.70 × 2.89 | 47~56 | 外傾 | 凸凹 | 自然 | 土師器 | 6世紀前半以前
本跡→S156 - 57, SD1 | |
| 3 | C 5 b6 | N - 64° - W | [長方形] | 7.56 × (3.54) | 35 | 傾斜 | 平坦 | 人為 | 土師器 | 6世紀後半
本跡→SK71 - 93, SD4 | |

表7 奈良・平安時代住居跡一覧表

| 名前
番号 | 位
置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平
面
形 | 規
模(m)
(長軸×短軸) | 壁
高
(cm) | 床
面 | 内
部
施
設 | | | | 覆
土 | 主
な
出
土
遺
物 | 時
期 | 備
考
(旧→新) | |
|----------|--------|----------------|-------------|----------------------|----------------|--------|------------------|--------|-------------|-------------|---------------------------|----------------------------|-----------------------------|----------------------------------|-----------------------|
| | | | | | | | 壁
構
造 | 天
井 | 火
葬
坑 | 火
葬
室 | | | | | |
| 1 | B 2 b6 | N - 29° - E | 方 形 | 4.22 × 4.16 | 24~26 | 平坦 | - | - | - | - | 壁 1 人・土
師器 破壊器 | 8世紀後半 | S22 → 本跡→SK21,
SD9 | | |
| 2 | B 2 c6 | N - 27° - E | [方 形] | 4.38 × 4.20 | 27~39 | 平坦 | - | - | - | - | 壁 1 人・土
師器 破壊器 | 8世紀後半 | S23 → 本 跡→SD1,
SK16, SD3 | | |
| 3 | B 2 c5 | N - 17° - E | [方 形] | (4.10) × (1.50) | 10 | 平坦 | - | - | - | 1 | - | 不明 | 土師器 破壊器 | 8世紀後半 | 本 跡→S22, SK16,
SD3 |
| 4 | B 2 d6 | N - 19° - E | 方 形 | 5.25 × 5.15 | 17~35 | 平坦 | - | 4 | 2 | - | 壁 1 人・自
然 破壊器 (刀子型) | - | 8世紀前半 | 本跡→S27 | |
| 7 | B 2 e7 | N - 110° - E | 方 形 | 3.95 × 3.74 | 12~20 | 平坦 | - | - | - | - | 壁 1 自然 破壊器 (刀子型) | - | 9世紀中期 | S28 → 本 跡→SD4,
SD9 | |
| 8 | B 3 f1 | N - 39° - E | 方 形 | 4.15 × 3.95 | 15~25 | 平坦 | - | 4 | - | 2 | 壁 1 自然 上
師器 破壊器 | - | 9世紀前半 | ST17 → 本 跡→施
設 | |
| 12 | B 3 f4 | N - 61° - E | 方 形 | 3.46 × 3.40 | 10~20 | 平坦 | - | - | - | 1 | - | 壁 1 自然 上
師器 破壊器 | 9世紀中期 | SD16 → 本 跡 | |
| 39 | B 3 j6 | N - 32° - E | 方 形 | 3.02 × 2.93 | 8~23 | 平坦 | - | 2 | 1 | 1 | 壁 1 自然 上
師器 破壊器 | - | 9世紀中期 | SD42 → 本 跡 | |
| 51 | C 6 g5 | N - 15° - E | 方 形 | 4.67 × 4.25 | 24~40 | 平坦 | - | 4 | 1 | 4 | 壁 1 人・土
師器 破壊器 | - | 8世紀後半 | SD50, 71 → 本 跡→
SK115, SD16分室 | |
| 64 | C 7 g4 | N 0° | 方 形 | 4.09 × 3.85 | 20~25 | 平坦 | 全傾 | 4 | 1 | 1 | 壁 1 人・土
師器 破壊器
(刀子) | - | 9世紀中期 | SD42 → 本 跡 | |

表8 墓塚一覧表

| 墓
塚
番
号 | 位
置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平
面
形 | 規
模(m)
(長軸×短軸) | 深
さ
(cm) | 壁
面 | 底
面 | 覆
土 | 出
土
遺
物 | 備
考
(時期・旧→新) | |
|------------------|--------|----------------|-------------|----------------------|----------------|--------|--------|--------|--------------------|-----------------------|--------|
| | | | | | | | | | | 外
傾 | 内
傾 |
| 1 | B 3 i2 | N - 37° - W | 長 方 形 | 2.18 × 0.82 | 30 | 外傾 | 平坦 | 人為 | ガラス袋小玉 | SD21 → 本跡
古墳時代後期 | |
| 2 | B 3 g5 | N - 56° - W | 長 方 形 | 2.25 × 1.63 | 65 | 外傾 | 平坦 | 人為 | - | 近世 | |
| 3 | B 2 b2 | N - 0° | 円 形 | 0.88 × 0.78 | 17 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 磁器 瓦質土器 | 近世 | |
| 4 | C 5 c9 | N - 0° | 円 形 | 1.05 | 30 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 磁器 瓦器 上
師質土器 | 近世 | |
| 5 | C 5 e9 | N - 17° - W | 円 形 | 1.20 × 1.11 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 木片 磁器 土師質
土器 古鏡 | 9世紀中葉 | |
| 6 | C 5 d0 | N - 29° - W | 円 形 | 1.25 × 1.11 | 32 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 陶器 | 近世 | |
| 7 | C 5 d1 | N - 34° - W | 椭 圆 形 | 1.43 × 1.26 | 27 | 外傾 | 平坦 | 人為 | - | 近世 | |
| 8 | C 5 f0 | N - 0° | 円 形 | 1.28 | 11 | 傾斜 | 平傾 | 人為 | - | 近世 | |
| 9 | C 5 e0 | N - 74° - E | [圓 形] | 0.87 × (0.81) | 20 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 磁器 陶器 土師質土
器 古鏡 | 本跡→第 10 号墓塚
近世 | |
| 10 | C 5 d8 | N - 77° - E | [圓 形] | 1.37 × (0.80) | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 磁器 | 本跡→第 11, 12 号墓塚
近世 | |
| 11 | C 5 d5 | N - 77° - E | 円 形 | 1.22 × 1.15 | 25 | 垂直 | 平傾 | 人為 | 磁器 土師質土器 | 第 10 号墓塚→本跡
近世 | |
| 12 | C 5 d6 | N - 87° - W | 円 形 | 1.19 × 1.43 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 第 10 号墓塚→不詳
近世 | |
| 13 | C 5 f0 | N - 0° | 円 形 | 0.97 | 10 | 外傾 | 平坦 | 人為 | - | 近世 | |
| 14 | C 5 d9 | N - 7° - E | 円 形 | 1.24 × 1.15 | 30 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 陶器 土師質土器 | 近世 | |
| 15 | C 6 g4 | N - 83° - E | 円 形 | 1.10 × 1.00 | 10 | 外傾 | 平坦 | 不明 | - | 近世 | |

| 墓場番号 | 位置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平面形 | 規模(m)
(長軸×短軸) | 深さ
(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考
(時期・旧→新) |
|------|--------|----------------|-------|------------------|------------|----|----|----|--------------------|----------------|
| 16 | C 6 g4 | N - 20° - W | 円 形 | 1.05 × 0.92 | 14 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 近世 |
| 17 | C 5 d1 | N - 0° | 円 形 | 1.84 × 1.70 | 55 | 緩斜 | 圓状 | 人為 | 陶器 士師質土器 | 近世 |
| 18 | C 5 c8 | N - 0° | 円 形 | 1.48 × 1.30 | 30 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 陶器 陶器 上部質土 | 近世 |
| 19 | C 5 e9 | N - 51° - E | 楕 圓 形 | 1.95 × 1.67 | 30 | 緩斜 | 圓状 | 人為 | — | 第9号墓壙一本跡
後世 |
| 20 | C 5 e0 | N - 45° - W | 椭 圓 形 | 1.97 × 1.63 | 35 | 緩斜 | 圓状 | 人為 | 陶器 士師質土器 及
上部質土 | 近世 |

表9 中・近世 土坑一覧表

| 土坑番号 | 位置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平面形 | 規模(m)
(長軸×短軸) | 深さ
(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考
(時期・旧→新) |
|------|--------|----------------|---------|------------------|------------|----|----|----|-------------------|-------------------------|
| 11 | B 2 c6 | N - 30° - E | 長 方 形 | 2.20 × 1.25 | 30 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 陶器 | 近世 |
| 21 | B 2 b5 | N - 0° | 椭 圓 形 | 1.88 × 1.68 | 130 | 外傾 | 圓狀 | 人為 | 陶器 士師質土器
占鏡 | SII → 本跡
後世 |
| 32 | B 2 b6 | N - 57° - W | 椭 圓 形 | 0.81 × 0.61 | 30 | 緩斜 | 圓狀 | 人為 | 土師質土器 | SK34 → 本跡 → SD3
近世 |
| 34 | B 2 b6 | N - 58° - W | 椭 圓 形 | 1.22 × 0.94 | 58 | 緩斜 | 圓狀 | 人為 | 上部質土器 | 本跡 → SK32 → SD3
近世 |
| 61 | C 3 b9 | N - 37° - W | 椭丸長方形 | 1.11 × 0.85 | 20 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 鉄製品(鐵) | SII → 本跡
後世 |
| 71 | C 5 c7 | N - 53° - W | 椭 圓 形 | 3.64 × 2.90 | 50 | 緩斜 | 圓狀 | 人為 | 陶器 瓦質土器
占鏡 | 第5号墓穴遺構 → 本跡
後世 |
| 82 | C 6 c4 | N - 56° - W | [椭 圓 形] | 1.55 × (1.40) | 62 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 器物 陶器 上部質土器 | SI45 → SK105 → 本跡
後世 |
| 105 | C 6 f4 | N - 0° | 円 形 | 2.05 | 55 | 緩斜 | 圓狀 | 人為 | 陶器 南器 十字質土器
占鏡 | SI45 → 本跡 → SK82
近世 |

表10 中・近世 井戸跡一覧表

| 遺構番号 | 位置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平面形 | 規模(m)
(長軸×短軸) | 深さ
(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考
(時期・旧→新) |
|------|--------|----------------|-------|------------------|------------|----|----|----|----------|--------------------|
| 1 | B 3 b6 | N - 81° - E | 楕 圓 形 | 2.34 × 1.91 | (200) | 外傾 | — | 自然 | 土師質土器 | SK56 → 本跡
近世 |
| 2 | B 3 h4 | N - 0° | 円 形 | 1.00 | (140) | 垂直 | — | 人為 | — | 近世 |
| 3 | B 3 j0 | N - 26° - W | 円 形 | 1.21 × 1.10 | (150) | 垂直 | — | 人為 | — | 近世 |
| 4 | C 5 b6 | N - 0° | 円 形 | 1.45 × 1.40 | (150) | 垂直 | — | 人為 | 土師質土器 陶器 | 第3号墓穴遺構 → 本跡
近世 |
| 5 | C 7 f1 | N - 0° | 円 形 | 1.00 × 0.94 | (120) | 垂直 | — | 人為 | — | 近世 |
| 6 | C 6 g0 | N - 0° | 円 形 | 1.35 | (130) | 垂直 | — | 人為 | — | 近世 |

表11 その他の時代 土坑一覧表

| 土坑番号 | 位 置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平 面 形 | 規 模(m)
(長軸×短軸) | 深さ
(cm) | 壁 面 | 底 面 | 覆 土 | 出 土 遺 物 | 備 考
(旧→新) |
|------|--------|----------------|-------|-------------------|------------|-----|-----|-----|-----------------|--------------|
| 2 | B 2 a2 | N - 75° - E | 椭 圓 形 | 1.13 × 0.93 | 15 | 緩斜 | 圓狀 | 自然 | — | |
| 3 | B 2 a2 | N - 10° - W | 椭 圓 形 | 1.12 × 0.90 | 11 ~ 18 | 外傾 | 平坦 | 不明 | — | |
| 5 | B 2 a3 | N - 0° | 円 形 | 0.45 | 50 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 7 | B 2 c3 | N - 14° - W | 不定 形 | 2.76 × 1.33 | 15 ~ 22 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 鐵文土器 須恵器
網紋器 | |
| 8 | B 2 c3 | N - 13° - W | 椭 圓 形 | 1.82 × 1.49 | 25 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器 | |
| 9 | B 2 c3 | N - 46° - W | 椭 圓 形 | 1.35 × 0.93 | 37 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 10 | B 2 d4 | N - 36° - W | 長 方 形 | 2.35 × 0.95 | 30 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 12 | B 2 c7 | N - 46° - W | 椭丸長方形 | 1.78 × 1.16 | 39 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 鐵文土器 土師器
須恵器 | |
| 13 | B 2 c7 | N - 48° - W | 椭 圓 形 | 1.25 × 0.86 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 14 | B 2 f5 | N - 84° - W | 長 圓 形 | 2.00 × 0.88 | 80 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | SI20 → 本跡 |
| 15 | B 2 d5 | N - 44° - W | 長 方 形 | 1.83 × 1.31 | 25 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 上師器 須恵器 | |

| 土坑
番号 | 位
置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平
面
形 | 規
模(m)
(長軸×短軸) | 深
さ
(cm) | 壁
面 | 底
面 | 覆
土 | 出
上
遺
物 | 備
考
(旧→新) |
|----------|--------|----------------|-------------|----------------------|----------------|--------|--------|--------|------------------|-----------------|
| 16 | B 2 e1 | N -44° - E | 長 方 形 | 1.43 × 1.22 | 40 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SI2・3・SK37→本跡 |
| 17 | B 2 e6 | N -21° - E | 長 方 形 | 1.94 × 0.68 | 21 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SI7→SK18→本跡 |
| 19 | B 2 d0 | N -20° - W | 橢 圓 形 | 1.10 × 0.97 | 31~53 | 縫斜 | 圓狀 | 人為 | — | |
| 20 | B 2 g0 | N -10° - E | 不整橢圓形 | 1.12 × 0.53 | 10 | 縫斜 | 平坦 | 人為 | — | SI14→本跡 |
| 24 | B 2 f6 | N -50° - E | 【橢 圓 形】 | 1.47 × 0.79 | 16 | 縫斜 | 平坦 | 自然 | — | SI26→SK31→本跡 |
| 25 | B 2 f5 | N -65° - W | 長 方 形 | 1.72 × 1.02 | 37 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SI26→本跡 |
| 27 | B 2 f7 | N -0° | 円 形 | 0.82 | 40 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK35→本跡 |
| 28 | B 2 e7 | N -37° - W | 不 定 形 | [3.25] × 0.81 | 15 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 弥生土器 | 本跡→SI7 |
| 29 | B 2 e7 | N -29° - W | 長 構 圓 形 | 2.80 × 0.91 | 27 | 縫斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 31 | B 2 b5 | N -45° - W | 長 方 形 | 1.78 × 0.86 | 15 | 縫斜 | 平坦 | 人為 | — | SI26→本跡→SK24 |
| 35 | B 2 f7 | N -61° - W | 長 方 形 | 2.42 × 0.88 | 27~37 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK27 |
| 36 | B 2 e4 | N -59° - E | 長 方 形 | 1.24 × 1.06 | 20 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | |
| 37 | B 2 d4 | N -42° - W | 長 方 形 | 1.34 × [0.96] | 36 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SI2・SK16 |
| 38 | B 2 g8 | N -0° | 円 形 | 1.01 × 0.98 | 12 | 縫斜 | 圓狀 | 不明 | 上部器 | |
| 39 | B 2 g7 | N -0° | 円 形 | 0.59 × 0.57 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 43 | B 3 g7 | N -55° - W | 【不 定 形】 | [2.16] × 1.96 | 12~32 | 縫斜 | 圓狀 | 不明 | 土師器 | |
| 44 | B 3 g6 | N -46° - W | 【不 定 形】 | [2.12] × 1.95 | 14 | 外傾 | 平坦 | 不明 | — | |
| 45 | C 5 g7 | N -29° - E | 不 明 | (0.94) × 1.83 | 12~25 | 縫斜 | 平坦 | 人為 | — | SI27→本跡 |
| 47 | B 3 e3 | N -51° - W | 長 方 形 | 3.60 × 3.00 | 14~18 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | |
| 48 | B 3 h1 | N -39° - E | 不 定 形 | [1.60] × 1.29 | 25~34 | 縫斜 | 圓狀 | 人為 | — | SK49→本跡 |
| 49 | B 3 h3 | N -39° - E | 【不 定 形】 | [1.38] × 1.12 | 16~35 | 縫斜 | 【圓狀】 | 人為 | — | 本跡→SK48 |
| 54 | B 3 h8 | N -46° - W | 【不 定 形】 | (1.54) × 1.30 | 9 | 縫斜 | 平坦 | 自然 | 上部器 | 本跡→SK35 |
| 35 | B 3 h8 | N -0° | 円 形 | 2.72 | 5 | 縫斜 | 平坦 | 自然 | 土師器 | SK34→本跡 |
| 56 | B 3 e5 | N -0° | 【不 定 形】 | (3.35) × (2.28) | 15~62 | 縫斜 | 圓狀 | 自然 | — | 本跡→SE1 |
| 57 | B 3 j3 | N -48° - W | 【長構円形】 | (1.78) × 1.62 | 12~20 | 外傾 | 平坦 | 不明 | 縄文上器 | |
| 58 | B 3 g3 | N -20° - W | 不 定 形 | 2.67 × 2.37 | 35~40 | 縫斜 | 平坦 | 人為 | 縄文上器 | |
| 59 | B 3 j9 | N -36° - W | 橢 圓 形 | 0.54 × 0.48 | 15 | 縫斜 | 平坦 | 人為 | 弥生土器 | SI33→本跡 |
| 60 | C 3 a9 | N -42° - W | 橢 圓 形 | 1.38 × 1.04 | 23 | 縫斜 | 圓狀 | 人為 | 弥生上器 須恵器 | SI33→本跡 |
| 63 | B 3 j6 | N -52° - W | 長 方 形 | 1.12 × 0.86 | 35 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 弥生上器 上部器 | |
| 64 | C 3 a8 | N -36° - E | 橢 圓 形 | 0.88 × 0.63 | 16 | 縫斜 | 圓狀 | 人為 | — | SI33→本跡 |
| 66 | C 4 b1 | N -46° - E | 橢 圓 形 | 1.36 × 1.15 | 20~25 | 縫斜 | 圓狀 | 人為 | 土師器 | SI37→本跡 |
| 72 | C 3 b3 | N -48° - E | 不整橢圓形 | 2.65 × 1.05 | 40 | 縫斜 | 圓狀 | 自然 | — | |
| 74 | C 3 b2 | N -25° - E | 橢 圓 形 | 1.68 × 1.20 | 50 | 縫斜 | 圓狀 | 人為 | — | |
| 81 | C 6 i3 | N -60° - E | 橢 圓 形 | 1.93 × 1.27 | 50 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 弥生土器 土師器 | SI44→本跡 |
| 89 | C 5 e0 | N -62° - W | 橢 圓 形 | 1.03 × 0.67 | 38 | 縫斜 | 平坦 | 人為 | 陶器 | |
| 92 | C 5 d5 | N -35° - E | 【長 方 形】 | 1.71 × (1.40) | 40 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 弥生土器 土師質土器 | |
| 93 | C 5 b3 | N -61° - W | 【不 定 形】 | (1.95 × 1.54) | 18~66 | 縫斜 | 圓狀 | 自然 | 上部器 須恵器 | 第3号整穴遺構→本跡 |
| 94 | C 6 j8 | N -31° - E | 【長 方 形】 | (1.83) × 1.57 | 60 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 95 | D 7 a1 | N -57° - W | 長 方 形 | 0.85 × 0.65 | 100 | 縫斜 | 平坦 | 不明 | — | SI53→本跡 |
| 96 | D 7 a2 | N -76° - W | 【円 形】 | 1.25 × (0.83) | 40 | 縫斜 | 平坦 | 自然 | — | |
| 97 | D 8 d1 | N -15° - E | 【橢 圓 形】 | 1.27 × (1.11) | 45 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 弥生土器 土師器 | SK98→本跡 |
| 98 | D 8 d1 | N -52° - E | 【円 形】 | 0.45 × (0.23) | 20 | 外傾 | 【平坦】 | 不明 | — | 本跡→SK97 |
| 99 | D 7 c0 | N -26° - E | 【橢 圓 形】 | (1.10) × 0.98 | 30 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 101 | C 7 e1 | N -61° - W | 橢 圓 形 | 6.46 × 4.20 | 26 | 縫斜 | 平坦 | 人為 | 弥生土器 土師器 | SI60→本跡 |
| 106 | C 7 h9 | N -35° - W | 橢 圓 形 | 2.42 × 1.24 | 43 | 縫斜 | 圓狀 | 人為 | — | |
| 108 | C 7 g9 | N -29° - E | 不 定 形 | 2.35 × 1.35 | 20 | 縫斜 | 圓狀 | 自然 | 弥生上器 | |

| 土坑
番号 | 位
置 | 主軸方向
(長軸方向) | 平
面
形 | 規
模(m)
(長軸×短軸) | 深
さ
(cm) | 壁
面 | 底
面 | 覆
土 | 出
土
遺
物 | 備
考
(旧→新) |
|----------|--------|----------------|-------------|----------------------|----------------|--------|--------|--------|------------------|-----------------|
| 109 | C 7 g0 | N -12° - W | 不 定 形 | 2.07 × 1.60 | 28~37 | 縦斜 | 圓状 | 人為 | — | SK112→本跡 |
| 110 | C 7 g9 | N -27° - E | 指 円 形 | 1.60 × 1.45 | 40 | 縦斜 | 圓状 | 人為 | — | SK111→本跡 |
| 111 | C 7 g9 | N -26° - E | 不 定 形 | 1.84 × 1.54 | 47 | 縦斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK110 |
| 112 | C 7 h0 | N -38° - E | 不 定 形 | (2.72) × 1.75 | 45 | 縦斜 | 圓状 | 自然 | — | 本跡→SK109 |
| 113 | C 7 g7 | N -43° - E | 不 定 形 | 1.92 × 1.23 | 59 | 縦斜 | 圓状 | 自然 | — | — |
| 114 | C 7 g8 | N -47° - E | [不 定 形] | (4.25) × 1.28 | 14~42 | 縦斜 | 凸凹 | 自然 | — | — |
| 115 | C 6 f5 | N -0° | 円 形 | 1.86 × 1.80 | 62 | 縦斜 | 平坦 | 人為 | — | SI51→本跡 |
| 116 | C 7 f3 | N -70° - E | 指 円 形 | 1.16 × 0.84 | 25 | 縦斜 | 平坦 | 自然 | — | — |
| 117 | C 7 f3 | N -84° - E | 指 円 形 | 1.71 × 1.13 | 40 | 縦斜 | 圓状 | 自然 | — | — |
| 118 | C 6 h2 | N -0° | 不 定 形 | 2.16 × 1.68 | 42~55 | 縦斜 | 圓状 | 人為 | — | — |
| 120 | C 7 f5 | N -61° - E | 不 定 形 | 3.51 × 1.55 | 20~26 | 縦斜 | 平坦 | 人為 | — | — |
| 121 | C 7 g1 | N -40° - W | 不 定 形 | 1.75 × 0.97 | 40 | 縦斜 | 圓状 | 自然 | — | — |
| 122 | C 7 f5 | N -69° - W | 不整指円形 | 2.39 × 1.45 | 50 | 縦斜 | 圓状 | 自然 | 土師器 | — |
| 123 | C 7 h3 | N -49° - E | 隅丸長方形 | 2.74 × 1.10 | 20~30 | 縦斜 | 圓状 | 自然 | — | — |
| 124 | C 6 e0 | N -24° - E | 指 円 形 | 0.73 × (0.56) | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器 | — |
| 125 | C 7 f1 | N -0° | 円 形 | 0.58 | 40 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | — |
| 126 | C 7 f0 | N -38° - E | 円 形 | 0.67 × 0.61 | 40 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 洗牛上器 土師器 | — |
| 127 | C 7 f1 | N -0° | 円 形 | 0.39 | 41 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | — |
| 128 | C 6 f0 | N -0° | 円 形 | 0.42 | 28 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | — |
| 129 | C 6 f0 | N -14° - E | 指 円 形 | 0.70 × 0.59 | 62 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | — |
| 130 | C 6 f0 | N -20° - W | 指 円 形 | 0.50 × 0.40 | 20 | 外傾 | 圓状 | 人為 | — | — |
| 131 | C 6 g9 | N -0° | 円 形 | 0.54 | 50 | 外傾 | 圓状 | 人為 | — | — |
| 132 | C 6 g9 | N -24° - W | 指 円 形 | 0.73 × 0.38 | 20 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | — |
| 133 | C 6 g0 | N -37° - W | 円 形 | 0.55 × 0.51 | 20 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 須恵器 | — |
| 134 | C 6 g0 | N -0° | 円 形 | 0.36 | 50 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | — |
| 135 | C 6 g0 | N -0° | 円 形 | 0.42 × 0.41 | 34 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | — |
| 136 | C 6 g0 | N -0° | 円 形 | 0.36 | 28 | 外傾 | 圓状 | 人為 | — | — |
| 140 | C 7 g1 | N -0° | 円 形 | 0.43 | 55 | 外傾 | 圓状 | 人為 | — | — |
| 141 | D 8 b2 | N -88° - E | 長 指 円 形 | 2.85 × 1.01 | 57 | 縦斜 | 圓状 | 人為 | — | — |
| 142 | D 8 b2 | N -0° | 円 形 | 0.70 | 53 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器 須恵器 | — |
| 143 | D 8 c2 | N -0° | 円 形 | 0.70 | 50 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器 | — |
| 144 | D 8 c1 | N -0° | 円 形 | 0.88 | 26 | 縦斜 | 圓状 | 自然 | — | — |
| 145 | D 8 b1 | N -26° - W | 円 形 | 0.80 × 0.75 | 33 | 外傾 | 圓状 | 人為 | 土師器 | — |
| 146 | D 8 c2 | N -65° - E | 不 定 形 | 1.10 × 0.58 | 30 | 縦斜 | 圓状 | 人為 | — | — |
| 147 | D 8 c1 | N -15° - E | 不 定 形 | 2.65 × 1.35 | 34~37 | 縦斜 | 圓状 | 自然 | — | — |
| 148 | D 8 d2 | N -28° - E | 不 明 | 1.25 × (0.67) | 36 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | — |
| 149 | D 8 c1 | N -13° - W | 指 円 形 | 1.15 × 0.93 | 42 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器 須恵器 | — |
| 150 | D 8 b2 | N -0° | 円 形 | 0.7 | 36 | 縦斜 | 平坦 | 人為 | 須恵器 | — |

表12 その他の時代 溝跡一覧表

| 遺構
番号 | 位
置 | 廣
主軸方向 | 形
状 | 規
模(m) | | | 断
面 | 底
面 | 覆
土 | 主な出土遺物 | 備
考
(旧→新) |
|----------|---------------|------------|--------|-----------|-----------|-----------|--------|--------|--------|--------|------------------------------------|
| | | | | 確認長(m) | 上幅(m) | 下幅(m) | | | | | |
| 1 | D 7 c0~C 8 f1 | N -10° - E | 直線状 | 30.2 | 1.00~1.30 | 0.65~0.90 | 10~20 | 外傾 | 平坦 | 不明 | SI55-56-57-59-62-69,
第2号墓六邊墻→本跡 |
| 2 | C 4 b6~C 4 c6 | N -40° - W | 直線状 | 5.5 | 0.95~1.25 | 0.70~1.03 | 5~18 | 外傾 | 平坦 | 不明 | — |
| 3 | B 2 b5 | N -32° - E | 直線状 | 4.52 | 2.68~3.08 | 2.16~2.60 | 30 | 縦斜 | 平坦 | 自然 | SI2-3, SK32-34→本跡 |

第4節 まとめ

今回の調査で確認した遺構は、縄文時代の竪穴住居跡5軒、弥生時代の竪穴住居跡8軒・土坑2基、古墳時代の竪穴住居跡39軒・墓壙1基・竪穴遺構3基、奈良・平安時代の竪穴住居跡10軒・土坑1基、中・近世の墓壙19基・土坑8基・井戸跡6基、時期不明の土坑95基、溝跡3条、柵列跡1か所、ピット群4か所である。

ここでは、各時代ごとに主な遺構と遺物について概要を述べ、まとめとしたい。

1 縄文時代

縄文時代の遺構は、縄文時代早期後半（茅山式期）、前期（関山式期）、晩期中葉（前浦式期）の住居跡がいずれも低位段丘上から検出されている。西側の1・2区を中心とする低位段丘上の表面採集や後世の遺構内からも、流れ込みや混入と考えられる前期前業（関山期）の破片が出土している。低位段丘上からは、後世の住居跡が重複して確認されており、それらの構築や耕作によって破壊された可能性が考えられる。中央部から東側に至る3区から8区の中位段丘上の住居跡などからの縄文土器片の検出は少なくなるため、1区・2区を中心とする低位段丘上に、当遺跡における縄文時代の集落が存在した可能性が考えられる。

2 弥生時代

弥生時代の遺構は、西側の1・2区の低位段丘上から竪穴住居跡5軒、中位段丘上の3～8区で竪穴住居跡3軒、土坑2基が検出されている。住居形態は隅丸方形及び隅丸長方形である。時期は、出土土器から後期後半（十王台式期）に位置づけられる。2区の低位段丘上からは、第28・33・35・37号住居跡が検出された。その中の第33号住居跡は他と比べて大形であり、紡錘車3点が出土している。全地域の後世の遺構からは、流れ込みや混入と考えられる弥生土器片が出土しており、後世の遺構や耕作によって破壊されてはいるが、全域にこの時期の竪穴住居跡が存在していた可能性が考えられる。当遺跡が立地する沼沼前川流域には、矢倉遺跡¹⁾、大畠遺跡²⁾をはじめ多くの遺跡から弥生時代の遺構が検出され、弥生時代後期後半のこの地域に集落が点在していたと考えられる。

遺物としては、十王台式土器の広口壺形土器が主体であり、当遺跡から出土したこれらの土器の文様的な特徴を挙げると、以下の点になる。第21号住居跡の弥生土器については後述する。

- (1) 口唇部には縄文原体による押圧又は範状工具による刻みがあり、突起が付く割合は低い。
- (2) 口辺部には歯齒状工具により波状文が施されるものが多いが、縄文を施すもの、無文のものもある。
- (3) 頸部文様帶の大部分はスリット手法による光模波状文であり、縦区画充填波状文も若干見られる。
- (4) 口縁部と頸部の境の隆帯は2～4条のものが見られるが、指頭による押圧のあるものが多く、ただ貼り付けただけのものも見られる。
- (5) 波状文を施す歯齒状工具の数は3～6本で、4・5本が多い。
- (6) 胸部に施される縄文は附加状二種（附加1条）で、羽状構成をとるもののがほとんどである。
- (7) 底部は、布目痕が多い。

他の器種としては、高杯、土製紡錘車、か石が出土している。高杯は、第63号住居跡から22・23（本文中の上器番号）の2点が出土している。22は口唇部に縄文原体を押圧し、杯部外側には横描横走文が施されている。23は口唇部に範状工具による刻みが施されている。土製紡錘車は、第33号住居跡から3点出土し、DP2には、横描文が施されている。炉石については、北部から沼沼周辺地域の、この時期のが跡からか石が検出される割

合が高いことが指摘されている³¹。当遺跡からは、後世の遺構との重複や調査区域外に延びている住居跡が多いことなどから、炉石が検出された住居跡は第14号住居跡の1軒のみであり、炉石は住居跡の長軸とほぼ直交する形で検出されている。

他地域の土器も十王台式土器とともに出土している。第100号土坑からは、2段の複合口縁を有し、胴部に羽状構成をとる附加条一種（附加2条）の縄文が施された上種吉式土器が出土している。また、第28号住居跡からは、群馬地方を中心に分布する樽式土器が出土している。矢倉遺跡からも樽Ⅲ期のものと推定される樽式土器が出土しているが³²、当遺跡のものを矢倉遺跡のものと比較すると、当遺跡のものには廉状文がなく胴部が球制化しており、Ⅲ期またはⅣ期に該当するものと推定され、胎土・形状・手法の特徴から搬入品の可能性が高いと考えられる³³。更に、頭部下端に廉状文が施されて、胴部に附加条一種（附加2条）の縄文が施される栃木地方を中心に分布する二軒屋式土器の破片も出土している。これまで調査が行われた、矢倉遺跡・大畑遺跡・石原遺跡からも同様に他地域の弥生土器が出土しており、当遺跡を含む沼前川流域の文化圏と群馬・栃木地方との関連が想定される。

3 古墳時代

当遺跡で最も多くの遺構が確認されたのは古墳時代である。時期は古墳時代初頭、4世紀代、6世紀前半～7世紀後半まで5世紀代の竪穴住居跡は確認されていない。

第21号住居跡は弥生土器と土師器が共伴して出土している。弥生土器と土師器の共伴事例は、発掘調査の増加とともに報告される数も増え、同じ沼前川流域の石原遺跡³⁴、石岡市外山遺跡³⁵、ひたちなか市武田石高遺跡³⁶などで確認されている。これらの例は、それまで使用されてきた土器が新しい古墳時代にも使用されたものと考えられ、弥生文化が断絶して、中央的な要素が強い古墳文化が新たに取り入れられたのではなく、地域ごとに弥生的な要素を残しつつも古墳文化を受け入れていったものと考えられる。

この住居の形態は、出入り口ピットの東側に貯蔵穴を持つ隅丸方形であり、つくば市境松遺跡第22号住居跡³⁷に類例が報告されているが、本跡は炉跡が検出されていない。住居内の南北壁に沿って床面を振り込んで、第1号墓壙が構築されている。木片の出土状況から木棺墓と考えられ、威信財のガラス製小玉31点と琥珀玉1点が墓壙の北部から出土している。木片は出土していないが住居内墓壙を持つ同様の形態は、二の沢B遺跡³⁸第31号住居跡内第139号土坑にも見られる。威信財として緑色凝灰岩製の管玉が出土しており、弥生時代後期後半の墓壙として報告されている。本跡においては、竪穴住居跡から弥生土器と土師器の共伴が見られることから古墳時代初頭の墓壙として捉えた。弥生時代後期後半から古墳時代初頭の当地域に、住居内に墓壙を持つ慣習の有無については今後の調査・研究が待たれる。

本跡からは、口縁部が欠損しているが器高約61cmの大形広口壺1点、器高約37cmの中形広口壺1点、器高約14～24cmの小形広口壺5点が出土している。大形広口壺は口縁部と頸部、頸部と胴部は隆帯によって区画され、6本を単位とする櫛歯状工具で施文されている。底部は砂目痕であり、白っぽい色調を特徴としている。中形広口壺は、口縁部と頸部、頸部と胴部を刺突文によって区画されており、5本を単位とする櫛歯状工具で施文され、底部は布目痕である。刺突文を施すことから、新しい段階の十王台式土器と考えることができる。小形広口壺は口唇部に突起が付くもの1点、隆帯は、指頭による軽い押圧のあるもの4点、刺突文を巡らすものが1点である。胴部の縄文は羽状構成をとらないものが5点中4点である。底部は布目痕3点、砂目痕2点であり、この2点は、頸部と胴部が連弧文により区画され、白っぽい色調を特徴としている。土師器については、高杯、甕が出土している。高杯は、38・39（本文中の土器番号）の2点があり、38は縁部が欠損しているが、

裾部は坏部より大きくせり出す器形を呈し、39は元屋敷系の高坏と考えられる。壺は3点出土している。41は、大形の弥生土器と並ぶように出土している。口唇部が面取りされており、最大径を体部上位に持ち、底部に向かってつぼまつしていく器形であり、外縁の整形は、ヘラ削り、ヘラナデ、崩毛目のいずれか非常に判別が困難である。北陸系の壺を模した在地系の壺とも考えられるが、はっきりと判定するのは困難であり、今後の調査での類例の検証を待ちたい。

4世紀代と考えられる堅穴住居跡は5軒で、中位段丘上の5・6・8区から検出されている。後世の遺構との重複や調査区域外に延びているため、全容が確認できたのは、第60号住居跡の1軒のみである。第55号住居跡からは、茨城町のこの時期を中心とする遺跡から出土することが多い波状口縁の壺の口縁部片が出土している。第60号住居跡からは、底部中央部が上げ底になり、赤彩された塗がピット内から出土し、住居跡内からは球状土錐9個が出土している。

5世紀代の住居跡は検出されず、次に現れるのは、口縁部が長く外反して、暗文状の磨きが施される坏が出土している、6世紀前葉と考えられる¹⁰第46号住居跡で、中位段丘上の8区から検出されている。調査区域外に住居跡が延びているため、龜及び炬は検出されず、焼失住居の様相を呈している。また、本跡から龜が出土しているが、覆土上層からの出土であり、投棄されたものと考えられる。

6世紀前半と考えられる堅穴住居跡は第56・65住居跡の2軒で、中位段丘上の5・6区から検出されている。2軒とも貯蔵穴を持つが、第56号住居跡は龜石輪外側、第65号住居跡は東コーナー部に位置している。両住居跡とも貯蔵穴からの遺物出土は多く、内・外面黒色処理された坏身模倣の坏や赤彩された高坏等が出土している。

6世紀後半と考えられる堅穴住居跡は、低位段丘上の1・2区から中位段丘上の8区までの当遺跡全域から10軒検出されている。土器の特徴は、坏には内・外面黒色処理されているものが多く、6世紀前半のものと比べて口径が大きくなっている。第19号住居跡からは、内・外面黒色処理された坏部中位に棱を持ち、坏部下端から脚部が開く高坏が出土している。また、第41号住居跡からは、口径約32cmの県内では希な大形の高坏の坏部と口径約27cmの高坏が出土しており、当地域のこの時期の権力者の存在を窺わせる。

7世紀前半と考えられる堅穴住居跡は、低位段丘上から中位段丘上の全域から6軒検出されている。低位段丘上の1区に立地する第5・16号住居跡は一辺が7~8mと大形のものである。また、この時期の坏の特徴として、坏は、前期より器高が低くなり、底部も平底気味のものが見られるようになってきている。

7世紀後半の堅穴住居跡は、低位段丘上に2軒、中位段丘上に5軒の、計7軒が検出され、この時期には住居の輪が北からやや東に振れる傾向が見られる。第27・29・30号住居跡は輪がほぼ同一方向を示している。この時期の遺物の特徴として、坏は前期と比べ小形化の様相を呈し、須恵器の出土量も多くなる。第27号住居跡の須恵器小形坏は、胎土・器形の特徴から水戸市山田窯¹¹で生産されたものと考えられる。第30号住居跡からも同様の坏・壺が出土しており、山田窯で生産された可能性が高い。

4 奈良・平安時代

奈良・平安時代の堅穴住居跡は低位段丘上の1・2区から8軒、中位段丘上の5区、8区からそれぞれ1軒ずつ検出されている。時期は、8世紀前葉~9世紀中葉までの住居跡である。

8世紀前半の住居跡は4軒であり、1区に立地する。これらから出土する須恵器の坏は、胎土に針状鉱物を含み、木葉下窯¹²産の可能性が考えられる。第1・2号住居跡は、出土遺物に時期差がなく、建て替えの可能性も考えられる。第4号住居跡から出土した須恵器坏の底部には、「×」や「-」のヘラ記号を施すものが4

点見られる。

8世紀後葉の住居跡は中位段丘上の8区から1軒検出された。炭化材が散在している状況から、焼失住居と考えられる。また、掘り方調査の結果、拡張された住居跡であることも判明した。土器は高台付壺、体部下端にヘラ磨きが施される壺が出土している。

9世紀前葉の住居跡は低位段丘上の1区から1軒検出された。本跡は当遺跡において唯一壺の両脇に棚状施設を有するもので、施設内に2基のピットが検出されている。

9世紀中葉の住居跡は低位段丘上の1・2区から3軒、中位段丘上の5区から1軒の計4軒検出されている。第12号住居跡からは、「㊣」と墨書きされた土師器の高台付壺や「川九万ヶ」と墨書きされた須恵器壺が出土している。第39号住居跡からも「㊣」と墨書きされた土師器壺が出土しており、字体も同一と考えられることから、両住居跡の同時性など密接な関係が想定される。

5 中・近世

中世の遺物としては、第37号住居跡の覆土中から古瀬戸前期の四耳壺片が出土しており、周辺に同時期の遺構があった可能性が想定される。

近世では、墓壙・土坑・井戸跡が検出されている。墓壙は、低位段丘上の1区に2基、中位段丘上の8区に17基検出されている。壁面や床面に粘土が貼られているものが多く、底部付近に粘土を含む層があるものも墓壙として採り上げた。出土遺物の生産年代から1区は18世紀以降に、8区は17世紀後半以降には墓域が形成されていたと考えられる。

以上のように、大戸下郷遺跡は、縄文時代早期に人々の生活の痕跡が見られるようなる。縄文時代中・後期にはその痕跡はなくなり、晩期にまた見られるようになる。その後、弥生時代後期後半から古墳時代前期には、涸沼前川地域の中で他地域との交流が積極的に行われた。この時期には、ガラス製小玉を伴って埋葬される権力者の存在も想定される。古墳時代後期には大きな集落が形成され、巨大な高壙に象徴される権力者の存在もうかがわれる。活発に他地域と物的、人的な交流が続いていると思われる。集落は平安時代まで続き、その後、中世においては、わずかな痕跡を残すに留まるが、近世は墓域となる。このように、当遺跡は縄文時代から近世まで人々の生活の舞台となつた複合遺跡であることがわかった。

註

- 1) 飯島一生 「北関東自動車道(友部~水戸)建設地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 矢倉遺跡 後口原遺跡」[茨城県教育財団文化財調査報告書] 第135集 茨城県教育財団 1998年3月
- 2) 長谷川聰 「北関東自動車道(友部~水戸)建設地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡 大畑遺跡」[茨城県教育財団文化財調査報告書] 第136集 茨城県教育財団 1998年3月
- 3) 鶴見貞雄 「炉石住居跡」[研究ノート5号] 茨城県教育財団 1995年6月
- 4) 飯島一生 「十王台式期における糸系上器文化圏との交流 - 涸沼前川流域における十王台式土器と櫛式土器の出土例から - 」[領域の研究-阿久津久先生還暦記念論集-] 2003年4月
- 5) 群馬県埋蔵文化財調査事業団 平野進・水出稔・相京達史・大木伸一郎氏らのご教示による。
- 6) 村上和彦 「やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 石原遺跡」[茨城県教育財団文化財調査報告書] 第163集 茨城県教育財団 2000年3月

- 7) 山本静男 「石岡都市計画事業南台地区調査事業地内埋蔵文化財調査報告書 外山遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第13集 茨城県教育財團 1982年3月
- 8) 白石真理 「武田石高遺跡 古墳時代編」『(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第17集 (財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 1999年1月
- 9) 久野俊彦 「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 境松遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第41集 茨城県教育財團 1987年3月
- 10) 江幡良夫・黒澤秀雄 「十万原新住屯市街地開発事業、都市計画道路十万原東西線街路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 二の沢A遺跡 二の沢B遺跡(古墳群) ニガサワ古墳群」『茨城県教育財團文化財調査報告』第208集 茨城県教育財團 2003年3月
- 11) 桜村宜行・浅井哲也 「常陸地域の鬼高式土器-久慈川・那珂川流域を中心として」考古学ジャーナル342 1992年1月 に従い古墳時代後期の時期判別を行った。
- 12) 土生朗治 「山田窯跡探査遺物について」『研究ノート5号』茨城県教育財團 1995年6月
常陸古代窯業史研究会「水戸市山田窯跡群確認調査報告」「茨城県考古学協会誌 第10号」茨城県考古学協会 1998年5月
- 13) 根本康弘 「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書6 木葉下遺跡I(窯跡)」「茨城県教育財團文化財調査報告」第21集 茨城県教育財團 1983年3月
小河邦男・川井正一 「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書8木葉下遺跡II(窯跡)」「茨城県教育財團文化財調査報告」第26集 茨城県教育財團 1984年3月

参考文献

- ・海老沢稔 「東日本弥生時代後期の土器編年」「茨城県における弥生後期の土器編年」 東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会 2000年1月
- ・赤城村教育委員会 「見立溜井遺跡 見立大久保道路」「関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書」 赤城村教育委員会 1985年3月
- ・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 「群馬の考古学 創立十周年記念論集」 1988年11月
- ・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 「有馬条里遺跡I」「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告」第97集 群馬県教育委員会 1989年3月
- ・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 「有馬遺跡II」「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告」第102集 群馬県教育委員会 1990年3月
- ・古墳時代土器研究会 「土器が語る-関東古墳時代の黎明-」 第一法提出版 1997年5月
- ・赤井博之 「茨城県の須恵器編年」「東国の須恵器 -関東地方における歴史時代須恵器の系譜-」 古代生産史研究会シンポジウム 1997年3月
- ・内田正子 「(仮称)壹九地区特定土地内埋蔵文化財調査報告書II 三度山遺跡 古墳敷遺跡」「茨城県教育財團文化財調査報告」第132集 茨城県教育財團 1998年3月
- ・新宿区内藤町遺跡調査会 「放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 東京都新宿区 内藤町遺跡」 新宿区内藤町遺跡調査会 1992年3月
- ・吉原作平 「粘上貼り墓壙についての一考察-前田村遺跡の粘上貼り墓壙を取り上げて-」「研究ノート3号」 茨城県教育財團 1993年6月